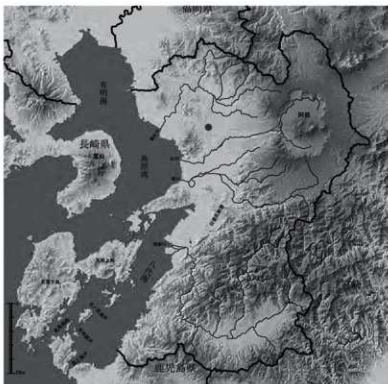


南畑・滴水古閑原遺跡

一般国道3号植木バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



2013.3

熊本県教育委員会



1 南畑遺跡遠景（西から）



2 南畑遺跡3区蔵骨器及び古銭



3 南畑遺跡3区 S105・06 カマド完掘状況



4 南畑遺跡1区完掘状況



5 南畑遺跡3区IV層完掘状況



6 南畑遺跡3区VI層完掘状況



7 滴水古閑原遺跡完掘状況（南から）



8 滴水古閑原遺跡完掘状況



9 滴水古關原遺跡甕棺



10 滴水古關原遺跡出土石



11 榑木バイパス（入口）



12 榑木バイパス（南から）

序 文

熊本県教育委員会は、一般国道3号植木バイパス改築工事に伴い、平成19・20年度に鹿本郡植木町（現熊本市北区植木町）に所在する南畑遺跡と滴水古閑原遺跡の発掘調査を行いました。

今回の発掘調査では、縄文時代・弥生時代・古代・中世の集落の一端を発見しました。特に弥生時代の堅穴住居跡や古代のカマド付き堅穴住居跡などから、当時使われていた土器や石器類がたくさん出土しました。当時の人々の生活を知るうえで貴重なものです。この報告が今までの周辺の調査や今後調査される発掘資料と併せて、この地域の歴史の資料の一つとして活用していただくことを願っています。

なお、本調査を実施するにあたり、文化財保護の観点から多大のご協力をいただきました国土交通省熊本河川国道事務所、植木町教育委員会及び地元の方々、また御指導・御助言をいただきました諸先生方に深く感謝申し上げます。

平成25年3月31日

熊本県教育長 田崎 龍一

例言

- 1 本書は、一般国道3号楠木バイパス改築工事に伴い実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 発掘調査は、上記工事に伴い、国土交通省熊本河川国道事務所の依頼を受けて熊本県教育委員会が実施した。調査費及び整理報告費については、全額国土交通省熊本河川国道事務所が負担した。
- 3 現地調査は、南畑遺跡1区・2区を平成19年6月5日～平成20年3月17日、南畑遺跡3区を平成20年4月21日～平成20年9月30日まで、満水古閑原遺跡を平成20年10月21日～平成21年3月30日に実施した。(調査区の名称については、本文中に記載)現地での写真撮影は上村龍馬・坂井田端志郎・遠山宏・坂本垂矢子・島浦健生が行い、図面作成は上記の者と現場作業員が行った。
- 4 世界測地系での測量基準法の設定は、南畑遺跡1区・3区・満水古閑原遺跡は株式会社十八測量設計、南畑遺跡2区は株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。
- 5 空中写真撮影は南畑遺跡1区を株式会社埋蔵文化財サポートシステム、南畑遺跡2区・満水古閑原遺跡を九州航空株式会社に委託した。
- 6 整理作業・報告書作成は熊本県文化財資料室において実施した。
- 7 出土遺物の整理作業は野中愛・田尻滝が担当した。
- 8 遺構トレースは野中・田尻が行い、一部を株式会社イビソク九州支店に委託した。
- 9 遺物実測、トレースは中島美絵・木村奈美・松本智子が行い、一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店、株式会社有明測量開発社に委託した。
- 10 鉄製品の処理は、今田里枝・大塚トシ子・小野美香・花田美佳が行った。
- 11 出土遺物の写真撮影は、村田百合子・上田佳奈子・蓮池千恵が行った。
- 12 本書の執筆を上村が行い、文化財資料室長後藤克博の指導のもとに編集を行った。
- 13 遺物・写真・図面等は、熊本県文化財資料室(熊本市南区城南町沈日1667)に保管している。
- 14 本書中での人名はすべて敬称を省略させていただいた。

凡例

- 1 発掘遺構は遺構の種類を示す以下の記号と一連の番号の組み合わせにより表記した。
SA: 塀・柵列 SB: 掘立柱建物 SC: 回廊 SD: 溝 SE: 井戸 SF: 道路 SG: 池
SY: 窯 SI: 竪穴住居跡 SK: 土坑 SP: 柱穴 SS: 足場 ST: 墓 SX: その他・不明遺構等
- 2 遺構名称は、1区SI0101というように、区の名称の後に遺構記号と番号で表した。以下の注意点がある。
 - (1) 一度遺構番号を付けたものの、調査の過程において遺構と認められないと判断した番号については空き番としている。そのため遺構名称の最後の番号が、調査区でのその遺構の検出数とは限らない。
 - (2) 整理報告の段階で掘立柱建物跡と竪穴住居跡を分けるために遺構番号を変更した。変更は以下のとおりである。

第1表 遺構名変更表

区	3区
変更前	SB 01 SB 02 SB 03 SB 04 SB 05 SB 06 SB 07 SB 08 SB 09 SB 10 SB 11 SB 12 SB 13 SB 14 SB 15 SB 16 SB 17 SB 18 SB 19
変更後	SI 01 SI 02 SI 03 SI 04 SI 05 SI 06 SB 01 SB 02 SB 03 SB 04 SI 07 SI 08 SI 09 SI 10 SI 11 SI 12 SI 13 SI 14 SI 15
3区	SB 20 SB 21 SB 22 SB 23 SB 24 SB 25 SB 26 SB 27 SB 28 SB 29 SB 30 SB 31 SB 32 SB 33 SB 34 SB 35 SB 36 SB 37
	SI 16 SI 17 SI 18 SI 19 SI 20 SI 21 SI 22 SI 23 SI 24 SI 25 SI 26 SI 27 SI 28 SI 29 SI 30 SB 05 SB 06 SI 31

- (3) 上記の変更については、あくまで報告書原稿時の変更であるので、遺物注記には変更前の遺構番号で取り扱っている。
- 3 遺構図版については、以下のとおりである。
 - (1) 縮尺 本書に掲載した地図・遺構実測図の縮尺は不統一であり、各頁に明記した。
 - (2) 線種 遺構平面図は原則として完備状態で掲載し、遺構上端の推定線は破線で示した。
- 4 すべての実測個体については遺物観察表に掲載した。その凡例は、各観察表の欄に別記した。

本文目次

巻頭図版

序文

例言・凡例

本文目次

挿図目次

写真図版目次

第Ⅰ章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯と経過	1
第2節 調査組織	2
第3節 発掘調査の経過	3

第Ⅱ章 遺跡の概要

第1節 地理的環境	10
第2節 歴史的環境	10

第Ⅲ章 調査成果

第1節 調査方法	16	
第2節 基本層序	16	
第3節 調査の概要	16	
第4節 遺構及び遺物	16	
1 1区	22	
(1) 縄文時代早期	(2) 縄文時代後・晩期	
(3) 古代	(4) 近・現代	(5) 遺物包含層
2 2区	48	
(1) 縄文時代～	(2) 遺物包含層	
3 3区	65	
(1) VI層検出遺構	(2) V層検出遺構	(3) 弥生時代
(4) IV層検出遺構	(5) 近・現代	(6) 遺物包含層
4 滴水古閑原遺跡	134	
(1) 縄文時代	(2) 弥生時代	(3) 中世～

第Ⅳ章 理化学分析	153
-----------	-----

第Ⅴ章 まとめ	159
---------	-----

遺物観察表

写真図版

あとがき

報告書抄録

挿目次

第1図	植木バイパス路線図	11	第39図	2区土器集中03・04出土遺物実測図	49
第2図	南畑・澗水古閑原遺跡 周辺遺跡地図(1/25,000)	12	第40図	2区出土遺物実測図(1)	50
第3図	南畑遺跡遺構配置図下面(縄文~弥生)	18	第41図	2区出土遺物実測図(2)	51
第4図	南畑遺跡遺構配置図上面(古代~近現代)	20	第42図	2区出土遺物実測図(3)	52
第5図	南畑遺跡1区遺構配置図	22	第43図	2区SK07・SK08平面図土層断面図	54
第6図	1区・3区調査区土層断面図	23	第44図	2区SK09・SK10平面図土層断面図	55
第7図	1区集石01・02平面図断面図	24	第45図	2区SK11・SK12平面図土層断面図	56
第8図	1区土器集中01・02平面図断面図	25	第46図	2区SK13・SK14・SK15 平面図土層断面図	57
第9図	1区土器集中01・02出土遺物実測図(1)	25	第47図	2区SX04平面図土層断面図	58
第10図	1区土器集中01・02出土遺物実測図(2)	26	第48図	2区V層出土遺物実測図	59
第11図	1区V層出土遺物実測図	27	第49図	2区IV層出土遺物実測図	60
第12図	1区IV層出土遺物実測図	28	第50図	2区Ⅲ・Ⅲ'・IV層出土遺物実測図	61
第13図	1区出土遺物実測図(1)	29	第51図	2区Ⅲ・IV層出土遺物実測図	62
第14図	1区S101平面図土層断面図	30	第52図	2区出土遺物実測図(4)	63
第15図	1区S101出土遺物実測図(1)	30	第53図	南畑遺跡3区遺構配置図(縄文~弥生)	65
第16図	1区S101カマド平面図土層断面図	31	第54図	南畑遺跡3区遺構配置図(古代~近世)	66
第17図	1区S101カマド出土遺物実測図	31	第55図	3区SK37平面図土層断面図	67
第18図	1区S101出土遺物実測図(2)	32	第56図	3区SK38・SK39・SK40・ SK41・SK42平面図土層断面図	68
第19図	1区S101出土遺物実測図(3)	33	第57図	3区出土遺物実測図(1)	69
第20図	1区S102カマド残存部	34	第58図	3区出土遺物実測図(2)	70
第21図	1区S102カマド硬化面検出状況土層断面図	34	第59図	3区出土遺物実測図(3)	71
第22図	1区S103カマド平面図土層断面図	35	第60図	3区出土遺物実測図(4)	72
第23図	1区S103カマド出土遺物実測図	35	第61図	3区出土遺物実測図(5)	73
第24図	1区S103出土遺物実測図	36	第62図	3区出土遺物実測図(6)	74
第25図	1区SK01・SK02平面図土層断面図	37	第63図	3区出土遺物実測図(7)	75
第26図	1区SK03・SK04平面図土層断面図	38	第64図	3区集石03平面図断面図	76
第27図	1区出土遺物実測図(2)	39	第65図	3区集石03出土遺物実測図	76
第28図	1区SD01平面図土層断面図	40	第66図	3区S107平面図土層断面図	77
第29図	1区堀畑01平面図	41	第67図	3区S107出土遺物実測図	78
第30図	1区堀畑01出土遺物実測図	41	第68図	3区S108平面図土層断面図	78
第31図	1区堀畑01・SK05・SK06土層断面図	42	第69図	3区S109平面図土層断面図	79
第32図	1区堀畑02検出状況平面図	43	第70図	3区S110・S129平面図土層断面図	80
第33図	1区堀畑02土層断面図	44	第71図	3区S111平面図土層断面図	81
第34図	1区出土遺物実測図(3)	45	第72図	3区S112平面図土層断面図	82
第35図	1区出土遺物実測図(4)	46	第73図	3区S113平面図土層断面図	83
第36図	1区出土遺物実測図(5)	47	第74図	3区S114平面図土層断面図	84
第37図	南畑遺跡2区遺構配置図	48	第75図	3区S115平面図土層断面図	85
第38図	2区土器集中03・04平面図	49	第76図	3区S116平面図土層断面図	86

第77図	3区S119・S128平面図土層断面図	87	第113図	3区S117・S118・ S121出土遺物実測図	115
第78図	3区S119・S120出土遺物実測図	88	第114図	3区SB01平面図土層断面図	116
第79図	3区S120平面図土層断面図	88	第115図	3区SB02平面図土層断面図	118
第80図	3区S122・S123平面図土層断面図	89	第116図	3区SB03平面図土層断面図	119
第81図	3区S124平面図土層断面図	90	第117図	3区SB04平面図土層断面図	120
第82図	3区S124出土遺物実測図	90	第118図	3区SB05平面図土層断面図	121
第83図	3区S125平面図土層断面図	91	第119図	3区SB06平面図土層断面図	122
第84図	3区S125出土遺物実測図	91	第120図	3区SK16平面図土層断面図	123
第85図	3区S126平面図土層断面図	92	第121図	3区SK17・SK18平面図土層断面図	124
第86図	3区S126出土遺物実測図	92	第122図	3区SK19平面図土層断面図	125
第87図	3区S127平面図土層断面図	93	第123図	3区出土遺物実測図(10)	125
第88図	3区S125・S126・S127 出土遺物実測図	94	第124図	3区SK30蔵骨器出土状況・ 平面図土層断面図	126
第89図	3区S130・SK23平面図土層断面図	95	第125図	3区SK30壘方平面図	127
第90図	3区S131平面図土層断面図	96	第126図	3区SK30出土遺物実測図(1)	127
第91図	3区出土遺物実測図(8)	97	第127図	3区SK30出土遺物実測図(2)	128
第92図	3区出土遺物実測図(9)	98	第128図	3区SD02平面図土層断面図	129
第93図	3区SK20・SK24平面図土層断面図	99	第129図	3区出土遺物実測図(11)	129
第94図	3区SK21・SK22平面図土層断面図	100	第130図	3区出土遺物実測図(12)	130
第95図	3区SK25・SK26・SK27 平面図土層断面図	100	第131図	3区SX06平面図土層断面図	131
第96図	3区SK28・SK29・SK31・ SK32平面図土層断面図	102	第132図	3区堀畑02平面図	132
第97図	3区SK33・SK34・SK35・ SK36平面図土層断面図	103	第133図	湧水古関原遺跡構配置図	134
第98図	3区S104平面図土層断面図壘方平面図	104	第134図	湧水古関原遺跡SK05・SK06・ SK07平面図土層断面図	136
第99図	3区S104カマド出土遺物実測図	105	第135図	湧水古関原遺跡SK08平面図土層断面図	137
第100図	3区S104カマド平面図土層断面図	105	第136図	湧水古関原遺跡SK09・ SK10平面図土層断面図	138
第101図	3区S105平面図土層断面図	106	第137図	湧水古関原遺跡SB01平面図土層断面図	140
第102図	3区S105カマド出土遺物実測図	107	第138図	湧水古関原遺跡SB02平面図土層断面図	141
第103図	3区S105カマド平面図土層断面図	107	第139図	湧水古関原遺跡SB04平面図土層断面図	142
第104図	3区S106平面図土層断面図	108	第140図	湧水古関原遺跡SB05平面図土層断面図	143
第105図	3区S106カマド平面図土層断面図	109	第141図	湧水古関原遺跡SK01・SK04 平面図土層断面図	144
第106図	3区S117・S118平面図土層断面図	110	第142図	湧水古関原遺跡SD01平面図	145
第107図	3区S117P1遺物出土状況	111	第143図	湧水古関原遺跡SD01-pit1~22 土層断面図	146
第108図	3区S117P1出土遺物実測図	111	第144図	湧水古関原遺跡SD01土層断面図	147
第109図	3区S121平面図土層断面図	112	第145図	湧水古関原遺跡出土遺物実測図(1)	148
第110図	3区S121カマド出土遺物実測図	113	第146図	湧水古関原遺跡出土遺物実測図(2)	149
第111図	3区S121カマド平面図土層断面図	113			
第112図	3区S104・S105出土遺物実測図	114			

第147図	滴水古閑原遺跡出土遺物実測図(3)	150
第148図	滴水古閑原遺跡出土遺物実測図(4)	151
第149図	滴水古閑原遺跡出土遺物実測図(5)	152
第150図	2区土層断面の重鉱物組織および 火山ガラス比	155
第151図	火山ガラスの屈折率	156
第152図	南畑遺跡出土遺物点上げ図	159
第153図	南畑遺跡弥生住居跡変遷図	160
第154図	滴水古閑原遺跡コンタ図	161

表目次

第1表	遺構名変更表	凡例
第2表	南畑滴水古閑原遺跡周辺地図	13
第3表	熊本市遺跡地図	15
第4表	2区土層断面各層の放射性炭素年代測定結果	154
第5表	2区土層断面各層の暦年校正結果	155
第6表	2区土層断面の重鉱物・火山ガラス比 分析結果	155
第7表	南畑遺跡出土遺物観察表	162
第8表	南畑遺跡出土遺物(石器)観察表	176
第9表	滴水古閑原遺跡出土遺物観察表	178
第10表	滴水古閑原遺跡出土遺物(石器)観察表	179

巻頭目次

1	南畑遺跡遠景(西から)
2	南畑遺跡3区蔵骨器及び古銭
3	南畑遺跡3区S105・06カマド完備状況
4	南畑遺跡1区完備状況
5	南畑遺跡3区IV層完備状況
6	南畑遺跡3区VI層完備状況
7	滴水古閑原遺跡完備状況(南から)
8	滴水古閑原遺跡完備状況
9	滴水古閑原遺跡発掘
10	滴水古閑原遺跡出土石
11	植木バイパス(入口)
12	植木バイパス(南から)

写真目次

図版1	1区V層遺物出土状況
	1区集石01
	1区S101遺物出土状況
	1区S101床面検出状況
	1区S101カマド検出状況

	1区S102カマド検出状況
	1区S103カマド燃焼部検出状況
	1区SK03完備状況
図版2	1区SD01完備状況
	2区SX04完備状況
	2区SX04土層断面
	2区土器集中04検出状況
	3区S104完備状況
	3区S104カマド完備状況
	3区S105・06検出状況
	3区S105カマド燃焼部検出状況
図版3	3区S105・06カマド完備状況
	3区SX06完備状況
	3区SX06土層断面
	3区S121完備状況
	3区北側壁基本土層
	3区SB03完備状況
	3区SK30土層断面
	3区SK30蔵骨器出土状況
図版4	3区S124・25・26完備状況
	3区S107完備状況
	3区S112完備状況
	3区S119完備状況
	3区S125遺物出土状況
	3区S117ピット1出土状況
	3区SP30遺物出土状況
	3区SK16炭化物出土状況
図版5	滴水SD01完備状況
	滴水SD01土層断面
	滴水調査区基本土層
	滴水SB01・02・04・05完備状況
	滴水SK09遺物出土状況
図版6	1区V層出土縄文土器
	1区IV層出土縄文土器1
	1区IV層出土縄文土器2
	1区III・IV層出土縄文土器
	1区III'層出土縄文土器
	1区III層出土縄文土器
	1区S101出土遺物1
	1区S101出土遺物2

- 図版 7 1区S101出土遺物3
1区S101出土遺物4
1区S103出土遺物1
1区S103出土遺物2
1区IV・V・VI層出土遺物
1区IV・VI層出土遺物
1区III・IV層出土遺物1
1区III・IV層出土遺物2

- 図版 8 1区出土遺物1
1区出土遺物2
2区V層出土縄文土器
2区III・IV層出土縄文土器
2区IV層出土縄文土器
2区III・IV層出土弥生土器
2区V層出土縄文土器
2区IV層出土弥生土器

- 図版 9 2区III層出土遺物
3区V層出土縄文土器
3区IV・V層出土縄文土器
3区IV層出土縄文土器
3区III^{*}層出土縄文土器
3区IV層出土弥生土器
3区III^{*}層出土弥生土器
3区S107・19出土遺物

- 図版 10 3区S124・25・26出土遺物
3区S125出土遺物
3区S121出土遺物
3区出土遺物
3区S104・06・25出土遺物
3区S105・06出土遺物
3区SK30出土遺物1
3区SK30出土遺物2

- 図版 11 3区S104・25出土遺物
3区S121出土遺物
3区III層出土遺物
3区SP30出土遺物
3区S118出土遺物

- 図版 12 1区出土石器
2区出土石器1
2区出土石器2
3区出土石器
1区出土磨製石器
2区出土磨製石器
1区・2区・3区出土遺物1
1区・2区・3区出土遺物2

- 図版 13 湊水古閑原遺跡出土縄文土器
湊水古閑原遺跡出土弥生土器
湊水古閑原遺跡出土遺物1
湊水古閑原遺跡出土遺物2
湊水古閑原遺跡出土遺物3
湊水古閑原遺跡出土遺物4
湊水古閑原遺跡出土遺物5
湊水古閑原遺跡出土遺物6

- 図版 14 南畑遺跡出土遺物1 (18)

- 図版 15 南畑遺跡出土遺物2 (18)

- 図版 16 重鉱物・火山ガラス

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯と経過

1 調査にかかる経緯

一般国道3号植木バイパスは、熊本北部地域の交通渋滞の緩和及び植木町と熊本市圏を結ぶ主要幹線道路として計画された鹿本郡植木町大字鞍掛（現・熊本市北区植木町）から熊本市四方寄町（現・熊本市北区四方寄町）に至る延長5.6kmの道路である。植木バイパスにより植木町を通過する交通がバイパスへ転換することにより、市街地及び周辺地域の交通混雑が緩和される。また、地域のための道路としてさらに活用しやすくなり、かつ地域間の交流が活性化されることから、植木町中心市街地の活性化に大きく寄与するものである。

本バイパスは、平成10年度から始まった「新道路整備5カ年計画」の中で、新たな道路政策の進め方のひとつに掲げられる「P1方式（計画策定、意思決定などの段階で国民参加の機会を確立する方式）」を導入した。「P1方式」の導入にあたっては、地元代表10名、学識経験者1名、行政関係者7名から構成された。植木バイパス道路計画検討委員会を設置し、委員会を平成9年12月から平成10年11月にかけて6回開催し、P1方式による道路計画検討報告を取りまとめ地元住民の方々に配布し、意向を伺うなどして計画を進めてきた。

2 予備調査

平成17年4月27日付け国土交通省九州整備局熊本河川国道事務所工務2課第3号で依頼を受け、平成17年6月29日から7月20日まで、教育庁文化課文化財調査1係調査員13名で試掘・確認調査を実施した。対象遺跡名は加川原遺跡、大道端遺跡、南畑遺跡、滴水館跡遺跡、滴水館遺跡である。調査対象内にNa1～Na59の試掘・確認調査トレンチを設定し、Na8～Na11、Na13、Na15～Na27の各トレンチで遺構及び遺物を確認した。遺物は縄文時代後期～古代の遺物である。平成17年10月4日付け教文第317号で熊本県教育長から国土交通省熊本河川国道事務所長あて発掘調査の通知が必要になる旨を通知するとともに、その内容を植木町教育委員会あてに通知した。

3 熊本河川国道事務所による発掘

（南畑遺跡1・2区）文化財保護法第94条第1項の規定により平成19年5月2日付け国九整熊二第1号で国土交通省熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あてに通知、平成19年5月17日付け教文第394号で熊本県教育長から国土交通省熊本河川事務所長あてに発掘調査が必要と通知した。

（南畑遺跡3区）文化財保護法第94条第1項の規定により平成20年2月4日付け国九整熊三第106号で国土交通省熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あてに通知、平成20年4月3日付け教文第29号で熊本県教育長から国土交通省熊本河川事務所長あてに発掘調査が必要と通知した。

（滴水古閑原遺跡）文化財保護法第94条第1項の規定により平成20年9月16日付け国九整熊三第60号で国土交通省熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あてに通知、平成20年10月3日付け教文第1600号で熊本県教育長から国土交通省熊本河川国道事務所長あてに発掘調査が必要と通知した。

4 埋蔵文化財の発掘

（1）平成19年度

平成19年5月2日付け国九整熊二第10号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あてに発掘依頼があり、文化財保護法99条の規定により平成19年5月21日付け教文第462号で熊本県教育長あてに通知するとともに、その内容を国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長及び植木町教育長あてに通知した。

（2）平成20年度

平成19年5月2日付け国九整熊二第10号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あてに発掘依頼があり、文化財保護法99条の規定により平成20年4月8日付け教文第77号で熊本県教育長あてに通知するとともに、その内容を国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長及び植木町教育長あてに通知した。

平成20年9月16日付け国九整熊三工第60号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あてに発掘依頼があり、文化財保護法99条の規定により平成20年10月7日付け教文第1635号で熊本県教育長あてに通知するとともに、その内容を国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長及び植木町教育長あてに通知した。

第2節 調査組織

以下、各々の発掘調査の責任者と調査担当者を掲げ、他の関係者は一括して列記する。

(※は調査非常勤職員、※※は整理非常勤職員)

平成17年度(2005) 試掘調査

調査主体 熊本県教育委員会
 調査責任者 文化課長 梶野英二
 課長補佐 倉岡博
 調査総括 課長補佐兼調査第1係担当 高木正文
 調査事務局 課長補佐 吉田恵
 主幹兼総務係長 四元正明
 参事 塚原健一、主事 小谷仁志
 調査担当 参事 坂田和弘

平成19年度(2007) 本調査

調査主体 熊本県教育委員会
 調査責任者 文化課長 梶野英二
 課長補佐 江本直
 調査総括 課長補佐兼調査第1係担当 高木正文
 調査事務局 教育審議員兼課長補佐 宗村士郎
 主幹兼総務係長 高宮優美
 参事 塚原健一、主任主事 高松克行
 調査担当 文化財保護主事 上村龍馬
 学芸員 坂井田端志郎
 調査補助 遠山宏[※]、坂本亜矢子[※]、島浦健生[※]

平成20年度(2008) 本調査

調査主体 熊本県教育委員会
 調査責任者 文化課長 米岡正治
 課長補佐 江本直
 調査総括 課長補佐兼調査第1係担当 高木正文
 調査事務局 教育審議員兼課長補佐 宗村士郎
 主幹兼総務係長 川上勝美
 参事 山田京子、主任主事 高松克行
 調査担当 文化財保護主事 上村龍馬
 学芸員 坂井田端志郎
 調査補助 遠山宏[※]、坂本亜矢子[※]、島浦健生[※]

平成23年度(2011) 調査報告書作成

整理主体 熊本県教育委員会
 整理責任者 文化課長 小田信也
 課長補佐 川上勝美
 整理総括 文化財調査第1係長 村崎孝宏
 参事・文化財資料室長 坂田和弘
 整理事務局 高校教育課主幹兼総務係長 水元敬浩
 高校教育課参事 山田京子
 高校教育課主任主事 松島英二
 整理担当 文化財保護主事 上村龍馬、野中愛^{※※}

平成24年度(2012) 調査報告書作成

整理主体 熊本県教育委員会
 整理責任者 文化課長 小田信也
 課長補佐 川上勝美
 課長補佐 西住欣一郎
 整理総括 文化財調査第1係長 村崎孝宏
 文化財資料室長 後藤克博
 整理事務局 施設課課長補佐(総務・助成担当)
 中津幸三
 参事 稲本尚子、主任主事 天草英子
 整理担当 文化財保護主事 上村龍馬、田尻滝^{※※}
 整理協力 学芸員 坂井田端志郎

調査指導機関及び助言・協力者

国土交通省熊本河川国道事務所、植木町教育委員会(現、熊本市教育委員会)、熊本県立装飾古墳館、地域住民の方々
中原幹彦、増田直人、檀佳克、尾形圭子、松森由美、長谷部善一、木村龍生

調査(整理)に伴う委託業務

○4級基準点測量及びメッシュ杭設置業務

株式会社十八測量設計、株式会社埋蔵文化財サポートシステム

○空中写真撮影業務

株式会社九州航空、株式会社埋蔵文化財サポートシステム

○出土遺物実測及びデジタルトレース業務(一部)

株式会社埋蔵文化財サポートシステム、株式会社有明測量開発社

○一時整理業務及び遺構実測図デジタルトレース業務

株式会社イビソク

○自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

第3節 発掘調査の経過

現地調査は南畑1区・2区を平成19年6月5日～平成20年3月17日、南畑遺跡3区を平成20年4月21日～平成20年9月30日まで、滴水古閑原遺跡を平成20年10月21日～平成21年3月30日に実施した。その間の経過は以下のとおりである。(調査日誌より抜粋)

【2007年(平成19年度)】

南畑遺跡(1区)(2区)

6.07 高木建設による表土剥ぎ実施。

6.13 作業員作業開始。環境整備を実施。植木町教育委員会の増田さん来訪。調査区南側で基本土層を確認。

6.18 十八測量設計(株)による4級基準点測量及びメッシュ杭設置。北側から全面清掃。試験坑を確認。遺構確認できず。

6.19 メッシュ杭設置。植木町教育委員会の増田さん、西嶋さん来訪。調査区中央から南にかけて、甕畑(排水路)を確認する。

6.20 III層サブトレンチの掘削開始。小破片遺物が多く、時間も縄文から古代まで広がる。

6.21 北側III層の掘削。

6.25 III層の2回目掘削を終了。III層とIV層の境目をトレンチで確認。

6.26 植木町教育委員会の西嶋さん、2係木村参事、廣田参事来訪。北側からIV層上面まで、掘削終了。縄文後晩期の黒色磨研土器、緑泥片岩製の打斧、古代の上器器杯底部などを確認。

6.27 北側から西側へ掘削範囲を広げる。隣接地の耕作者の話で、復元と考えていた溝は、近代の甕畑とのこと。

6.28 甕畑を人力で掘削。トレンチ中央部のみを掘り下げる。古代から近代までの遺物でプラスチックも混じる。

7.03 坂口参事、亀田主任来訪。III層遺物出土状況写真

7.05 III層遺物(451点)の取りあげ。

7.10 調査区特をトータルステーションで測量

7.12 IV層上面コンクをかける。

7.13 IV層上面遺構確認。南側の土坑を1基確認。縄文土器を含む集石状の遺構を確認。

7.17 尾方参事来訪。IV層の清掃。甕畑から南側にかけて農作物や焦土が点在する箇所を確認。

7.18 北側IV層の掘削。南側III層掘削。

7.19 廣田参事、中村主任、福田さん来訪。南側はIII層が耕作時に削平されていて、残りが薄くIV層との境が分りにくくなっている。北側の集石は、こぶし大の礫が3点同一レベルで出土

7.20 南側はIII層～IV層の掘削。

7.23 植木町教育委員会の中原さんが来訪。植木町での住居跡の特徴や、土層の特徴を教えてもらう。

7.24 北側IV層の掘削。甕畑をローム層まで掘削し断面を確認。

7.25 坂口参事来訪。南側を精査。カマドを持つ住居を1軒確認。

7.31 1号住居にベルトを設定し、サブトレンチの掘削を開始。床面らしき硬化ブロックを確認。B～D10-16グリッドの積重で2号住居らしき遺構を確認。

8.01 木村龍生さん来訪。1号住居の西側にも粘土質の塊が確認でき住居の切り合いかもしれない。2号住居はサブトレンチで確認。

- 8.02 台風接近のため対策を行う。
- 8.06 鹿本高校考古学クラブ発掘体験。高木補佐、亀田主任来跡。2号住居のプランの確認が困難。1号住居内での切り合いを確認。
- 8.07 北側Ⅲ'層遺物出土状況写真。南側Ⅲ層遺物取り上げ。
- 8.08 木村孝幸来跡。北側Ⅲ'層遺物取り上げ終了(9:8:9点)南側1号住居周辺遺物取り上げ。
- 8.09 塚さん、横田さん来跡。北側Ⅳ層掘削。遺物集中部が2か所検出。
- 8.16 坂口孝幸来跡。南側1号住居掘削。北側Ⅳ層掘削。
- 8.17 北側Ⅳ層掘削の続き。トレンチでV層上面を確認
- 8.20 北側V層上面で遺構検出。1号住居は、東側の床面を検出。
- 8.21 高木補佐来跡。堀壕の西側を掘削。
- 8.22 調査区の清掃。夏休み体験発掘の準備。
- 8.23 夏休み遺跡見学会。高木補佐、坂口孝幸来跡。1号住居は壁出し作業。2号住居は床面を出したためトレンチをそろえるが、ブロック状の上が薄く広がらない様子。
- 8.27 1号住居跡の掘削。南西側の3号住居(仮)が1号住居を切っているのか不明瞭。
- 8.28 増田さん来跡。2号住居跡は、形ははっきりしない。1号住居跡は西壁で土層を確認。切り合いの前後関係は分からないが、西側にもう1つ遺構がありそう。
- 8.30 1号住居は硬化面を確認。2号住居はカマドの検出。
- 8.31 北側V層の遺物集中部(2か所)の写真を撮る。土器は縄文後晩期のもので鎌崎式か北久根山式のものだろう。
- 9.03 2号住居跡のカマド断面図。土器集中1平面図の作成。
- 9.05 北側V層の掘削。縄文早期の押型文様の土器が出土。
- 9.06 1号住居跡は、カマドの上層断面図作成後カマドの軸の検出。燃焼部は焼土がはっきりとわかる状況。
- 9.07 北側V層の掘削。シミのような黒土は南側に近づくほど多くなっている。遺物も少なく遺構らしきものはほとんどない。1号住居はカマドの4分の3を完掘。燃焼部から土器破片が5点出土。
- 9.10 北側V層掘削。はっきりとした遺構は見えてこない。
- 9.11 北側V層の掘削3回目を実施。所々にⅥ層が出てきている。1号住居跡はカマドの完掘及び完掘断面図が終了。2号カマドの検出断面レベリング及び検出状況の写真を終了した。
- 9.12 北側をⅥ層上面でそろえたいが、北西方向に傾斜して深くなっている。2号カマドは切開開始。焼土が広がる南側にカマド軸が残存しているようなので、注意が必要。
- 9.19 側V層の遺物点あげ。1号住居跡のカマド出土遺物点あげ。
- 9.20 南側V層掘削。北側V層点あげ。
- 9.21 南側V層掘削。
- 9.25 V層掘削完了。Ⅵ層上面で遺構のはっきりしない。西側壁面近くで黒っぽくなっているところがある。
- 9.26 南側V層掘削。北側は土柱くずし。
- 9.27 木村孝幸来跡。北側ベルト分解。南側遺物上げ。
- 9.28 北側ベルト写真。南側は遺物土柱をくずし、精査するが遺構は不明瞭。
- 10.01 北側Ⅵ層コンタをとる。ベルト崩し(Ⅳ層まで)。ドリッド単位で調査区掘削。
- 10.02 坂口孝幸来跡。北側Ⅵ層を掘削。遺構は確認できないが、縄文早期の土器片や黒曜石の破片が数点出土。
- 10.03 Ⅵ層の掘削を実施。SX03の掘り下げを実施。
- 10.05 SX03(溝)の底部まで掘削。堀壕がSX03を切っているので堀壕以前の遺構として調査。
- 10.10 Ⅵ層の掘削。精査をかけるが遺構を確認できず。
- 10.11 高木補佐来跡。1区は北側のベルト崩しと堀壕の掘削。
- 10.15 1区は堀壕の隅を各層にかけて掘削。2区は表土剥ぎを実施。遺物の出土量は少ないが、土の残りは良い。遺物は縄文後晩期の土器片や古代の土器片や黒曜石などである。
- 10.16 1区は北側堀壕の掘削。2区は表土剥ぎを3分の2終了。
- 10.17 1区はベルト沿いのサブトレンチをⅥ層まで掘り下げた。SX03の掘り下げ及び断面土色記入。
- 10.18 結果発生来跡。1区は南側1号住居の周りを掘削。SX03は完掘。2区は表土剥ぎ終了。
- 10.22 1区はSX03の完掘写真。2区は重機による排土の移動。
- 10.23 1区はⅥ層掘削。ベルトの分解。SX03の平面断面図。2区は調査区の壁切りや浮土の除去。
- 10.24 1区は3号住居を掘り下げたが、床面らしきものは見られない。2区は表土をジョレンで清掃。
- 10.25 1区はベルト崩し、Ⅵ層の掘削。SB03(3号住居)焼土穴の撮影。2区は試掘調査あとの掘り下げ(埋土の除去)
- 10.29 1区ベルト横のサブトレンチをⅥ層まで掘削。遺構

- なし。堀畑の西側に土坑SK02を掘出し完成。2区はカクラン及びIII層掘削。
- 10.30 1区はSK02の完成平面図及びレベリングを行い、完成写真を撮影。2区はIII層掘削。
- 10.31 1区は1号集石及び2号集石平面図をとる。SB03カマド燃焼部セクション図。2区はIII層掘削。
- 11.01 新規採用作業員10名参加。1区は南側土層ベルト(東西・南北)を実施。2区はIII層掘削。
- 11.02 調査区ベルト写真。2区はIII層掘削。
- 11.05 1区調査区土層ベルト掘削。2区はIII層掘削。
- 11.07 長谷部参事来訪。1区写真前清掃。遺物の点あがり。
- 11.08 1区は堀畑西側掘削。土器集中部・集積断面図。ラジコンヘリコプターにて4カット撮影。
- 11.09 1区3号住居跡の図面。2区III層IV層上面掘削。
- 11.12 1区の土坑03・04完成及び図面作成。
- 11.13 江本補佐来訪。1区SK03・04の完成及び図面写真。2区はIII層IV層掘削。
- 11.14 1区は堀畑SK05、SK06の写真。2区はIII層掘削。
- 11.15 1区は堀畑断面図、土層説明、III層掘削。
- 11.19 1区SB02の完成及び写真。
- 11.20 1区はSK05、SB03(カマド)のレベリング。SB02、03のカマド完成写真。
- 11.21 1区はSK06の完成、写真図面。2区はIII層掘削。
- 11.22 1区は埋め直し開始。2区はIII層掘削。
- 11.26 1区の埋め直し完了。2区III層掘削。
- 11.27 1区拡張部分表上げ。
- 11.28 1区拡張のベルト設定。
- 11.29 1区拡張の掘削。
- 12.04 1区拡張、堀畑2の平面図。2区III層掘削。
- 12.05 1区拡張、SB01南側(床面、壁面)掘削。2区III層～IV層掘削。
- 12.06 植木町中原さん来訪。1区拡張部1号住居跡の壁だし及び遺物上げ。2区IV層掘削。
- 12.07 1区拡張部1号住居跡東西ベルトの土層断面図面。2区南北ベルト横のサブレンチ掘削、及び分層。
- 12.10 2区III～III層掘削。
- 12.11 1区拡張部で1号住居跡のベルト崩し。2区III層掘削。
- 12.12 1区1号住居跡のベルト内遺物上げ。2区III層掘削。
- 12.13 2区III層～IV層掘削。グリッドでの遺物上げ。
- 12.14 2区遺物上げ。IV層掘削。東西サブレンチの掘削。
- 12.17 2区包含層出土状況写真前清掃。遺物上げ。
- 12.18 1区拡張部堀畑2を掘削。島津主幹、高木補佐、藤本先生、三木さん来訪。2区遺物上げ(533点)南北ベルト実測。2区包含層出土状況写真
- 12.19 1区拡張堀畑2の掘り下げ。2区遺構確認前精査及びIV層掘削。2区遺物取り上げ。(395点)
- 12.20 坂口参事来訪。1区堀畑2の掘削。2区IV層掘削。遺物上げ。
- 12.25 2区は黒い部分が存在しているが、遺構とは確認できない。サブレンチなどで確認する必要がある。
- 12.26 1区SB01の床面平面図作成。2区は遺物上げとSX04の掘削。
- 12.27 2区はSX04とIV層掘削。SK07の断面写真。
- 1.08 1区SB01の床面はがし及び堀畑2の分層。2区はIV層掘削。SX04は小判型の遺構であり、使用目的は不明。
- 1.09 2区SX04の掘り下げ。及びIV層掘削。遺構検出のための精査を行ったが、全体的にぼやっとしていて線が引けない状態。
- 1.10 坂口参事来訪。2区IV層掘削。SX04・SK09の掘削。1-25・26(ベルトの実測)北西グリッド遺物上げ。
- 1.15 1区はSB01カマド燃焼部・そで掘削及びカマド土層断面・注記。2区SK09・10・11の掘削。2区の基本土層断面の撮影を実施
- 1.16 植木町の中原さん来訪。1区SB01掘削。堀畑2・土層断面図。2区IV層掘削及び遺物上げ。
- 1.17 SB01完成。堀畑2土層断面。2区調査区基本土層横サブレンチ掘削。埋層上面の遺物なし。
- 1.18 SB01の完成平面図。堀畑2の土層断面図。
- 1.23 2区空堀。V層掘削及び基本土層の遺物上げ。
- 1.24 2区V層掘削。SK08・09・11の断面図及び土層注記。SK08の完成平面図、土器集中部3平面図。及び完成写真
- 1.25 SX04の断面分層。SK10の平裁。V層掘削を行っているが遺物はほとんどない。
- 1.30 2区V層掘削。南側グリッド精査。SK10の断面図及び写真。SK04の土層断面図。

1. 3. 1 坂田参事来跡。北東部V層掘削。SK12半截。SX04は古くて古代であり、用途は不明な大型の土坑である。
2. 0. 1 V層掘削（北東部）弥生前期～中期の土器・石器、縄文後期の土器・石器が混在。SK13土層断面図作成。
2. 0. 4 坂口参事来跡。V層掘削及び遺物の点上げ。
2. 0. 5 V層掘削（北西部）、SK12の断面図及び写真。
2. 0. 6 V層掘削。北側の2面を遺構確認のため精査。遺物の点上げ。
2. 0. 7 南東部のVI層掘削。SK13の半截及びSK14の掘削。
2. 0. 8 VI層掘削。SK13の完掘断面図及び写真。
2. 1. 2 VI層上面検出遺構掘削（SK12・SK05）。SX05は西側で立ち上がりを確認。VII層を掘り込んでいる様子。
2. 1. 3 北西グリッドはVI層の掘削終了。南側グリッドはVIII層で精査を行う。北側深堀から土分析のためのサンプルを採取した。遺物上げ。
2. 1. 4 北西グリッドのVI層の掘削。SK14の完掘断面図及び完掘写真。基本土層（L3.2～L2.9グリッド・2.2N～2.2Mグリッド）
2. 1. 5 VI層のグリッドごとの掘削。基本土層（2.2I～2.2J・L2.9～L2.8）SK12の完掘断面図。土器集中部写真。
2. 1. 9 北西部VI層掘削がほぼ終了。SK15の断面図及び断面写真。
2. 2. 0 国文者との現地確認。北東部のVI層掘削。北側に行くほど層が厚く堆積。SK15の完掘写真。
2. 2. 1 北東部VI層掘削。北側遺物の点上げ。SX05の掘り下げ。
2. 2. 2 昨日同様VI層掘削。遺物の点上げ。
2. 2. 5 坂田参事来跡。VI層掘削精査。SX05の掘削。SX05は風倒木の可能性が高い。
2. 2. 7 VI'層の掘削。（北西）SX05の掘削及びサブトレッチ掘り。2区基本土層（VI・VI'・VII）
2. 2. 8 SX05（風倒木破）掘削。基本土層断面図実測。
2. 2. 9 VI'層掘削。（VII層上面まで）
3. 0. 4 VI'層掘削。
3. 0. 5 高木補佐来跡。VI'層掘削。全体が北西方向に傾斜。
3. 0. 6 VI'層掘削。調査区外周掘削
3. 1. 1 江本補佐来跡。VII層上面まで掘削完了。
3. 1. 2 調査終了状況写真前清掃。遺物取り上げ。

3. 1. 3 調査終了状況写真撮影（高所作業車）。プレハブ清掃。

【2008年（平成20年度）】

南畑遺跡（3区）

4. 1. 4 田中監督官来訪。3区の表土剥ぎ開始（高木建設）III層が削平されて無くなっているところがある。
4. 1. 5 表土剥ぎ2日目。全体の3分の2を終了。焼土や炭化物が入るところがあり住居の可能性が高い。III'層やIV層のところもある。
4. 2. 1 作業員さん開始。環境整備及び清掃。
4. 2. 2 十八番設計（株）による4級基準点測量及びメッシュ杭設置。III層・カクラン・鉢淵層掘削。古代の鉄線1点出土。
4. 2. 4 十八番設計（株）による4級基準点測量及びメッシュ杭設置。北側からIII'層の掘削を実施。
4. 2. 5 中央から南側に向かってIII'層の掘削を実施。全体的に遺物が大きくなり数も多い。南北ベルトの西側は、掘立住居物が数点と集石。東側にはカマドを有する竪穴住居跡が数点切りあっている。
4. 2. 8 III'層掘削。南側を終了し、北側のIV層を掘削。
4. 3. 0 カマド付き住居跡にベルトを設定し、サブトレッチを掘削。
5. 0. 1 IV層掘削及びS104・05の掘削及びS104の床面出し。SK16の掘削。
5. 0. 2 IV層掘削。遺物上げ。SK16の断面図及び検出状況・S104の掘削状況写真撮影。
5. 0. 8 南側III・III'層掘削。SX06のサブトレッチ掘り下げ。遺物の点上げ。S105の上層断面図作成。
5. 0. 9 掘立住居物の柱穴掘り。堀畑の掘り下げ。SK16の断面。S104のカマド平面図作成。S104の床面検出状況写真撮影。
5. 1. 2 係り会議のため現場休止。
5. 1. 3 高木建設、重機による覆土（道路）の除去。3区堀畑の掘削。SX06の掘削。S104のカマド出し及び分割。
5. 1. 4 高木建設2日目。SK16及び断面実測追加。北側の精査後、掘立住居物の柱跡が2件ほど検出。
5. 1. 5 高木建設3日目。坂口参事来跡。SXについての意見を聞く。S104のカマド断面実測図作成。SK16炭化材出土状況・S104カマド断面写真撮影。
5. 1. 6 SX06断面図の作成及び写真撮影。

- 5.20 高木補佐末路。SK16の土層断面図作成。S104はカマドのソデを出した後、柱穴の検出及び半蔵。
- 5.21 SK17・18の半蔵。SK16の完備状況の写真撮影。北側の清掃後に竪立柱建物の柱穴を検出。
- 5.22 SX06の完備。SK17・18の柱穴断面図及びSK17・18は平面断面の写真と図面撮影終了。
- 5.23 江本補佐末路。IV層上面での竪立柱建物の柱穴を検出するための精査実施。S106のカマド検出の図面作成。S104・SX06の完備写真撮影。
- 5.26 坂田参事・廣田参事・後藤先生末路。Ⅲ・Ⅲ'層掘削(南側)S106のカマドの掘削。SK17・18の土層断面(追加)及び土層注記。SX06の完備平面図作成。
- 5.27 堀壕の掘り下げを実施。S105のカマドの検出状況。
- 5.29 榎木町中原さん来訪。調査区北側のピット掘り及び堀壕の掘削。S105・06のカマド土層断面の写真撮影。
- 5.30 S105・06の土層断面及び土層注記
- 6.04 堀壕の掘削及び精査。竪立柱建物の柱穴を分類。
- 6.05 田中監督官、埋文サポート、山鹿高(4名)の来訪。古代遺構検出状況の写真前清掃を実施。ピット内遺物上げ及びS105・06のカマドの土層断面撮影。
- 6.06 長谷部さん末路。写真前清掃及び高所作業車による写真撮影。IV層上面(古代遺構検出状況)を3カットとる。
- 6.12 IV層掘削。北側竪立柱建物柱穴完備(SB03・04)。ピット平面(1/100)配置図作成。
- 6.13 IV層掘削。SB01・02の柱穴掘削。写真前清掃。SB03・04の柱穴完備写真
- 6.17 IV層掘削。SB01・02の完備状況写真。ピット平面図及びS104・05のカマド図面作成。
- 6.18 IV層の残りを掘削。SB03・04の平面図を作成。SX06の南側から蓋と古銭を検出。
- 6.23 V層上面検出。S104・05・06・SB01の平面図作成。
- 6.25 V層上面検出確認。遺物上げ。
- 6.26 V層掘削。遺構検出面をV層から3cm程下げたところで実施する予定。北側は3cm下げても黒色土が残る。
- 6.27 V層掘削。S104・05のカマド切開。S104・05・06の遺物取り上げ。集石03検出状況写真
- 6.30 V層遺構確認清掃。SK12・S104・05(カマド燃焼部)集石03平面の図面作成。
- 7.01 V層遺構検出。S107・08・09のサブトレナ掘削及びS104のカマド掘削。集石03・S104の断面及びS105のカマド図面作成。
- 7.04 S107・08・09の掘削及びサブトレナ掘削。S105・06のカマド断面図作成。S105・06のカマド写真撮影。
- 7.07 S107・10の掘削。IV層掘削。S104・05・06の完備状況及びS108の土層断面写真撮影。
- 7.08 遺構検出のための清掃及びピット検出。10数件の遺構を確認。
- 7.10 坂口参事末路。IV層のピット掘り及びS111～S116のサブトレ掘削。SK20・23・24の掘削。S107～S118(1/100)の配置図を作成。
- 7.11 S110・11・12・14・15・16・19の掘削(床面まで)SK20・25・26掘削。SK23・24の断面図及びS113(1/20)
- 7.14 北側遺構検出。S107～S119土層断面写真撮影。
- 7.15 高木補佐、坂口参事末路。養生土器を見てもらう。
- 7.16 S11類のベルト崩し及びS11柱穴の検出を実施。北側IV層ピット掘り。S116・19・10の土層断面図作成。
- 7.18 S117の土層断面の作成。S116の柱穴断面作成。
- 7.22 南側IV層掘削。S108～19の柱穴土層断面図作成。S11類完備状況写真撮影。
- 7.23 南側S121掘削。遺構配置図の作成(1/100)
- 7.24 S121・25・26の掘削。S108・09・10・13・14・17・18の平面図作成。柱穴土層断面図作成。
- 7.25 S11の掘削。南側遺物の点上げを実施。S117・22・24・25の土層断面写真撮影。
- 7.28 長谷部参事。木村能生さん末路。北側遺構及び堀壕の掘削。
- 7.29 S125～27のベルト崩し及び主柱穴検出。SK25・26・27土層断面図作成及びSK30の土層断面写真撮影。
- 8.01 堀壕の掘削及びS121(古代)の土層断面図作成。遺物の点上げ。SK30(鐵骨器)の土層断面作成及び写真撮影。
- 8.04 SK21・22・29・31・32・33・34の土層断面図作成及びSK21・22の平面図作成。S122・24・25・26・29・30の完備状況写真撮影。
- 8.05 S121の主柱穴及びカマドの掘削。SK30の平面図・断面図の作成。SK類の完備状況写真撮影。
- 8.06 南側写真前清掃実施。SK33・34・35の土層断面・平面図作成。遺物の点上げ。S121カマド。SK

	30 (鐵骨器) の内部の写真撮影。		めどうするか検討。
8.0.7	昨日に続き写真前清掃。高所作業車によるV層(古代)遺構完備状況の写真撮影。	10.2.3	坂口参事来跡。南側黒色土(古代の包含層)検出のための掘削。
8.1.0	現場発掘体験・見学会(高木補佐・坂田参事・坂井田・水上さん)来跡。24名来客(内小学生8名)	10.2.4	南側(Ⅱ・Ⅲ層)掘削。
8.1.1	北側V層掘削。SK類の平面・断面図作成。	10.2.7	南側盛り土の除去及びⅡ層掘削。
8.1.8	V層掘削。S110・29・30の平面図及びSK23・29の平面図作成。	10.2.8	南側盛り土の除去及びⅡ層掘削。
8.2.0	横さん(植木町)来訪。V層掘削。S1類の平面図及び柱穴の図面作成。S121の完備状況写真撮影。	10.2.9	南側Ⅱ層及びⅢ層掘削。
8.2.5	北側V層掘削及び遺構検出。SK類の図面作成。	10.3.0	坂口参事来跡。南側Ⅲ層掘削。遺物の割合として中世7:古代2:縄文1で出土。量としてはさほど多くはない。
8.2.6	S1類の柱穴断面図作成及びSK30の骨粉状況写真撮影。	10.3.1	南側Ⅲ層掘削。西側上手部分の除去。
8.2.7	V層掘削及びⅥ層検出のための清掃。掘立建物物を1棟検出。	11.0.4~06	盛り土除去(高木建設)長谷部参事。前田さん来跡。
8.2.8	ビット掘り(Ⅳ~Ⅴ層)及びⅥ層の遺構掘削。SK37(Ⅵ層)の土層断面写真撮影。	11.0.7	高木補佐、坂口参事来跡。盛り土除去及び非土の成形。
9.0.1	南側V層掘削。S121・SB06の完備状況写真撮影。	11.1.0	北側Ⅱ層の掘削。
9.0.2	南側V層掘削。SK39・40・41の断面図及びS131の柱穴断面図作成。SK39・40・41の土層断面写真撮影。	11.1.1	十八割量設計(株)による4級基準点測量及びメッシュ杭設置。挟土置き場に杭設置。
9.0.3	写真前清掃。SK37・39・40・41の平面図作成。基本土層断面及び調査区Ⅵ層完備状況写真撮影。	11.1.2	北側Ⅱ層掘削。グリッドごとに遺物を管理。
9.0.4	課長、審議員、補佐、係長来跡。遺物の点上げ。SK39・40・41の完備状況写真。	11.1.3	北側Ⅱ層・Ⅲ層掘削。
9.0.8	Ⅵ層掘削。Ⅵ'層まで下げて確認。出土遺物はほとんど無し。SK37・38の断面・完備写真。	11.1.4	Ⅲ層掘削。調査区西側にビットが検出。
9.0.9	Ⅵ層掘削。図面作成(1/100)	11.1.7	北側Ⅲ層掘削。南側は遺構検出のための清掃及び遺構検出状況の写真撮影。掘立建物物を3棟検出。
9.1.0	SK36・38の図面作成及びSK30の完備状況写真。	11.1.8	植木バイパス関連協議(国土交通省訪部)。南側ビット平裁及び北側Ⅲ層掘削。
9.1.1	Ⅵ層掘削。基本土層分層及び基本土層壁面北側写真撮影(3カット)。SP30断面平面図作成。	11.2.0	南側ビット及び遺構検出。南側ビットをA・B・Cに分別。
9.1.2	Ⅵ層掘削。ベルト崩し。SP30土器出土状況写真。SK42の土層断面	11.2.1	北側Ⅲ層掘削。
澁水古閑原遺跡		11.2.6	北側Ⅲ層掘削及び遺構検出のための清掃。
10.1.4~16	表土除去3日間実施(高木建設)	11.2.6	SD01トレンチ掘削及びⅢ層掘削。
10.1.7	機材搬入	11.2.8	SD01を掘ごとに掘削。土器片が少し混じる程度。遺構検出区(1/100)をとる。
10.2.0	作業員さん作業開始(12名)。環境整備を実施。	12.0.1	SD01の掘削。遺構検出区(1/100)を作成。
10.2.1	トレンチ及び試掘直掘り。	12.0.2	SD01の掘削。調査区中央~北側のビット平裁。
10.2.2	中原さん(植木町)来訪。北側に傾斜しているが、客土の下には、基本土層が残っている。客土が埋いた	12.0.3	SD01の掘削。SB01・02・03平面図(1/20)
		12.0.4	SD01及びビットの掘削。SB01土層断面(1/20)、SB04の平面図作成。SB01の土層断面写真撮影。
		12.1.0	高木補佐来跡。SD01及びビット掘削。SB02の土層断面図作成。SB02・04土層断面写真撮影。
		12.1.1	SD01及びビット掘削。SB04の土層断面図作成。

- 12.12 SB01・02・04の完備状況写真。出土遺物の整理、
- 12.15 SD01及びピットの掘削。SD01は埋土2層までを掘削終了。埋土3層から遺物を残していく予定。
- 12.16 SD01の掘削及びピットの完備。SB01・02・04の平面図作成。
- 12.17 SD01及びピットの掘削。SK01・02・03の掘削及び検出状況写真撮影。
- 12.18 SD01、SK01の完備、SK04（4分銅）。SK01の土層断面図作成及び平面図作成（グリッドごと1/20）。SK04・05検出状況写真。
- 12.19 係会議のため現場休止。
- 12.24 SD01の掘削及びグリッド下げ（A・B・3・4）SK04土層断面図作成及び平面図作成（グリッドごと1/20）。
- 12.25 SD01の掘削。平面図作成及びSK04の遺物出土状況（石芥）、出土金属製品の写真
- 12.26 SD01の土層断面写真。仕事納めのため大掃除。
- 1.06 仕事始め。地権者様への埋道下を掘削。SD01の土層断面図作成（1/20）。
- 1.07 坂口孝事末跡。SD01のベルト掘削。中央道下（II層～III層掘り下り）SK04完備状況・SK05検出状況写真撮影。
- 1.08 SD01のベルト掘削。遺物の点上げ。SB05同層断面図作成及び写真撮影。
- 1.09 係会議のため現場休業。
- 1.13 北側トレンチ掘り。A・B・C・D-3グリッドの図面作成。
- 1.14 SA01土層断面図作成及びB・C・D-4グリッドの図面作成。SD01検出状況及びSB05完備状況。
- 1.15 III層下道構検出。SD01内検出ピット（P1～P18）の土層断面図作成及び写真撮影。
- 1.16 D-2・3・4グリッド道構検出。SD01内検出ピット（P16～P22）の土層断面図作成。
- 1.19 III層下道構検出（南側）及び写真前清掃実施。SK05・06の土層断面図及び平面図作成。SK05・06の土層断面写真。
- 1.20 前田軍治氏（保護指導委員）来訪。南側道構検出。C・D・E・F-8グリッド。SB05、SD02の図面作成。SK05（隕石）検出状況、SK07土層断面、SK06完備状況写真撮影。
- 1.21 道構検出。C・D・E・F-8グリッドの図面作成及び道構検出。
- 1.23 グリッドごと清掃及び道構検出。C・D-5グリッドの図面作成及び道構検出。
- 1.26 空掘前清掃。SK07同層断面及び平面図作成。
- 1.27 九州航空（株）空掘を委託。中世道構完備状況。SB01・02・04・05の完備状況写真。
- 1.28 国土交通省との協議（今年度・来年度の事業）トレンチ掘り及び写真前清掃。SK02・07完備状況写真。
- 1.29 土器の整理（作業員さん5名）
- 2.02 畑への埋道埋め戻しのため重機（江口建設）を賃借。作業員さんは休み。コンタを実施。グリッドごと（1/20）。
- 2.04 南側（1/20）平面図作成及び北側コンタ作成。
- 2.05 南側V層掘削及びSK08の掘削。グリッドごと平面図作成。
- 2.06 係会議のため現場休止。
- 2.09 V層掘削（北側・南側）。北側平面実測。
- 2.10 北側V層掘削。
- 2.12 V層掘削。写真前清掃。V層遺物出土状況（北側）写真撮影。
- 2.13 VI層掘削（南側）。写真前清掃。AB-6グリッド実測図作成。V層遺物出土状況（全体）写真撮影。
- 2.16 VI層掘削（南側）実測図作成（新規ピット）
- 2.17 VI層掘削（南側）。SA02エレベーション。SD01レベル。SK05図面作成。
- 2.18 VI層掘削（北側）遺物の点上げ。
- 2.20 VI層及びSK08の掘削。SK08土層断面図作成。調査区東側壁面の基本土層分層及び写真撮影（北側から）。
- 2.23 VI層及びSK08の掘削。遺物の点上げ。SK08の完備平面図作成。基本土層（南側）写真撮影。
- 2.24 VI層掘削。（南側）。遺物の点上げ及び基本土層断面図作成。SK08完備状況写真。
- 2.26 VII層掘削。遺構・遺物ともにほとんど検出できない。基本土層断面図作成。
- 3.02～05 確認の為、VIII層掘削。
- 3.09 VIII層掘削。SK08の北側から埋め戻しを検出。
- 3.10 南側VIII層掘削。埋め戻しの半段及び土器出土状況写真。
- 3.11 坂口孝事末跡。確認のための掘削。土器（甕）の掘削及び土層断面写真。
- 3.12 機材搬出。
- 3.13 事務所撤去。

第2章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

南畑遺跡は、県北部の洪積台地の典型をなす植木台地上に位置する。遺跡の周辺は、水系の流域区分の境に位置し、東に菊池川の支流である合志川、南に熊本市に流れる井芹川、西に菊池川の支流である木葉川が流れる。周辺の地形は、北西の金比羅山の山裾と、南西の三ノ岳から延びる山裾から形成されている地形で、谷あいの支流も多いところである。それらの自然に形成された起伏を利用して、畑作や稲作が盛んに行われてきた。台地の中央を南北に国道3号線が走り、山鹿と熊本を結ぶ主要道路として交通量も多いところである。本遺跡は、植木町市街地の西方約1.2 kmの丘陵地にあり、標高は約99 mである。玉名・玉東方面へと向かう208号線は、現在でも主要道路として利用も多い。

植木台地には、筑後変成岩類（主として泥質岩）が金比羅山から延びてきており、約13万年前に形成された金峰火山中期噴出物（輝石安山岩・輝石玄武岩質安山岩・角閃石安山岩）が三ノ岳から延びてきている。本遺跡がある丘陵地には、それらの堆積土とともに、約9万年前の阿蘇四火砕流堆積物である阿蘇熔結火山砕屑岩（A P）が含まれおり、遺跡周辺の土壌を形成している。

滴水古閑原遺跡は南畑遺跡から直線距離にして約900 m南に行ったところに位置し、菊池川の支流である神ノ木川にかかる滴水の石橋の南側の台地上にある。桜井小学校から北に広がるこの遺跡は北側と西側が谷になっており、北側に緩やかに傾斜し、西側は少し急に傾斜する地形となっている。南畑遺跡と同じように阿蘇四火砕流堆積物の阿蘇熔結火山砕屑岩（A P）が含まれている。昭和39年頃の開田事業の時に造成された土地を利用して、稲作や畑作が行われている。

第2節 歴史的環境

植木町内は、旧石器時代の遺跡こそ少ないが、その後の遺跡の多さは県内でも知られるところである。縄文時代の遺跡はほぼ植木町全域に広がっており、特に早期の押型文土器が多く出土しているヲスギ遺跡や、後期中頃で緑色硬石製の玉類や土偶が多い俵尾遺跡、熊本市太郎迫遺跡などは有名である。弥生時代になると早期の遺跡はなく、中期以降に増加する傾向がある。これは植木町で見られる植木東路と植木西路が水系をとおして広がりをもっていたことで、弥生時代の人々が川の恩恵を受けながら生活していたことを物語っている。鹿南中学校付近から菱形小学校の間に有力な遺跡が集中する傾向がある。田底、吉松、山東地区は後期になってから増加する。前期は塔ノ本遺跡、河原立遺跡、中期は平松遺跡、白石遺跡、今古閑久保遺跡、滴水尖遺跡、轟遺跡がある。後期はヲスギ遺跡、石川遺跡などがある。古墳時代になると集落の分布域は広いもの古墳の所在場所は限られてくる。奈良・平安時代になると縄文時代と同じように全域で小集落が見られるようになる。現在の集落の礎が出来上がったと言える。

本遺跡の北には複合遺跡である諏訪原遺跡が隣接し、縄文土器や石器、平安時代の土師器・須恵器が出土している。西には上記の塔ノ本遺跡や轟遺跡があり、南には複合遺跡の大道端遺跡が隣接し、縄文から中世までの遺構が集中している。

南畑遺跡では縄文時代早期の押型文や後期の北久根山式や晩期の土器が出土している。この時代の資料は生野原遺跡、迎畑遺跡、内山遺跡、河原立遺跡、後古閑山野遺跡などが有名である。南畑遺跡でも弥生時代の堅穴住居跡が25軒検出したが、それらの集落の資料として住居跡が多く検出された今古閑久保遺跡、滴水尖遺跡などが有名である。滴水古閑原遺跡でも、縄文の土器や石とともに弥生時代の土器や甕棺が出土しており、この遺跡の西側の平野東原遺跡と関連してくる。また、南畑遺跡では古代の堅穴住居跡が数件見つかったり、当時繁栄した平安時代の植木町の一端を垣間見ることができる。古代では、田子山遺跡、内山遺跡、轟畑遺跡、諏訪原遺跡、平野西原遺跡などが有名である。



第2圖南畑・滴水古開原遺跡周辺遺跡地圖

第2表 南畑滴水古閑原周辺遺跡地図

南本市北区植木町(旧南本郡植木町) (385)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
385-074	穴甕古墳	北区植木町 富広 西原	古墳	古墳		横穴式石室
385-075	外土井遺跡	北区植木町 富広 外土井	縄文・平安	包蔵地		縄文早期
385-077	七本官軍墓地	北区植木町 轟 多尾 2105	明治	墓地	県史定	西南役戦死者墓。門柱に官軍墓地とあり。西南の役になむ心支跡。墓石数300基。昭和58年1月18日指定
385-082	萬爪の纏腰橋	北区植木町 山本 前田	江戸	石造物		浮輪 前開3段
385-084	富広農寺跡	北区植木町 富広 赤浦	古代	寺社跡	市史跡 (旧植木町)	礎石群
385-085	古閑稲埨	北区植木町 鞍掛 阿弥陀堂	室町	石造物	市史跡 (旧植木町)	鞍掛阿弥陀堂の板碑。私年号あり
385-086	岩野城跡	北区植木町 岩野 城山・馬場	中世	城跡跡		(別称) 道祖城跡・城山 遺構。土塁新開34
385-087	鞍掛辻畑遺跡	北区植木町 鞍掛 古閑原・辻畑 他	縄文・平安・鎌倉・室町	包蔵地		(旧称) 古閑遺跡。縄文後期
385-088	團畑穴群	北区植木町 團畑 團畑	古墳	横穴		(旧称) 鞍掛遺跡穴群。周溝。規模小
385-090	諏訪原遺跡	北区植木町 鞍掛 諏訪原	縄文・平安・鎌倉・室町	包蔵地		
385-091	次郎丸屋敷	北区植木町 岩野 一町畑	中世	城跡跡		
385-092	岩野馬場遺跡	北区植木町 岩野 馬場・一丁畑	縄文・中世	包蔵地・城跡跡		馬場小堀。三基土塁
385-093	極楽寺	北区植木町 岩野 馬場	中世	寺社跡		
385-094	丸塚古墳	北区植木町 富広 一ノ尾	古墳	古墳		詳細不明。穴甕古墳のことか
385-095	鞍掛山城跡	北区植木町 鞍掛 新屋敷・原屋敷	中世	城跡跡		
385-096	栗平城跡	北区植木町 山本・富広 栗平・正林	中世	城跡跡		
385-097	新塚遺跡	北区植木町 一本 前畑他	縄文・弥生・平安・中世	包蔵地		(旧称) 一ツ木遺跡
385-108	石櫃遺跡	北区植木町 広住 石櫃他	縄文・平安	包蔵地		(旧称) 広住遺跡
385-111	塔ノ本遺跡	北区植木町 轟 塔ノ本	旧石器・縄文・弥生・奈良・平安・中世	包蔵地		支石墓。豊耕跡。土壌墓。越州宮前水注
385-116	埋原空遺跡	北区植木町 轟 埋原畑	縄文・平安・中世	包蔵地		(旧称) 埋原遺跡
385-117	埋原城跡	北区植木町 轟 埋原屋敷	中世	城跡跡		空堀あり
385-123	轟辻畑遺跡	北区植木町 轟 辻畑他	縄文・平安・中世	包蔵地		
385-124	轟今古閑遺跡	北区植木町 轟 今古閑	弥生・古墳・平安	集落跡		(旧称) 今古閑・久保遺跡
385-125	轟遺跡	北区植木町 轟 今古閑	弥生・古墳・平安	集落跡		
385-126	湧水西原遺跡	北区植木町 湧水 西原他	縄文・弥生・古墳・平安	包蔵地		(旧称) 湧水遺跡 豊耕
385-127	湧水阿弥陀板碑	北区植木町 湧水 西原敷	中世	石造物		
385-128	轟城跡	北区植木町 轟 城ノ内	中世	城跡跡		城関係墓地あり。大堀あり
385-129	ツス平横穴群	北区植木町 湧水 ツス平	古墳	横穴		(旧称) 内目横穴群 2基
385-130	生野原遺跡	北区植木町 四台寺 生野原 他	縄文・平安・中世	包蔵地		(旧称) 生野原遺跡 縄文早期
385-136	河原立遺跡	北区植木町 四台寺 河原立 他	縄文・弥生・平安・中世	包蔵地		縄文後期。弥生前期豊耕
385-137	ツス平遺跡	北区植木町 湧水 ツス平 他	縄文・弥生・平安・中世	集落跡		弥生後期の集落跡・墓地
385-140	轟横穴群	北区植木町 轟 轟	古墳	横穴		
385-141	下道丸遺跡	北区植木町 轟 下道丸 他	縄文・中世	包蔵地		(旧称) 内目遺跡。中世屋敷跡
385-142	湧水稲埨	北区植木町 湧水 東屋敷 他	中世	城跡跡		厩館。土塁
385-143	湧水都遺跡	北区植木町 湧水 東屋敷・西屋敷	縄文・中世	包蔵地		
385-144	舞尾西原遺跡	北区植木町 舞尾 西原 他	縄文・弥生・平安	包蔵地		(旧称) 二葉バシエ場遺跡。縄文後期
385-145	舞尾薬師堂板碑	北区植木町 舞尾 本村屋敷	室町	石造物		大永3年(1523年)
385-146	舞尾の板碑	北区植木町 舞尾 石仏	室町	石造物	南有劔文化財(旧植木町)	
385-147	乃木大将記念碑	北区植木町 舞尾 石仏	明治	石造物		平本程乃木記念碑と並ぶ。文明9(1477年) 六地蔵縁刻
385-148	植木中学校跡	北区植木町 広住 五反畑 他	明治	包蔵地		西南役向坂堀。人員点呼の地に建つ
385-149	控刀塚古墳	北区植木町 湧水 大塚ノ元	古墳	古墳		植木小段畑に隣あり
385-150	松村刀鍛冶跡	北区植木町 平野 原屋敷	江戸	生産		円溝。内部不明
385-151	平野東原遺跡	北区植木町 平野 東原	縄文・弥生・平安・中世	包蔵地		弥生中期豊耕2基
385-152	東中原遺跡	北区植木町 平野 東原 他	縄文・弥生・古墳・平安・中世	包蔵地		(旧称) 平野遺跡 豊耕

385-153	平野五輪塚群	北区結木町 平野 東谷	中世	石造物	五輪塚片多数
385-154	伏道遺跡	北区結木町 伏道 前畑 他	縄文・弥生・平安・中世	集落跡	縄文後期、弥生後期の集落跡
385-156	伏道柿木台壇壇軍墓地	北区結木町 伏道 四ツ塚	明治	墓地	1基、封土に建つ、新設の墓標もある
385-157	鬼のかまき古墳	北区結木町 伏道 萩原	古墳	古墳	市史跡(旧結木町) 2基、石材露出。円墳、横穴式石室
385-158	伏道狐塚古墳	北区結木町 伏道 萩原	古墳	古墳	1基、外堤があったが現在なし
385-160	清水東屋敷の板碑	北区結木町 清水 東屋敷	室町	石造物	市有彫文化財(旧結木町) 同一碑に享禄3年(1530年)天文2年(1533年)銘あり
385-161	町裏遺跡	北区結木町 清水 町裏 他	縄文・弥生・平安	包蔵地	(旧称) 結木町三丁目遺跡 妻稲
385-162	木留遺跡	北区結木町 木留 北中原	縄文~古代	包蔵地	
385-163	菅尾遺跡	北区結木町 木留 菅尾他	縄文・平安	包蔵地	(旧称) 菅尾A遺跡、炉穴
385-164	向山古墳	北区結木町 辺田野 向山	古墳	古墳	円墳径13m、高さ1m 安山岩板石
385-165	菅尾山遺跡	北区結木町 木留 菅尾他	縄文・弥生・平安	包蔵地	(旧称) 菅尾B遺跡、合口大形壘形、集落跡
385-166	木留城跡	北区結木町 木留 北中原	中世	城跡跡	
385-167	藤巻長遺跡	北区結木町 北区結木町 経田 藤巻長	縄文・平安・中世	包蔵地	
385-168	山海道遺跡	北区結木町 辺田野 山海道	縄文	包蔵地	縄文後期、晩期
385-174	富応久保遺跡	北区結木町 富応 久保	縄文・弥生・平安・中世	包蔵地	縄文早期、後期 妻稲 支石墓有?
385-175	富応田中遺跡	北区結木町 富応 田中原	旧石器・縄文	包蔵地	
385-176	沖野遺跡	北区結木町 轟 沖野	縄文・平安	包蔵地	
385-179	中屋前穴群	北区結木町 一本 中屋前	古墳	横穴	(旧称) 一本横穴群
385-180	熊平横穴群	北区結木町 山本 熊平	古墳	横穴	「古墳貴人ノ墓」 碑あり
385-201	一軒畑遺跡	北区結木町 岩野 一軒畑	弥生	包蔵地	壘壁式壘形1基
385-202	カマンア古墳	北区結木町 一本 正林	古墳	古墳	
385-206	結木地蔵堂の千洗壘	北区結木町 結木 3丁目	江戸	石造物	市有彫文化財(旧結木町) 享保2年(1717年) 縁取新町などの彫刻がある
385-207	清水のイチョウ	北区結木町 清水 東屋敷		天然記念物	市指定天然記念物 高さ2m、断面14m
385-208	清水の線橋橋	北区結木町 清水 高田		建造物	市有彫文化財(旧結木町) 単一拱橋、架設時期不明
385-209	広田先生同舎人墓地	北区結木町 清水 山ノ坊	明治	墓地	市史跡(旧結木町)
385-211	城之内古墳	北区結木町 轟 城之内	古墳	古墳	詳細不明
385-213	辺田野熊野座神社の夫婦杉	北区結木町 辺田野 上ノ原		天然記念物	市指定天然記念物(旧結木町) 日通り4.05mと3.75mの2本
385-215	埋原の亀舞	北区結木町 轟 埋原	民俗	民俗	市指定無形民俗文化財(旧結木町) (別称) 舞原の亀舞
385-216	辺田野熊野座神社の神楽	北区結木町 辺田野 上ノ原	民俗	民俗	市指定無形民俗文化財(旧結木町)
385-221	堀ノ本遺跡土橋墓出土青磁水注及び漆器器	北区結木町 轟 堀ノ本	平安	工芸考古資料	市指定有形文化財(考古資料)(旧結木町) 新製瓜形の水注 越州窯
385-244	村上遺跡	北区結木町 山本 村上 他	平安・中世	包蔵地	五輪塚20基ほど集中している。
385-246	山本今古閑遺跡	北区結木町 山本 今古閑 他	縄文・弥生・古墳・平安	包蔵地	
385-248	山本東原遺跡	北区結木町 山本 東原	弥生・平安	包蔵地	
385-317	松山遺跡	北区結木町 岩野 松山・狐塚 他	縄文・弥生・平安	包蔵地	
385-318	浄行寺遺跡	北区結木町 岩野 浄行寺、花立 他	弥生・平安・中世	包蔵地	
385-319	小山遺跡	北区結木町 岩野 小山・塚園	弥生・平安	包蔵地	
385-320	平松遺跡	北区結木町 岩野 平松・市場	縄文・弥生・平安・中世	包蔵地	
385-321	市場後遺跡	北区結木町 岩野 市場後・鐘沼	縄文・弥生・平安・中世	包蔵地	縄文後期
385-322	茶臼塚遺跡	北区結木町 岩野 茶臼塚・西原 他	縄文・弥生・平安	包蔵地	縄文後期
385-323	金輪松遺跡	北区結木町 岩野 金輪松・堂ノ前	平安・中世	包蔵地	
385-324	一本中尾遺跡	北区結木町 一本 中尾・屋敷	縄文・平安・中世	包蔵地	
385-325	一本南原遺跡	北区結木町 一本 南原 他	縄文・平安・中世	包蔵地	
385-326	正林遺跡	北区結木町 一本 正林・西畑	縄文・平安・中世	包蔵地	
385-327	南原横穴群	北区結木町 一本 南原	古墳	横穴	
385-328	正林横穴群	北区結木町 一本 正林	古墳	横穴	
385-329	広住西原遺跡	北区結木町 広住 西原・高草原	弥生・平安	包蔵地	
385-330	五反畑遺跡	北区結木町 広住 五反畑・前畑 他	縄文・弥生・平安・中世	包蔵地	縄文後期

385-331	野入遺跡	北区植木町 野田 野入地	縄文、平安	包蔵地	
385-332	北中尾遺跡	北区植木町 野田 北中尾、西原 他	弥生、平安	包蔵地	
385-333	沖遺跡	北区植木町 野田 沖、蹟地 他	縄文、平安、 中世	包蔵地	縄文後期
385-334	野田中尾遺跡	北区植木町 野田 中尾	縄文、弥生、 平安、中世	包蔵地	
385-335	瀧水古閑原遺跡	北区植木町 瀧水 古閑原、野中	弥生、平安	包蔵地	
385-336	投刀塚堀ノ内遺跡	北区植木町 投刀塚 堀ノ内 他	縄文、平安	包蔵地	
385-337	西ツ塚遺跡	北区植木町 萩追 西ツ塚他	縄文、弥生、 平安	包蔵地	
385-338	平野西原遺跡	北区植木町 平野 西原他	弥生、平安、 中世	包蔵地	
385-339	瀧水向原遺跡	北区植木町 瀧水 向原、ヲス干	縄文	包蔵地	
385-340	二本木遺跡	北区植木町 瀧水 二本木	縄文	包蔵地	縄文後期
385-341	萩山遺跡	北区植木町 瀧水 萩山	縄文	包蔵地	
385-342	尖り遺跡	北区植木町 瀧水 尖り	縄文、弥生、 平安、中世、 近世	包蔵地	弥生中期集落跡 墓群
385-343	内山遺跡	北区植木町 瀧水 内山	縄文、弥生、 平安、中世	包蔵地	縄文後期 弥生中期集落跡
385-344	大運埜遺跡	北区植木町 瀧水 大運埜、北原 他	縄文、弥生、 平安、中世	包蔵地	
385-345	加川原遺跡	北区植木町 瀧水 加川原、中道 他	縄文、弥生、 古墳、平安	包蔵地	
385-346	三角遺跡	北区植木町 木曾 三角、前橋	中世	包蔵地	
385-347	峠南平遺跡	北区植木町 野田	縄文、平安	包蔵地	縄文土器、土師器（平安） H12.3.30（北区植木町遺跡地区）記載 H18.4.15訪問修正（南尾道地区結党体 育育成基盤整備事業に伴う試掘、確認 調査の結果による）
385-348	榎木遺跡	北区植木町 辺田野 榎木	縄文、弥生、 平安	包蔵地	
385-349	堀ノ木遺跡	北区植木町 辺田野 堀ノ木、内山	縄文、中世	包蔵地	縄文後期
385-350	六本棒遺跡	北区植木町 辺田野 六本棒、上ノ原	縄文、平安	包蔵地	
385-351	内山遺跡	北区植木町 辺田野 内山、六本棒	縄文、弥生、 平安	包蔵地	縄文後期
385-354	南中原遺跡	北区植木町 木曾 南中原、北中原	縄文、平安、 中世	包蔵地	
385-355	古閑池遺跡	北区植木町 上古閑 古閑池 他	縄文、中世	包蔵地	
385-356	轟久保遺跡	北区植木町 轟 久保、中西原	縄文、弥生、 平安、中世	包蔵地	(旧称) 今古閑、久保遺跡
385-359	五次郎丸遺跡	北区植木町 轟 五次郎丸	平安、中世	包蔵地	
385-360	轟芝原遺跡	北区植木町 轟 芝原	縄文、弥生、 平安	包蔵地	
385-361	轟尾遺跡	北区植木町 轟 轟尾	弥生	包蔵地	
385-362	轟田中原遺跡	北区植木町 轟 田中原	縄文、弥生、 平安	包蔵地	
385-363	田子山遺跡	北区植木町 轟 田子山	縄文、平安	包蔵地	平安土師器焼成土坑群
385-364	多尾遺跡	北区植木町 轟 田尾、七本	縄文、平安、 中世	包蔵地	
385-365	柳迫遺跡	北区植木町 轟 柳迫	縄文、中世	包蔵地	
385-366	鎌地遺跡	北区植木町 轟 鎌地	中世	包蔵地	
385-368	後古閑立野遺跡	北区植木町 後古閑 立野、田中原	縄文、弥生、 平安、中世	包蔵地	縄文後期
385-369	遊畑遺跡	北区植木町 後古閑 遊畑、田中原	縄文、弥生、 平安、中世	包蔵地	縄文後期
385-370	南線遺跡	北区植木町 鞍掛 南線、牛橋	縄文、平安、 中世	包蔵地	
385-371	後野遺跡	北区植木町 鞍掛 後野、萩尾屋敷	縄文、平安、 中世	包蔵地	
385-372	原口遺跡	北区植木町 鞍掛 原口	縄文、平安、 中世	包蔵地	縄文後期
385-373	富花芝原遺跡	北区植木町 富花 富花、芝原 他	平安	包蔵地	布目瓦割布が多い
385-374	西山遺跡	北区植木町 富花 上ノ実、西山 他	縄文、平安、 中世	包蔵地	
385-375	轟原遺跡	北区植木町 豊岡 中久保、轟原 他	縄文、平安、 中世	包蔵地	
385-378	山跡遺跡	北区植木町 瀧水 山跡 他	平安	包蔵地	

第3表 熊本市遺跡地図

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
2-1	万葉寺貝塚	北区万葉寺町乙之尾	縄文	貝塚		
2-2	山海遺跡	北区万葉寺町宇甲菅尾	旧石器、縄文	集落		切片尖頭器（黒曜石）、土偶、縄文後 残跡土器
2-3	荒平城跡	北区万葉寺町宇甲菅尾	中世	城		
2-4	万葉寺経塚	北区万葉寺	中世	経塚		
2-5	万葉寺出口遺跡	北区太郎泊	縄文～弥生	包蔵地		調査あり
2-9、3-4	太郎泊遺跡	北区太郎泊町宇大原など	縄文	包蔵地		住居跡、埋方メ、土偶、磨製石斧、打 製石斧、石刀、副片石器
3-2	北迫池井樋穴群	北区北迫町井樋	古墳	古墳		
3-3	北迫川底遺跡群	北区北迫町北迫	弥生～中世	包蔵地		
3-24	井上樋穴群	北区坂寄町城が下	古墳	古墳	市	7基
3-26	小糸山遺跡群	北区小糸山町居屋敷	縄文～中世	包蔵地		縄文後期土器、網目瓦割布など、西 鹿戦争官軍墓地

第三章 調査成果

第1節 調査方法

表土及びII層の一部を重機により除去し、掘り下げを実施した。III層・IV層で古代～中世の遺構を検出した。その後V層上面から中位にかけて、弥生時代の遺構を検出し、V層中位から縄文時代後・晩期をV層下面から縄文時代早期の遺構を検出した。VI層からVII層上面まで調査を行い、VII層から下層は未調査である。埋め戻しは、発生日を用いて重機にて行った。

原則的に、遺物の取り上げ及び遺構実測のグリッド(区画)は、世界測地系で10m×10mを基本単位に設定し、調査区にグリッド杭を設置し、5m×5mを1単位に表すようにした。5mのグリッド記号を調査区ごとに東西軸に西からA・B・C・・・、南北軸に北から1・2・3・・・と設定した。南畑遺跡1区・2区・3区は調査区が隣接しているために、1区から3区までを通し番号で設定した。滴水古閑原遺跡は、基本的に南畑遺跡と同様に設定している。

実測は調査担当者・作業員で、1/20縮尺の断面図・平面図を作成した。カマドについては1/10縮尺で作成した。遺構配置図は1/100で作成した。なお遺構実測図作成及び遺物の取り上げにあたっては、実測の迅速化を図るため光波測距儀を活用したデジタル化を行った。

遺物について1区・2区は、レベルを付記して取り上げを実施した。全調査区において遺物包含層は、グリッドごと・層位ごとに、遺構については遺構ごとに層位により取り上げ、埋1層・埋2層で表記している。

第2節 基本層序

調査区の基本層序は、層位について遺構外と遺構内を区別するため、遺構外をI・II・III層・・・と表記し遺構内は、1層・2層・3層と表記した。

I層：表土層	
II層：暗褐色土層	耕作土〔一部クロボク：古代遺物包含層〕
III層：黒褐色土層	古代・中世の遺物包含層
III'層：黒褐色土層	縄文～古代の遺物包含層
IV層：褐色土層	上面：古代の遺構検出面、縄文～弥生の遺物包含層
V層：明褐色土層	上面：弥生遺構検出面、中位で縄文遺構検出
VI層：褐色土層	縄文時代の埋土

第3節 調査の概要

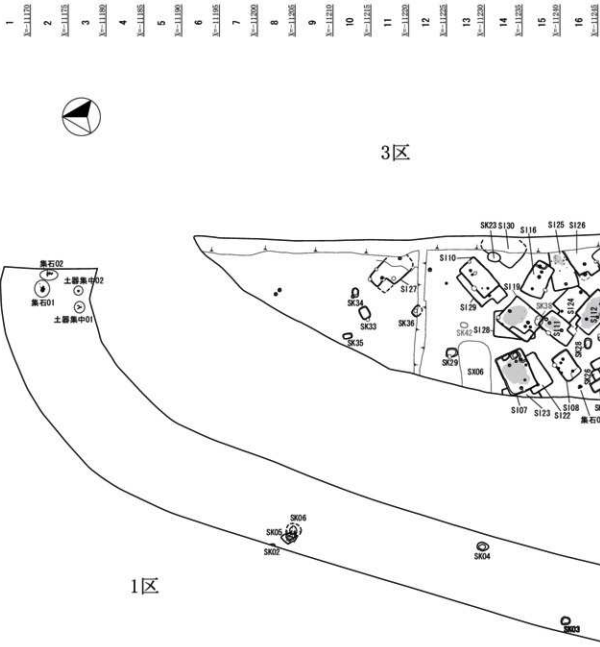
南畑遺跡1区は南側で耕作時の削平を受けていたが、縄文時代の集石や古代の住居跡を検出した。2区はIII'層まで削平が見られる部分もあり遺構がほとんど検出できず、縄文土器や弥生土器をはじめ土師器・須恵器の遺物の取り上げを行った。3区は弥生時代の竪穴住居跡を2軒や古代の住居跡6軒・掘立柱建物跡6棟を検出した。中世以降の堀畑を2条検出した。詳細は第3・4図に主要遺構図を記す。

滴水古閑原遺跡は盛土と削平によって造成された畑地であったため、IV層まで擾乱を受けている所もあり、基本層を確認しながらの調査であった。そのなかでも縄文時代の遺構や遺物、弥生時代の甕棺を検出した。また中世の掘立柱建物跡を4棟検出した。詳細は第133図に主要遺構図を記す。

第4節 遺構及び遺物

以下、南畑遺跡(1区・2区・3区)～滴水古閑原遺跡までの遺構及び出土遺物について記述する。

Y=30015
 Y=30050
 Y=30055
 Y=30090
 Y=30095
 Y=30020
 Y=30075
 Y=30080
 Y=30085
 Y=30090
 Y=30095
 Y=30100
 Y=30105
 Y=30110
 Y=30115
 Y=30120



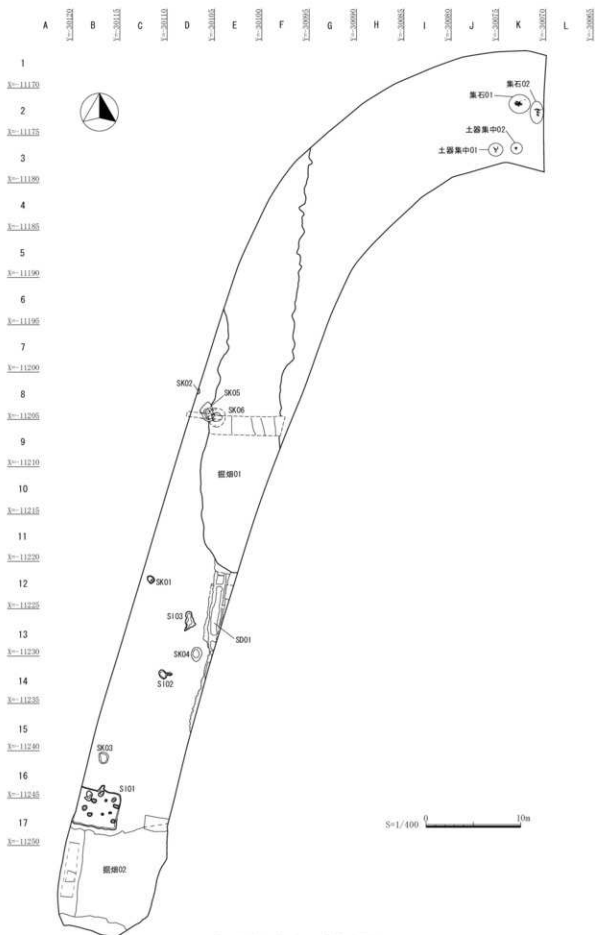
- 1 X=11170
- 2 X=11175
- 3 X=11180
- 4 X=11185
- 5 X=11190
- 6 X=11195
- 7 X=11200
- 8 X=11205
- 9 X=11210
- 10 X=11215
- 11 X=11220
- 12 X=11225
- 13 X=11230
- 14 X=11235
- 15 X=11240
- 16 X=11245



1区

3区

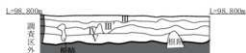
5区



第5图南窑遗址1区遺構配置图

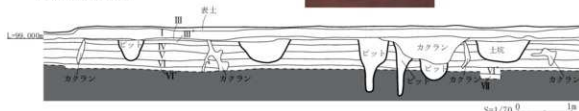
南畑遺跡基本土層

1区南北土層断面



S=1/60 0 1m

3区北側土層断面



第6図 1区・3区調査区土層断面図

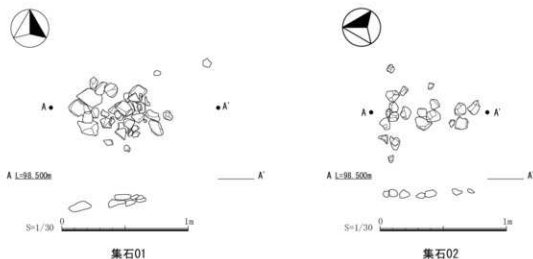
- I層 表土層** 主として現在の耕作土である。
- II層 暗褐色土層** 開田に伴う客土層及び旧耕作土層。
- III層 黒褐色土層** 締まり、粘性とも弱いきめの細かい土層である。焼土、炭化物の粒子などを含んでいる。歴史時代を中心とした遺物包含層であり、縄文時代～中世の遺物が出土する。古代と中世の遺構の埋土で、古墳時代～古代の住居跡では上層に堆積する場合が多い。
- III'層 黒褐色土層** 締まり・粘性ともやや弱い、III層に比べるとやや締まりが増す。III層からIV層の漸移層であり、基本的にはIV層の上位が攪拌されたような状態である。斑状になる。縄文時代～古代の遺物包含層である。
- IV層 褐色土層** III層に比べ締まり粘性ともやや強まる。焼土、炭化物の粒子などを含んでいる。縄文時代～弥生時代の遺物包含層であり、縄文時代後期～晩期の遺物を多く含む。弥生時代遺構の埋土なので、この層上面での遺構確認は困難を極める。古墳時代～中世にかけての遺構確認面である。
- V層 明褐色土層** 色調はIV層より明るくなる。地点によりやや暗くなる場合もある。IV層に比べ、締まり、粘性ともさらに強くなる。焼土、炭化物の粒子などを含んでいる。縄文時代の遺物包含層である。弥生時代の遺構はこの層で確認でき、壁も締まりの強さで識別できる。
- VI層 褐色土層** 締まり、粘性ともやや強い。基本的にはV層と同質土で、締まりの度合で分層している。
- VII層 黒褐色土層** 締まり、粘性とも強い。VI層～VII層は、場所によってはブロック化（通称白ニガ、黒ニガ）している。
- VIII層 暗黄褐色土層** ローム層の漸移層である。IX層に比べやや締まりが弱い。
- IX層 黄褐色土層** ローム層である。礫の混入がみられる。締まりは強い。

第4節 遺構・遺物

1.1 区

(1) 縄文時代早期

1区では調査区北側で集石01・02を検出した。検出当初から黒褐色土が厚く堆積しており、集石の間から縄文早期の押型文土器の破片が出土。周辺からも早期の土器片が出土しており、この集石が縄文早期に使われていた可能性が高いと推測される。この周辺は元地形が北に緩やかに傾斜しており、包含層も厚く堆積していた。縄文時代の遺構検出を試みて精査・検出を繰り返したが、炭化物や焼土粒子が若干多く含む場所があったものの遺構としては検出できなかった。今回はこの2つの集石01・02を図化した。



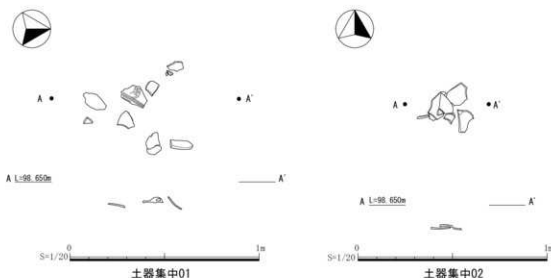
第7図 1区集石01・02平面図断面図

集石01 K・2 Grid上で検出した遺構である。V層掘削時に検出した遺構で長軸約80cm、短軸約50cmに礫が集中し、掘り方はなく大きな礫で約15cm大のものが10個ほど見つかり、小さい礫を合わせて約40個の礫が重なるように残存していた。礫の特徴は輝石安山岩がほとんどで、礫に焼け跡が見られ赤く変色していた。周辺から縄文早期の押型文の土器が数点検出された。

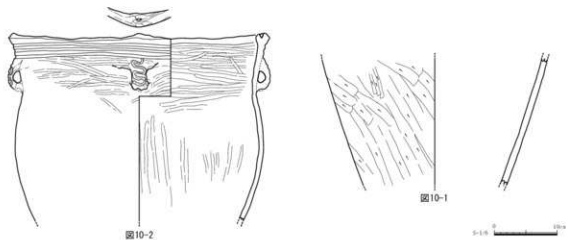
集石02 K・2 Grid上で検出した遺構である。V層掘削時に集石01と同様に検出した遺構で長軸約80cm、短軸約40cmに集中し、約20個の礫からなる。集石01と同じく掘り方はなかったため、土層断面はV層のままであり、礫の重なりはほとんどなかった。

(2) 縄文時代後・晩期

調査区北側の集石01・02の西側から土器集中01・02を検出。IV層掘削時に遺構は検出できず、V層を少しずつ掘り下げることで、検出を試みたが遺構らしきものを検出することはできなかった。2か所の土器集中部はいずれも縄文時代後・晩期の土器であり、掘り方や明瞭な印跡等も検出することはできず、しっかりした1個体の土器が見つれた場所を土器集中として図化したものである。



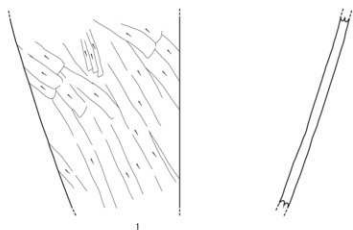
第8図1区土器集中01・02平面図断面図



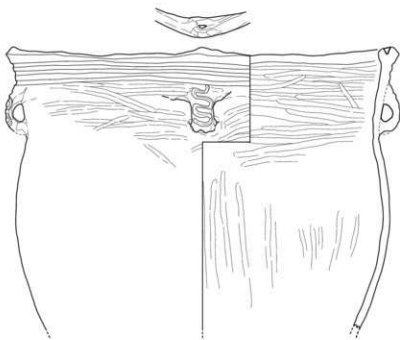
第9図1区土器集中01・02出土物実測図(1)

土器集中01 J・K・1・2 G rid 周辺に礫や縄文後期の土器が多いことから、何らかの遺構の可能性を考え、少しずつの掘削と精査を繰り返しながら検出を試みたが遺構は検出できなかった。

土器集中02 J・K・1・2 G rid 周辺に1個体の土器が見つれたように検出された。縄文後期の土器にあたる。土器集中01と同じく掘り方はなく、土器片が垂直に刺さっておりこの層位で使用されたことを表していた。



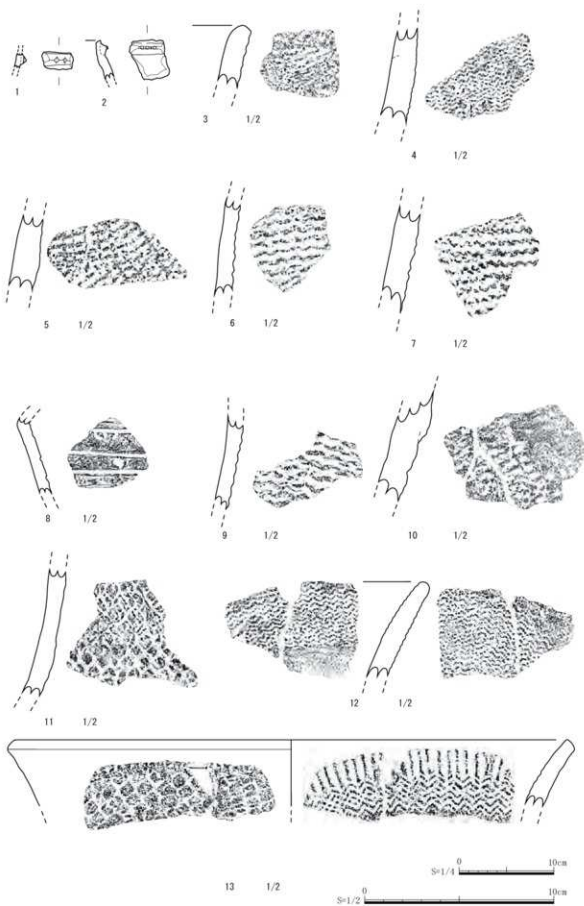
1



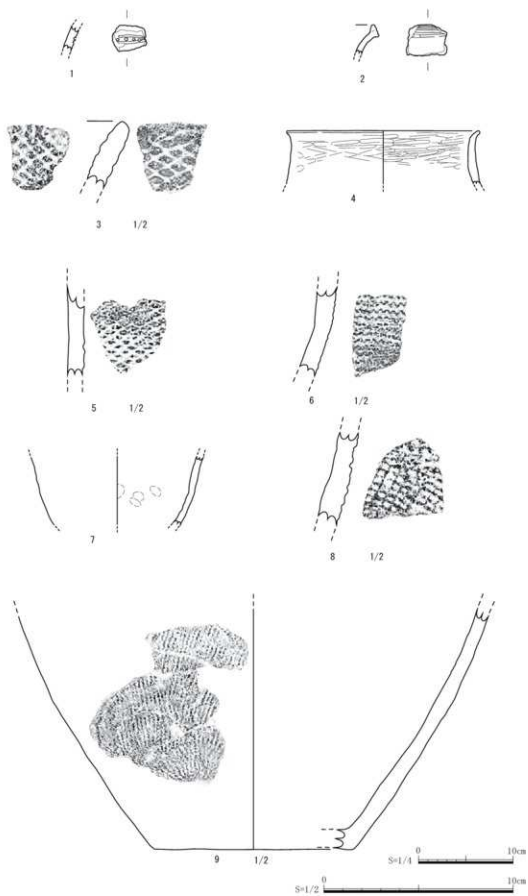
2

S=1/4 0 10cm

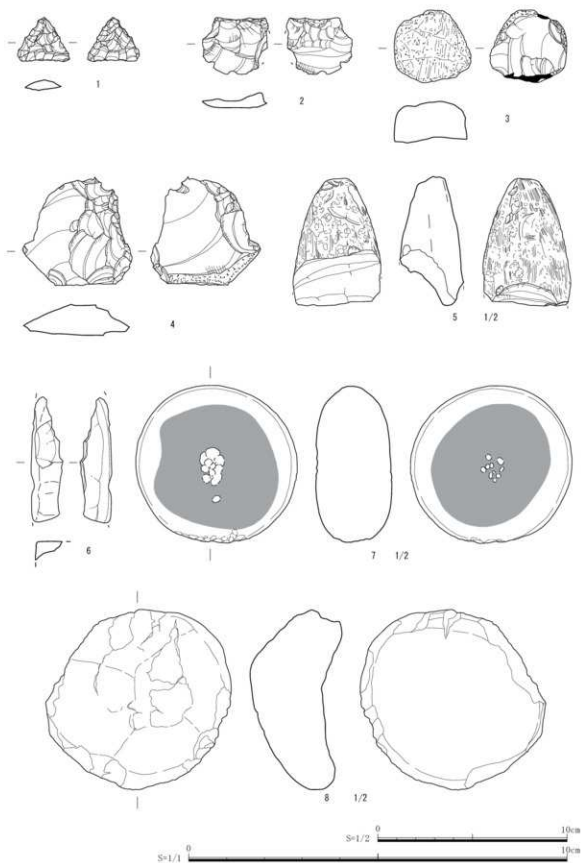
第10图1区土器集中01·02出土物实测图(2)



第 1 1 圖 1 区 V 層出土遺物實測圖



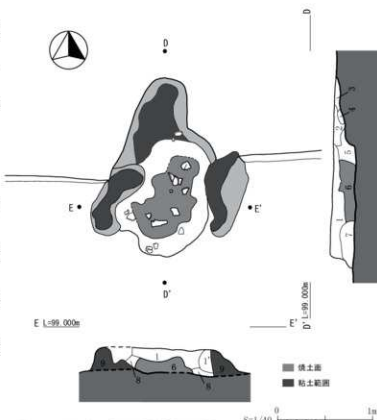
第 1 2 圖 1 區 IV 層出土遺物實測圖



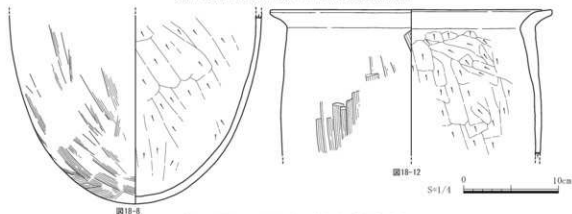
第13圖1区出土遺物実測圖(1)

S101カマド埋土

- 1 Hue10YR3/4 暗褐色 締りは強い 粘性は
ない 1~5mmの焼土粒子、1mmの炭化物を含
む 白色粘土を含む カマドの天井跡
- 1' Hue7.5YR4/4 褐色 締りは強い 粘性は
あまりない 1~5mmの焼土粒子を多量に含
む 1mmの炭化物を含む 白色粘土を含む
- 2 Hue7.5YR4/3 褐色 締りは強い 粘性は
あまりない 1~10mmの焼土粒子を多量に含
む 白色粘土を含む 煙道部
- 3 Hue10YR3/4 暗褐色 締りは強い 粘性は
あまりない 1~5mmの焼土粒を含む 白色
粘土を含む
- 4 Hue10YR4/4 暗褐色 締りは強い 粘性は
あまりない 1~5mmの焼土粒を含む 白
色粘土を含む カマドのソデ
- 5 Hue7.5YR3/2 黒褐色 締りはやや強い
粘性はあまりない 1~5mmの焼土粒子を含
む 白色粘土を微量に含む 少しボソボソ
している
- 6 Hue7.5YR3/4 暗褐色 締りは強い 粘性
はあまりない 1~10mmの焼土粒子を多量に
含む 1mmの炭化物を含む 白色粘土を含む
燃焼部直上
- 7 Hue7.5YR3/2 黒褐色 締りはやや強い
粘性はあまりない 1~5mmの焼土粒子を含
む 少しボソボソしている 5層に類似して
いる
- 8 Hue7.5YR3/2 黒褐色 締りはやや強い
粘性はあまりない 1~5mmの焼土粒子を含
む 少しボソボソしている 5層に類似して
いる
- 9 カマドのソデ部分



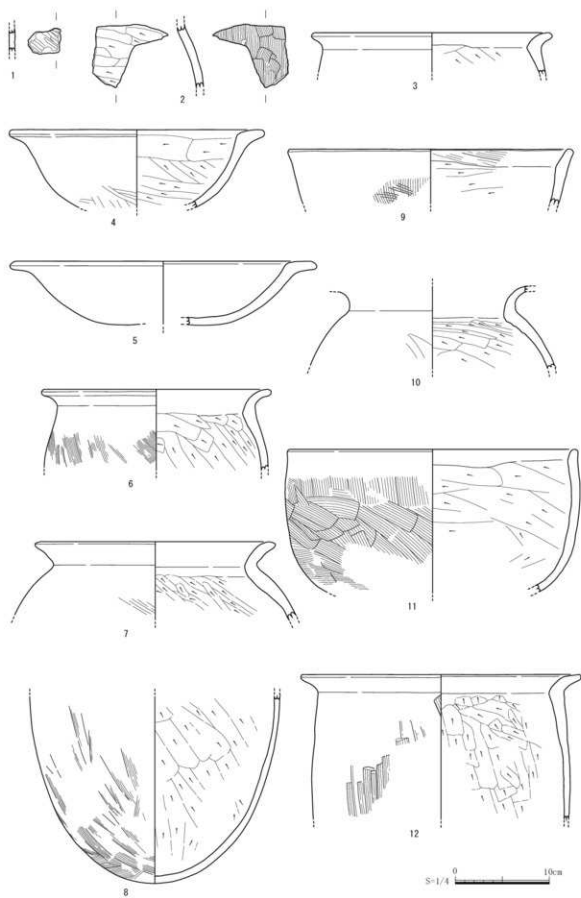
第16図1区S101カマド平面図土層断面図



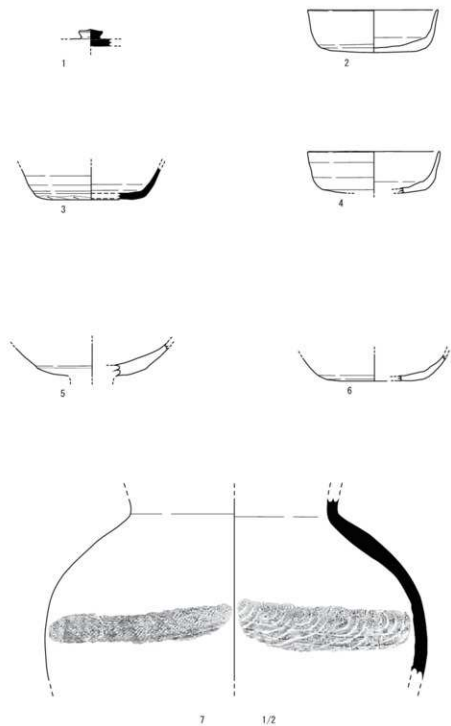
第17図1区S101カマド出土遺物実測図

古代（竪穴住居跡）

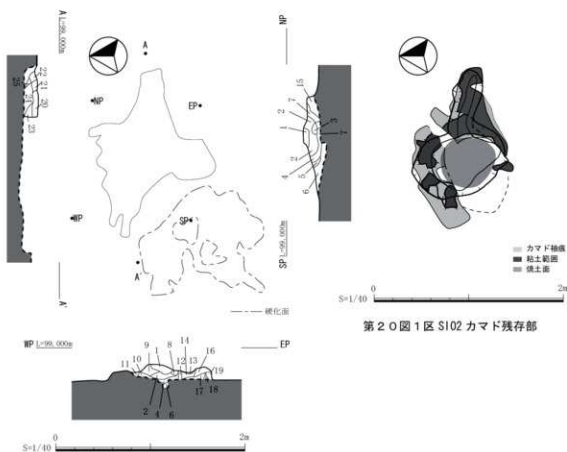
S101 B-17 G rid上に位置する遺構で調査区の南端から検出された。この遺構の西側は調査区外になるが南北軸が約4.0m、東西軸が約4.50mを測り、基本軸がN-20°-Eである。カマドを有しており、検出面から約10cm掘り下げたところに厚さ約10cmの硬化面を確認した。また、P1~P4の4つの支柱穴も検出できた。P1は約54cm、P2は約56cm、P3は約46cm、P4は約41cmを測る。4本の支柱穴はすべて内側に掘り方が広がるため、廃棄の際に内側に支柱穴を倒した可能性が高い。カマドの粘土はソデとしてしっかり残っているものの、遺構内の西側に別の粘土の固まりがあった。この粘土の固まりは、南北約65cm、東西約55cm、高さ約19cmの白色粘土であり、1mm~5mmの焼土粒と炭化物を含み、締りが強くカマドとして使われていた可能性が高い。また、この遺構の南側に焼土が広がっていることや、若干高い別の硬化面が狭い範囲ながら確認できたことから、もう1つ別の住居跡があった可能性が高い。ただし、調査区の土層断面でも切り合い関係ははっきりしなかった。遺構内の粘土の固まりは形が不明瞭でやや焼土を含んでいるため、建て替えの時に破棄したカマドの可能性が高いと推測できる。



第18图 1区 S101出土物实测图(2)



第19圖1区S101出土遺物実測圖(3)

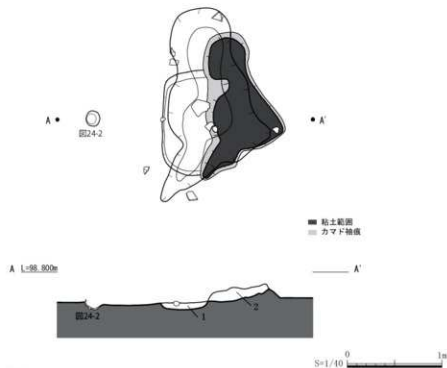


第20図1区 S102 カマダ残存部

S102カマダ埋土

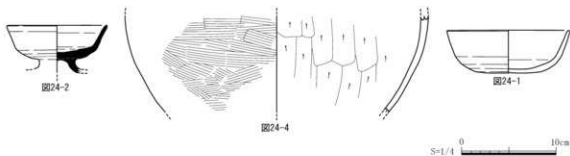
1 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まり強い	粘性弱い	焼土を多く含む(上部に粘土が貼り付く感じ)
2 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まり弱い	粘性やや強い	粘土多め 焼土(2cm)少量 焼土粒子(0.5~2mm)をやや多く含む
3 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まり弱い	粘性やや強い	4cm程の粘土 周りに焼土有(1cm)
4 Hue7.5YR3/2	黒褐色	締まり弱い	粘性弱い	焼土(1cm程)と粘土粒を少量 焼土粒子(0.5以下~1mm)多めに含む
5 Hue7.5YR3/2	黒褐色	締まりやや強い	粘性弱い	焼土粒子(0.5mm以下)をやや多めに含む
6 Hue7.5YR3/2	黒褐色	(やや明るい)	締まりやや弱い	粘性弱い 焼土粒子(0.5mm以下)少量含む 基本層序IV層に近い
7 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	焼土粒子を多く含む
8 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性弱い	粘土少量混じる
9 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まり弱い	粘性やや強い	粘土・焼土を多く含む ソ子の可能性有
10 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まり弱い	粘性やや強い	8cm程の粘土
11 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まりやや強い	粘性弱い	焼土粒子をやや多めに含む
12 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まり弱い	粘性やや強い	粘土少量混じる
13 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まり弱い	粘性やや強い	粘土多く混じる
14 Hue7.5YR3/2	黒褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	焼土粒子(5mm~0.5mm以下)炭を含む
15 Hue7.5YR3/3	黒褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	粘土多く混じる(ほぼ粘土)
16 Hue7.5YR3/2	黒褐色	締まり弱い	粘性弱い	埋土6~8(6より)程度の焼土層 惣焼部の可能性有
17 Hue10YR2/2	黒褐色	締まり弱い	粘性弱い	焼土粒子(0.5mm~2mm)粘土少量含む
18 Hue7.5YR3/2	黒褐色	締まり強い	粘性弱い	少量の粘土粒子を含む
19 Hue7.5YR3/2	暗褐色	締まり強い	粘性やや弱い	カマダ粘土 暗褐色土が混じった土
20 Hue10YR3/2	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	焼土ブロック(2.5cm)を含む 炭少量含む カマダ粘土混じる
21 Hue10YR3/2	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	粘土多く混じる
22 Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	焼土(0.5~1cm)混じる 粘土・炭化物少量含む
23 Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	焼土(0.5~2cm)、炭化物(1cm程)混じる
24 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	粘土少量含む
25 Hue7.5YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	粘土少量含む

第21図1区 S102 カマダ硬化面検出状況土層断面図



- S103カマド埋土
- 1 Hue10YR2/3 黒褐色 締まりは強く粘性あり 1mmの焼土粒子、1~5mmの炭化物をやや多く含む。
 - 2 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりは強く粘性あり 1~2mmの焼土粒子をやや多く含む。
白色粘土がブロック状に入り、粘土の量が少ないように思われる。

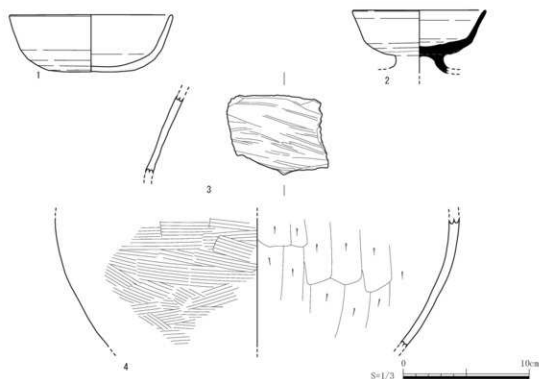
第22図1区S103カマド平面図土層断面図



第23図1区S103カマド出土遺物実測図

S102 C-14G rid内に位置する遺構で、包含層掘削の際に粘土を確認し検出時に硬化面を確認した。この遺構の全体の形状がわからないため、サブトレンチを入れた。この遺構の土層とともに硬化面の広がりを確認することはできなかった。カマドのソデは形もはっきりしていないが、カマドとして使われていた焼土が一部残存しており、ソデの下に焼土や埋土が入りこんでいるため壊れた可能性が高いと推測される。

S103 D-12G rid上に位置する遺構である。包含層掘削時に白色粘土のブロック状の固まりを検出した。白色粘土周辺には焼土粒子が確認でき、カマド本体であると考えられる。S102と同じ平面での遺構の形状はわからなかった。この遺構周辺はV層であり、土師器や須恵器の破片が出土していることからV層検出遺構であると判断した。すぐ近くに須恵器(図24-2)が出土しており、脚が短く椀の下部が丸くなっていることから7世紀後半から8世紀初めにかけて使われていた高坏である可能性が高い。



第24図1区S103出土遺物実測図

土坑

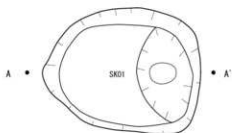
I区ではSK01～SK06の土坑を検出した。土坑を時代別に分類しなければならないところではあるが、土坑内に遺物の混入がほとんど見られなかったため時代の確定までは至っていない。しかしながら調査時の検出した層位で古代以前の土坑であると言える。IV層検出土坑はSK01、V層検出土坑はSK02・05・06、VI層検出土坑はSK04、VII層検出土坑はSK03である。SK05・06に限っては近・現代遺構の堀畑01によって壊されているため、堀畑01の土層断面図とともに土層断面のみ記している。

SK01 C-12 Grid上に位置する遺構である。長軸約80cm、短軸約65cmの楕円形であり、テラスのように浅い部分は約15cm、深くなっている所で約30cm以上を測る。焼土坑でありブロック化した炭化材が残る。検出時において焼土粒や炭化材が周囲に広がる。IV層検出遺構である。

SK02 D-8 Grid上位置する遺構である。東側に堀畑01があり、西側は調査区外にあたる。土坑の約半分が調査区西壁で検出できていないため全体の形状は測りかねるが、長軸約60cm、短軸約24cm深さ約25cm以上を測る。土坑01と同じ楕円形と推測される。炭化物や焼土粒子を含むことから焼土坑である。

SK03 B-16 Grid上に位置する遺構である。長軸約120cm、短軸約100cm、深さ約30cm以上を測る。深い皿状の形をしている。検出時に黄色味がかった色調でこれまでの土坑とは異なっていたため、縄文時代の落とし穴を想定しながら掘削したが逆茂木などの跡は検出されなかった。埋土にはVI層・VII層の土とIV層が逆転して含まれることから、人為的に埋めた土坑であると言える。

SK04 D-13 Grid上に位置する遺構である。長軸が約150cm、短軸が約115cm、深さが約50cm以上を測る。検出時から大きな土坑として確認しておりSK03同様に縄文時代の土坑を想定していたが、逆茂木などは検出されなかった。全体的に橙色の色調である。



A L=98.800m

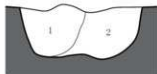


SK01埋土

- 1 Hue7. 5YR2/2 黒褐色 締まりはやや弱い 粘性はやや強い 1mmの焼土粒子や1~5mmの炭化物を多く含む 1cm大の炭化材を含む
- 2 Hue10YR2/3 黒褐色 締まりはやや弱い 粘性はやや強い 1mm~5mmの焼土粒子や1~5mmの炭化物を含む 1層に比べ焼土粒子を多く含む
- 3 Hue10YR2/3 黒褐色 締まりはやや弱い 粘性はやや強い 1mm焼土粒子や炭化物を含む



A L=98.800m



SK02埋土

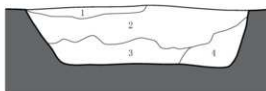
- 1 Hue7. 5YR3/3 暗褐色 締まりやや弱い 粘性やや弱い 0.1mm程度の焼土粒子や炭化物を少量含む
- 2 Hue7. 5YR3/3 暗褐色 (Hue10YR 3/3の暗くらい) 締まりやや弱い 粘性やや弱い (Iよりやや強い) 0.1mm程度の焼土粒子や炭化物を少量含む

第25図1区 SK01・SK02 平面図土層断面図



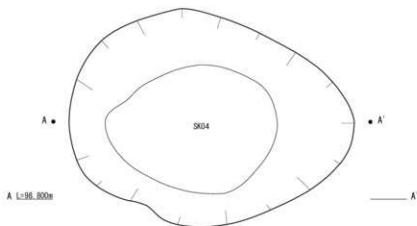
A L:98.800m

— A'



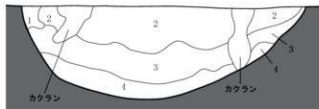
SK03埋土

- | | | | | | |
|---|------------|-----|-------|------|---|
| 1 | Hue10YR3/4 | 暗褐色 | 締まりあり | 粘性あり | IV層を主体とする (K-Ahが多い) オレンジ～黄色がかかる |
| 2 | Hue10YR3/4 | 暗褐色 | 締まりあり | 粘性あり | IV層を主体とするが、1層に比べVI～VII層のニガブロックを多く含む。1mmの炭化物を少量含む。 |
| 3 | Hue10YR3/3 | 暗褐色 | 締まりあり | 粘性あり | IV層を主体とするが1～2層に比べ、全体的に暗い |
| 4 | Hue10YR2/3 | 黒褐色 | 締まりあり | 粘性あり | VI～VII層を主体とする |



A L:98.800m

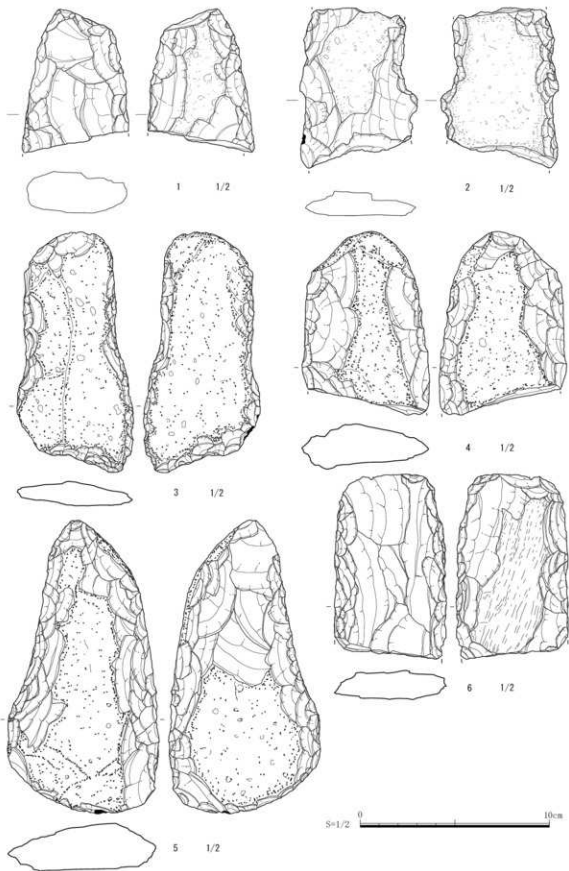
— A'



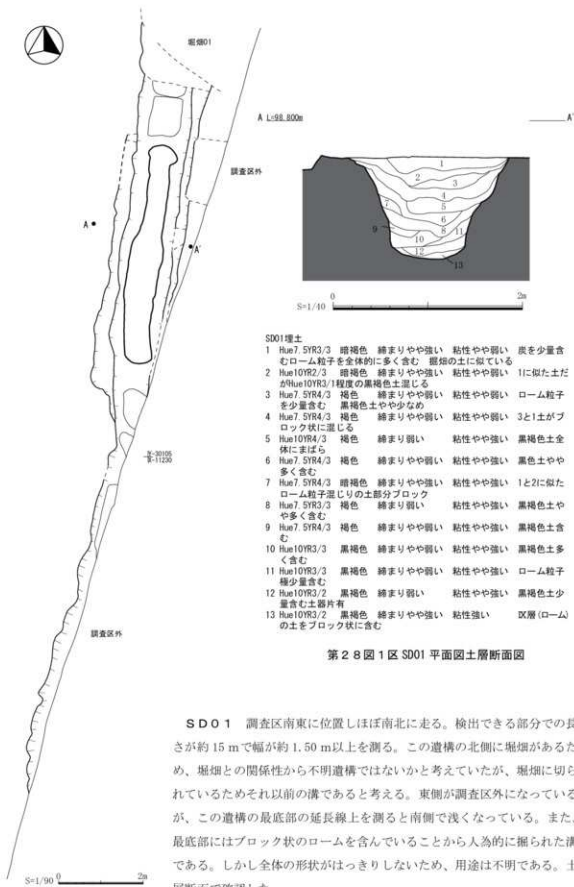
SK04埋土

- | | | | | | |
|---|-------------|------|-------------|---------|-------------------------------------|
| 1 | Hue7.5YR2/3 | 極暗褐色 | 締まりはややあり | 粘性はややあり | IV層主体K-Ahを含む |
| 2 | Hue10YR3/4 | 暗褐色 | 締まりあり | 粘性はややあり | 1層に比べIV層主体K-Ahを多く含むせいか全体的に橙～黄色みがかかる |
| 3 | Hue10YR3/4 | 暗褐色 | 2層に比べ締まりが強い | 粘性も強い | IV層主体 |
| 4 | Hue10YR2/3 | 黒褐色 | 締まりあり | 粘性あり | IV～VII層主体1～3層に比べ全体的に暗い |

第26図1区 SK03・SK04 平面図土層断面図



第 2 7 圖 1 区出土遺物実測圖 (2)



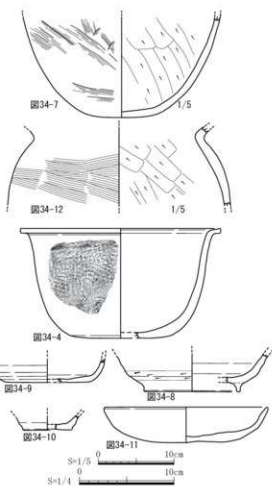
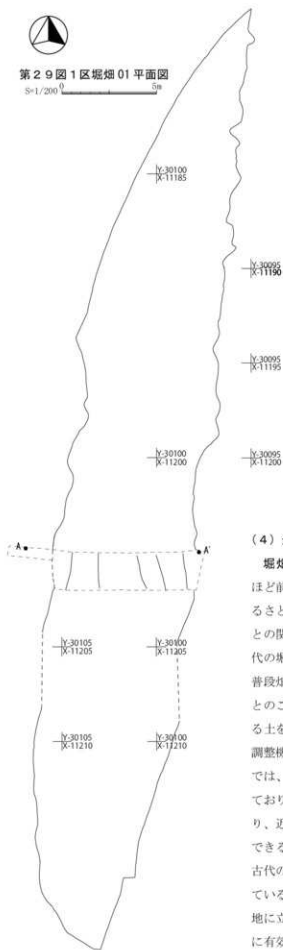
第28図 1区SD01平面図土層断面図

SD01 調査区南東に位置しほぼ南北に走る。検出できる部分での長さが約15mで幅が約1.50m以上を測る。この遺構の北側に堀畑があるため、堀畑との関係性から不明遺構ではないかと考えていたが、堀畑に切られているためそれ以前の溝であると考え。東側が調査区外になっているが、この遺構の最底部の延長線上を測ると南側で浅くなっている。また、最底部にはブロック状のロームを含んでいることから人為的に掘られた溝である。しかし全体の形状がはっきりしないため、用途は不明である。土層断面で確認した。



第29図 1区堀畑01平面図

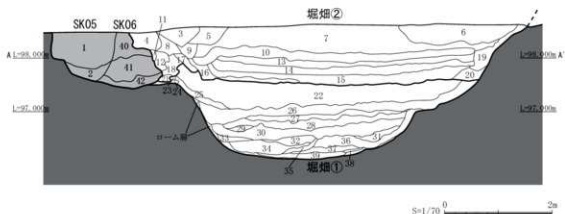
S=1/200 0 5m



第30図 1区堀畑01出土遺物実測図

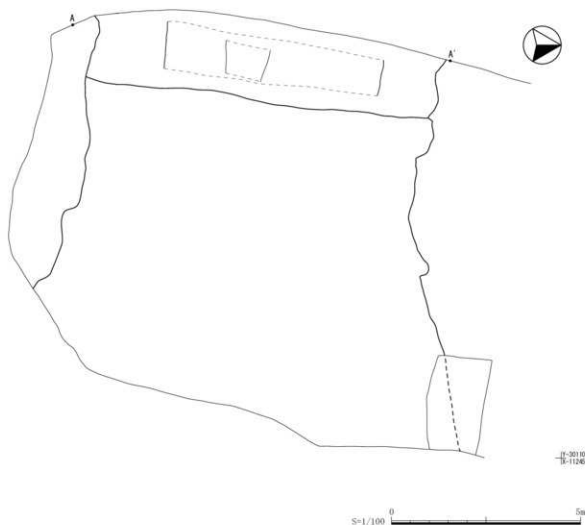
(4) 近・現代遺構

堀畑01 掘状にして底の部分畑として利用していた。40年ほど前の開田事業の際に埋めたものである。植木町教育委員会で「ふるさと農道」に伴う発掘調査の際、今古閑久保遺跡で調査し轟城跡との関係が推定されている。本遺跡も近隣に鞍掛山城跡があり、前代の堀を踏襲した可能性が考えられる。調査区の近所の方話では普段畑として利用し、状況によっては調整池の役目も果たしていたとのことである。また、冬になると底にたまった落ち葉等が含まれる土を畑にあげて、肥料の含まれる土として使用していた。雨水の調整機能と良土を得る大切な場所であったようである。ラスギ遺跡では、平成17年に第7次確認調査の際、近世以降の堀畑を確認しており、埋土が褐色土で他の土と混じり合った締まりのない土であり、近世以降の畑作に伴う遺構であると確認している。ここで確認できる堀畑も下層にあるはずのロームが上層に上がってきていて、古代の出土遺物と縄文時代の出土遺物が混在し、層的にも逆転していることから堀畑を埋めたものと判断した。また、本遺跡も丘陵地に立地しており、元地形の段差が見られることから、堀畑が畑作に有効利用されていたものと推測される。



3	Hue10YR2/1	黒色	締まりやや弱い	粘性弱い	ローム粒を全体に含み、炭化物(1cm~2cm)を少量含む
4	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性弱い	ローム粒少量含む
5	Hue10YR4/2	灰褐色	締まり弱い	粘性とても弱い	ローム粒、軽石片を含む
6	Hue10YR4/2	灰褐色	締まり弱い	粘性弱い	ローム粒やや多め、炭化物少量含む
7	Hue10YR4/3	褐色	締まりとても強い	粘性弱い	ローム粒、軽石片を全体に多く含む 炭化物(1cm~2cm)を含む
8	Hue10YR3/4	暗褐色	締まりやや弱い	粘性弱い	ローム粒全体を含む Hue10YR4/2色土混じる
9	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや強い	粘性弱い	ローム粒全体を含む 堆土粒、炭化物少量混じる
10	Hue10YR4/2	灰褐色	締まりやや強い	粘性やや弱い	ローム粒、炭化物、軽石片をやや多めに含む
11	Hue10YR3/3	暗褐色	締まり弱い	粘性強い	ローム粒少量含む
12	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ローム粒少量 Hue10YR4/2色の土をブロックで含む
13	Hue10YR4/2	灰黄褐色	締まり強い	粘性やや弱い	ローム粒、炭化物、軽石片多く含む ブロック状の土を含む
14	Hue10YR4/2	灰黄褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ローム粒、炭化物、軽石片、ブロック状の土を多く含む
15	Hue10YR4/2	灰黄褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒、炭化物、軽石片を含む
16	Hue10YR4/2	灰黄褐色	締まり強い	粘性やや弱い	ブロック層 ローム粒、炭含む
17	Hue10YR4/2	灰黄褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒全体を含む炭化物極少量含む
18	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒全体を含む Hue10YR4/2色土一部に混じる
19	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒少量含む
20	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや強い	粘性やや弱い	ローム粒含む
21	Hue10YR2/2	黒褐色	締まり強い	粘性やや強い	ローム粒少量含む こがしたような土を含む(層厚に似る)
22	Hue10YR4/2	灰黄褐色	締まりやや強い	粘性やや弱い	ローム粒多く含む
23	Hue10YR2/2	黒褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ローム粒を多く含む(ブロック)
24	Hue10YR2/2	黒褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ロームやや多く混じる こがしたような土を含む
25	Hue10YR4/2	灰黄褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ローム粒多く含む 炭化物、軽石片少量含む
26	Hue10YR4/2	灰黄褐色	締まりやや強い	粘性やや弱い	ローム粒多く含む 炭化物、軽石片少量含む
27	Hue10YR3/4	暗褐色	締まり弱い	粘性強い	ローム粒多く含む Hue10YR3/1色土多く混じる
28	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒、炭化物を含むHue10YR3/1色土混じる
29	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや強い	粘性とても強い	ローム粒少量含む
30	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒や少量炭化物少量含む
31	Hue10YR4/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性	ローム粒やや多めに含む
32	Hue10YR3/3	にぶい黄褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒、ロームブロック(1cm~3cm)を多く含む
33	Hue10YR4/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性とても強い	ローム粒少量含む
34	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒の混じりとても多いHue10YR3/1色土多く混じる
35	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ロームの混じり多い
36	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ロームの混じりとても多いロームブロック(1cm~4cm)やや含む
37	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ロームの混じりやや多いHue10YR3/1色土少量混じる 軽石片少量含む
38	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性弱い	ローム粒含む
39	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ロームの混じり多い Hue10YR3/1色土多く含む
SK05-1	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや強い	粘性やや弱い	ローム粒(1mm以下)、焼土粒、炭化物を全体に含む
SK05-2	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ローム粒(1mm以下)、焼土粒、炭化物を全体に含む
SK05-10	Hue10YR3/3	暗褐色	締まり強い	粘性やや弱い	ローム粒(1mm以下)、焼土粒、炭化物を全体に含む 1土に似た土やや10の方でローム粒が多く締まりが強い
SK06-11	Hue10YR3/2	黒褐色	締まり弱い	粘性強い	ローム粒(1mm以下)、ロームブロック(1cm~2cm)、堆土粒、炭化物を含む
SK06-12	Hue10YR3/3	暗褐色	締まり弱い	粘性強い	ローム粒(1mm~1cm以下)をとても多く含む焼土粒、炭化物とても少ない

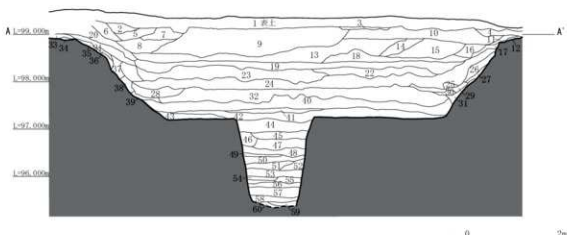
第31図 1区堀切01・SK05・SK06土層断面図



第32図 1区堀畑02 検出状況平面図

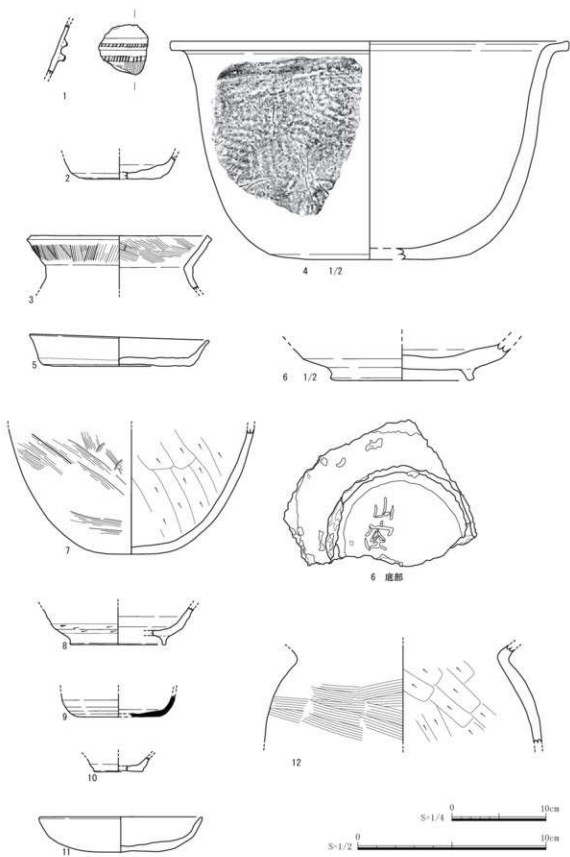
堀畑02 堀畑02は1区調査区の拡張に伴い検出した遺構である。畑地の区画を分ける農道であったところで、表土除去時、すぐにローム粒子を含んだ非常に締まりの強い暗褐色土層が出てきたことから、通常の基本土層との違いを確認した。基本土層が見られた北側と南側に堀畑の立ち上がりを確認し、その立ち上りを目安に層位を下げていった。堀畑01同様に完掘せず長さ約6m・幅約1.2mのトレンチを入れることで、堀畑の土層を確認した。トレンチ自体もかなりの深さになることがわかり、中心だけを深掘りする形の二段掘りを行った。完全な底部まで掘りあがるまでには至っていないが、最下層に基本土層のⅢ層の黒褐色土層が混じり、地山のロームも見えてきたところで調査を止めている。おそらく、この堀畑を埋める際にⅢ層の土が底部に先に入り込んだ跡であろうと考える。また、この堀畑のすぐ北側にはS101の続きが残存しており、その埋土の一部が堀畑の土層にも入り込んでいる。土層内に焼土粒子や炭化物等の入り込んだ層が中層まで見られ、黒褐色土層や暗褐色土層が底部にまで見られることは、埋める際に周辺の遺構にかなりの影響を与えていたことがうかがえる。

堀畑01とは方向軸がかなり違って、東西に流れていることがわかる。しかも完掘までは至らなかったが、西側がかなり深くなっている点で、もともとこの場所は、西側に傾斜していた小さな谷状の地形であったと推測される。堀畑01が調査区外になっているため堀畑02との関係は分からないが、垂直に交わっている可能性も考えられる。

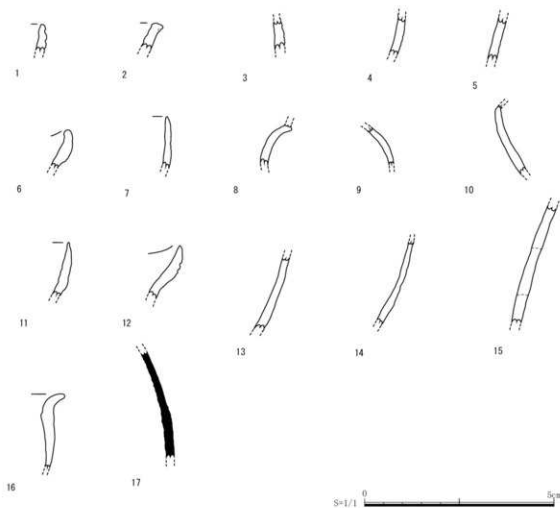


1	表土				
2	Hue10YR3/4	暗褐色	締まり非常に強い	粘性やや弱い	ローム粒子を非常に多く含む 鉄分を含む
3	Hue10YR3/2	黒褐色	締まり強い	粘性弱い	ローム粒子を多く含む
4	Hue10YR3/2	黒褐色	締まり強い	粘性弱い	ローム粒子を非常に多く含む
5	Hue10YR3/3	暗褐色	締まり非常に強い	粘性やや弱い	ローム粒子を非常に多く含む 黒褐色土混じる
6	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり非常に強い	粘性やや弱い	ローム粒子と鉄分を非常に多く含む 炭化物を少量含む
7	Hue10YR3/3	暗褐色	締まり非常に強い	粘性やや弱い	ローム粒子を多く含む 焼土粒子和炭化物を少量含む
8	Hue10YR3/3	暗褐色	締まり強い	粘性やや弱い	ローム粒子を非常に多く含む 炭化物を少量含む
9	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ローム粒子を多く含む 焼土粒子和炭化物を含む
10	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり非常に強い	粘性やや強い	ローム粒子を多く含む 軽石片混じる
11	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり強い	粘性やや弱い	ローム粒子を多く含む 焼土粒子、炭化物を含む
12	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ローム粒子を多く含む 炭化物を少量含む、黒褐色土を少量含む
13	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや強い	粘性弱い	部分的にブロック状にローム粒子、炭化物を含む
14	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒子、焼土粒子、炭化物を含む
15	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり弱い	粘性強い	ローム粒子、焼土粒子、炭化物を含む(少なめ)
16	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり強い	粘性やや強い	ローム粒子、焼土粒子、炭化物、軽石片を含む
17	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり強い	粘性やや強い	ローム粒子やや少量、黒褐色土少量含む
18	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり強い	粘性やや弱い	ローム粒子、焼土粒子、炭化物を含む
19	Hue10YR3/2	黒褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子やや少量 焼土粒子、炭化物、軽石片を含む
20	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子やや多く含む 炭化物少量含む
21	Hue10YR3/2	黒褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒子、黒褐色土を含む
22	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ローム粒子、焼土粒子、炭化物はやや少なめ、軽石片多く含む
23	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり強い	粘性やや強い	ローム粒子、焼土粒子、炭化物、軽石片を含む
24	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり強い	粘性やや強い	ローム粒子、焼土、炭化物を含む
25	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒子、炭化物少量含む 黒褐色土混じる
26	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒子、炭化物少量含む 黒褐色土混じる
27	Hue10YR3/1	黒褐色	締まり弱い	粘性強い	
28	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり非常に強い	粘性やや強い	ローム粒子、焼土粒子、炭化物、軽石片を含む
29	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり強い	粘性強い	ローム粒子、焼土粒子、炭化物を少量含む
30	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり弱い	粘性非常に強い	
31	Hue10YR3/2	黒褐色	締まり非常に弱い	粘性非常に強い	ロームブロック
32	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子、焼土粒子、炭化物、軽石片少量含む
33	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ローム粒子、少量の炭化物を含む
34	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ローム粒子非常に少ない
35	Hue10YR3/2	黒褐色	締まりやや強い	粘性強い	
36	Hue10YR3/2	黒褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子を少量含む
37	Hue10YR3/2	黒褐色	締まり弱い	粘性強い	ローム粒子を含む
38	Hue10YR3/2	黒褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒子、焼土粒子、炭化物、軽石片を含む
39	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり強い	粘性強い	ローム粒子少量 炭化物を含む
40	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり強い	粘性やや強い	ローム粒子、焼土粒子、炭化物、軽石片を含む
41	Hue10YR4/3	にぶい黄褐色	締まり強い	粘性やや弱い	ローム粒子がやや少量混じる
42	Hue10YR3/2	黒褐色	締まり強い	粘性やや強い	ローム粒子を多く含む
43	Hue10YR3/2	黒褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ローム粒子を非常に多く含む
44	Hue10YR3/2	黒褐色	締まり弱い	粘性強い	III層の土に似る
45	Hue10YR3/4	暗褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子非常に多い ロームブロック (0.5~3cm) 含む
46	Hue10YR3/4	暗褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子を非常に多く含む
47	Hue10YR3/4	暗褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒子を非常に多く含む 炭少量含む
48	Hue10YR3/4	暗褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒子を多く含む 黒褐色土を含む
49	Hue10YR3/4	暗褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子を多く含む
50	Hue10YR3/4	暗褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子を非常に多く含む
51	Hue10YR3/4	暗褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒子を非常に多く含む
52	Hue10YR3/4	暗褐色	締まり弱い	粘性強い	ローム粒子 非常に多い
53	Hue10YR3/4	暗褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒子 非常に多い ロームブロック (1.5~5cm) 含む
54	Hue10YR3/2	黒褐色	締まり弱い	粘性非常に強い	ローム粒子を多く含む
55	Hue10YR3/4	暗褐色	締まり弱い	粘性非常に強い	ローム粒子を非常に多く含む
56	Hue10YR3/2	黒褐色	締まり弱い	粘性非常に強い	ローム粒子を少量含む
57	Hue10YR3/4	暗褐色	締まり弱い	粘性非常に強い	ローム粒子を非常に多く含む
58	Hue10YR3/4	暗褐色	締まり弱い	粘性非常に強い	ローム粒子を多く含む
59	Hue10YR3/1	黒褐色	締まり弱い	粘性非常に強い	ローム粒子を少量含む
60	Hue7.5YR5/4	にぶい褐色	締まり弱い	粘性強い	地山のロームが崩れ堆積したような土 黒褐色土混じる

第33図 1区堀畑 02土層断面図



第34圖1区出土遺物実測圖(3)

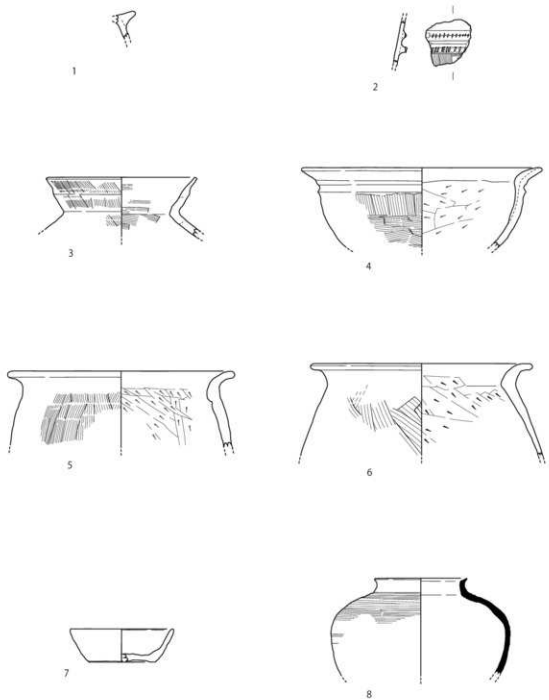


第35図 1区出土遺物実測図(4)

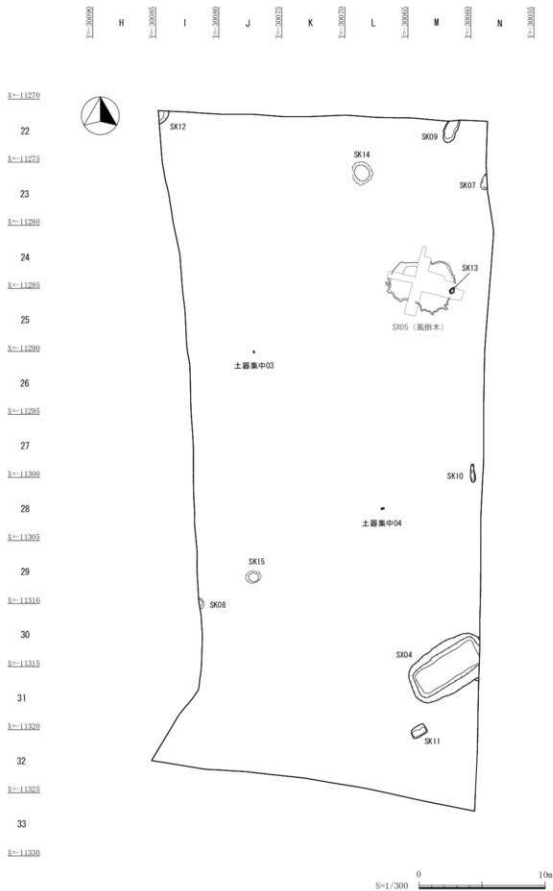
(5) 遺物包含層

1区は工事用道路の建設のため、南北に細長い調査区となっている。中央を南北に走る近現代遺構の堀畑01によって北側・南側というように簡易的に調査区をわけて調査を行った。遺構の検出状況にもよるが、北側に縄文土器の出土が多い。北側に向かって緩やかな傾斜があり、包含層も北側が厚く堆積していたことによる。基本土層のⅢ層～Ⅴ層より縄文土器が検出されているが、Ⅲ層からの縄文土器は入り込み過ぎず、Ⅳ層・Ⅴ層の土器を中心に縄文時代の生活を表すものと考えている。特にⅤ層から検出された縄文土器には山形や楕円形をした押型文が数点見つかっており、縄文早期の可能性が高いと言える。ただし、破片が多いため編年を考察するまでの資料としては乏しい。土器集中から出土した(図10-2)土器は、縄文後期の北久根山式の特徴を持っている。口縁部には3本の凹線文があり、4箇所W字状などの粘土紐が貼り付けられている。その下にはリング状の把手がつけられている。底部は残っていないが、復元口径は約41.6cmを測る大型の深鉢である。弥生土器も数点出土しているが、口縁部や底部など特徴を確認することができるものは少なく遺構も検出されなかった。

古代遺構から出土した遺物に関しては、流れ込みの可能性も考えられるが、土器の内外面に赤色顔料を塗彩してある土師器が多い。須恵器や陶磁器、瓦器質土器は土師器に比べると少ない。



第36圖1区出土遺物実測圖(5)



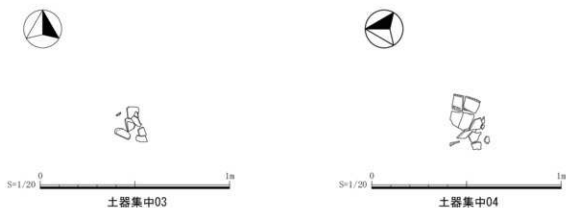
第37圖南畑遺跡2区遺構配置圖

2. 2 区

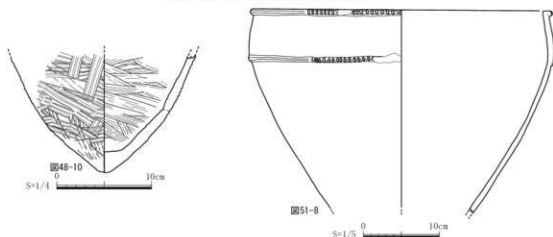
(1) 縄文時代～

調査区1区は約1,100㎡、2区は約1,400㎡である。1区は工事用道路部分として植木バイパスの本線工事に使用するための調査であり、2区は植木バイパス本線工事用道路である。

2区は植木バイパスの本線部分として調査を依頼され本調査に入る。南に鹿南中学校へと続く道路が約4m下を切りとおしのように走っているため、安全性を考えて道路に土が落ちないように調査区を設定した。2区は調査区南側で薄く、北側に厚く遺物包含層が堆積していた。土の堆積状況や遺物の出土状況から現在の地形とは異なり、本来は南東側が小高くなっており、北西側に向かって緩やかに傾斜している。出土遺物は土器片がほとんどであるが、一部に縄文時代早期の尖底土器が出土した。縄文時代後・晩期が多数を占め、弥生時代前期～中期の土器片も混在する。遺構がほとんど検出できなかつたため、1区のように時代ごとの記述をしないで遺構ごとの記述に留めている。



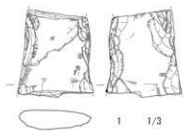
第38図2区土器集中03・04平面図



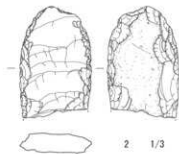
第39図2区土器集中03・04出土遺物実測図

土器集中03 J - 25 G rid に位置する。縄文時代後・晩期の土器片が多く出土している中であって、V層検出時に1個体が見つかったように出土した土器である。内外面に煤らしきものが付着しており、条痕もこれまでの土器とは変わっていたため実測図に記している。尖底の土器であり縄文時代早期にまでさかのぼる可能性が高い。しかし、周囲に遺構や掘り方は検出できず持ち込まれた可能性が高い。

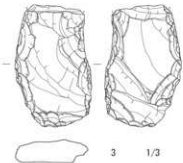
土器集中04 L - 28 G rid に位置する。破片が多い出土状況の中にIV層検出時に出土した1個体の土器である。弥生時代中期以降の土器で、包含層の中ではあるため土層断面までは図化していない。出土状況から見ても掘り方があり、土器を捨てた土坑ではないと判断している。



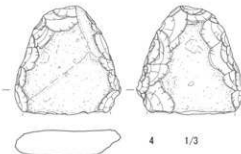
1 1/3



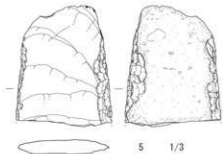
2 1/3



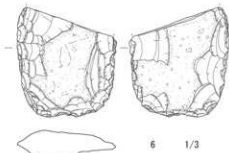
3 1/3



4 1/3



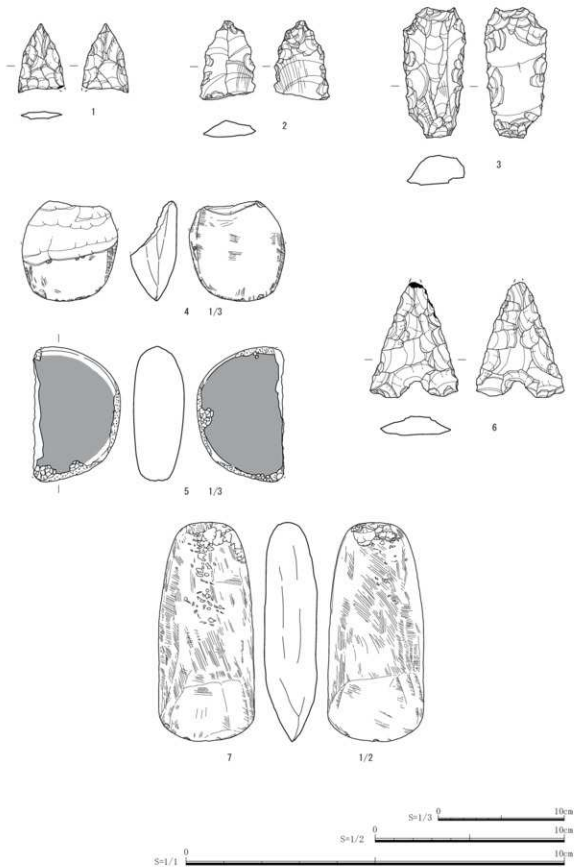
5 1/3



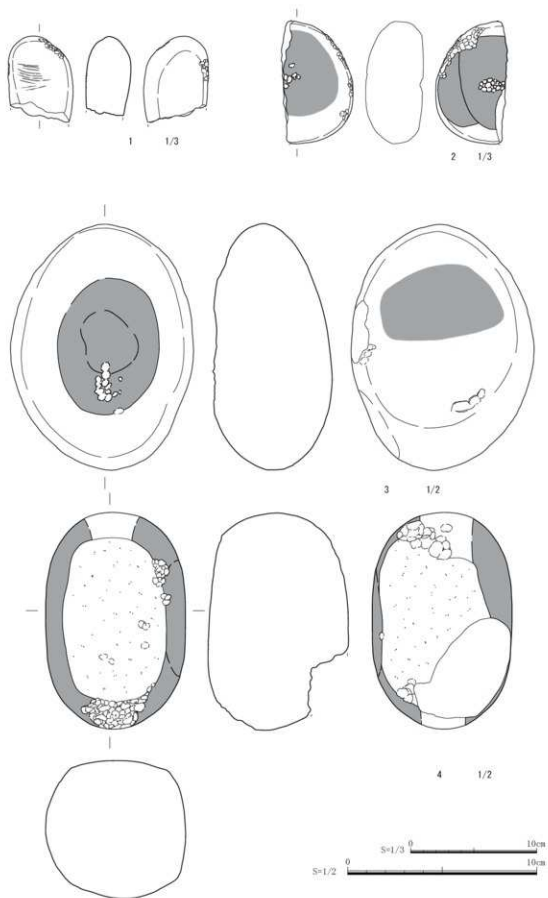
6 1/3

S=1/3 0 10cm

第40圖2区出土遺物実測圖(1)



第41圖2区出土遺物実測圖(2)



第4 2 图 2 区出土遗物实测图 (3)

土坑

2区では9基の土坑を検出した。ただし耕作時の削平等で包含層の残存が悪く、検出時にも住居跡や掘立柱建物跡を検出することはできなかった。概ね耕作による攪乱によって遺構が壊されたとも言えないところがある。基本層位のIV層(褐色土層)より下層はほとんど残っており、2~3cmの掘削・精査を繰り返しながらの調査でも確認することはできなかった。住居域ではなく、なんらか別の用途で使われていた地域かもしれない。したがって、ここではあえて土坑類を年代順・検出ごとに記述することをしていない。ちなみにVII層検出遺構はSK15、VI層検出遺構はSK14、IV層検出遺構はSK07・09・11・12・13である。

SK07 N・23G rid上に位置する遺構である。調査区北東部にあり、およそ半分が調査区外にあり全体の形状は不明瞭だが楕円形と推測できる。長軸・短軸は測定できないが、検出面からの深さが約25cmである。特に出土遺物は確認できなかったがIV層検出遺構である。

SK08 I・29・30G rid上に位置する遺構である。調査区南西部の壁際で検出した遺構で、約半分が調査区外になっている。長軸は約80cmで短軸はわからない。深さが約20cm以上を測る。V層掘削時に中層掘削した所で検出した土坑である。埋土にはやや炭化物を含み遺物の混入は見られなかった。

SK09 M・22G rid上に位置する遺構である。北側を調査区外に切られているが細長い土坑を確認する。長軸はわからないが短軸は約100cm、深さは約25cm以上を測る。埋土2層に焼土が集中していることから焼土坑である。

SK10 N・27G rid上に位置する遺構である。調査区東側に南北に細長く検出された土坑である。長軸は約145cm、短軸は約40cm、深さは約10~14cm以上を測る。掘り方が浅くIII層検出遺構であり、周辺の土質より焼土を多く含んでいて、平面ラインから検出できた土坑である。土器片の混入は見られなかった。

SK11 M・32G rid上に位置する遺構である。調査区南東部分にありSX04の南に位置する。長軸は約125cm、短軸は約40cmで深さは約20~25cm以上を測る。埋土は2層であり、炭化材が1層から検出された焼土坑である。遺物は確認されなかったが、VI層検出遺構として確認した。

SK12 I・22G rid上に位置する遺構である。調査区の北側で約半分が調査区外になっているが、形状は隅丸方形であると推測される。壁面の長軸は南北で約190cm、短軸は分らないが深さは検出面から約50cm以上を測る。遺物は検出されなかったが、土層から自然に堆積して埋まっていた土坑ではないかと推測される。

SK13 M・25G rid上に位置する遺構である。長軸は約50cm、短軸は約36cm、深さは約20cm以上を測る。検出時に周りより黒色が強く、炭化物をやや多く含んでいた。遺物の出土はなかったものの用途は不明であるが土坑と確認した。

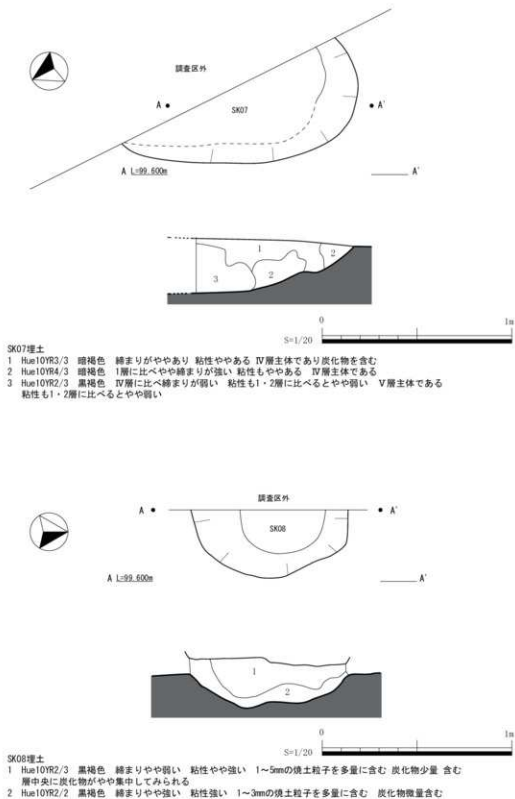
SK14 L・23G rid上に位置する遺構である。調査区北側に位置し、形態はほぼ円形を呈する。長軸は約170cm、短軸は約148cm、深さは56cmを測る大型の土坑である。長軸の方向軸はほぼ南北を基軸としている。VI層掘削時に検出した遺構で埋土からはローム粒子のブロックが入り、通称ニガ土が混入する。掘り方の立ち上がりが垂直に近く、これまでの土坑とは少し性質が違っている。

SK15 J・29G rid上に位置する遺構である。調査区南西部に位置し、VII層確認時に検出した遺構である。周りの土質とは違って、全体的にオレンジ色が強く掘り方も緩やかである。長軸は約122cm、短軸は約96cm、深さは約30cmを測る。長軸の方向軸はほぼ東西軸を基軸としている。形態は円形に近く、出土遺物は検出できなかった。

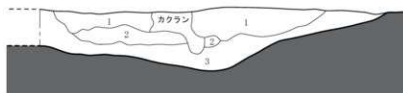
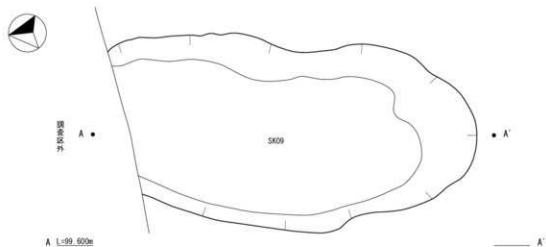
不明土坑

SX04 M・31・32G rid上に位置する遺構である。調査区の東側にあり、この遺構の東側一部が調査区外に切られている。長軸は推定で約7.0m、短軸は約4.0m、深さは約1.2mを測る。長軸の方向軸は北東を基軸としてN-55°Eである。形態は隅丸長方形であり、遺構内外にピットは確認できず、建物とはいえない。この遺

構の周囲は、耕作時の削平により包含層が消失しており、遺構がほとんど検出されなかった場所である。この遺構は、掘り方も深くIV層検出時から黒色土がはっきり見えた遺構であり、大型であったため平面プランも分かりやすかった。したがってIV層遺構として調査を始めたが用途は不明である。出土遺物もほとんど検出されなかった。

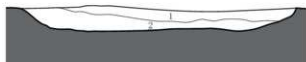
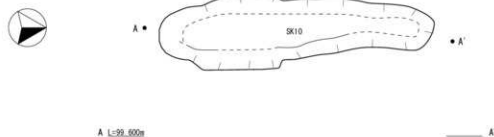


第4-3図 2区 SK07・SK08 平面図土層断面図



SK09埋土

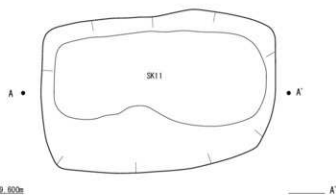
- 1 Hue10YR2/3 黒褐色 締まりはやや弱い 粘性はやや強い 1~3mmの焼土粒子を含む 炭化物を少量含む
 2 Hue7.5YR3/4 暗褐色 締まりはやや弱い 粘性はやや弱い 1~5mmの焼土粒子を多量に含む 炭化物を少量含む
 ※最も焼土粒子が密集する層である
 3 Hue10YR2/2 黒褐色 締まりはやや弱い 粘性はやや弱い 1~3mmの焼土粒子を少量含む



SK10埋土

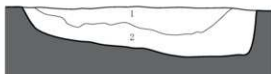
- 1 Hue10YR2/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性やや弱い 炭化物や焼土を多く含む
 2 Hue7.5YR3/3 暗褐色 締まりやや弱い 粘性やや強い 炭化物や焼土を多く含む

第44図2区 SK09・SK10 平面図土層断面図



A L=99.600m

— A'

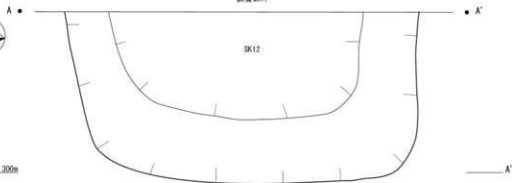


SK11埋土

- 1 Hue10YR2/2 黒褐色 締まりはやや強い 粘性はやや強い 1~5mmの焼土粒子を少量含む 炭化物を多量に含む
一部炭化材となるものあり 1層一括で取り上げ
- 2 Hue10YR2/2 黒褐色 締まりはやや強い 粘性はやや強い 1~3mmの焼土粒子を微量含む 炭化物を微量含む

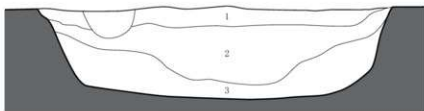


調査区外



A L=99.300m

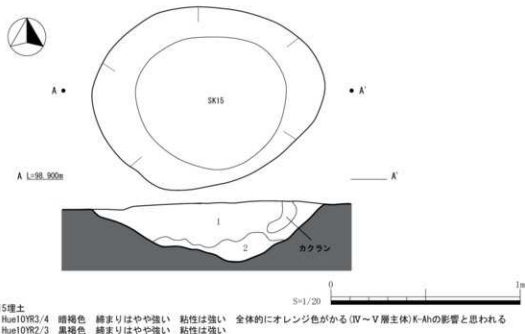
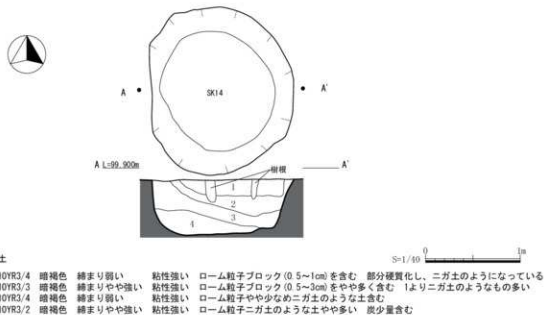
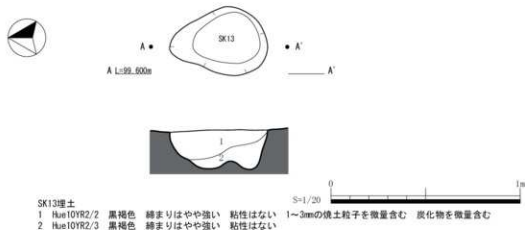
— A'



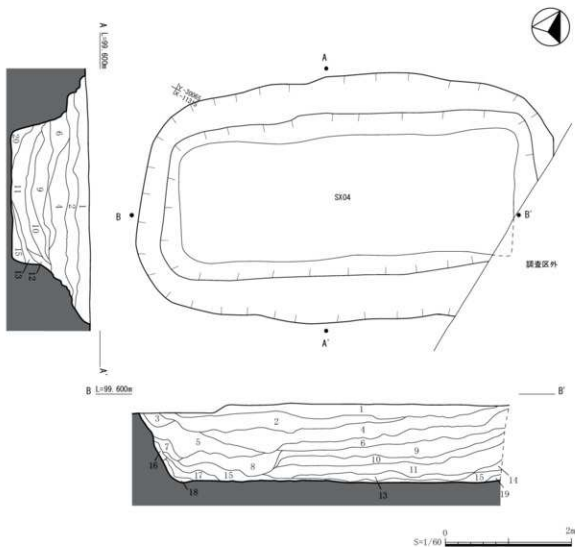
SK12埋土

- 1 Hue10YR2/3 黒褐色 きめ細かい土で皿層と似ている 1mm~2mmの焼土と炭化物を少し含む
- 2 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり強い 2~3mmの焼土と炭化物を多く含む
- 3 Hue10YR3/3 暗褐色 2より強く締まる 焼土と炭化物をわずかに含む

第45図2区 SK11・SK12平面図土層断面図

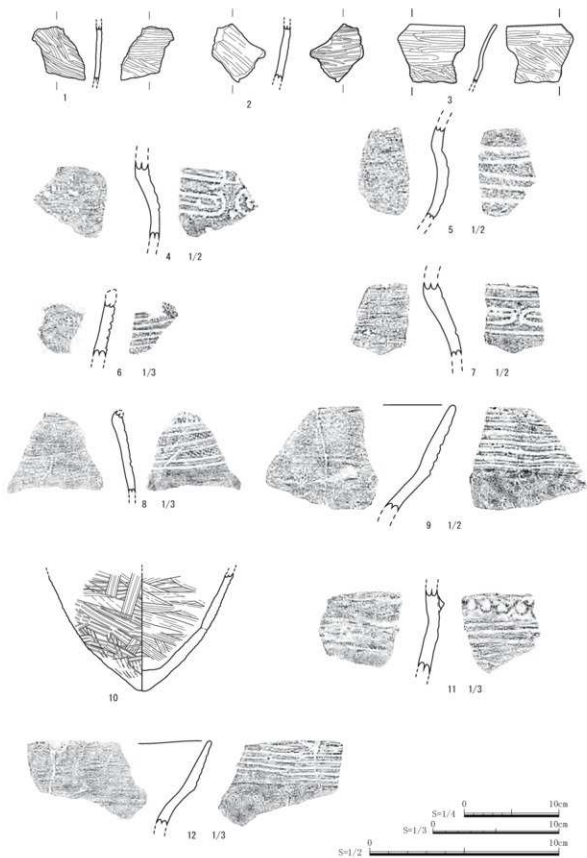


第4図2区 SK13・SK14・SK15 平面図土層断面図

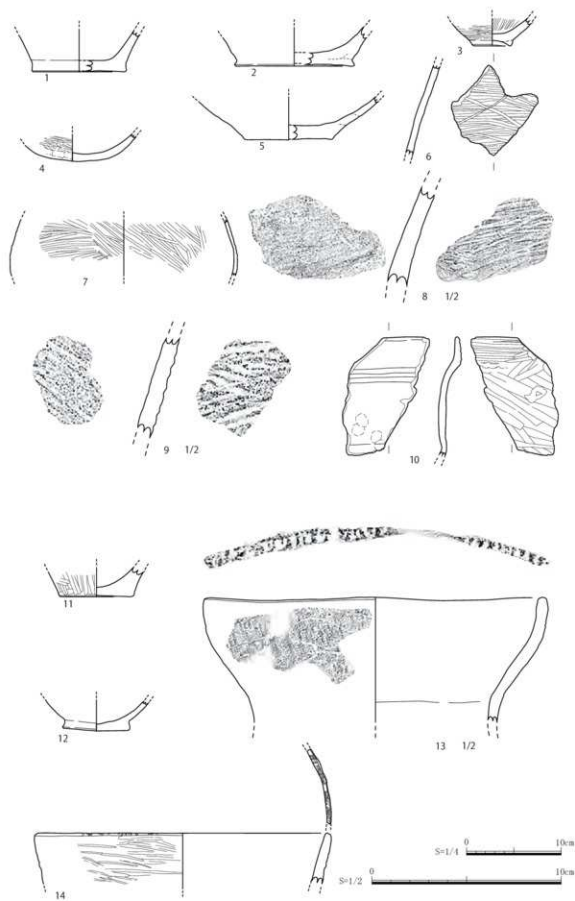


1	Hue10YR3/2	黒褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ローム粒子、焼土、炭を含む	田層主体
2	Hue10YR2/2	黒褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ローム粒子、焼土、炭を含む	
3	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒子、焼土、炭を含む	
4	Hue10YR2/2	黒褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子、焼土、炭を含む	
5	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒子やや多い 焼土、炭を含む	
6	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ローム粒子、焼土、炭を含む	
7	Hue7.5YR3/2	黒褐色	締まりやや強い	粘性やや弱い	ローム粒子を含む	
8	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ローム粒子を多く含む	
9	Hue10YR3/3	黒褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ローム粒子、焼土、炭を含む	
10	Hue7.5YR3/2	黒褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子、炭やや少なめ	
11	Hue7.5YR3/3	黒褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子を含む	
12	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒子、炭少量含む	
13	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子をやや多く含む	
14	Hue10YR2/2	暗褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子を多く含む	
15	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒子を非常に多く含む	
16	Hue10YR3/3	暗褐色	締まり強い	粘性やや弱い	ローム粒子を多く含む ブロック化	
17	Hue10YR3/3	暗褐色	締まりやや強い	粘性強い	ローム粒子を非常に多く含む	
18	Hue10YR4/2	灰黄褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒子を非常に多く含む	
19	Hue10YR2/2	黒褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子を多く含む	
20	Hue10YR2/2	黒褐色	締まりやや弱い	粘性強い	ローム粒子を非常に多く含む	

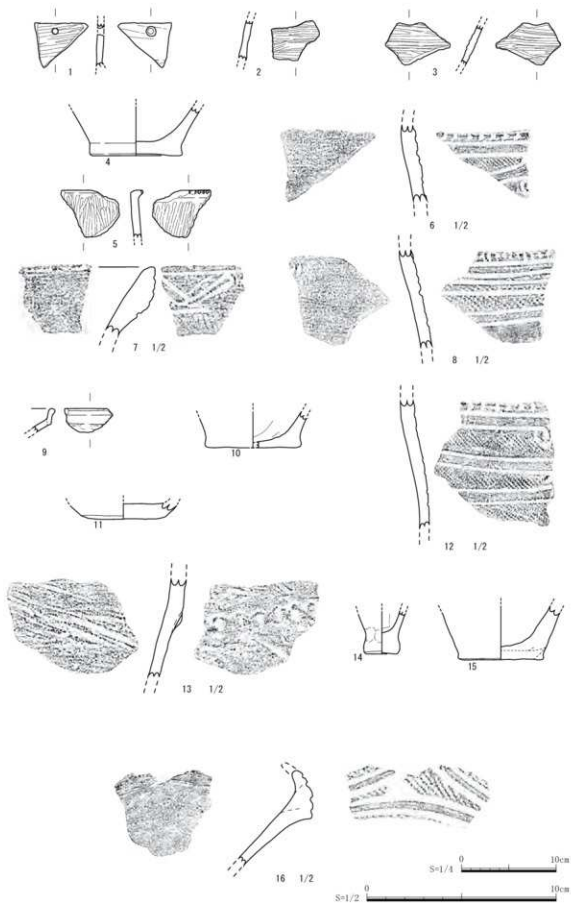
第47図 2区 SX04 平面図土層断面図



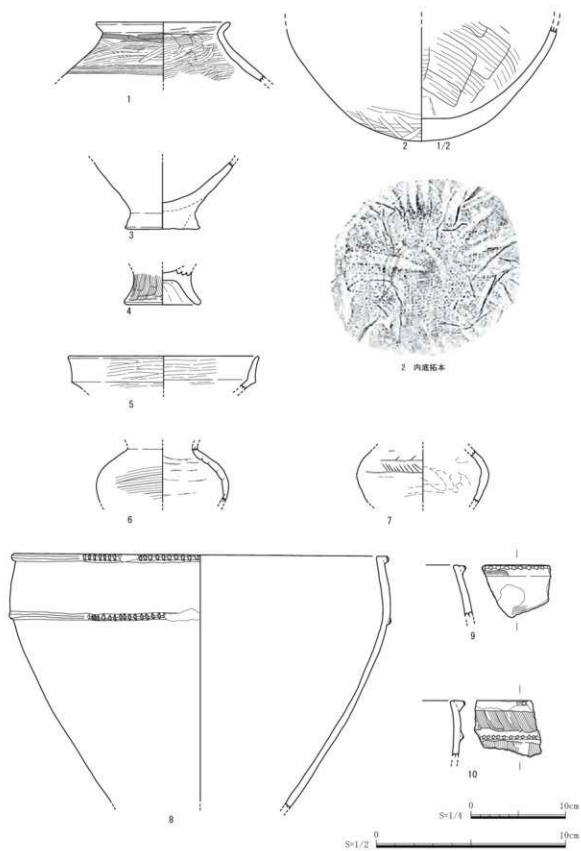
第48圖2区V層出土遺物實測圖



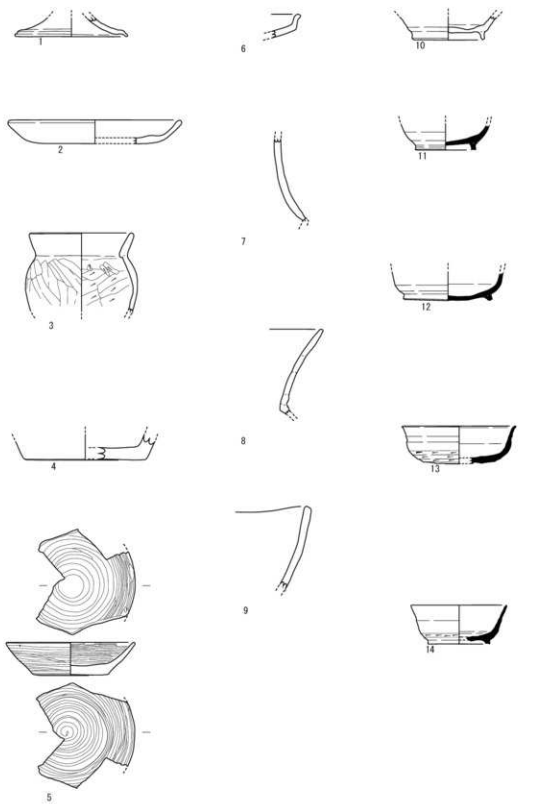
第49圖2区IV層出土遺物實測圖



第50圖2区Ⅲ·Ⅲ'·Ⅳ層出土物实测图



第51圖2区Ⅲ・Ⅳ層出土遺物実測図



0 10cm
S=1/4

第5 2 圖 2 区出土遺物実測圖 (4)

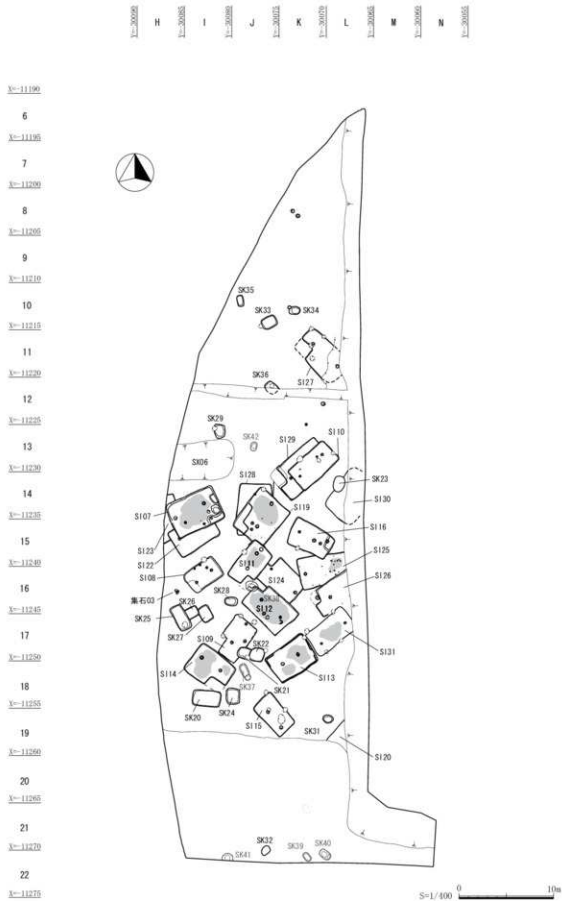
(2) 遺物包含層

2区の調査範囲は広がったものの表土剥ぎの段階からⅢ層がほとんど残っておらず、遺構検出の際も遺構の残存が非常に少なかった調査区である。1区と同様にⅢ層・Ⅳ層は縄文時代の遺物包含層であり、Ⅴ層での検出が縄文時代の遺構として考察しないといけない層である。土器集中03は、遺物の集中ではなく1個体がある程度固まった形で検出されたことを表している。尖底の条痕文を施したこの土器(図48-10)は、轟A式の縄文早期から前期の土器である。出土したのはこの1点のみではあったが、尖底や条痕文がきれいに残っていたことは大きい。また、土器集中04は、土器集中03と同様に1個体の土器(図51-8)がまとまった形で出土したことを表している。この土器はⅣ層出土遺物であり、口縁部には刻み目突帯文がついており黒川式などの縄文後晩期の土器として取り扱うこともできるが、3区からも弥生土器や弥生遺構が検出されていることから、弥生土器として取り扱うこととする。胴部の最大口径が口縁周辺にあり復元口径は40cmを測る。口縁は平縁で、内側に突起はなく上部が平坦な甕である。壺形土器として形状がわかるものは数点しかないが、(図51-1)は口縁部が外に開きその内側に突起を持たない。また、頸部から口縁部までの長さが短く、口径が胴部最大径と比べ小さくなっている。高坏や鉢形土器の出土がないために、分類や位置づけなどできなくなっている。

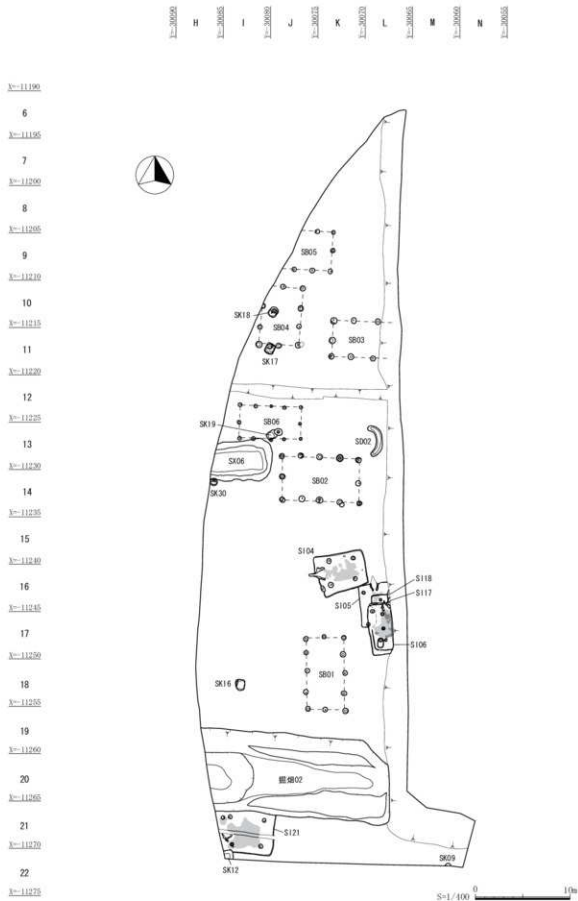
古代の遺構は1区で検出されたようなカマド付き住居はなく、Ⅲ・Ⅲ'・Ⅳ層からも遺構の検出はできなかった。層の深さから考えてもⅢ層が削られたことで遺構がすべてなくなっているとは考えにくい。もとからなかった地域だったのかもしれない。しかし土師器や須恵器はⅢ・Ⅲ'・Ⅳ層から出土しており、1区や3区からの流れ込みなのかもしれない。中には(図52-2)のように全体的に朱塗りされた土師器の皿や、(図52-13・14)のように復元口径11～12cmの須恵器の坏が出土している。2つとも回転ナデ・ヘラ削りで丁寧に仕上げられている。調査区が広い2区に時代ごとの遺構が見られなかったことは残念である。しかしながら、破片が多く出土していた2区の遺物包含層に、縄文時代早期から弥生時代・古代へと遺物の編年とまでは言えないが、時代ごとの土器や石器が見られたことはこの地の周辺遺跡との交流を考える資料になると考える。

1区で出土した石器は、輝石安山岩を加工した打製石斧がほとんどであったが、2区では輝石安山岩の打製石斧のほかに輝石安山岩の敲石・磨石や粘板岩の磨製石斧などが出土している。特に(図41-7)の磨製石斧は粘板岩で全長11.6cm、幅5.1cm、厚さ2.85cmをはかり全体が研磨されている。刃部は蛤刃できれいな仕上がりとなっている。これは刃部しか残っていないが(図41-4)も同じであり、おそらく他の場所から運ばれてきたものであろう。





第53図南畑遺跡3区遺構配置図（縄文～弥生）



第54図 南畑遺跡3区遺構配置図（古代～近世）

3.3区

(1) VI層検出遺構

土坑

SK37 J-18 G rid上に位置する遺構である。IV層検出ビットにより長軸は測定できないが、短軸は約80 cm、深さは約16 cmを測る。長軸の方向軸は北西を基軸としてN-24°-Wである。IV層・V層検出遺構と違い土質の締まりが強くなり、埋土にはほぼブロック状の固まりが混入する。基本土層のVI~VI'層に比べると埋土の締まりがやや緩く、掘り方の跡が確認できる。

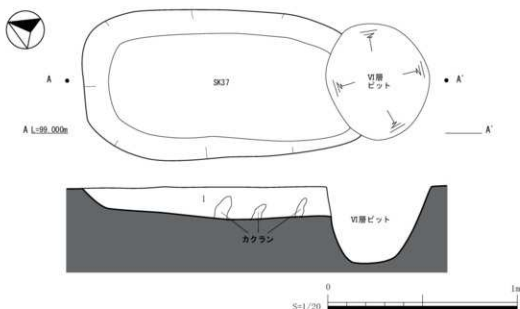
SK38 J-16 G rid上に位置する遺構である。長軸は約140 cm、短軸は約100 cm、深さは約32 cmを測り大型の土坑と言える。長軸の方向軸は北西を基軸としてN-70°-Wである。VI層検出遺構であるが2層に分かれIV・V層よりVI層に近いと言える。

SK39 K-22 G rid上に位置する遺構である。堀畑02の南側で検出された遺構である。長軸は約106 cm、短軸は約64 cm、深さは約20 cmを測る。長軸の方向軸は北西を基軸としてN-35°-Wである。形態は隅丸長方形を呈する。埋土は2層からなり1層はV層ブロックが暗く堆積した感じがあり、2層は1層にVI・VI'層のブロックがやや混じっている。

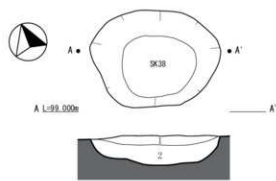
SK40 K-L-21 G rid上に位置する遺構である。長軸は約130 cm、短軸は約84 cm、深さは約22 cmを測る。長軸の方向軸は北西を基軸としてN-47°-Wである。埋土は2層からなりSK39とほぼ同じような堆積である。

SK41 I-J-22 G rid上に位置する遺構である。調査区の南側で検出された遺構。長軸は測定できないが短軸は約114 cm、深さ約20 cmを測る。長軸は分からないが方向軸はほぼ南北を基軸としている。埋土は1層からなり、V層ブロックを主体として下層にVI~VI'層のブロックがやや混じる。

SK42 J-13 G rid上に位置する遺構である。調査区の中央北側で検出された遺構である。長軸は約98 cm、短軸は約66 cm、深さは約20 cmを測る。長軸の方向軸はほぼ南北を基軸としている。埋土は2層からなり、1層は明るめのV層ブロックを主体としている。2層はIV層ブロックをわずかに含むVI~VI'層のブロックを主体としている。

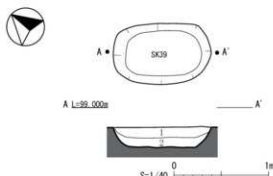


第55図3区SK37平面図土層断面図



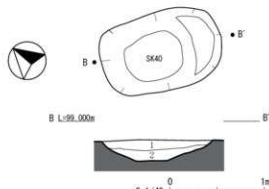
SK38埋土

- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子をやや多く含む 炭化物混じる
- 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大ローム粒子をやや多く含む 炭化物混じる



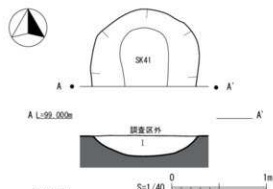
SK39埋土

- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性やや弱い 2mm大のローム粒子(原色粒子)をやや多く含む 炭化物やや混じる
- 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり1よりやや強い 粘性やや強い 2mm大のローム粒子(原色粒子)をやや多く含む 炭化物やや混じる



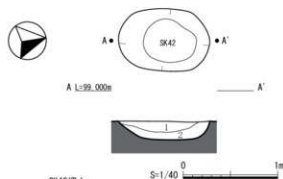
SK40埋土

- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性やや弱い 2mm大のローム粒子(原色粒子)をやや多く含む 炭化物やや混じる
- 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり1よりやや強い 粘性やや強い 2mm大のローム粒子(原色粒子)をやや多く含む 炭化物やや混じる



SK41埋土

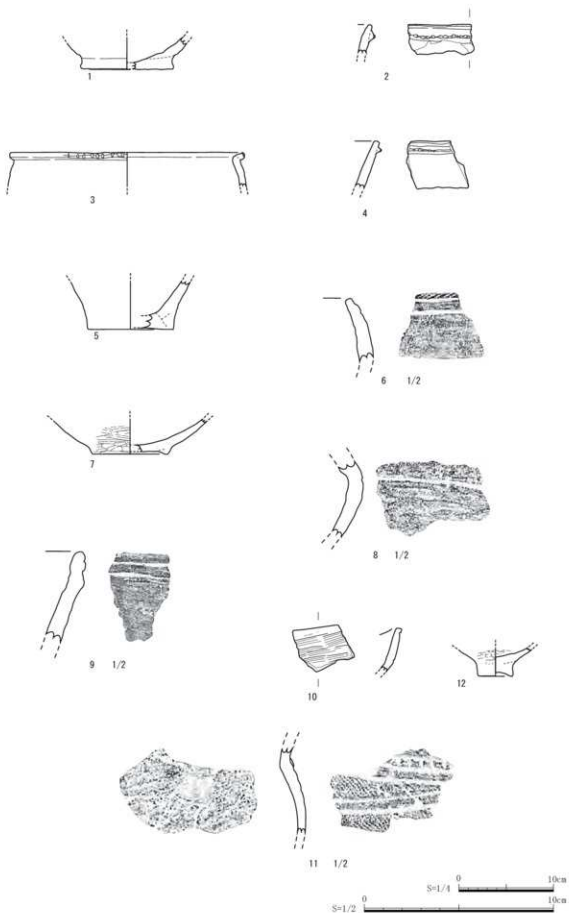
- 1 Hue10YR4/3 に近い黄褐色 締まりやや強い 粘性やや強い 2mm大のローム粒子(原色粒子)をやや含む 炭化物を若干含む V層ブロックを主体とし下層にVI~VII層ブロックやや混じる



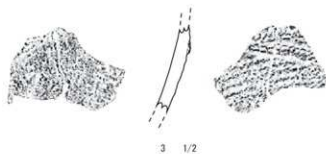
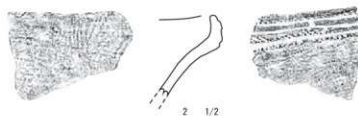
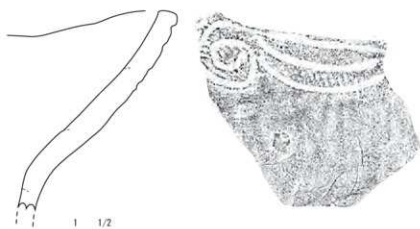
SK42埋土

- 1 Hue10YR4/4 褐色 締まりやや強い 粘性やや強い 2mm大の棕色粒子炭化物若干含む 明るめのV層ブロックを主体としている
- 2 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり1よりやや強い 粘性やや強い 2mm大の棕色粒子を若干含む IV層ブロックを僅かに含む VI~VII層のブロックを主体としている

第56図3区SK38・SK39・SK40・SK41・SK42平面図土層断面図

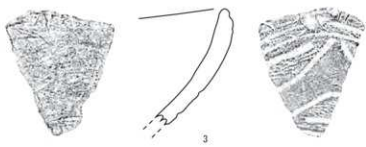
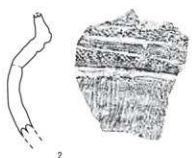
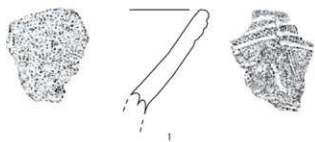


第 6 7 圖 3 區出土遺物實測圖 (1)

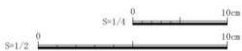
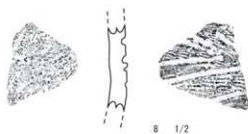
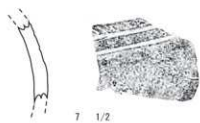
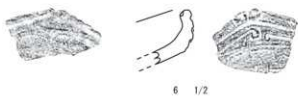
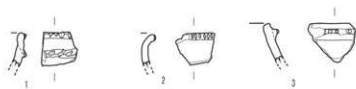


0 10cm
S=1/2

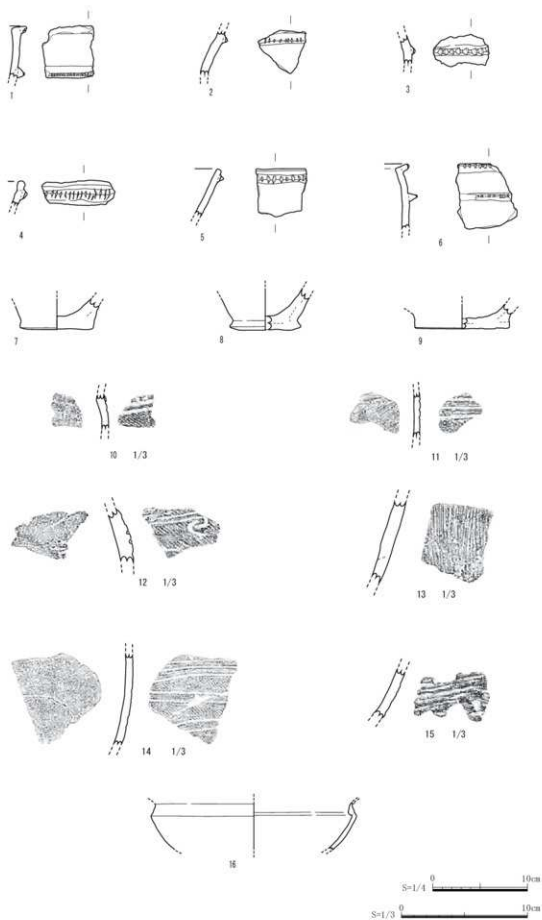
第 6 8 圖 3 區出土遺物實測圖 (2)



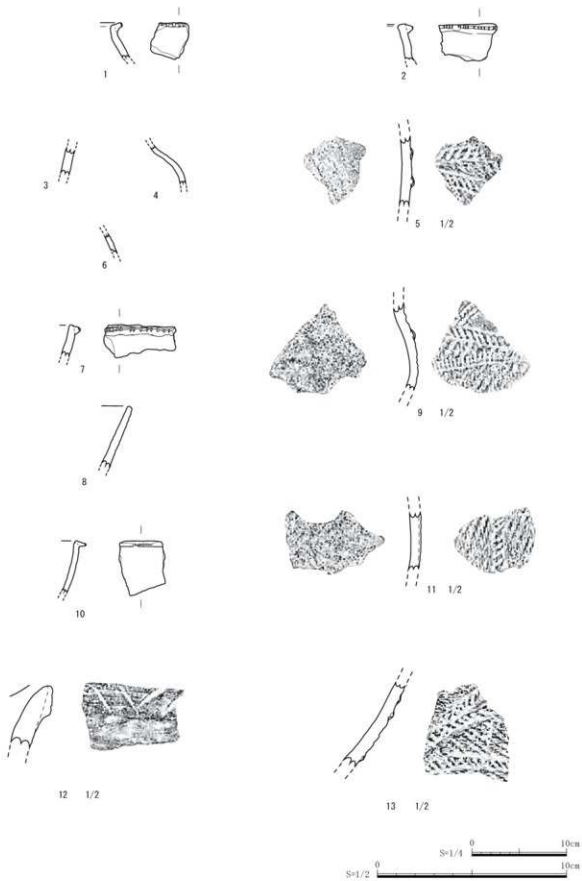
第59圖3区出土遺物実測圖(3)



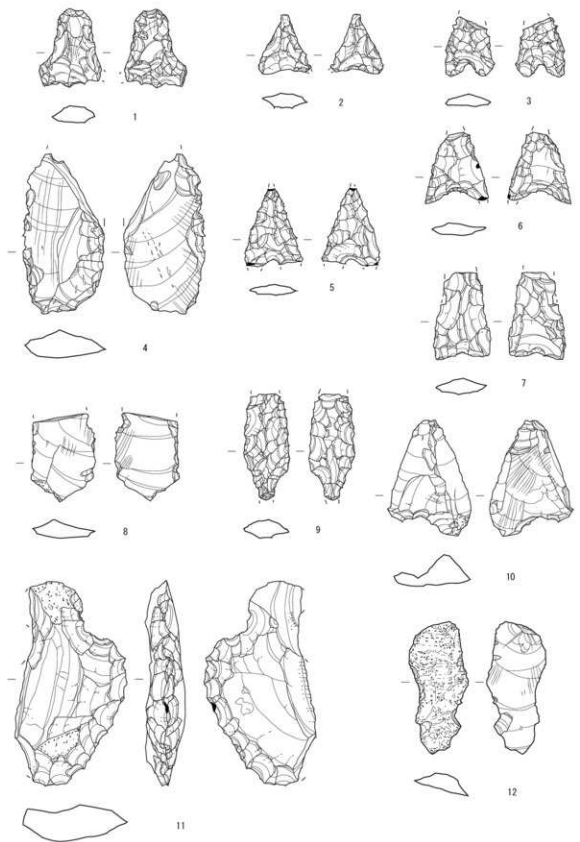
第6〇圖3区出土遺物実測圖(4)



第61圖3区出土遺物実測圖(5)



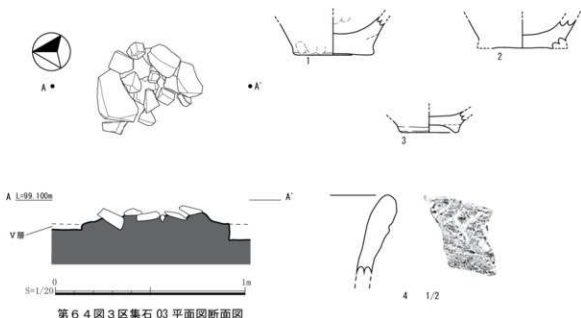
第6 2 图3 区出土物实测图 (6)



第63圖3区出土遺物実測圖(7)

(2) V層検出遺構

3区のV層検出遺構は縄文時代を中心に展開する遺構であるが、調査区北側はⅢ'～Ⅳ層が南側より分厚く堆積しており、元地形が北側に緩やかに傾斜していたのではないかと想定できる。このV層からは集石遺構と土坑類、弥生時代の竪穴住居跡を検出することができた。以下に記述するとおりである。



第64図3区集石03平面図断面図

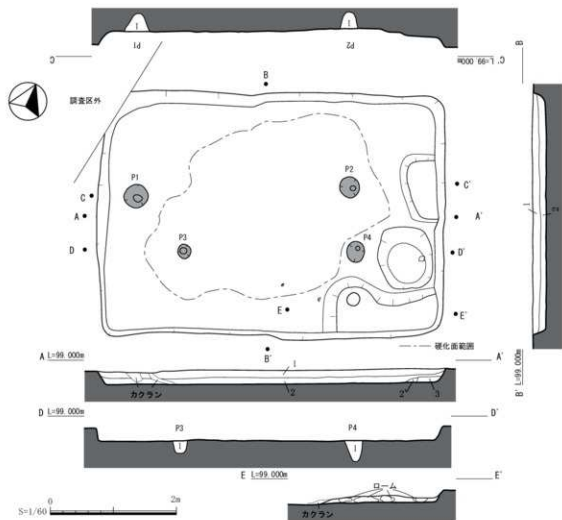


第65図3区集石03出土物実測図

集石03 H-16Grid上に位置する遺構である。約30cmの石が1つ、約20cmの石が3つ、約10cmの石が7・8個集中して検出した遺構である。ほとんどの石が輝石安山岩であり、焼けた跡が残るものもあった。この集石遺構は、Ⅲ'層の上面の掘削当初から石は見え、Ⅲ'層掘削の際にはすでに集石遺構として認識していた。

(3) 弥生時代

3区では弥生時代の竪穴住居跡を22軒検出した。ほとんどの平面形態が長方形であった。基軸となる方位は北東軸(S17・8・9・10・11・13・19・20・22・25・26・28・30)と北西軸(S112・14・15・16・24・27)の2群に大別できる。法量としては長軸が4.7mのもの、5.2m前後のものに分けられる。中には長軸3.8mのS18があるがほとんどが上記の2タイプに分けられる。切り合いや調査区外などで不明瞭な形態もあるが、ベッド状遺構を検出、もしくは存在した可能性が高い住居跡は13軒である。ほとんどの住居跡は主柱穴を有し、長軸の中心に2本柱構造の住居であった。貯蔵穴や灰跡はほとんど検出することはできなかった。しかし、締まりのやや強い硬化面を住居の中央部分に検出できた。竪穴住居に直接伴う遺物が少ないため遺構の切り合いから時期を断定することは危険であるが、方向軸や切り合いの軒数から判断すると3期以上と考えられる。方向軸の違いで大きな転機となる時期があったと推測される。



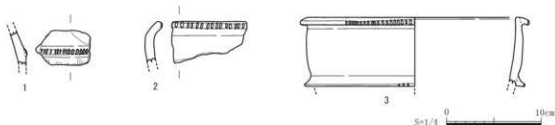
S107埋土

- 1 Hue 10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子、炭化物を若干含む 埋土はサラサラしている
 - 2 Hue 10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子を多く含む、2mm大の橙色粒子、炭化物片をやや多く含む 埋土と違い固くしまった感じ
 - 2' Hue 10YR3/2 (2よりやや明) 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い ローム粒子をやや多く含む
 - 3 Hue 10YR5/4 にぶい黄褐色 締まり強い 粘性やや強い ロームブロック
- C-C'
Hue 10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子 (原色粒子) 橙色粒子を若干含む 炭化物やや湿じる 下層にロームブロック混じる S107-P3, P4はローム粒子、橙色粒子の混ざりやや多い
- D-D'
Hue 10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大の橙色粒子若干含む 炭化物やや湿じる
- E-E'
Hue 10YR4/3 にぶい黄褐色 締まりやや強い 粘性やや強い 5~10cm程度のローム (IV層) ブロックを含み、埋土中全体的に2~3cm大のロームブロックを含む

第66図3区S107平面図土層断面図

竪穴住居跡

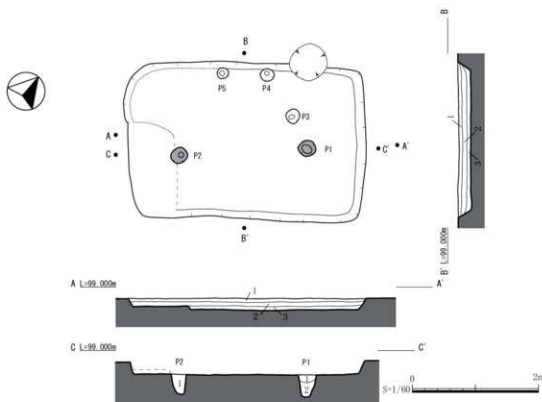
S107 I-14・15 G grid上でS122・23を切るようにして検出した遺構である。平面形態は長方形を呈し長軸5.50m、短軸3.80m以上を測り、北東ラインを基軸として長軸はN-63°-Eである。検出面から生活面までは約25cmの深さである。硬化面は遺構の中心部に広がるように残っており、壁面に近くなると薄くなる。柱穴はP1からP4まで認識できた。P1は約30cm、P2は約26cm、P3は約15cm、P4は約32cmの深さで主柱穴はP1とP2で間違いないと判断する。P3・P4も平行になっていることから補助的な役割を持っていた可能性もある。遺構の南東部に5~10cm程度のロームブロックを含む部分があり、ベット状遺構であると考えられる。このロームブロックは人為的に持ってきて固めたものである。印跡は確認できなかった。



第67図3区S107出土遺物実測図

S107の出土遺物について

出土遺物(図67-2・3)は甕の口縁部分であり、(図67-1)の器種は分からない。(図67-3)は口縁部が平縁で内部に突起はなく、口縁端部は垂れ下り気味である。住居の埋土1層から出土している。(図67-2)は「く」の字状の口縁部で突起がなく外反している。また、外面に煤が付着しており住居の埋土1層から出土している。



S108埋土

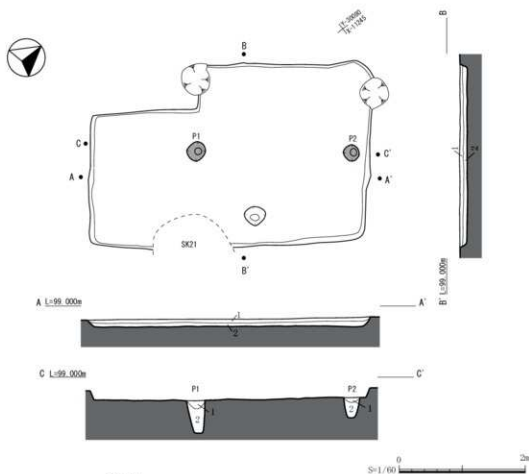
- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い
- 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性強い 2mm大の橙色粒子、炭化物片を若干含む
- 3 Hue2.5YR3/1 黒褐色 締まり1、2よりやや強い 粘性弱い V層~VI'層ブロック(2~3cm大)をやや多く含む

柱穴

- 1 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大の橙色粒子、炭化物若干含む
 - 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大の橙色粒子、ローム粒子(肌色粒子)をやや多く含む
- 下層にV層ブロック混じる

第68図3区S108平面図土層断面図

S108 I-15・16G rid上に位置する遺構である。長軸は3.80m、短軸は2.50m以上を測る。北東ラインを基軸として長軸はN-48°-Eである。検出面から生活面までは約20cmである。V層検出遺構の住居跡群の中では小型の住居跡といえる。遺構内にP1~P5を検出しP1は約36cm、P2は約32cm、P3は25cm、P4は22cm、P5は14cmの深さである。主柱穴はP1とP2で炉や硬化面は確認できなかった。遺構の南西部分にベット状遺構があったと思われる部分が残っており、途中で削平されていたのではないかと考える。



S109埋土

- 1 Hue10R3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2cm大の橙色粒 炭化物片やや含む
- 2 Hue10R3/2 黒褐色 締まり1よりやや強い 粘性弱い 2cm大の橙色粒をやや含む、VI層ブロック(2~3cm大)をやや多く含む

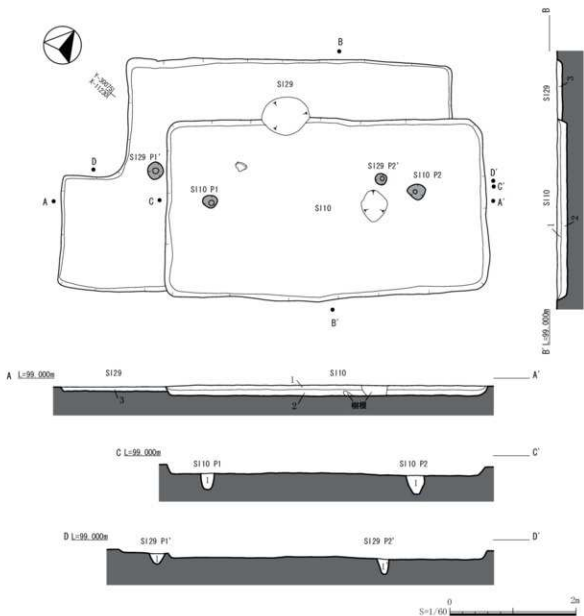
柱穴

- 1 Hue10R3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2cm大のローム粒子(肌色粒子)、橙色粒子 炭化物やや含む
- 2 Hue10R3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い VI層ブロックをやや多く含む サラサラしている 2cm大のローム粒子(肌色粒子)、橙色粒子はあまり混じらない

第 6 9 図 3 区 S109 平面図土層断面図

S109 I・J・17G rid上に位置する遺構である。長軸4.50m、短軸3.0mで北東ラインを基軸として長軸はN-36°-Eである。遺構内にP1~P3を検出しP1は約50cm、P2は約32cm、P3は約41cmの深さであり主柱穴はP1・P2と確認できる。炉跡と硬化面は確認できず、一部SK21に切られている。検出面から生活面までは約15cmである。南西部にはベッド状の貼り床があったと考えられるが、耕作時の削平で浅く消えていると推測できる。

S110 K-13・14G rid上に位置する遺構である。長軸5.10m、短軸3.00mで、北東ラインを基軸として、長軸はN-50°-Eである。検出面から生活面まで約20cmである。S129との新旧関係は、S129(古)→S110(新)である。炉や硬化面は確認できなかった。S110の遺構内にはP1は約26cm、P2は30cmの深さの柱穴があり、長軸に沿って2基確認できた。S129は検出面から生活面までが約10cmと薄く、そのため南西側のベッド状遺構が削平されていることが分かる。また、S110の生活面にはS129の主柱穴が見られる。S129のP1は約18cm、P2は約24cmの深さである。S110はIV'層中層まで掘りこまれていて、S129はVI層上層まで掘りこまれている。



S110埋土

- 1 Hue10YR3/2 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子（肌色の粒）、橙色粒をやや多く含む
- 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子（肌色の粒）、橙色粒を1より多く含む 2~3cm大のV層ブロックをやや多く含む
 （※埋土1はわりとサラサラしているが、2は埋土がブロック状でわりとかたく締まる）

S129埋土

- 1 Hue10YR3/4 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大の橙色粒子、ローム粒子（肌色の粒子）を極微量含む V層ブロック主体で、IV層ブロックややまじる

柱穴

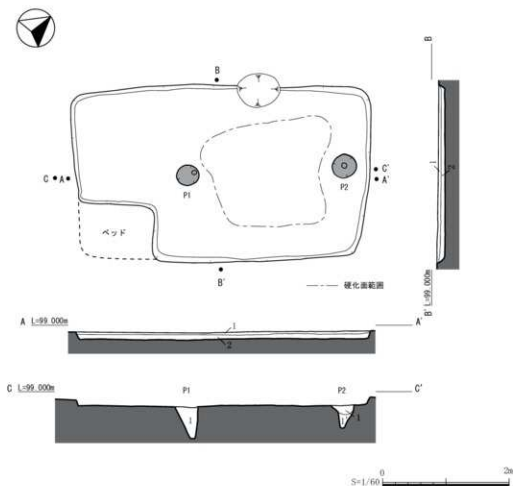
C-C'

- 1 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子（肌色の粒子）、橙色粒を若干含む 下層にV層ブロックややまじる

D-D'

- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子（肌色の粒子）を若干含む
- 1' Hue10YR3/3 暗褐色 締まり強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子（肌色の粒子）を若干含む V層ブロック若干まじる

第7O園3区 S110・S129 平面図土層断面図



S111埋土

- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり強い 粘性弱い 2mm次のローム粒子(肌色の粒子)、炭化物を若干含む IV層がやや黒く濡った感じでサラサラした埋土
- 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm次のローム粒子、橙色粒子、炭化物片 IV~V層のブロック状でV層の比率が高い 埋土状のサラサラではなく、わりと締まる

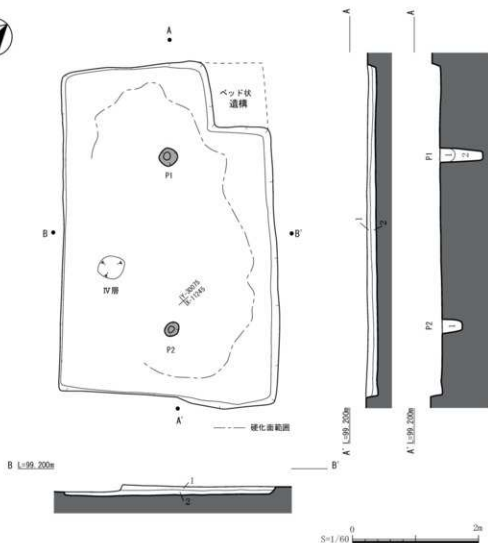
柱穴

- 1 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm次の橙色粒子、炭化物片を若干含む
- 1' Hue10YR3/2 黒褐色(1よりやや黒い) 1よりやや締まる 粘性弱い 瓦層ブロック混じる

第7-1図 3区 S111 平面図土層断面図

S111 J-15・16 Grid上に位置する遺構である。長軸は4.70 m、短軸は2.80 mを測り、北東ラインを基軸としてN-37°-Eである。硬化面が遺構の中心部に広がるように残っており、南側にはベッド状遺構があったと考えられる。主柱穴が長軸の中心に2基確認できP1は約45 cm、P2は約34 cmの深さでともにⅧ層(ローム)まで掘りこまれている。検出面から生活面まで約10 cmと浅く掘削時に掘りすぎたところもある。

北300
西170



S112埋土

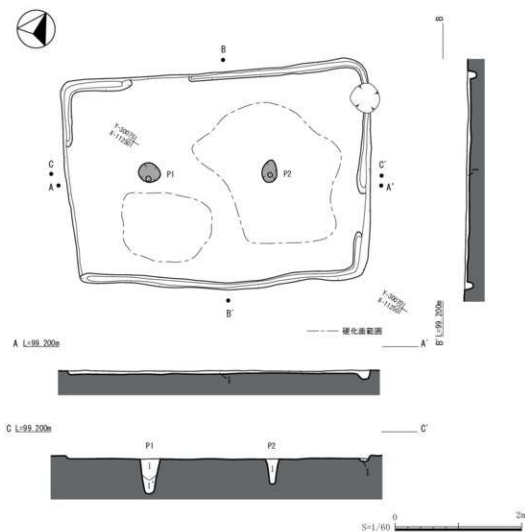
- 1 Hue10YR3/4 暗褐色 締まりはやや弱い 粘性は弱い ローム粒が少し混じる
 2 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりは1層より強い 粘性は弱い ローム粒が少し混じる

柱穴

- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子（肌色粒子）、炭化物を若干含む
 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 1に比べサラサラしている 下層はローム（IV層）ブ
 ロックや混じる

第72図3区S112平面図土層断面図

S112 J・K-16・17 Gridに位置する遺構である。長軸は5.20 m、短軸は3.30 mを測り、北西ラインを基軸として長軸はN-48°-Wである。この遺構は検出されている住居跡のほぼ中心にあたる。締まりが強い硬化面は遺構の中心部に広がるように確認することができる。検出面から生活面までは約15 cmを測る。また、他の住居跡同様に支柱穴が2基長軸の中心に確認することができる。P1は68 cm、P2は32 cmの深さである。南側の約3分の1を検出時に掘削していて、締まりの強い硬化面範囲が途切れる形となりわかりにくくなっていた。他の住居跡と同様にベッド状遺構が存在した可能性が高い。また、炉跡は確認できなかった。



S113埋土

1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2m次の橙色粒子や炭化物を若干含む

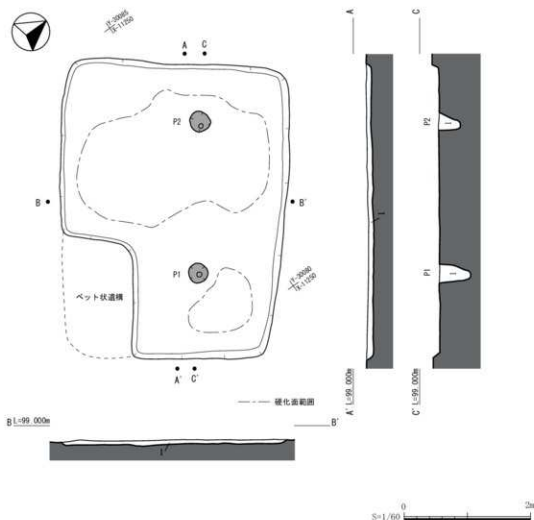
柱穴

1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2m次の橙色粒子や炭化物を若干含む

1' Hue10YR3/3 暗褐色(1よりやや黒い) 締まりが1よりややゆるい サラサラしている

第73図3区 S113 平面図土層断面図

S113 J・K-17・18 Grid上で検出した遺構である。調査区南側に位置する。平面形態は長方形を呈し、長軸4.80m、短軸3.50m以上を測る。北東ラインを基軸としてN-55°-Eである。検出面から生活面までは約6cm程度でIV層掘削時に掘りすぎている。遺構内には2つのピットを検出した。P1は約58cm、P2は約40cmの深さとともにロームブロック層まで掘りこまれていて主柱穴と確認できる。中央部分には締まりの強い硬化面が広がっており、所々薄くなってきている部分がある。壁面には締まりの緩い所が遺構側面に検出でき、掘削時に掘りすぎたが側溝である可能性が高い。他の住居跡のようなベッド状遺構がある可能性は低いと言える。炭化物、焼土等の炉と推測する状況は見られなかった。



S114埋土

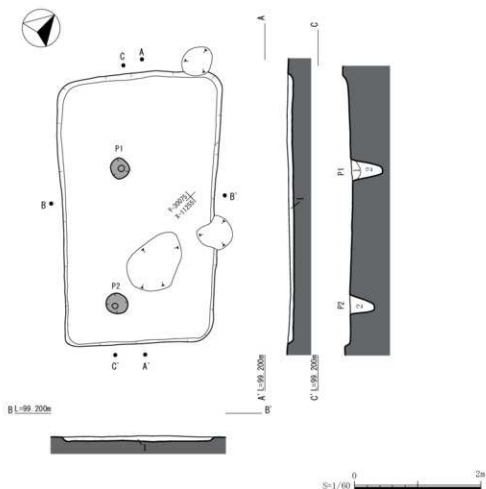
1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性ほとんどない ローム粒や炭化物をやや含む

柱穴

1 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大の橙色粒子や炭化物若干含む

第74図3区S114平面図土層断面図

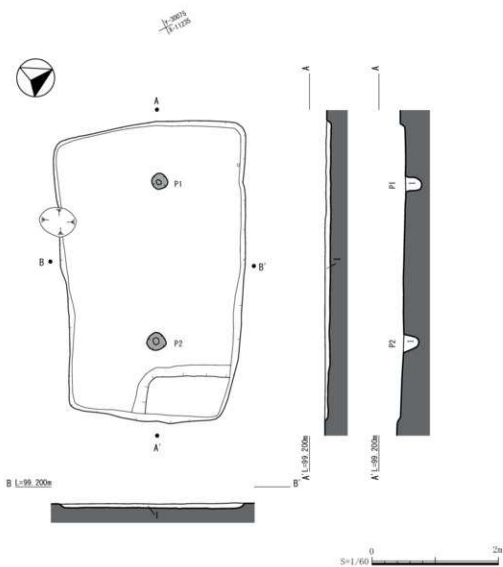
S114 I-17・18 Grid上で検出した遺構である。調査区南西に位置する。平面形態は長方形を呈し、長軸4.70m・短軸3.60m以上を測る。北西ラインを基軸として、N-53°-Wである。検出面から生活面までは最大約10cm程度である。遺構内には中央部に締まりの強い硬化面範囲が確認できる。遺構内からは柱穴が2基検出されている。P1は約50cmでP2は約34cmの深さを測り、P1はⅤ層まで掘りこまれている。遺構の南側では掘り方が中央部に入り込んでいることから、畑地の耕作の折に削平をうけたベッド状遺構があり、掘り方が一部消失したものと考えられる。



- S115埋土
 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大の橙色粒子、ローム粒子(肌色粒子)や炭化物をやや多く含む
 柱穴
 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(肌色粒子)をやや多く含む
 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まりより弱い 粘性やや弱い サラサラした埋土で2mm大のローム粒子(肌色粒子)を若干含む

第75図3区S115平面図土層断面図

S115 J・K-18・19G rid上に位置する遺構である。調査区の南側にあたり住居跡の南端である。遺構の中央に南北中央ベルトが走る。また、南側には近代遺構の堀畑02がある。長軸は4.30m、短軸は2.50mを測り住居跡群の中では小型といえる。北西ラインを基軸として長軸はN-45°-Wである。検出面から生活面までは約10cmで一部攪乱を受けている。おそらく耕作時のものと言え。主柱穴P1は約50cm、P2は約40cmの深さを測る。長軸の中心線からは少し南側にずれている。また、ベッド状遺構は確認することができなかった。これまでの形状より細長く硬化面も確認することはできなかったためトレンチを入れ確認した。



S116埋土

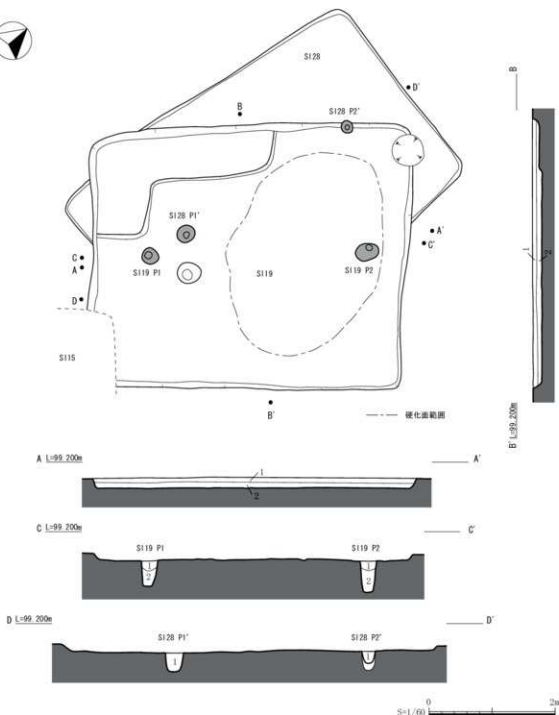
1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2m大のローム粒子(肌色の粒子)や炭化物片を若干含む

柱穴

1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2m大の橙色粒や炭化物をやや含む埋土ブロック状

第76図3区S116平面図土層断面図

S116 K・L-15G rid上に位置する遺構である。調査区西側にあり長軸は4.70 m、短軸は3.00 mを測る。北西ラインを基軸として長軸はN-64°・Wである。検出面から生活面までは約10 cmである。硬化面は確認できなかったが、遺構の南東部に厚さ2 cm～3 cm程度のベッド状の貼り床が存在した。また、長軸の中心に2つの支柱穴が確認できた。P1は約21 cm、P2は約26 cmの深さを測り、2mm大の橙色粒を含む埋土が入り込んでいた。ともにⅦ層まで掘り込まれている。S115と同様に小型の住居跡だと考える。



S119埋土

- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子 (肌色粒子) や炭化物を若干含む
 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子 (肌色粒子) や橙色粒子、炭化物を若干含む

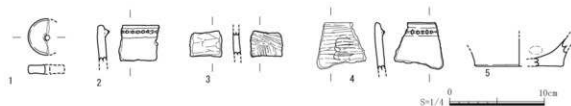
柱穴

- C-C' (S119)
 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子 (肌色粒子) や橙色粒子をやや多く含む
 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子 (肌色粒子) や橙色粒子を若干含む 1:1に比べサラサラした感じで、下層にローム (IV層) ブロックがやや混じる

D-D' (S128)

- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子 (肌色粒子) や橙色粒子を若干含む; Ⅴ層ブロックやや混じる

第77図3区 S119・S128 平面図土層断面図

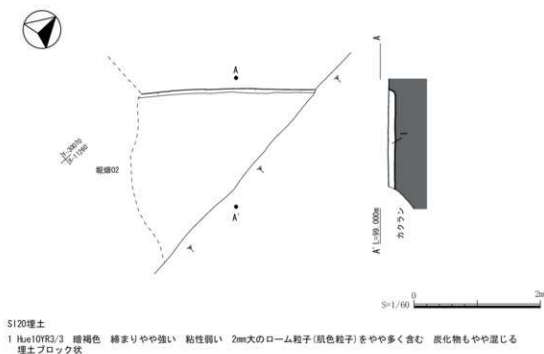


第78図 3区 S119・S120 出土遺物実測図

S119・S128 J-14・15 Grid上に位置する遺構である。長軸5.00 m、短軸4.20 mを測る。北東ラインを基軸として長軸はN-35°-Eである。S128との新旧関係はS128(古)→S119(新)である。

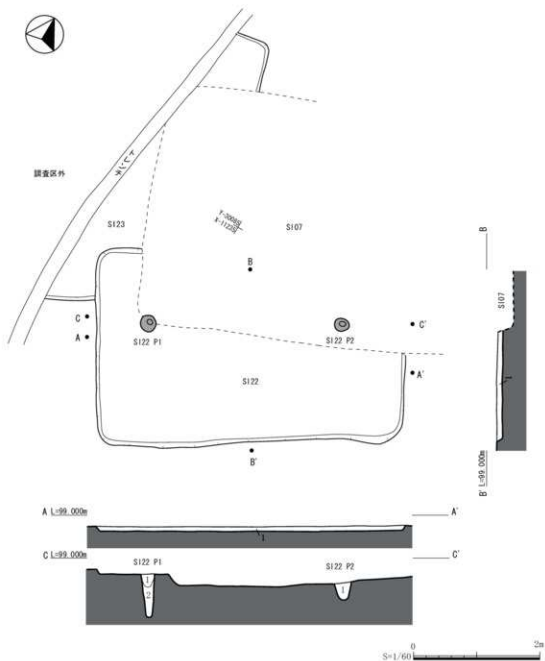
S119は住居跡群の中でも中央部にあり、検出面から生活面まで約10 cmである。遺構内には硬化面が広がり南西部から紡錘車や土器片が出土している。また南西部には長さ3.0 m、幅1.2 mのベッド状貼り床があり、2基の主柱穴(P1・P3)もあった。P1は約50 cm、P2は約21 cm、P3は約42 cmの深さを測り配置とレベルからもP1・P3を主柱穴とした。遺構中央部に締まりの強い硬化面を確認した。伊跡は確認できなかった。

S128はS119に切られている。長軸5.40 m、短軸3.50 mである。この遺構の東側の4分の3がS119により壊されており、北東ラインを基軸としてN-47°-Eである。長辺や短辺の長さは不明であるが、他の住居跡とほぼ同形であると考えられる。主柱穴はP1が約30 cm、P2が約20 cmの深さでありN-8°-Eでほぼ北側に長軸が向いている。硬化面や伊跡はS119に切られているために確認できなかった。



第79図 3区 S120 平面図土層断面図

S120 L-19 Grid上に位置する遺構である。この遺構の大部分が掘乱(圃場整備用道路)と堀場02によって壊されている。おそらく北東ラインを基軸とした住居跡であり、残存している所では主柱穴や硬化面は確認できなかった。埋土から住居の一部と考えている。検出面から生活面まで約12 cmを測る。

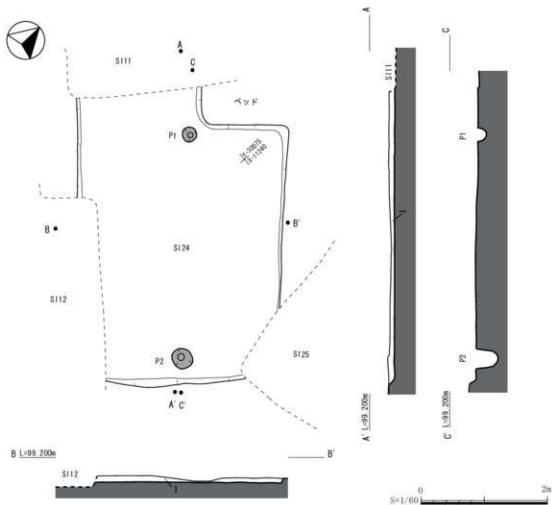


S122埋土

- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm次のローム粒子（原色粒子）をやや多く含む、炭化物をわずかに含む
埋土やブロック状
柱穴
- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm次のローム粒子（原色粒子）や橙色粒子をやや多く含む
- 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm次のローム粒子（原色粒子）や橙色粒子をわずかに含む 1:に比べサラサラしている

第80図3区S122・S123平面図土層断面図

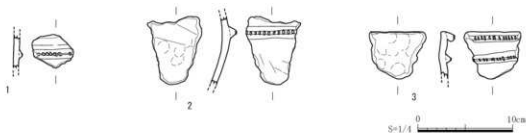
S122・23 S122・23ともにH・I・14・I5Grid上に位置する遺構である。S122は長軸約5.00m、短軸約3.10mで検出面から生活面まで約10cmであり、北東ラインを基軸として長軸の方向はN-57°-Eである。遺構の約半分がS107によって掘り込まれて壊されているが、P1～P2の主柱穴を確認することができた。P1は約70cm、P2は約30cmの深さを測り、硬化面や炉跡は確認することはできなかった。埋土はS107に比べると明るくブロック状の土が入る。S123は大部分が調査区外にあたる。またS123はS107に切られているため、大きさや形状についてはわからない。新旧関係はS123（古）→S122→S107（新）である。



S124埋土

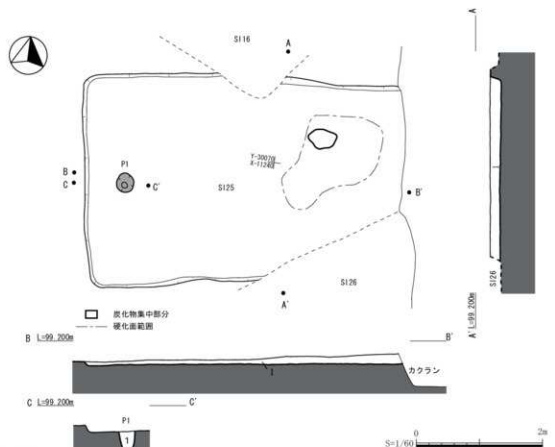
1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(肌色粒子)や橙色粒子をやや多く含む 炭化物も混じる 埋土はブロック状で土色はS125よりやや明るい V~IV層ブロック S104付近に焼土炭化物あり

第 8 1 図 3 区 S124 平面図土層断面図



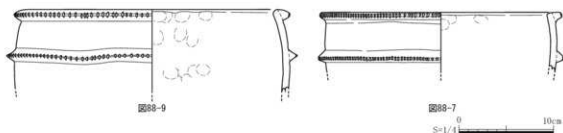
第 8 2 図 3 区 S124 出土物実測図

S124 J・K・16 Grid上に位置する遺構である。調査区のほぼ中央にある遺構である。北西部をS111、東部をS125、南部をS112によって切られている。長軸約5.00m、短軸約3.30mで北西ラインを基軸として長軸の方向はN-46°-Wである。検出面から生活面までは約5cm~10cmである。遺構の中心部分に調査区南北ベルトが入り、締まりの強い硬化面を検出しようとしたが硬化面は確認できなかった。また、P1は約14cm、P2は約32cmの深さの主柱穴を検出し、北西部に一部ベッド状遺構を伴っている。硬化した部分は多少確認できるが、掘削時に掘りすぎたため図化するまでには至らなかった。



- S125埋土
- 1 Hue10YR3/4 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm次の橙色粒子、ローム粒子(肌色の粒子)をやや多く含む 炭化物やや含む
 V層ブロックとVI層ブロックが混ざる
- 柱穴
- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm次の橙色粒子をやや多く含むVI~VII層ブロックを多く含む

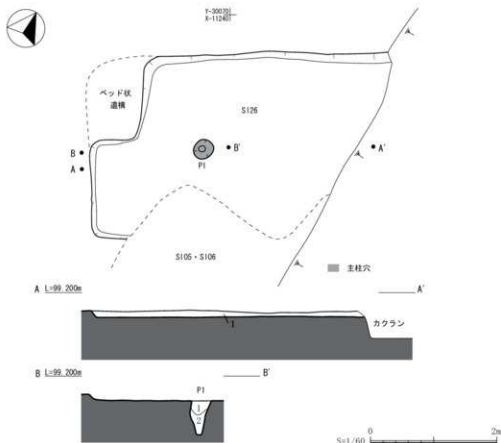
第 8 3 図 3 区 S125 平面図土層断面図



第 8 4 図 3 区 S125 出土遺物実測図

S125 K・L・15・16 Grid上に位置する遺構である。調査区の東部にあり、遺構の東側を圃場整備用道路の攪乱に壊されているため長軸は不明であるが、短軸は3.4m以上を図る。この遺構の北側をS116、南側をS126に切られている。長軸の方向軸はN-80°-Eであり、ほぼ東西軸を基軸としている。東側が攪乱を受けているため、明確に主柱穴とは言えないが、P1は約34cmの深さがあり主柱穴の可能性が高いと言える。また明瞭な締まりの強い硬化面が確認できた。検出面から生活面までは約16cm以上を図る。V層検出の堅穴住居に炉跡は検出できなかったが、S125に関しては炭化物の集中部分を確認できた。但し掘り方を有しておらず焼土粒子の混入もなかった。

出土遺物(図88-9・図88-7)は甕の口縁部分であり、口縁部は平縁で端部は垂れ下がり気味である。2つの甕は復元口径が約30cmの甕である。また、この住居で検出された弥生土器の口縁外面に煤が付着しており、煮炊き用に使用されていた可能性が高いと言える。



S126埋土

1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大の橙色粒子、ローム粒子(肌色粒子)をわずかに含むV層ブロックが主体でS125に比べV層ブロックが少ない

柱穴

1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大の橙色粒子を若干含む V層(にが)ブロックをわずかに含む
 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い V層ブロックを多く含む。1に比べサラサラしており、下層にV層(ローム)ブロック混じる

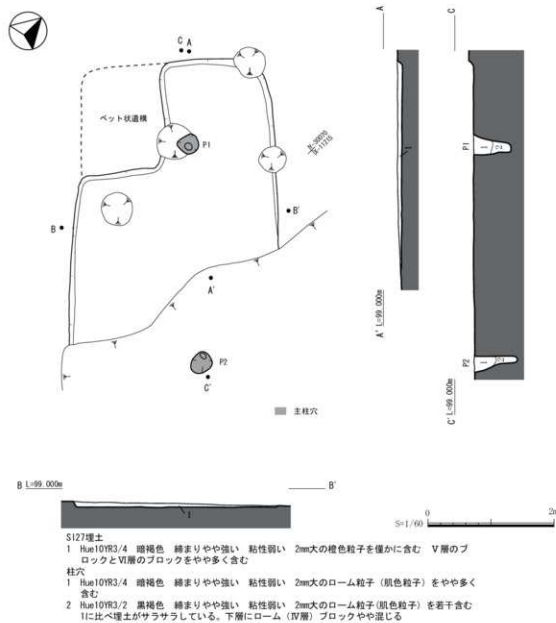
第85図3区S126平面図土層断面図



第86図3区S126出土遺物実測図

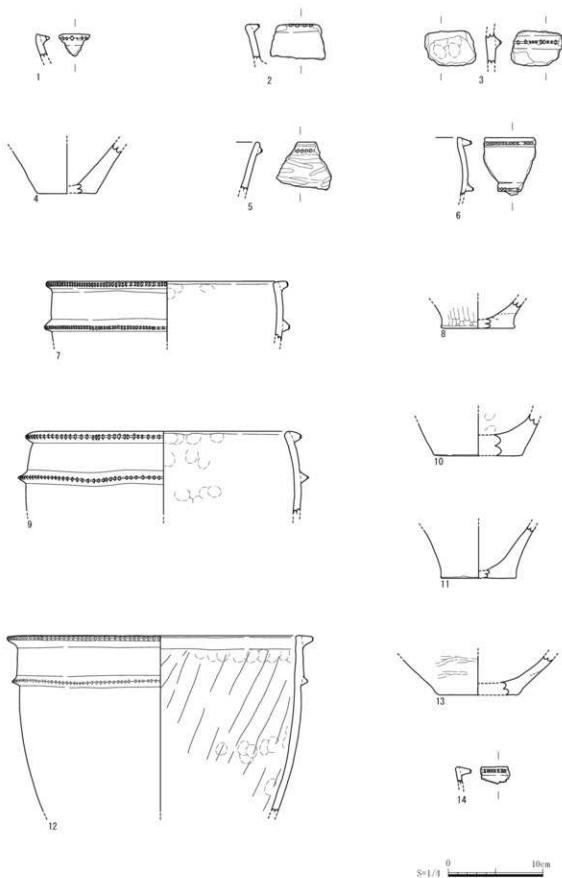
S126 K・L・16G rid上に位置する遺構である。この遺構の東半分を圃場整備用道路の攪乱によって壊されている。また、南側はS105・06による削平を受けている。長軸・短軸は不明であるが、残っている西半分から確認できる支柱穴はP1で(深さ約54cm)ある。また、形状から考えて北東ラインを基軸とするN-50°-Eである。硬化面やが跡は確認できないが、西側にベッド状遺構が存在した可能性が高い。

出土遺物(図88-6・図88-14)は2つとも甕の口縁部分であり、その上面は平坦である。また、貼付突帯部分が鋭角な三角形であり刻み目も細かく仕上げられている。口縁の内側には突起はなく、端部が垂れ下がり気味である。復元口径は約30cmの甕である。指頭圧痕があり横に撫でてはいるが一部摩耗のためにはっきり見えない。

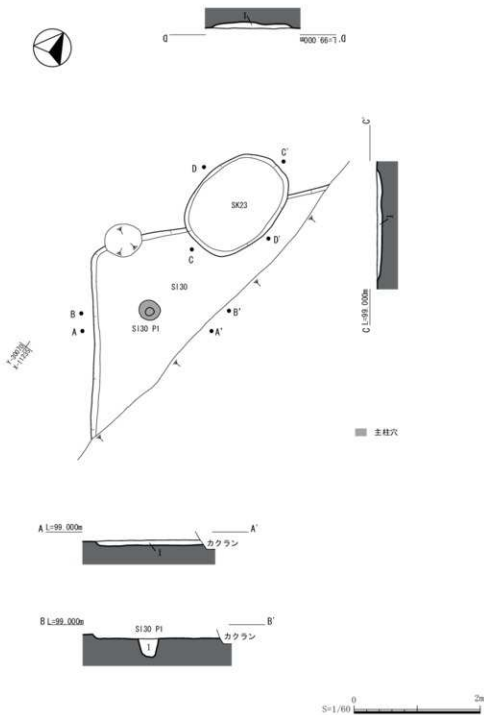


第87図3区S127平面図土層断面図

S127 K・L-11G rid上に位置する遺構である。V層検出整穴住居の集中部分の北端で検出した遺構である。東側を園場整備用道路の攪乱に壊されているため、長軸は測定できないが短軸は3.3mである。北西ラインを基軸としてN-48°-Wである。IV層調査時に地形の下り及び攪乱の浸み込みを溝と誤認したため、東側を掘削してしまったが主柱穴P1・P2を検出した。P1は約60cm、P2は約70cm以上の深さを測り、ともにロームまで掘り込まれていた。また、灰跡や明瞭な硬化面は検出できなかった。この遺構の北西部はベッド状遺構の可能性が高い。



第 8 8 圖 3 区 S125 · S126 · S127 出土遺物実測圖



SK23埋土

1 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm次の種やローム粒子(肌色の粒子)を若干含む 埋土ブロック状

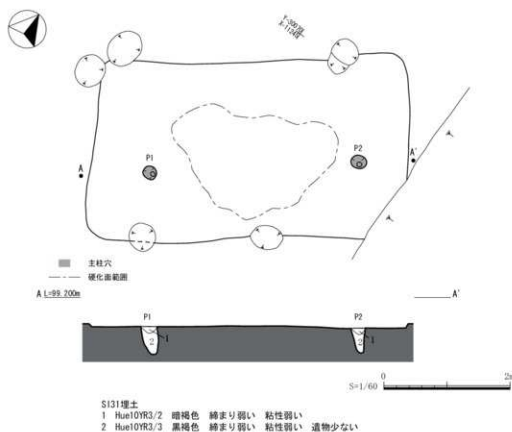
S130埋土

1 Hue10YR3/2 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm次のローム粒子(肌色粒子)をやや多く含む 炭化物がやや混じる
埋土ブロック状

柱穴

1 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm次のローム粒子(肌色粒子)を若干含む 下層は埋土ブロック状

第 8 9 図 3 区 S130・SK23 平面図土層断面図

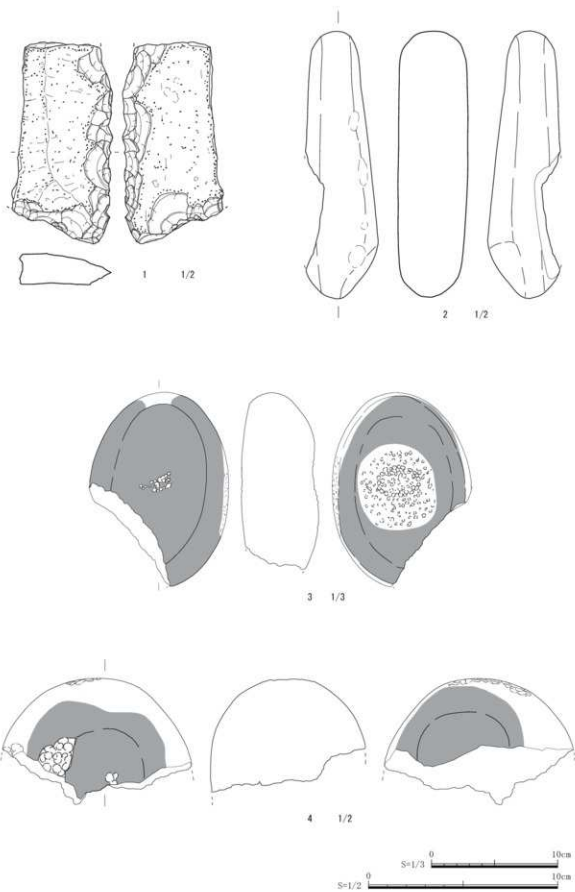


第90図3区S131平面図土層断面図

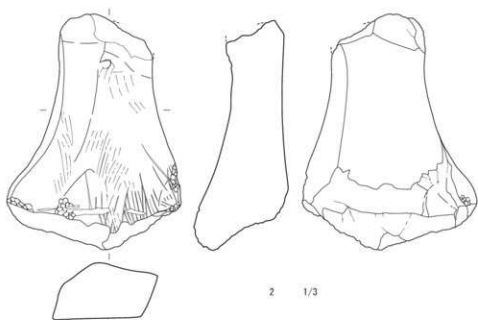
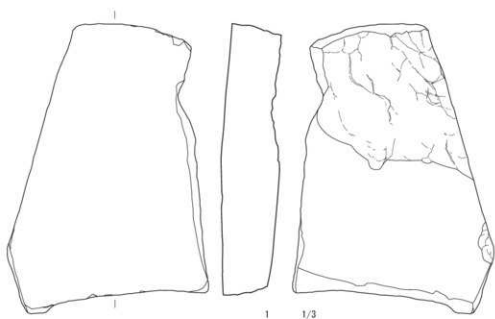
S130 L・14 Grid上に位置する遺構である。この遺構の東側の4分の3が道路の圃場整備の視乱により壊されており、北東ラインを基軸としてN-47°-Eである。長辺や短辺の長さは不明であるが、他の住居跡とほぼ同形であると考えられる。主柱穴が1つ検出できただけであり主柱穴の深さは約27 cmを測る。検出面から生活面まで約10 cmである。西側をSK23に切られている。

SK23は、S130と同じくV層検出遺構であり長軸1.75 m、短軸1.35 mを測り、深さ約10 cmと浅く楕円形の土坑である。SK23とS130との新旧関係はS130(古)→SK23(新)である。埋土はSK23がやや黒褐色が強く2 mm大の礫を含んでいる。

S131 K・L・17 Grid上に位置する遺構である。長軸約5.0 m、短軸約2.80 m、長軸の方向軸は北東を基軸としてN-53°-Eである。V層調査時に検出できずにVI層調査時に確認した遺構である。上端はVI層への浸み込み部分なので厳密に遺構の平面プランを表していない。したがって、硬化面をもとに周りのVI層の土質との違いで平面プランを図化したものである。硬化面はこの遺構の中央に締まりの強い部分として存在し、主柱穴(P1・深さ44 cm)、(P2・深さ40 cm)も確認できた。



第91圖3區出土遺物實測圖(8)



0 10cm
S=1/3

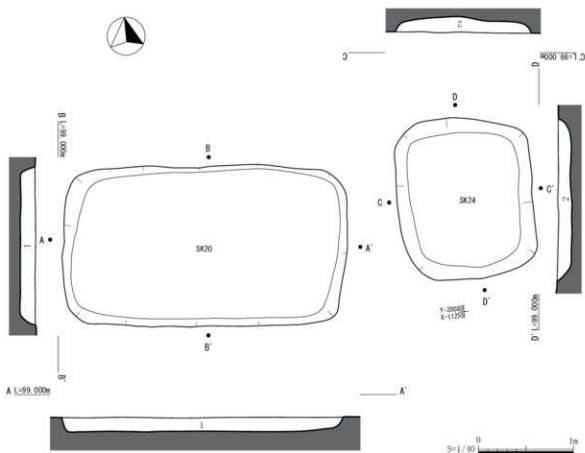
第9 2 圖3 區出土遺物實測圖 (9)

土坑

SK20 I-18G rid上に位置する遺構である。V層検出遺構である。長軸は約300cm、短軸は約165cm、深さは約18cm以上を測る大型の土坑である。長軸の方向軸はN-83°-Wで、形態は隅丸長方形を呈する。検出時には明るめのIV層ブロックのようにみえたが、埋土からV層検出遺構である。SK25・26・27に埋土が近く単層である。

SK21・22 J-17G rid上に位置する遺構である。SK21は長軸約140cm以上を測ると推測され、短軸は約122cm、深さは約16cmを測る大型の土坑である。長軸の方向軸はN-80°-Wでほぼ東西を向いている。SK22は長軸約160cm、短軸約140cm、深さ約10cmを測る。SK21・22の新旧関係はSK21(古)→SK22(新)である。SK21はVI層中位、SK22はVI層上層まで掘り込まれており、V層検出のS109を切っている。SK21はS109より埋土に黒みがかっており、SK22はさらに黒くみえた。ともに出土遺物は検出されなかった。

SK24 I・J-18G rid上に位置する遺構である。V層検出遺構である。長軸は約170cm、短軸は約142cm、深さ約18cmを測る大型の土坑と言える。長軸の方向軸はN-5°-Wのほぼ北向きであり、形態は隅丸方形を呈している。SK20の東側から検出され、表土はSK21・22に近く単層である。



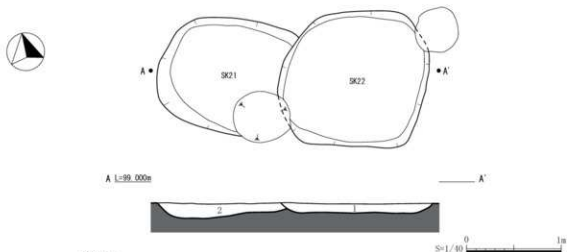
SK20埋土

1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(肌色粒子)をやや多く含む V層ブロックを多く含む下層ほど多い 埋土ブロック状

SK24埋土

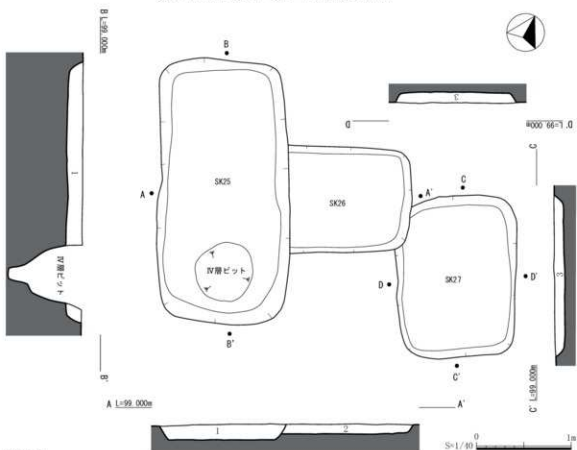
2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まりや強い 粘性弱い 2mm大の橙やローム粒子、橙色粒子を若干含む 埋土ブロック状

第9-3図3区 SK20・SK24 平面図土層断面図



- SK22埋土
 1 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(棕色の粒子)をやや多く含む
 SK21埋土
 2 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(棕色の粒子)褐色粒をやや多く含む 20~30mm大の珪層ブロックやや混じる

第94図3区 SK21・SK22 平面図土層断面図



- SK25埋土
 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大の礫、ローム粒子(棕色粒子)をやや多く含む VI層ブロックを含むが下層ほど多い埋土ブロック状
 SK26埋土
 2 Hue10YR3/4 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大の礫、ローム粒子(棕色粒子)を若干含む SK25に比べ珪層ブロック少ない 炭化物含む埋土ブロック状
 SK27埋土
 3 Hue10YR3/4 暗褐色 締まり強い 粘性弱い 2mm大の褐色粒子、ローム粒子(棕色粒子)をやや多く含む SK25・26に比べ珪層ブロックは少ないものの下層ほど多く混ざる

第95図3区 SK25・SK26・SK27 平面図土層断面図

SK25 H・16・17G rid上に位置する遺構である。長軸は約280cm、短軸は約130cm、深さは約18cmを測り大型の土坑と言える。長軸の方向軸は北西を基軸としてN-35°-Wである。

この遺構の南側に径約60cm、深さ約80cmのV層検出ピットがある。底面は平らであり、出土遺物は検出できなかった。

SK26 I・16・17G rid上に位置する遺構である。長軸は分からないが短軸は約110cm、深さは約10cmを測る。方向軸は北東を基軸としてN-55°-Eであり形態としては長方形を呈している。SK25に切られ出土遺物は検出できなかった。

SK27 I・16・17G rid上に位置する遺構である。長軸は約170cm、短軸は約120cm、深さは約12cmを測る。方向軸はSK25と同じく北西を基軸としてN-30°-Wであり、形態は長方形を呈する。

SK28 I・J・16G rid上に位置する遺構である。長軸約140cm、短軸約90cm、深さ約14cmを測る。長軸の方向軸はほぼ東西を基軸としている。形態は楕円形を呈しており出土遺物は検出できなかった。

SK29 I・13G rid上に位置する遺構である。長軸は約150cm、短軸は約110cm、深さは約22cmを測る。V層検出の土坑であり、検出時にIV層がやや暗くなった色調で平面プランが設定できた。方向軸はほぼ南北であり、出土遺物は検出できなかった。

SK31 K・L・19G rid上に位置する遺構である。長軸約110cm、短軸約90cm、深さ約18cmを測る。東西軸を基軸として形態は楕円形を呈する。S120の北側に位置し、掘り方はVI層中位まで掘り込まれている。特に出土遺物は検出されなかった。

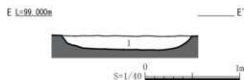
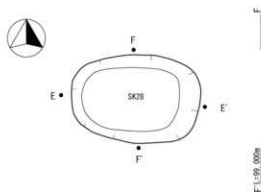
SK32 J・21・22G rid上に位置する遺構である。長軸は約100cm、短軸は約72cm、深さは約10cmを測る。長軸の方向軸は北東を基軸としてN-50°-Eである。形態は楕円形を呈している。埋土はSK35に近く出土遺物は検出されなかった。

SK33 J・10G rid上に位置する遺構である。長軸は約166cm、短軸は約128cm、深さは約10cmを測る。長軸の方向軸は北東を基軸としてN-60°-Eである。形態は隅丸方形を呈している。この遺構はVI層中位まで掘り込まれ、埋土はSK34に近いがやや黒味を帯びる。南西部をIV層検出ピットに切られている。

SK34 K・10G rid上に位置する遺構である。長軸は約110cm、短軸は約86cm、深さは約10cmを測る。長軸の方向軸は北西を基軸としてN-83°-Wである。形態は楕円形を呈している。この遺構はVI層中位まで掘り込まれている。埋土は黒味があったIV層のブロック状の土質でV層検出遺構の土質に近い。

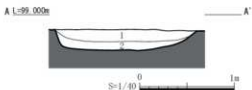
SK35 J・10G rid上に位置する遺構である。長軸は約140cm、短軸は約70cm、深さは約20cmを測る。長軸の方向軸は北西を基軸としてN-10°-Wである。形態は隅丸長方形を呈している。V層検出遺構であるが、VI層中位まで掘り込まれている。黒味があったIV層のブロック状で確認される弥生の遺構埋土からすると黒味が少し抜けた土色になっている。

SK36 J・12G rid上に位置する遺構である。調査区の中央北側に位置し、溝状の攪乱によって南側を半分以上填されている。長軸・短軸ともに測定できないが深さは10cmを測る。形態は隅丸長方形を呈している。長軸の方向軸は北西を基軸としてN-52°-Wである。この遺構の中央にIV層検出ピットがあり、VI層中位まで掘り込まれている。埋土はV層検出遺構の堅穴住居跡の土質に近い。



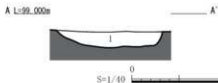
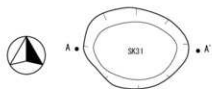
SK28埋土

- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(肌色粒子)、橙色粒子を若干含む、VI層ブロックやや多く含む



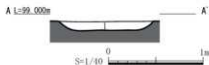
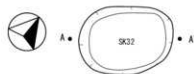
SK29埋土

- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム、ローム粒子(肌色の粒子)を若干含む
- 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(肌色の粒子)をやや多く含む VI~VII層ブロック(2~3cm大)をやや含む、下層ほど多い。



SK31埋土

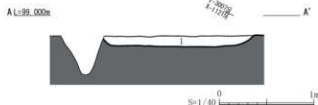
- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(肌色粒子)橙色粒子を若干含む 20~30mm大のVI層ブロックやや多く含む



SK32埋土

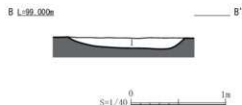
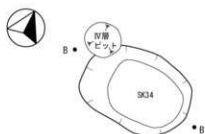
- 1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い VI層ブロックやや混じる(※埋土はSK35に近い)

第9 6 図 3 区 SK28・SK29・SK31・SK32 平面図土層断面図



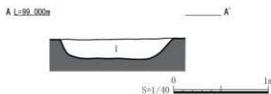
SK33埋土

1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(肌色の粒子)、礫をやや多く含む VI層ブロック(2~3cm)をやや含む 炭化物若干含む 埋土ブロック状



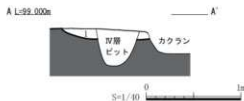
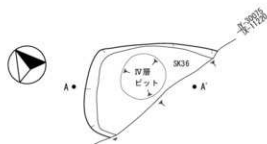
SK34埋土

1 Hue10YR3/4 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(肌色の粒子)を若干含む 埋土ブロック状



SK35埋土

1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(肌色粒子) 橙色粒子を若干含む 2~3mm大の VI層ブロックをやや多く含む



SK36埋土

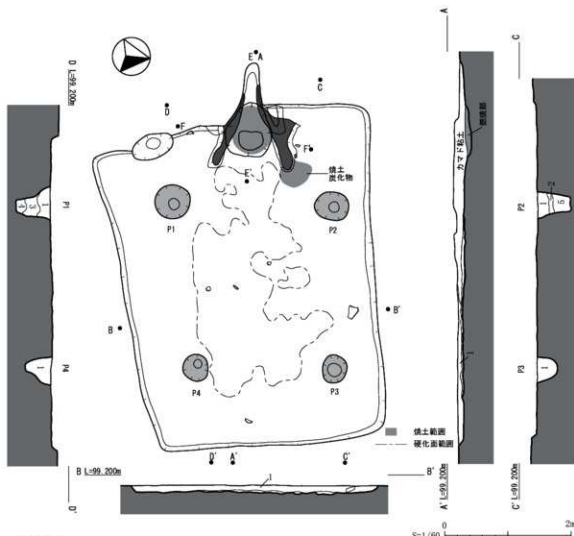
1 Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大のローム粒子(肌色粒子)をやや多く含む 2~3mm大の VI層ブロックが下層にやや混じる

第97図3区 SK33・SK34・SK35・SK36 平面図土層断面図

(4) IV層検出遺構

竪穴住居跡

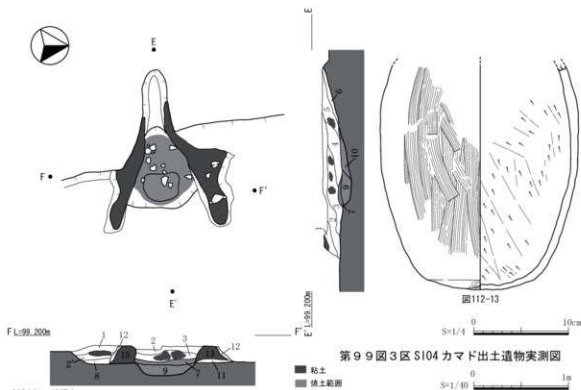
古代のカマド付き住居跡を6軒検出した(S104・05・06・17・18・21)。調査区東側の圃場整備用道路の攪乱によって壊されていたが、S104はきれいな形状のまま残存していた。S105・06の下層から検出した遺構がS117・18である。6軒の住居跡がカマド付きで、S104とS121は西カマドを有し、S105・06・17・18は北カマドを有していた。焼成部も残っており、焼土範囲やカマドのソデ部分を図化することができた。S104とS121は4本の主柱穴を確認し、30cmから70cm以上の掘り方を測る。V層検出遺構の弥生住居跡とは違って、硬化面が厚くしっかりとしたもので広がりもはっきりしていた。遺構内には土師器の甕などの遺物も出土している。



S104硬化面

- | | | | | | |
|-----------------------|-------------------------|-----------|---------|----------------------|---------------|
| 1 Hue10YR2/3 | 黒褐色 | 締まりはやや強い | 粘性はやや弱い | 1~3mm大の焼土粒子・炭化物を多く含む | 白色のカマド粘土を少量含む |
| 柱穴 | | | | | |
| 1 Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm大の橙色粒をわずかに含む | 炭化物片を若干含む |
| 2 Hue2.5Y3/2 | 黒褐色 | 締まりよりやや弱い | 粘性弱い | 2mm大の橙色粒子をわずかに含む | 2mm大の礫をわずかに含む |
| | | | | | 埋土はややブロック状 |
| 2 Hue2.5Y3/2 (2よりやや明) | 2mm大の橙色粒子和炭化物片をごくわずかに含む | | | | 埋土はブロック状 |
| 3 Hue10YR3/3 | 暗褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2~3mm次のローム層 | ブロックをやや多く含む |
| 4 Hue10YR2/2 | 黒褐色 | 締まり強い | 粘性弱い | 2mm大のローム粒子を含む | 埋土はブロック状 |
| 5 Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm大礫とローム粒子を若干含む | 上層ほど多く含む |
| | | | | | 埋土はブロック状 |

第98図3区S104平面図土層断面図掘方平面図



第99図3区S104カマド出土遺物実測図

S104カマド埋土

- 1 Hue10YR2/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm次の礫多く含む 5~10mm次の白色粘土やや多く含む 2mm次の焼土わずかに含む
- 2 Hue10YR3/2 黒褐色 締まりよりやや強い 粘性非常に多い 2mm次の礫やや多く含む 5~10mm次の白色粘土よりやや多く含む 2mm次の焼土粒子わずかに含む
- 3 Hue2.5YR3/2 黒褐色 粘性弱い 50~100mm次の白色粘土 塊を非常に多く含む(崩壊したときの粘土は2mm次の礫・焼土粒子やや多く含む 締まりやや強い 粘性やや強い)
- 4 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2~4mm次の粘土粒子・焼土粒子やや多く含む 2mm次の礫はやや少ない
- 5 Hue2.5Y3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性やや弱い 50~100mm次の白色粘土非常に多く含む 焼土粒子の混ざりは少ない
- 6 Hue2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2~4mm次の白色粘土粒子・焼土粒子やや多く含む
- 7 Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm次の白色粘土やや多く含む 2~5mm次の焼土粒子非常に多く含む
- 8 Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 粘土粒子わずかに含む

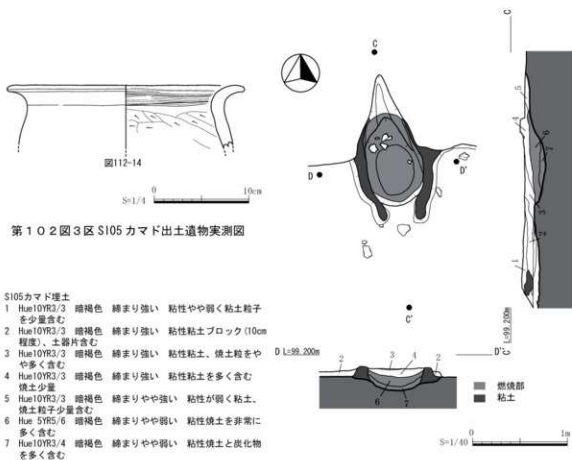
ソデ部分埋土

- 11 Hue10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm次の焼土粒子と白粘土粒を多く含む
- 12 Hue10YR4/2 暗灰黄色 カマドソデ 白粘土粒子を非常に多く含む 2よりやや暗 粘土粒子・焼土粒子はより少ない
- 13 Hue5YR/2 灰白色 カマドソデ 白粘土

第100図3区S104カマド平面図土層断面図

S104 J・K・15・16 Grid上に位置する遺構である。長軸約5.30m、短軸約4.00m、検出面から生活面までの深さが約10cmであり、方向軸としてN-100°-Eを測り西カマドを有する。カマドの掘り方は約30cmを測り、燃焼部や煙道がしっかり残っている。遺構の崩壊時の埋土が東側(竅穴住居中央方向)に広く散在するため、中央方向から硬化面とカマドのソデ痕が検出できた。煙道は燃焼部分にかけて白色粘土が全体的に入っていた。崩壊時の白色粘土混じりの埋土には焼土粒子や礫が混ざっておりソデの白色粘土には混ざらない。崩壊時の埋土を除去していくと焼成面と赤色に変色した白色粘土がみられ、ソデであることが分かる。またカマドの燃焼部から土師器の模倣坏(図112-9)が出土している。遺構内にはP1~P4のピットが検出され、P1は約67.7cm、P2は約67.5cm、P3は約34.5cm、P4は約49.7cmの深さを測る。主柱穴であることが確認でき、柱間寸法のP1~P2は2.5m、P2~P3は2.5m、P3~P4は2.1m、P4~P1は2.6mである。P1・P2は土層断面から人為的に埋められた可能性が高い。

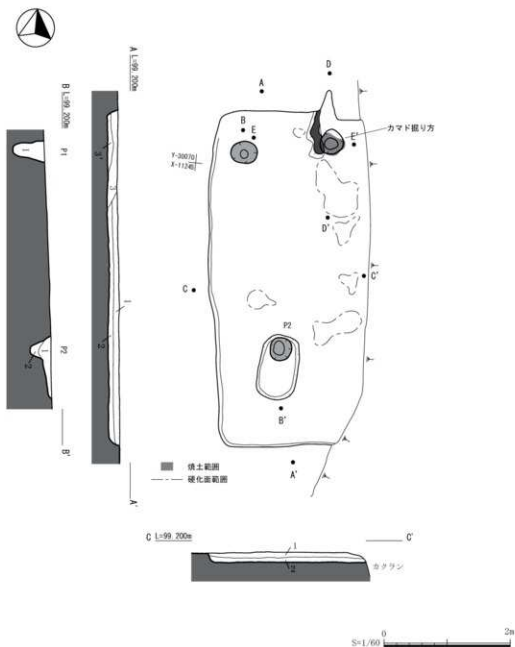
出土遺物(図112-9)はカマド燃焼部から出土した土師器の坏で器高約5cm・口径約14cmのほぼ完形である。橙色で色塗りをしており回転ナデ・ヘラ削りを施したあと磨きをかけている。内外面に黒斑がみられる。またカマドからは土師器の甕(図112-13)が出土している。(図112-9)と比べると何度も煮炊き用として使用されたことがわかる。



第103図3区S105カマド平面図土層断面図

S105 K・L・16・17 Grid上に位置する遺構である。遺構の東側は攪乱(圃場整備用道路)で壊されている。また南側はS106で切られている。南北約4.50m東西は測定不能である。P1は約23.1cm、P2は約17.1cmの深さを測り、主柱穴を2基検出することができた。P1とP2間は3.4mを測る。北カマドを有し煙道や硬化面もしっかり残っていた。カマドの掘り方は約23cm以上を測り、カマド内には土器片が残っており燃焼部にも焼土粒がしっかり残っていた。S104は床面の上に白色粘土を置いてソデを作っているが、S105はカマドの設置時にソデの設置部分を床面よりやや低く掘り下げている特徴がある。S105とS106との新旧関係は、S105(古)→S106(新)である。遺構内には、土師器の甕(図112-14)などが出土している。

出土遺物(図112-15)は埋土1層から出土した壺の口縁で復元口径は約20cmである。赤色顔料を塗布しており、厚みも1.3cmと厚めにできている。S106と重複しているためにS105に伴う土器であるとは断言できないが貯蔵用として使用していた壺であると言える。出土遺物(図112-14)はカマドから検出した土師器の甕で赤色顔料は使用しておらず、煮炊き用として使用していたものと推測される。



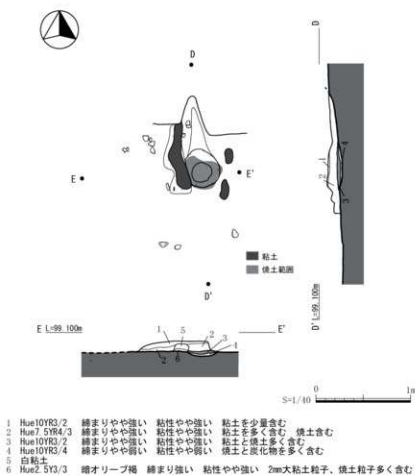
S106埋土

- | | | | | | | |
|----|------------|-----|------------|-------------|----------------------|---------------------------|
| 1 | Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm大の棕色粒子を多く含む | 炭化物やや含む |
| 2 | Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まり3よりやや強い | 粘性強い | 2mm大の棕色粒と白粘土粒子を多く含む | |
| 3 | Hue10YR3/2 | 暗褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm大の焼土粒子と白粘土粒子を多く含む | |
| 3' | Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 3よりやや強い | 締まりは3よりやや強い | 粘性弱い | 2mm大の焼土粒子と白粘土粒子を3よりやや多く含む |

柱穴

- | | | | | | | |
|---|------------|-----|-------|------|--------------------------|-----------|
| 1 | Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まり弱い | 粘性弱い | 2mm大の白粘土粒子・焼土粒子を多く含む | 炭化物わずかに含む |
| 2 | Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まり弱い | 粘性弱い | 2mm大の白粘土粒子・焼土粒子は1よりやや少ない | 炭化物含む |

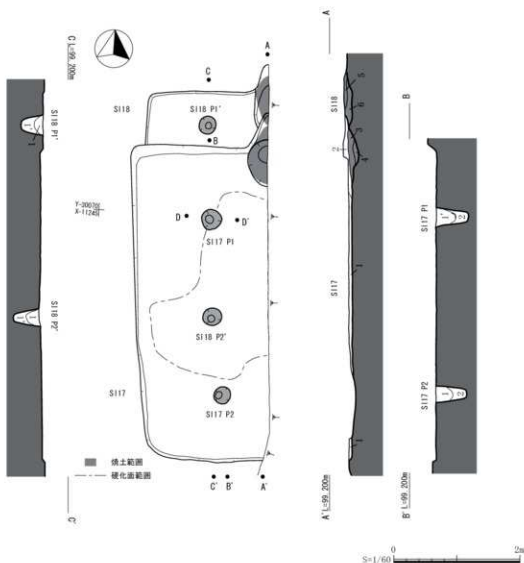
第104図3区S106平面図土層断面図



第105図3区S106カマド平面図土層断面図

S106 K・L-16・17 Grid上に位置する遺構である。S105の南側に有り、この遺構の東側半分は圃場整備用道路の視乱によって壊されている。深さがP1は約30cm、P2は約19cmの主柱穴を2基確認した。P1とP2間は約3.2m以上を測る。P2は主柱穴を設置する際に何故か8cm程度土坑を広く掘っている。S106に関しては、主柱穴の軸は竪穴住居の軸よりカマドの軸に近い。検出面から生活面までは約15cmを測り、南北軸約5.2mを測る古代の竪穴住居跡である。硬化面は図化している部分であるが、締まりの強い部分はやや広域に広がっている。S106のカマドは、掘削時に粘土範囲の中心軸で検出を始めたが、想定位置中心に焼成部分は確認できなかった。中心軸より少しずれた位置に焼土の広がる範囲を確認したため想定を変更し今に至る。S104・05ほどカマドの残りは良くなく、西側のソデのみ残存しており、東側は床面に粘土が一部貼り付いている程度でしかなかった。カマドの掘り方は約16cm以上を測り、この遺構から土師器の坏（図112-12・図112-16）や皿（図112-17）などが出土している。

出土遺物（図112-16）は埋土1層から出土した土師器の坏で、復元口径約13.0cm・器高約4.4cmを測り、底部はやや丸みを帯びている。（図112-12）は埋土2層から出土した土師器の坏で、復元口径約10.4cm・器高約3.6cmと小型であり、底部がやや丸みを帯びている。また（図112-17）は土師器の皿で、復元口径約15.6cm・器高約2.4cmを測る。内外面に赤色顔料を使用している。



S117埋土

- Hue10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大粘土粒子 焼土粒子をわずかに含む
- Hue10YR3/3 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大粘土粒子 焼土粒子や炭化物、礫をやや多く含む
- Hue10YR3/4 暗褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大礫をやや多く含む 20~40mm大の粘土（白色粘土） 焼土のかたまりをやや多く含む
- Hue2.5Y3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大の礫 炭化物をやや多く含む 30~50mm大の焼土のかたまり多くふくむ 炭化物やまじる（カマド焼成部）
- Hue2.5Y3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2mm大の粘土粒子 焼土粒子をやや多く含む（カマド崩壊時埋土）
- Hue2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 締まりやや強い 粘性弱い 10~20mm大の焼土粒子非常に多く含む 炭化物やや含む（カマド焼成部）

柱穴

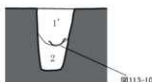
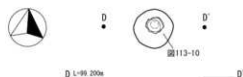
B-B' (S117)

- Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大焼土粒子 炭化物 白色粘土粒子をやや多く含む
- Hue10YR3/2 1より白色粘土粒子を多く含む 20~30mm大の白色粘土含む
- Hue10YR3/1 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 基本土層直層のブロック含む

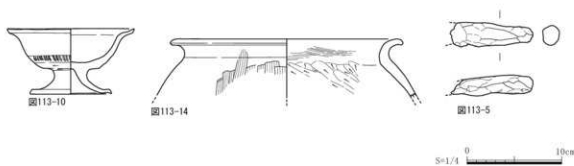
C-C' (S118)

- Hue10YR3/2 黒褐色 締まり弱い 粘性弱い 2mm大の橙色粒子 ローム粒子を若干含む
- Hue10YR3/2 1よりやや黒い 直層ブロックやや混じる

第106図3区S117・S118平面図土層断面図



第107 図3区 S117 P1 遺物出土状況

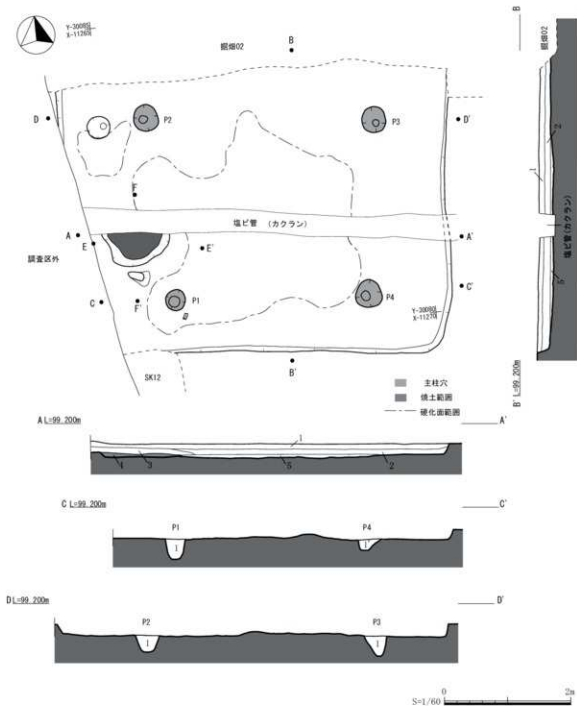


第108 図3区 S117 P1 出土遺物実測図

S117 L・16・17 Grid上に位置する遺構で、調査区東端のS105・06の下層から検出したIV層遺構である。長軸が4.50 m、短軸は東側半分を圃場整備用道路の擾乱によって壊されているため測定できない。南北軸を基本軸としてN・7°・Wである。S106の掘削時に遺構の北西部も掘削しているため、一部はつきりしないところがある。カマドは北側についているがS105・06に削平を受けているため、ソデ痕を確認することはできなかった。焼土範囲と焼成部の崩り方を記録することはできた。S117のP1は約50 cmの深さで高環の土師器(図113-10)が出土している。土層確認の際、カマドで使用したと思われる白色粘土の塊と粘土粒子を多く含む土が入っており、住居廃絶時の遺物廃棄行為の可能性が高く、その時使われていたカマドも壊して入れていたと考える。

S118 S117に切られているため住居の形状は不明だが、S117と同じくカマドが北側についており、焼土範囲と焼成部のみを確認した。また、P1・P2の主柱穴を検出しP1が約36 cm、P2が約40 cmの深さを測る。主柱穴の軸から基本軸はS117と同様で南北ラインでありN・4°・Wである。S117とS118との新旧関係は、S118(古)→S117(新)である。

出土遺物(図113-10)はS117のP1中位から出土した高環である。口径約13.4 cm・器高約6.9 cm・脚の高さ約2.5 cmを測る。坏部に刺突文が施され赤色顔料が塗られている。柱穴から出土したことから住居を放棄した際に一緒に捨てたものと推測される。(図113-5)はS118から出土した遺物で、土製品(焙烙の柄)であるが、残存している部分が工具を使ってナゲただけの作りである。



S121埋土

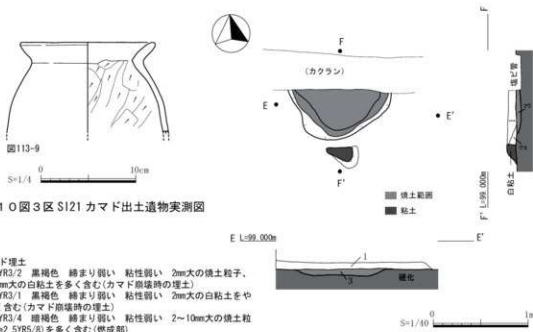
- | | | | | |
|--------------|-----|---------|------|--|
| 1 Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まり弱い | 粘性弱い | 2mm大のローム粒子 (肌色粒子) や硬、褐色粒子をやや多く含む |
| 2 Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm大のローム粒子 (肌色粒子)、褐色粒子、白色粘土粒子をやや多く含む |
| 3 Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まり弱い | 粘性弱い | 2mm大の焼土粒子、2~10mm大白色粘土を多く含む (カマド崩壊時の埋土) |
| 4 Hue10YR3/4 | 暗褐色 | 締まり弱い | 粘性弱い | 2~10mm大の焼土粒子、(Hue2.5YR5/8 明赤褐) を多く含む (カマド焼成部) |
| 5 Hue10YR3/3 | 暗褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 上層に一部焼成がみられる 2mm大の褐色粒子、ローム粒子 (肌色粒子) を若干含む (貼床) |

柱穴

- | | | | | |
|--------------|-----|---------|------|---|
| 1 Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm大のローム粒子 (肌色の粒子) 炭化物をやや多く含む 炭化物若干含む 下層埋土ブロック状 |
|--------------|-----|---------|------|---|

- | | | | | |
|---------------|-----|------------|--|--|
| 1' Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 1)に比べやや締まる | | |
|---------------|-----|------------|--|--|

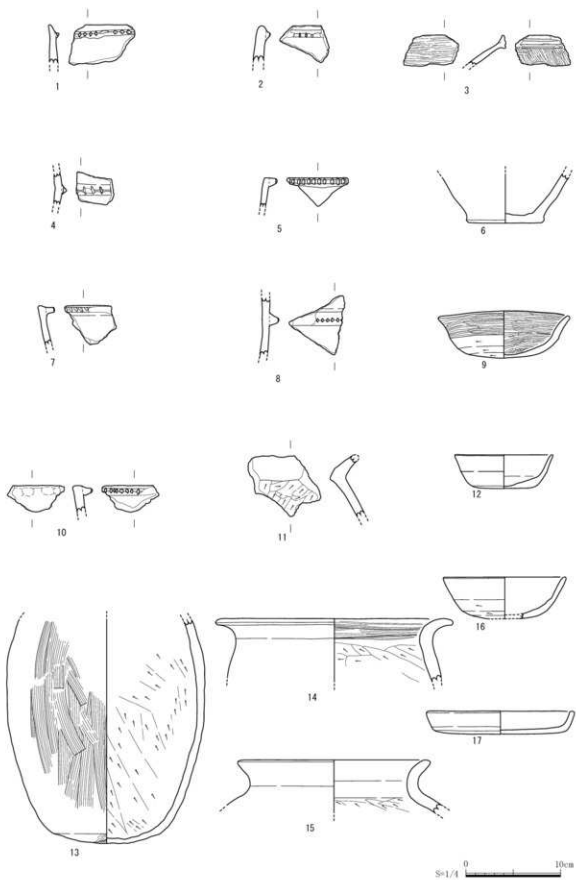
第109図3区S121平面図土層断面図



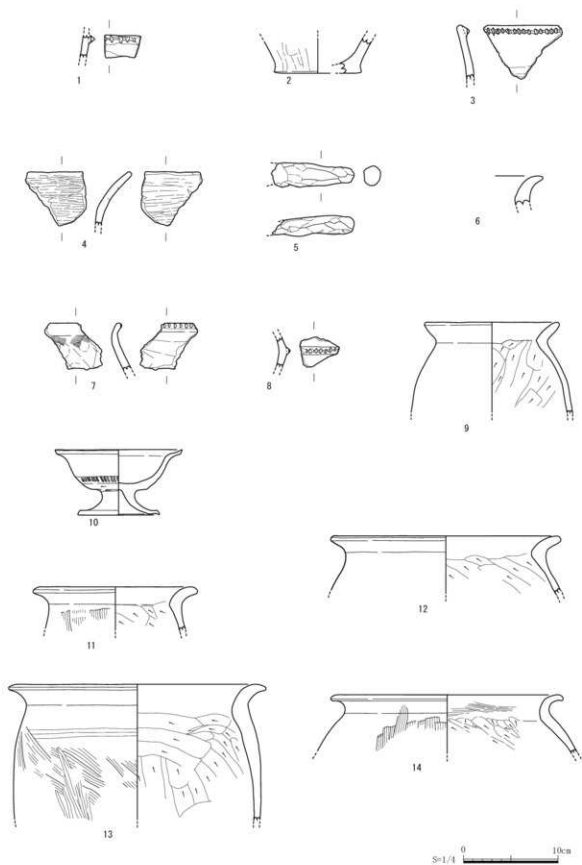
第111図3区S121カマド平面図土層断面図

S121 I-2IGrid上に位置する遺構である。長軸は約6.20m、短軸は北側を堀畑02で壊されているが、約4.50mで検出面から生活面まで約16~20cmである。長軸は東西ラインを基軸としてN-86°-Wである。中央付近には整地した跡が見られる。掘削時に2~3cm程度掘りすぎているため、平面図で記してある硬化面範囲は貼り床を整地した所で、それよりやや広がる範囲が本来の硬化面にあたる。また、これまでのV層検出遺構の貼り床とは違い、かなり硬くしまったブロック状の硬化面となっている。この遺構はIV層検出遺構であるが、IV層調査時に検出できずにV層上面で確認した遺構である。P1~P4の支柱穴を持ちP1は約32cm、P2は約28cm、P3は約34cm、P4は約20cmの深さを測る。この遺構の西側にカマドがある。ただしカマドは壊れており、北側に白色粘土が散乱して燃烧部が確認できる程度である。出土遺物も土師器(図113-13)と縄文土器や弥生土器なども遺構内に出土している。これらの縄文・弥生の土器片は流れ込みの可能性が高いと考えられる。

出土遺物は土師器の甕(図113-9・11・12・13)が多く、復元口径が14.0cm~27.0cmの甕が出土している。(図113-13)は埋土1層から出土した土師器の甕で、復元口径約27.2cmの砲弾形をしていて、外面に煤が付着している。(図113-11)は埋土1層から出土した土師器の甕で、復元口径が約17.4cmで頸部から腹部にかけて縦にハケメを入れている。また、内面に黒斑が見られる。(図113-12)はカマドから出土した土師器の甕で、復元口径は約14.2cmの小型の甕である。内面には黒斑があり、外面は煤が付着している。(図113-12)は住居の貼り床直上から出土した甕で復元口径24.3cmを測る。



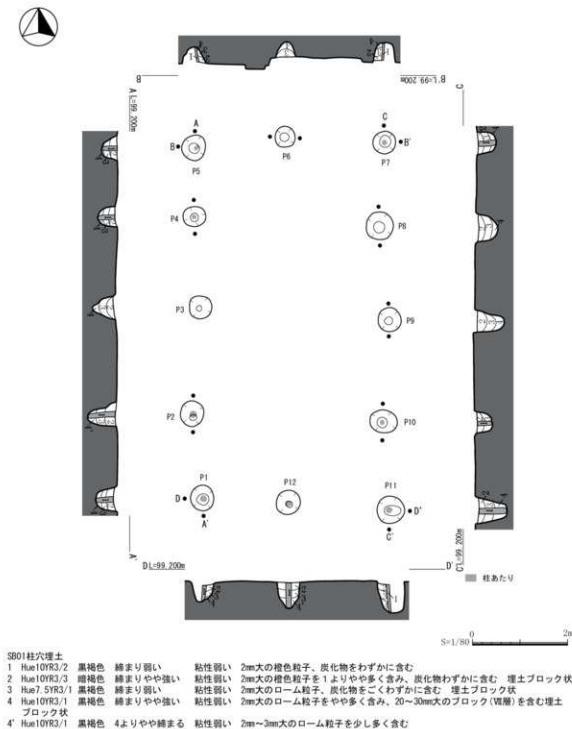
第 1 1 2 图 3 区 S104·S105 出土物实测图



第 1 1 3 图 3 区 S117 · S118 · S121 出土物实测图

掘立柱建物

掘立柱建物SB01からSB06について、2軒×4軒を1棟の建物として存在している。SB01とSB04が主軸と南北とする掘立柱建物で、SB02・03・05・06が東西軸を主軸としている。建物を構成する柱穴からの遺物の出土がないため年代を知ることはできない。現時点での判断としては、IV層検出遺構であり周囲にカマド付き住居跡を検出していることから判断して、古代に関連する倉庫群の可能性を想定して記している。

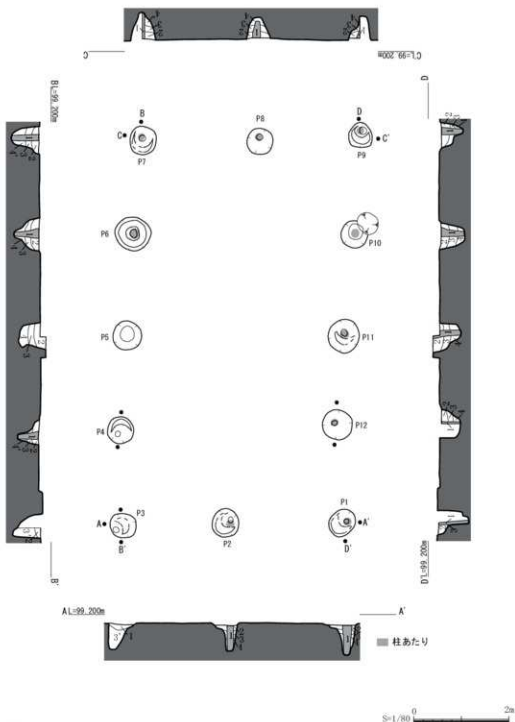


第114図3区SB01平面図土層断面図

SB01 J・K・17・18・19G rid上に位置する遺構である。桁行4間(A-A')は約7.5mで、梁行2間(B-B')は約4.0mで方向軸はN-3°-Wである。P1~P12の柱穴を検出し、梁行多柱型の掘立柱建物である。柱穴は径42cm~60cmの円形で深さは検出面から約32cm~64cmを測る。各柱穴の長径・深さ(cm)はP1から順にP1(56・42)、P2(54・58)、P3(48・45)、P4(42・44)、P5(54・34)、P6(42・32)、P7(48・40)、P8(60・48)、P9(50・60)、P10(48・36)、P11(60・64)、P12(50・54)を測る。柱間寸法はP1~P2(1.8m)、P2~P3(2.3m)、P3~P4(1.9m)、P4~P5(1.5m)、P5~P6(1.8m)、P6~P7(2.1m)、P7~P8(1.8m)、P8~P9(2.0m)、P9~P10(2.1m)、P10~P11(1.9m)、P11~P12(2.1m)、P12~P1(1.8m)である。建物としては比較的安定していないようだが、主柱痕からしっかりした掘立柱建物である。P1・P12・P11がやや東にずれているが、柱痕が残る柱穴では、検出面から深さが約60cmの柱痕を呈するものもある。柱穴土層の4層は2・3mm次のローム粒子を少し多く含み、締まりも強くなる。

SB02 J・K・13・14G rid上に位置する遺構。桁行4間(B-B')は約8.1mで梁行2間(C-C')は約4.6mを測る。方向軸はN86°-Eで、P1~P12の柱穴を検出し、梁行多柱型の掘立柱建物である。柱穴は径50~70cmの円形で深さは検出面から約42~62cm。各柱穴の長径・深さ(cm)はP1から順にP1(60・62)、P2(56・60)、P3(54・56)、P4(56・44)、P5(60・48)、P6(70・58)、P7(60・58)、P8(56・44)、P9(50・50)、P10(58・52)、P11(70・48)、P12(62・42)を測る。柱間寸法はP1~P2(2.4m)、P2~P3(2.4m)、P3~P4(2.0m)、P4~P5(2.1m)、P5~P6(2.1m)、P6~P7(2.1m)、P7~P8(2.5m)、P8~P9(2.1m)、P9~P10(2.2m)、P10~P11(2.1m)、P11~P12(1.9m)、P12~P1(2.1m)を測る。P12は東西軸から少しずれているが、他の柱穴同様に柱穴痕が確認できることから主柱として使用されていたと言える。P6の直径は約70cmで検出面からの深さが約58cmもありかなり安定した建物だと言える。

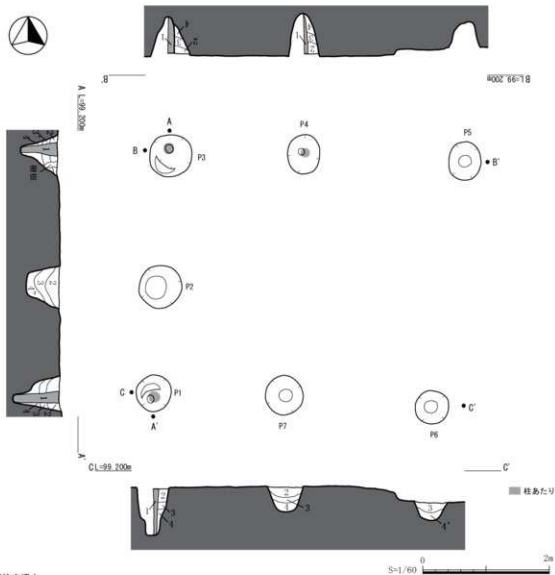
SB06 I・J・12・13G rid上に位置する遺構である。桁行4間(A-A')は約6.5mで、梁行2間(D-D')は約3.6m。方向軸はN84°-Eで、P1~P12の柱穴を検出し、梁行多柱型の掘立柱建物である。柱穴は径30~40cmの円形で、深さは検出面から約10~64cmである。各柱穴の長径・深さ(cm)はP1から順にP1(40・64)、P2(40・20)、P3(38・46)、P4(36・30)、P5(30・10)、P6(38・26)、P7(34・38)、P8(30・36)、P9(30・32)、P10(30・12)、P11(34・30)、P12(40・20)を測る。柱間寸法はP1~P2(1.7m)、P2~P3(1.9m)、P3~P4(1.7m)、P4~P5(1.7m)、P5~P6(1.5m)、P6~P7(1.8m)、P7~P8(1.7m)、P8~P9(1.6m)、P9~P10(1.8m)、P10~P11(1.5m)、P11~P12(1.9m)、P12~P1(1.5m)である。IV層・V層調査時に検出できていなかった遺構で、VI層調査時に検出した。P1・P3・P6・P7・P8・P9・P10はIX層(ローム層)まで、P4・P11・P12はVIII層、P2・P5はVII層まで掘り込まれている。検出面が下がっているため深さは一定ではないが、これまでのIV層検出遺構の建物であると言える。



SB02柱穴埋土

- | | | | | | |
|----|-------------|-----|---------|------|---|
| 1 | Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まり弱い | 粘性弱い | 2mm次の橙色粒子、炭化物を僅かに含む |
| 2 | Hue10YR3/3 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性強い | 2mm次の橙色粒子を1よりやや多く含む、炭化物僅かに含む、埋土ブロック状 |
| 3 | Hue7.5YR3/1 | 黒褐色 | 締まり弱い | 粘性弱い | 2mm次のローム粒子、炭化物を極僅かに含む、埋土ブロック状 |
| 3' | Hue7.5YR3/1 | 黒褐色 | 締まり弱い | 粘性弱い | 3の下層にロームブロック混じる |
| 4 | Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm次のローム粒子をやや多く含む、20~30mm次のブロック(塊層)を含む埋土ブロック状 |
| 4' | Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 4にロームブロック混じる下層ほど多い |

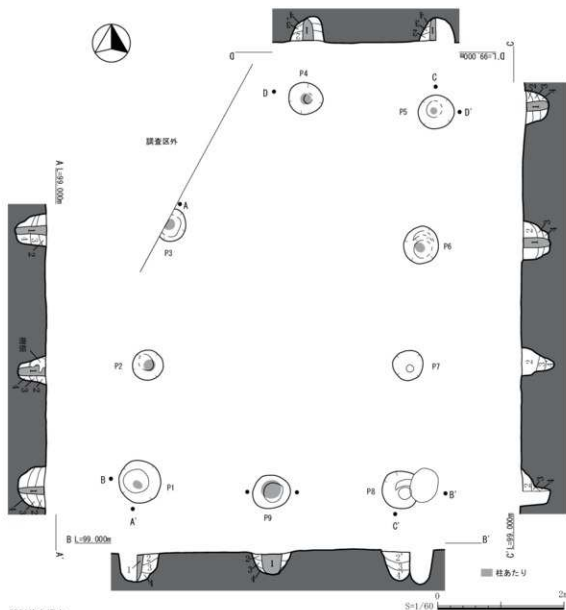
第 1 1 5 図 3 区 SB02 平面図土層断面図



SB03柱穴土			
1 Hue10YR3/2	黒褐色	締まり弱い	粘性弱い 2mm次の橙色粒子、炭化物わずかに含む
2 Hue10YR3/3	黒褐色	締まりやや強い	粘性弱い 2mm次の橙色粒子を1よりやや多く含む、炭化物わずかに含む 埋土ブロック状
3 Hue7.5YR3/1	黒褐色	締まり弱い	粘性弱い 2mm次のローム粒子、炭化物をごくわずかに含む 埋土ブロック状
3' Hue7.5YR3/1	黒褐色	締まり弱い	粘性弱い 3よりローム粒子やや多く、締まりがやや強い
4 Hue10YR3/1	黒褐色	締まりやや強い	粘性弱い 2~3mm次のローム粒子をやや多く含む、20~30mm次のブロック (VII層) を含む
			埋土ブロック状
4' Hue10YR3/1	黒褐色	締まりやや強い	粘性弱い 4より2~4mm次のローム粒子若干多く含む
4'' Hue10YR3/1	黒褐色	締まりやや強い	粘性弱い 4よりややしまる

第116図3区SB03平面図土層断面図

SB03 K・L-10・11G rid上に位置する。東側を圃場整備用道路の掘削で削られているため確かなことは言えない。桁行2間(B-B')は約4.7mで、梁行2間(A-A')は約4.0mを測る。方向軸はN-87°-Wで、P1~P7の柱穴を検出し、梁行多柱型の掘立柱建物である。柱穴は、径50~68cmの円形で、深さは検出面から約40~72cmである。ただしP5・P6に関しては、検出時に道路の掘削で埋土は染みのように変色し、溝があることを想定して一部掘削してしまっただけに掘り方のラインが不明瞭になった。各柱穴の長径・深さ(cm)はP1から順にP1(58・72)、P2(68・50)、P3(66・58)、P4(50・66)、P7(52・28)を測る。柱間寸法はP1~P2(1.8m)、P2~P3(2.2m)、P3~P4(2.1m)、P4~P5(2.5m)、P7~P1(2.1m)、P6~P7(2.3m)である。柱穴の大きさはSB01・02とほぼ同じであり、掘削により不明瞭になったと言える。

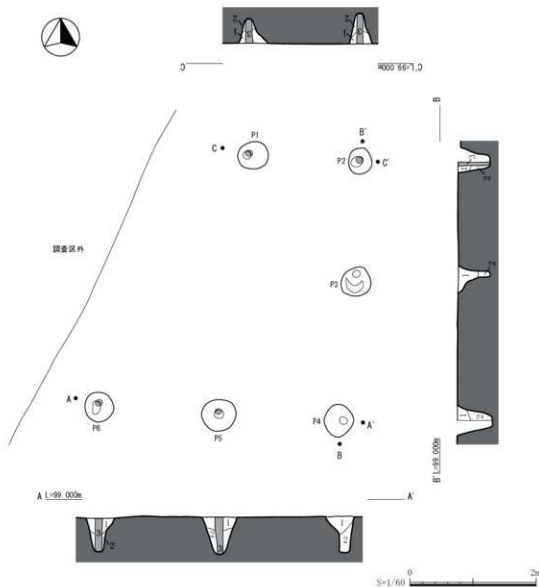


SB04柱穴埋土

- | | | | | |
|---------------|-----|---------|------|---|
| 1 Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まり強い | 粘性弱い | 2cm次の橙色粒子、炭化物をわずかに含む |
| 2 Hue10YR3/3 | 暗褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2cm次の橙色粒子を1よりやや多く含む、炭化物をわずかに含む 埋土ブロック状 |
| 2 Hue10YR3/3 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2層に若干、黄褐色土をブロック状に含む |
| 3 Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まり弱い | 粘性弱い | 20cm次のローム粒子、炭化物をややごくわずかに含む 埋土ブロック状 |
| 4 Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 20cm次のローム粒子をやや多く含む、20~30mm次のブロック(田層)を含む 埋土ブロック状 |
| 4' Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 4層より多しロームブロックを多く含む |

第117図3区SB04平面図土層断面図

SB04 I・J-10・11Grid上に位置する遺構である。桁行4間(C-C')は約6.0mで梁行2間(B-B')は約4.2mである。方向軸はN-7°-Eである。P1~P9の柱穴を検出し、梁行多柱型の掘立柱建物である。柱穴は径46~66cmの円形で、深さは検出面から約34~52cmである。各柱穴の長径・深さ(cm)はP1から順にP1(66・44)、P2(46・46)、P3(50・48)、P4(54・38)、P5(58・38)、P6(60・44)、P7(48・52)、P8(58・46)、P9(60・34)を測る。柱間寸法はP1~P2(1.9m)、P2~P3(2.3m)、P4~P5(2.0m)、P5~P6(2.2m)、P6~P7(1.9m)、P7~P8(2.0m)、P8~P9(2.1m)、P9~P1(2.1m)北西部分が調査区外になっているため、柱穴は9本しか検出されなかったが柱痕が残っているのがほとんどである。直径約70cmで検出面からの深さ44cmのものもあり比較的安定している建物と言える。

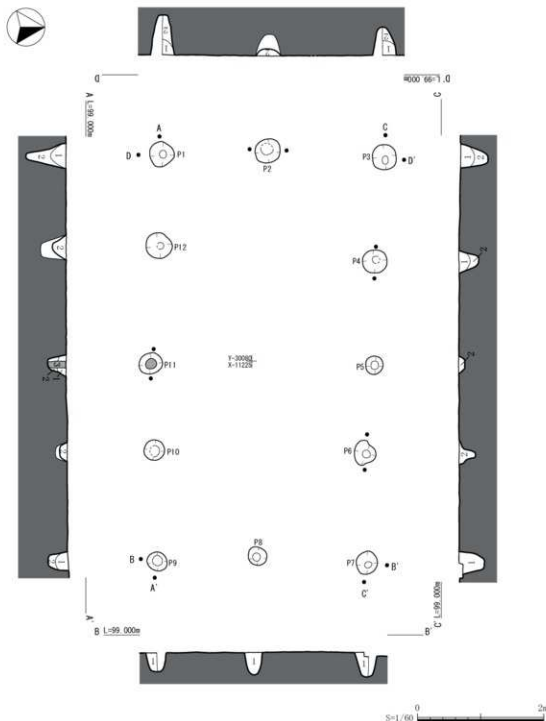


SB05柱穴埋土

- | | | | | | |
|--------------|-----|-----------|------|------------------|--------------------|
| 1 Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm大の機・橙色粒子を若干含む | 埋土ブロック状 |
| 2 Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まりよりやや強い | 粘性弱い | 2mm大の橙色粒子を若干含む | 下層に2~3cm大のIVブロック含む |
| 3 Hue10YR2/2 | 黒褐色 | 締まり弱い | 粘性弱い | 炭化物ややまじる | 2mm大の橙色粒子を若干含む |

第118図3区SB05平面図土層断面図

SB05 J・K・9・10Grid上に位置する遺構である。桁行2間(A-A')は約5.0mで梁行2間(B-B')は約4.1mである。方向軸はN-86°-Wである。P1~P6の柱穴を検出し梁行多柱型の掘立柱建物である。柱穴は径40~54cmの円形で、深さは検出面から約40~60cmである。各柱穴の長径・深さ(cm)はP1から順にP1(50・40)、P2(40・50)、P3(44・50)、P4(52・56)、P5(54・60)、P6(44・54)、を測る。柱間寸法はP1~P2(1.8m)、P2~P3(1.9m)、P3~P4(2.3m)、P4~P5(2.0m)、P5~P6(1.9m)である。IV層検出時には検出できずV層で確認した遺構であるが、柱穴の性質や南北軸の特徴の柱穴をもつことでもIV層の遺構であると言える。



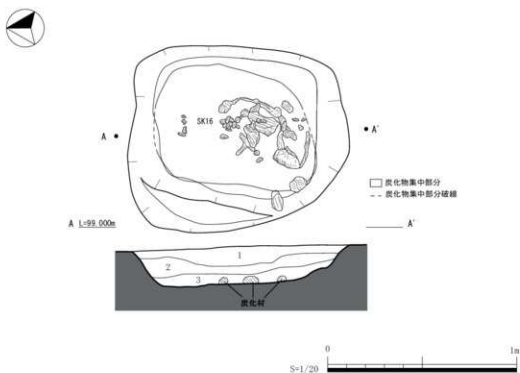
SB06柱穴埋土

- | | | | | | |
|--------------|-----|---------|------|--------------------|---------|
| 1 Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm次の輝や褐色粒子を若干含む | 埋土ブロック状 |
| 2 Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm次の褐色粒子を若干含む | 埋土ブロック状 |
| 3 Hue10YR2/2 | 黒褐色 | 締まり弱い | 粘性弱い | 2mm次の褐色粒子や炭化物を若干含む | |

第119図3区SB06平面図土層断面図

土坑

SK16 I - 1 8 G rid上に位置する遺構である。IV層検出遺構である。長軸は約110 cm、短軸は約100 cm、深さは約20 cm以上を測る。長軸の方向軸はほぼ南北と言っていい。平面プランが検出時に分かりにくかったが、埋土を少し削ると長方形になった。炭化物・炭化材が埋土2～3層にかけて集中し焼土の固まりもあった。

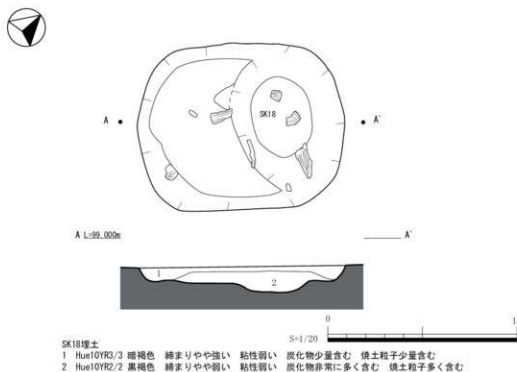
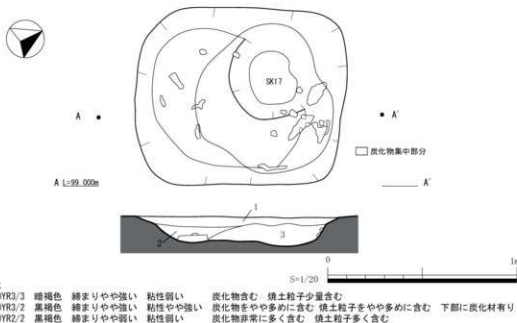


SK16埋土

- | | | | |
|------------------|---------|--------|--------------------------|
| 1 Hue10YR3/3 暗褐色 | 締まりやや弱い | 粘性やや弱い | IV層の土を主に炭化物をやや多めに含む |
| 2 Hue10YR3/3 暗褐色 | 締まりやや弱い | 粘性やや多い | Iの土に炭化物を多く含む 少量焼土粒子も含まれる |
| 3 Hue10YR3/3 暗褐色 | 締まりやや弱い | 粘性強い | 炭化物を非常に多く含む |

第120図3区SK16平面図土層断面図

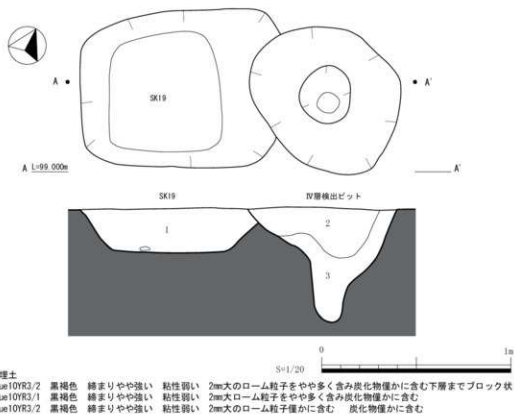
SK17 I・J - 1 1 G rid上に位置する遺構である。IV層検出遺構である。長軸は約110 cm、短軸は約90 cm、深さは約14～20 cmを測る。長軸の方向軸はN-25°-Eで、形態は隅丸方形を呈する。埋土2～3層にかけて炭化物・炭化材の集中が見られ、3層の下面に焼土の固まりが点在していたことからSK16と同様の燃焼土坑である。



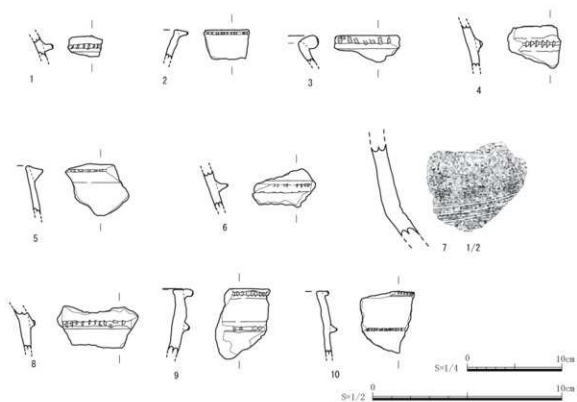
第121図3区SK17・SK18平面図土層断面図

SK18 I・J-10Grid上に位置する遺構である。IV層検出遺構である。長軸は約106cm、短軸は約84cm、深さは約8～14cmを測る。長軸の方向軸はN-43°-Eで、形態は隅丸方形を呈する。埋土2層中に炭化物・炭化材の集中が見られる。焼土は埋土中に混ざる程度であるが、SK16・17と同様の燃焼土坑である。

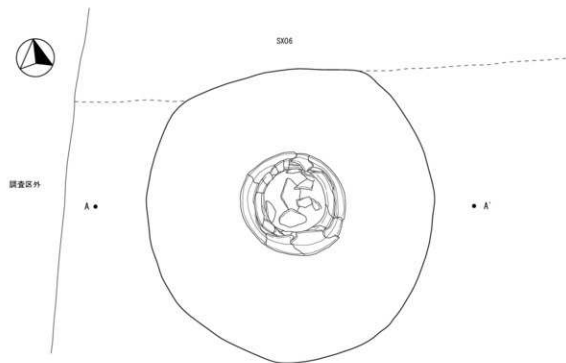
SK19 I・J-13Grid上に位置する遺構である。IV層検出遺構である。長軸約100cm、短軸約80cm、深さ約20cmを測る。長軸の方向軸はN-60°-Eで形態は隅丸方形を呈している。北東部をIV層検出のビットに切られている。掘り方も20cmとしっかりしているが単層である。



第122図3区SK19平面図土層断面図



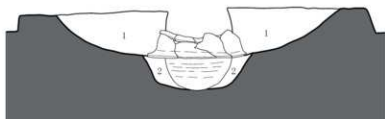
第123図3区出土遺物実測図(10)



蔵骨器出土状況（内部は上蓋の崩落したもの）

A L=99,000m

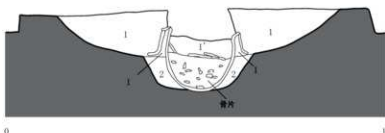
A'



SK30 蔵骨器出土状況・見通し断面図

A L=99,000m

A'

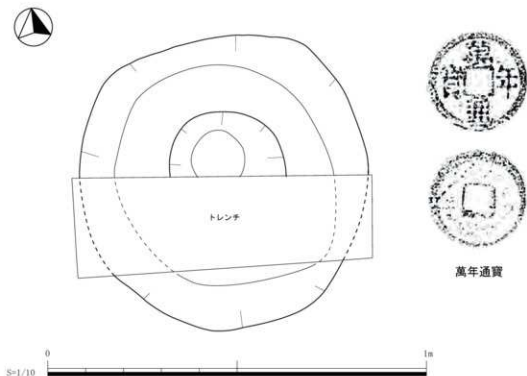


S=1/10

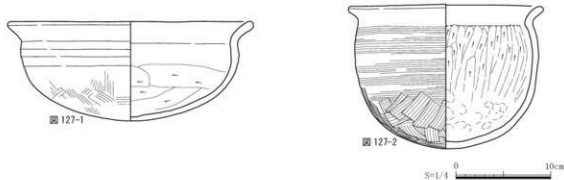
SK30埋土

- 1 Hue10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 2m次のローム粒子(肌色の粒子)をやや含む IV~V層の混ざったブロック状の土
 1' Hue10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い 1よりやや濃い埋土ブロック状
 上蓋崩落時の埋土
 2 Hue10YR3/1 黒褐色 締まりやや強い 粘性弱い VI層ブロックを主体とし、わずかに2m次のローム粒子(肌色の粒子)を含む

第124図3区SK30蔵骨器出土状況・平面図土層断面図



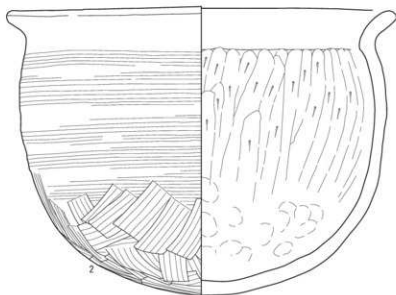
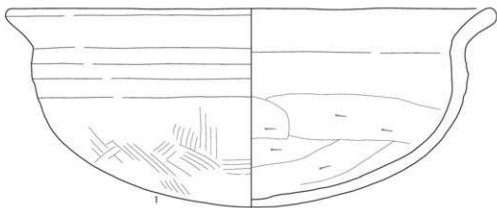
第125図3区SK30掘方平面図



第126図3区SK30出土遺物実測図(1)

SK30 H・14 Grid上に位置する遺構である。調査区西側のSX06と同じくIV層検出遺構であり、SX06のすぐ南側で検出された。IV層の掘削中に甕部分の土が埋設して検出できた遺構である。検出時にはこの甕の直上から古銭(萬年通寶)が見つかった。この甕には蓋がされており、蓋の部分が壊れて落ち込んだものである。検出時に甕の中には骨粉が甕の半分程入っており、蓋の壊れと土が入り込んでいた。SK30の掘り方の直径は約75cmのほぼ円形であり、北側をSX06に少し切られている。検出面からの深さは約24cmである。古銭と甕との関係からこの甕は藏骨器であり、甕の部分の土器と蓋の部分の土器はそれぞれ別の用途で使われていたものを藏骨器として使用したものと考えられる。

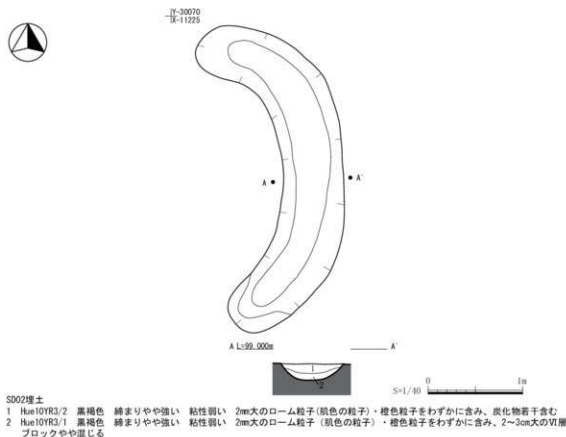
甕(図127-2)として使用した土器は口径が20.6cm、高さが15.3cmで外器面は回転ナデ・カキ目が施され、内外面に黒斑がみられる。蓋(図127-1)として使用した土器は口径が26.0cm、高さが10.5cmで外器面は回転ナデ・ハケメが施され、外器面に煤が付着しており被熱の跡が見られる。火を扱った土器として使われていたものを藏骨器として代用したものと思われる。



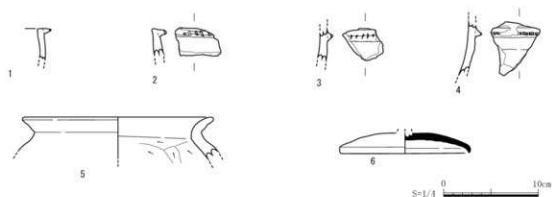
第 1 2 7 图 3 区 SK30 出土文物实测图 (2)

溝

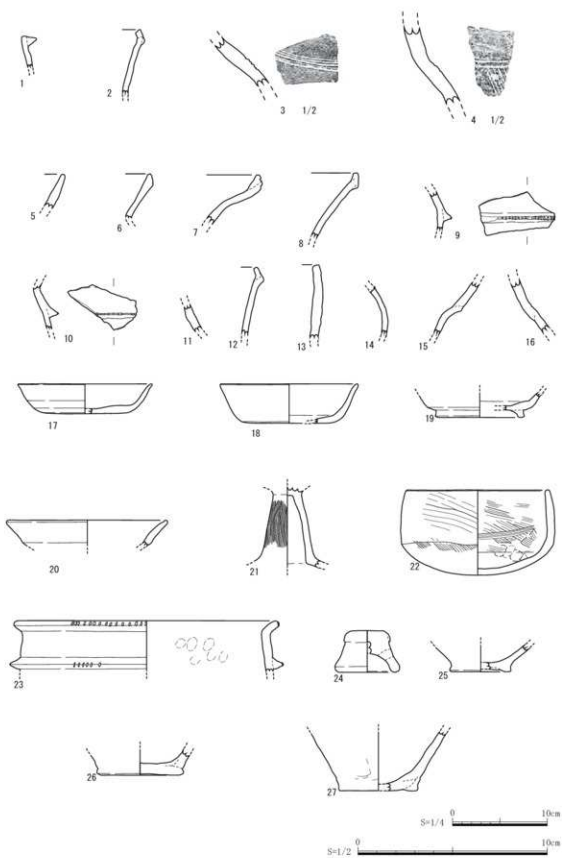
SD02 L-13Grid上に位置する遺構である。IV層検出遺構で、調査区東側から検出された遺構である。長軸は約320cm、短軸は約60cm、深さは約20cmの三日月状の溝である。IV層検出時に周りの土とは明らかに異なり、黒色のサクサクした土質である。表面にローム粒子が点在したことから遺構と判断し、掘削してみるとこのような形状になった。深さは20cmと深く下層の締まりは強いいため、一時的に水を溜めたり、流したりした所であった可能性が高いと考えられる。



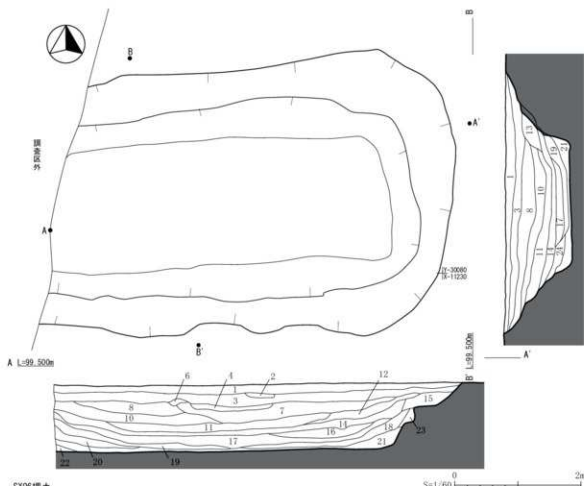
第128図3区SD02平面図土層断面図



第129図3区出土遺物実測図(11)



第 130 图 3 区出土文物实测图 (12)



SX06埋土

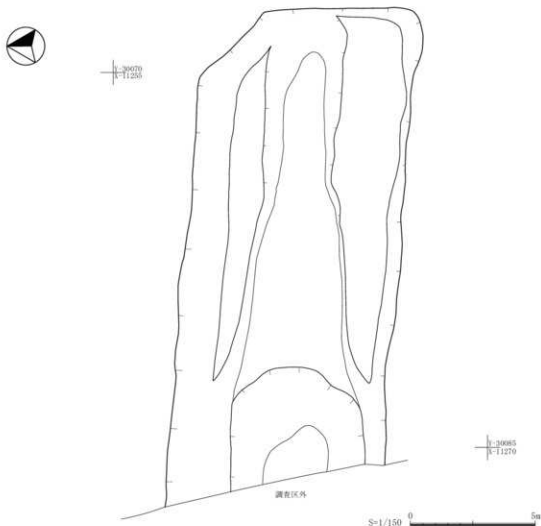
1 Hue10YR3/3 暗褐色	締まりやや強い	粘性やや弱い	ローム粒子、徳土粒子、炭化物を少量含む。Ⅲ層の土に似る
2 Hue10YR3/4 暗褐色	締まりやや強い	粘性やや強い	ローム粒子を少量含む
3 Hue10YR3/2 黒褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ローム粒子を少量含む
4 Hue10YR3/3 黒褐色	締まり強い	粘性やや弱い	埋土7上面が硬く、締まったような土。ローム粒
5 Hue10YR3/3 黒褐色	締まり強い	粘性やや弱い	埋土4と似た硬く締まった土
6 Hue10YR3/3 黒褐色	締まり強い	粘性やや弱い	硬く締った土。炭化物(5mm)含む
7 Hue10YR3/3 黒褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒子をやや多く含む
8 Hue10YR3/4 黒褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒子。炭化物少量含む
10 Hue10YR3/3 黒褐色	締まり強い	粘性やや強い	ローム粒子少量含む
11 Hue10YR3/4 黒褐色	締まり弱い	粘性やや弱い	ローム粒子少量含む
12 Hue10YR3/2 黒褐色	締まりやや強い	粘性やや弱い	ローム粒子少量含む
13 Hue10YR3/3 黒褐色	締まりやや強い	粘性やや弱い	粘性やや弱い
14 Hue10YR2/2 黒褐色	締まり弱い	粘性やや強い	ローム粒子少量、炭化物やや多く含む
15 Hue10YR4/3 黒褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	Ⅳ層に似た土
16 Hue10YR3/2 黒褐色	締まり弱い	粘性弱い	ローム粒子(0.5~5mm)、炭化物含む
17 Hue10YR3/3 黒褐色	締まり弱い	粘性やや強い	ローム粒子、炭化物含む
18 Hue10YR3/4 黒褐色	締まり弱い	粘性やや弱い	ローム粒子やや多く含む
19 Hue10YR2/2 黒褐色	締まり弱い	粘性やや強い	ローム粒子少量、炭化物多く含む
20 Hue10YR3/3 黒褐色	締まり弱い	粘性やや弱い	ローム粒子、炭少量含む
21 Hue10YR3/4 黒褐色	締まり強い	粘性やや強い	ローム粒子多く含む
22 Hue10YR3/2 黒褐色	締まりやや弱い	粘性やや強い	ローム粒子非常に多い
23 Hue10YR3/3 黒褐色	締まりやや弱い	粘性やや弱い	ローム粒子少量
24 Hue10YR3/3 黒褐色	締まり強い	粘性やや強い	ローム粒子多く含む

第131図3区SX06平面図土層断面図

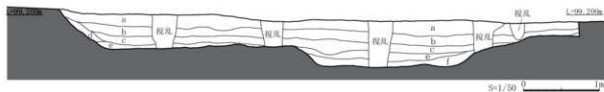
SX06 I-13G Grid上に位置する遺構である。調査区のほぼ中央にあるが、遺構西部の4分の1が調査区外にあたる。長軸約6.00m、短軸約4.00m、検出面からの深さが約1.10mであり、長軸は約8.00mあったものと推測される。遺構内外にピットは確認できず建物とはいえない。Ⅳ層検出遺構であり、土層を見ても自然堆積したものであり水性堆積した形跡はない。2区で検出したSX04とほぼ同様の遺構である。用途としては、水溜めや半地下土坑として考えられるがはっきりした痕跡は残っていない。底部が平らであり、何か物を貯蔵したりする所か水をためるためのものとするのが妥当であるが底部に水分がたまった形跡はなく、建物に使ったと思われる柱痕も検出できなかった。現段階では情報量が少なく、このような土坑例を見ないために分からないのは確かである。

(5) 近・現代遺構

堀畑02 調査区南側から検出されたこの遺構は、1区(拡張部分)から検出された堀畑02の続きであり、東側に向かって緩やかに浅くなっていることがわかった。幅は約8.5mで深いところ約60cmである。堀畑01と違って自然に堆積したようである。この堀畑は東側から西側に深くなっており、埋められる前は東西に走る堀畑として使用していた可能性が高いと言える。堀畑01との関係性は現段階では分かっていない。



第 1 3 2 図 3 区堀畑 02 平面図



堀畑02埋土

- | | | | | | |
|----|------------|------------------|---------|--------|--|
| a. | Hue10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm大のローム粒子和礫を多く含み 炭化物がやや混じる |
| b. | Hue10YR4/3 | にぶい黄褐色 (aよりやや暗い) | 締まりやや強い | 粘性弱い | 2mm大のローム粒子和レシキを多く含み 炭化物がやや混じる |
| c. | Hue10YR4/2 | 灰黄褐色 | 締まりやや強い | 粘性強い | 2mm大のローム粒子和礫をやや多く含み 炭化物がやや混じる |
| d. | Hue10YR3/3 | 暗褐色 | 締まりはや弱い | 粘性弱い | 2mm大のローム粒子和礫をわずかに含む II層ブロック (2~3cm) をやや含む |
| e. | Hue10YR3/3 | 暗褐色 | 締まりやや弱い | 粘性弱い | 2mm大のローム粒子和礫をわずかに含む 炭化物がやや混じる |
| f. | Hue10YR2/2 | 黒褐色 | 締まり弱い | 粘性やや強い | 2mm大のローム粒子和礫はほとんど含まない Ⅴ~Ⅹ(ローム)層ブロック (2~3cm) を含む 下層ほど多い |

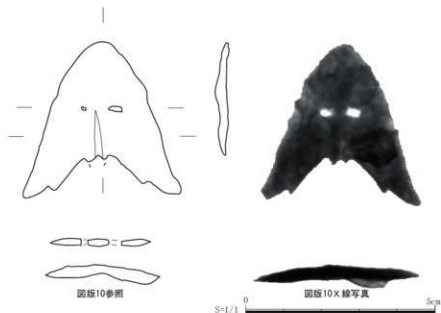
(6) 遺物包含層

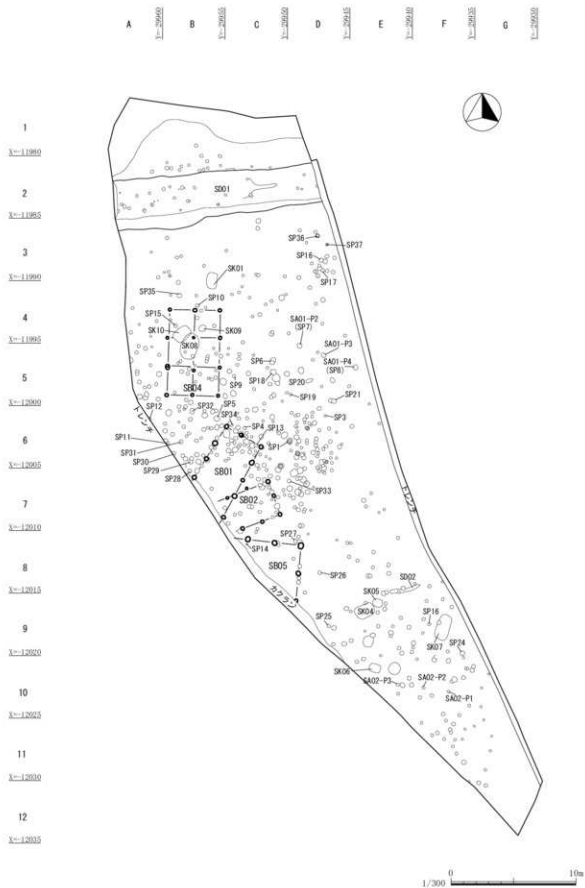
3区の遺物については、V層で縄文土器や弥生土器の出土が見られる。縄文土器について(図62-13)のように、櫛糸文の後に刺突突帯文を施している土器や貼付突帯上に刺突文を施している土器(図62-5・図62-9)もあり、縄文時代中期の船元Ⅱ式の流れを組む特徴を持っている。いずれにしても口縁や底部しか残っておらず、形状も定かでないため分類までは至っていない。(図62-12)は口縁部に綾杉文が施され、山形口縁の可能性があるため縄文時代後期の北久根山式土器の可能性が高いと言える。V層出土の弥生土器も数点あるが、ほとんどが小片であり分類に耐えうるものではない。IV層出土縄文土器としては(図58-1)のように、口縁外面の波状部分に入組溝文を施すものも見られる。縄文後期の土器で北久根山式から御領式にわたる長い時期の土器が多く、(図60-1)は波状口縁に刺突文を持ち、外面を磨り消した後にはへら描き文を施している。(図59-3・図59-1)も外面を磨り消した後にはへら描きを施している。(図130-8・図130-12・図130-2)のように口縁から頸部にかけて「く」の字に歪曲する無文の土器もある。IV層包含層出土の弥生土器としては(図123-7)の外面に赤彩を塗布し、3本の沈線を施したものもあるが、ほとんどが刻み目突帯文土器であり、口縁上部が平坦で内側に突起がないものが多い。口縁端部は三角形で刻み目も細かいものから、大きなものまでさまざまであるが(図123-3)のように口縁端部が丸いものもある。

古代の遺構が検出されていることから、土師器・須恵器なども遺構以外から多く出土している。ただし小片が多く、須恵器に限っては器種もわからないものも多い。また土師器も古代の堅穴住居跡に伴うものが多く、カマドに使用したと思われる甕が多い。

3区の石器は、西北九州産の黒曜石や安山岩でできた打製石族が数点出土している。1区・2区では打製石斧が出土していたが、3区では石斧はほとんど見られず輝石安山岩でできた敲石・磨石が3点ほど出土したに過ぎない。縄文時代の土坑は確認できたが、はっきりとした遺構は確認できなかったこともある。いずれにしても、この地域の縄文時代の人々の生活が定着していなかったことの表れでもありと考える。

また、Ⅲ層から鉄族が1点出土している。宮崎県で出土している古墳時代の逆刺式鉄鏃に類似するものである。根ばさみの痕跡と考えられる木質のあとが見られる。根ばさみ装着用と考えられる孔が、ほぼ相対する位置にある。頭部から脚部にかけて緩やかなS字状曲線を描く鉄鏃である。基部は錆ぶくれがみられるが、全長4cmの無茎鉄鏃である。





第 1 3 3 圖 澗水古岡原遺跡遺構配置圖

4. 滴水古閑原遺跡

本遺跡の中心部分は現・桜井小学校裏の丘陵地にあり、北側の神ノ木川に下る傾斜地の縁の部分にこの滴水古閑原遺跡は存在する。この神ノ木川には滴水の石橋があり、対面の台地上に滴水のオオイチョウや滴水館跡の遺跡がある。したがって、この遺跡は南側から北側に傾斜する地形であり、調査区北側の谷部は3mほど急激に落ち込むことになる。

調査にあたり南畑遺跡同様に植木町基本土層を参照して遺物包含層を確認していった。この場所は台地状の斜面を切り崩して平地にし、階段状に整地して畑として利用していたところである。そのため調査区内の基本土層も削平を受け、壊されている所も多かった。また、平らに整地するために約2mの盛り土をしてあるところもあった。基本土層(Ⅲ層)は南東から北西へ向けて下っていて、傾斜が緩やかになっている部分にピットが集中して検出できた。掘立柱建物跡もこの周辺に集中し、現在道路として利用されている所まで台地が広がっていたのではないかと推測される。また、南側では斜面が急ではあるがⅢ層(黒褐色土)が比較的残っている。そのため、縄文の遺構を何点か検出することができた。

(1) 縄文時代

土坑

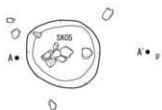
調査区から8基の土坑を検出できた。縄文時代後・晩期の土坑(SK05・06・07)と弥生時代中期の土坑(SK09・10)、中世以降の土坑(SK01・04・08)の3つに大別できる。

縄文時代後・晩期

SK05 E-8・9 Grid上に位置する遺構である。調査区南側でV層から検出した土坑である。長軸は約77cm、短軸は約65cm、深さが約5cmを測る。長軸の方向軸はN-88°-Eである。形態はほぼ円形を呈する。土坑としているが斜面に検出した集石であり礎には焼けた跡が残っているため、焼土坑であった可能性が高い。礎のほかには出土遺物は検出されなかったが、基本土層から考えて縄文の土坑である。

SK06 E-10 Grid上に位置する遺構である。調査区南側でV層から検出した土坑である。長軸は約92cm、短軸は約68cm、深さは約5cmを測る。長軸の方向軸はN-74°-Wである。形態は楕円形を呈する。SK05と同じように堀り方は浅く遺構内に礎を検出した。埋土はIV層に近く、IV層ブロックを主体としてV層ブロックがやや混ざる。

SK07 F-9 Grid上に位置する遺構である。調査区南側でV層から検出された遺構である。長軸は約203cm、短軸は約68cm、深さは約5cmを測る。長軸の方向軸はN-16°-Eである。形態は隅丸長方形を呈する。堀り方の一部をIV層下面ピットによって壊されている。SK05・06のような礎は検出されなかったが、同じ時期の土坑であると言える。



A 1-79.000m _____ A'



S=1/40 0 1m

SK05埋土
Hue10YR3/4 暗褐色 締まりやや強い 粘性やや強い 2mm大の橙色粒子をやや多く含む 炭化物を若干含む

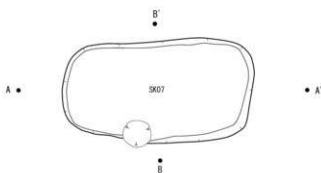


A 1-78.000m _____ A'



S=1/40 0 1m

SK06埋土
Hue10YR3/4 暗褐色 締まりやや強い 粘性やや強い 2mm大の橙色粒子や炭化物をごくわずか含む 20~40mm大の黒斑がやや混じる



A 1-79.200m _____ A'



S=1/40 0 1m

SK07埋土
Hue10YR3/3 暗褐色 締まり弱い 粘性やや強い 2mm大の橙色粒子を若干含む 20~40mm大のV層ブロックをやや多く含む 炭化物をごくわずかに含む



B 1-79.200m

1220
1240

第134 図 滝水古開原遺跡 SK05・SK06・SK07 平面図・土層断面図

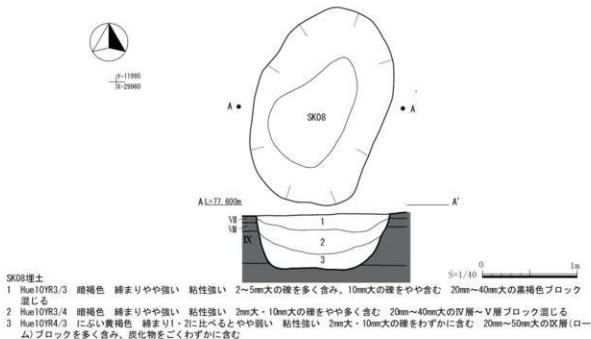
(2) 弥生時代

土坑

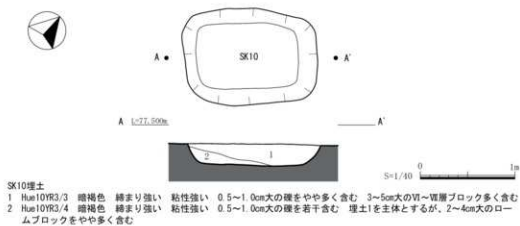
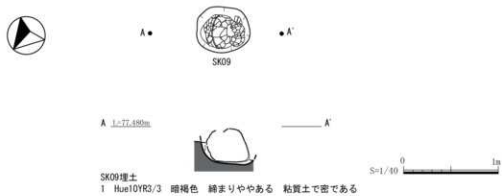
SK08 B・4・5 G rid上に位置する遺構である。調査区北側でIV層から検出された遺構である。長軸は約210 cm、短軸は約138 cm、深さは約56 cmを測る。長軸の方向軸はN-16°-Eである。形態は楕円形を呈する。埋土は3層からなり掘り方はIX層（ローム）まで達していた。底部が平らであり土坑墓の可能性も考えたが、現状では確信できるものがない。SK01と埋土が非常に類似しており上位～中位層にかけて礫の混入が多く、中位～下位層にかけて礫の混入が少なくなる。SK01の埋土4層のような炭化物が集中する層位は確認できなかった。また土坑墓に伴う人骨や副葬品等の出土も見られなかった。

SK09 B・4 G rid上に位置する遺構である。調査区北側でIV層から検出された遺構である。長軸は約56 cm、短軸は約49 cm、深さ約40 cmを測る。長軸の方向軸はN-47°-Eである。形態は楕円形を呈している。壺（図147-1）と甕（図147-2）が潰れるように検出された。周りの土色に比べやや黒色がかっており、土圧で押しつぶれて埋土とともに硬化したような状態であった。壺は約半分が壊れており、この土坑からも壺の残りの部分は出土しなかった。土甕のような役割であったと考えられる。復元長（約46 cm）の合口甕棺を約58度の角度で埋めている。甕棺には胸部下位に外面から打ち欠いた穿孔（縦4.5 cm、横6.5 cm）が見られる。水を外に流すためのものかもしくは壊れていた土器を甕棺として使用するのためのものかわからない。大きさから小児甕棺で間違いのない。甕棺内外ともに人骨・副葬品などの遺物は出土しなかった。

SK10 B・4 G rid上に位置する遺構である。調査区北側でIV層から検出された遺構である。長軸は約140 cm、短軸は約100 cm、深さは約22 cmを測る。長軸の方向軸はN-45°-Eである。形態は隅丸長方形を呈する。埋土は2層からなり、隣のSK09と同じ時期の土坑墓の可能性とも推測されるが確信は持てない。出土遺物や副葬品等の出土は見られなかった。



第135図 滴水水古閑原遺跡 SK08 平面図土層断面図



第136 国滝水古開原遺跡 SK09・SK10 平面図土層断面図

(3) 中世～

掘立柱建物

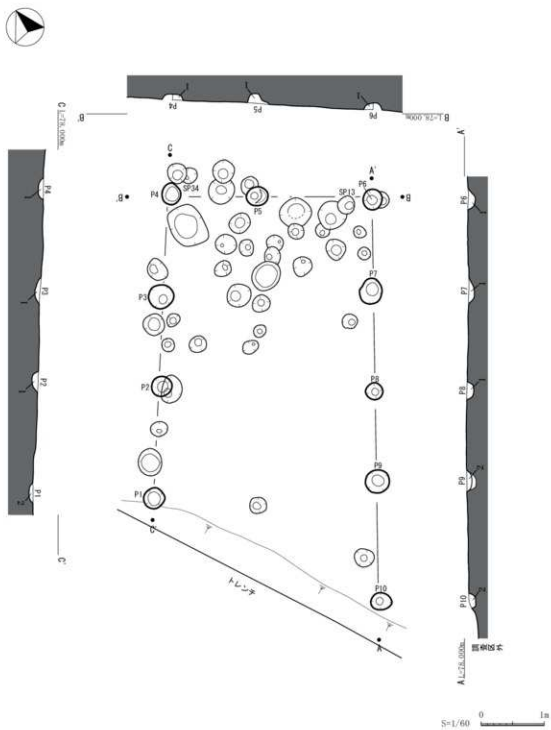
SB01 B・C・6・7G rid上に位置する遺構である。南側が調査区外で検出できていないため、全体の大きさは分からないが、検出できた桁行は4間(A-A')で約7.32m、梁行は2間(B-B')で約4.36mを測る。方向軸はN-32°-Eである。P1～P10の柱穴を検出し、梁行多柱型の掘立柱建物である。柱穴は径24cm～42cmの円形で深さは検出面から約6cm～14cmである。

各柱穴の長径・深さ(cm)はP1から順にP1(32・6)、P2(32・10)、P3(42・8)、P4(32・9)、P5(34・14)、P6(30・10)、P7(40・9)、P8(28・10)、P9(34・8)、P10(24・10)である。柱間寸法はP1～P2(1.8m)、P2～P3(1.4m)、P3～P4(1.6m)、P4～P5(1.3m)、P5～P6(1.9m)、P6～P7(1.4m)、P7～P8(1.6m)、P8～P9(1.4m)、P9～P10(1.9m)である。埋土は黒褐色で橙色粒子を含む土で、柱痕跡は確認できなかった。遺物出土はなかった。

SB02 B・C・7G rid上に位置する遺構である。調査区西側で検出され調査区外にまで遺構が広がるため全体の大きさは分からないが、検出できた桁行は3間(C-C')で約4.65m、梁行は2間(B-B')で約3.86mを測る。方向軸はN-70°-Eである。P1～P7の柱穴を検出し、梁行多柱型の掘立柱建物である。柱穴は径18cm～31cmの円形で、深さは検出面から約5cm～14cmである。各柱穴の長径・深さ(cm)はP1から順にP1(27・8)、P2(25・5)、P3(22・8)、P4(23・10)、P5(31・8)、P6(24・14)、P7(18・9)である。柱間寸法はP1～P2(1.7m)、P2～P3(1.6m)、P3～P4(1.6m)、P4～P5(1.2m)、P5～P6(1.8m)、P6～P7(1.7m)である。埋土は黒褐色で2mm大の礫が混入する。柱痕跡は確認できなかった。

SB04 B・4・5G rid上に位置する遺構である。北にSD01が東西に走り、比較的傾斜が緩やかな場所に位置している。検出できた桁行は3間(E-E')で約7.72m、梁行は2間(A-A')で約4.62mを測る。方向軸はN-3°-Eでほぼ南北軸である。P1～P12の柱穴を検出し総柱型の掘立柱建物である。柱穴は径21cm～42cmの円形で、深さは検出面から約10cm～32cmである。各柱穴の長径・深さ(cm)はP1から順にP1(28・29)、P2(42・22)、P3(22・22)、P4(22・23)、P5(32・24)、P6(26・25)、P7(26・36)、P8(24・35)、P9(22・32)、P10(22・18)、P11(22・10)、P12(21・10)である。柱間寸法はP1～P2(2.4m)、P2～P3(2.2m)、P3～P4(2.2m)、P4～P5(2.0m)、P5～P6(2.0m)、P6～P7(2.2m)、P7～P8(2.4m)、P8～P9(2.3m)、P9～P10(2.1m)、P10～P11(2.0m)、P11～P12(2.6m)である。

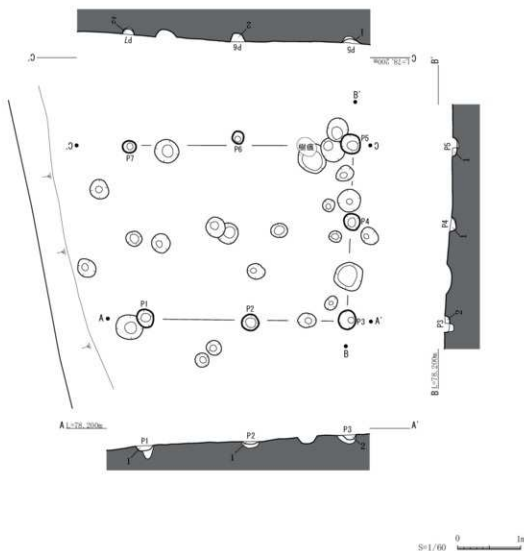
SB05 C・B・8G rid上に位置する遺構である。北にSB02があり、調査区中央の削平が著しいところから検出した遺構である。桁行は2間(A-A')で約5.6m、梁行は2間(B-B')で約5.16mを測る。方向軸はN-6°-Eでほぼ南北軸である。P1～P5の柱穴を検出し、SB04に近い総柱型の掘立柱建物であると推測される。柱穴は径24cm～40cmの円形で深さは検出面から8cm～20cmである。各柱穴の長径・深さ(cm)はP1(40・8)、P2(36・2)、P3(46・8)、P4(34・14)、P5(24・8)である。柱間寸法はP1～P2(2.2m)、P2～P3(2.1m)、P3～P4(2.1m)、P4～P5(2.0m)である。



SB01埋土

- 1 Hue10YR3/2 黒褐色 結まりやや強い 粘性やや強い 2mm次の橙色粒子を若干含む
 - 2 Hue10YR3/2 黒褐色 結まり強い 粘性やや強い 2mm次の橙色粒子を多く含む
- 基本層位直層～直層程度の暗褐色ブロック (Hue10YR3/3) やや含む

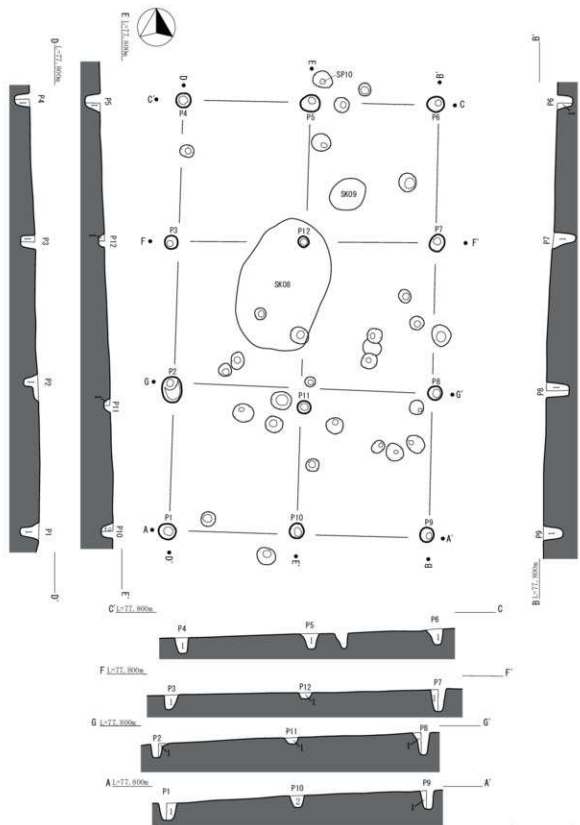
第 1 3 7 図 滴水水古閑原遺跡 SB01 平面図土層断面図



S802埋土

- 1 Hue10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性やや強い 2mm次の橙色粒子を若干含む
2~5mm次の礫をやや含む
- 2 Hue10YR3/1 黒褐色 締まり強い 粘性やや強い 2mm次の橙色粒子をやや多く含む
2~5mm次の礫をやや含む

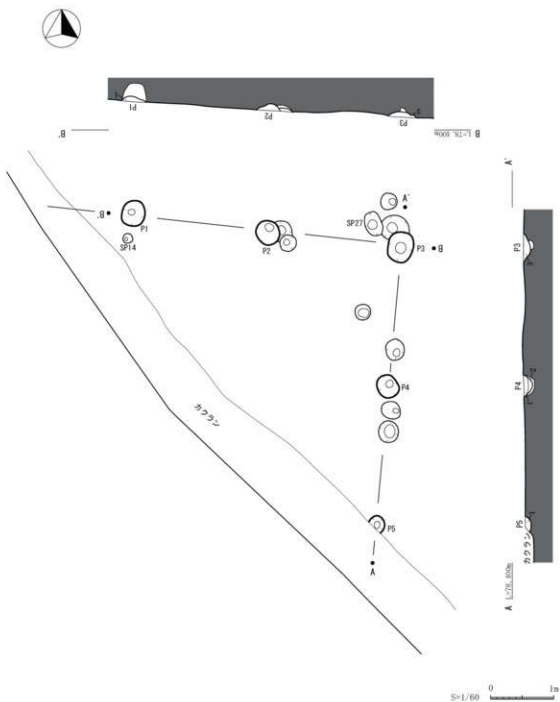
第 1 3 8 図 滴水水古閑原遺跡 S802 平面図土層断面図



SB04埋土

- 1 Hue10R3/1 黒褐色 締まりやや強い 粘性強い 2mm次の橙色粒子多く含み2~5mm次の礫をやや含む
下層にローム(X1層)ブロックがやや混じる 炭化物や土器片(土師)を若干含む
- 2 Hue10R3/2 黒褐色 締まり強い 粘性強い 2mm次の橙色粒子1より多く含み2~5mm次の礫をやや多く含む 20~30mm次のロームブロックがやや混じる 炭化物を若干含む

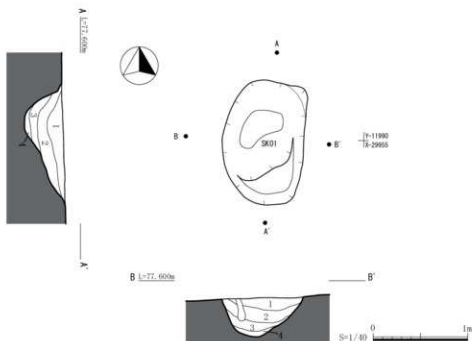
第139図滴水古閑原遺跡 SB04 平面図土層断面図



SB05埋土

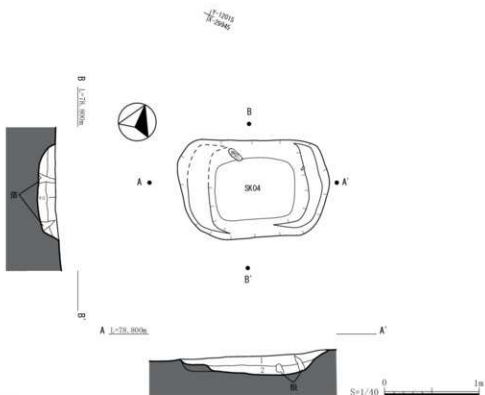
- | | | | |
|------------------|------------|--------|---------------------------|
| 1 Hue10YR3/2 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性やや強い | 2mm大の橙色粒子を若干含む、炭化物をやや含む |
| 2 Hue10YR3/3 暗褐色 | 締まり1よりやや強い | 粘性やや強い | 20~30mm大の質層ブロックをやや多く含む |
| 2mm大の橙色粒子を若干含む | | | |
| 3 Hue10YR3/1 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性やや強い | 2mm大の橙色粒子をやや多く含む、炭化物をやや含む |

第140図 滝水古閑原遺跡 SB05 平面図土層断面図



SK01埋土

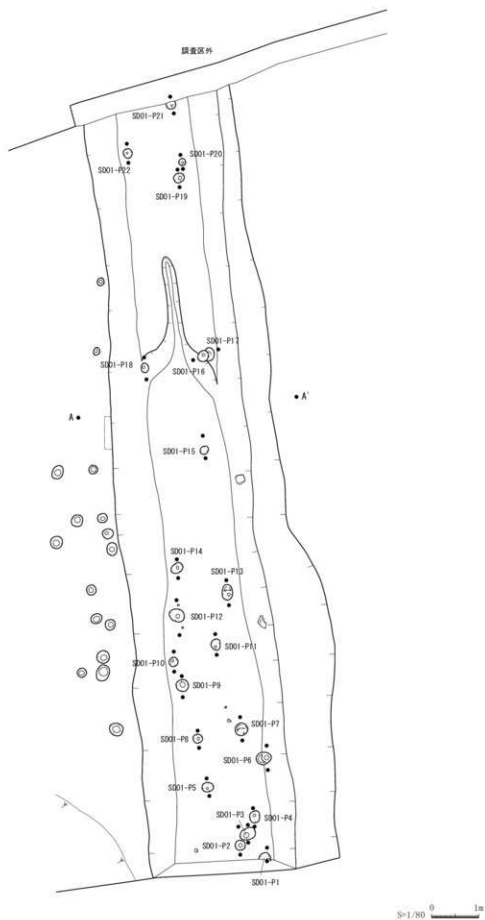
- | | | | | |
|--------------|-----|---------|------|--|
| 1 Hue10YR3/3 | 暗褐色 | 締まり強い | 粘性強い | 0.5~2.0cm大の礫を多く含み、炭化物をやや多く含む |
| 2 Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まり強い | 粘性強い | 0.5~2.0cm大の礫をやや多く含み、炭化物をわずかに含む |
| 3 Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まり強い | 粘性強い | 2よりやや細かい0.2~0.5cm大の礫をわずかに含み、炭化物をわずかに含む |
| 4 Hue10YR3/1 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性強い | 炭化物を多く含む |



SK04埋土

- | | | | | |
|--------------|-----|---------|--------|--------------------------|
| 1 Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性やや強い | 2mm大の褐色粒子和礫を若干含み炭化物をやや含む |
| 2 Hue10YR3/2 | 黒褐色 | 締まりやや強い | 粘性やや弱い | 2mm大の褐色粒子和礫を若干含み炭化物をやや含む |

第141 図滴水古開原遺跡 SK01・SK04 平面図土層断面図



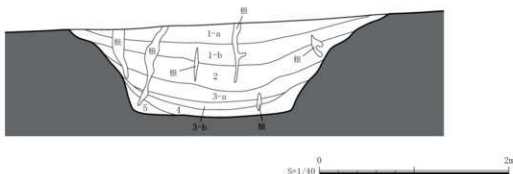
第 1 4 2 圖滴水古開原遺跡 S001 平面圖



SD01-Pit1～22埋土

- Hue10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性やや強い 2mm次の橙色粒子や多く含み、2～4mm次の礫や多く含み、炭化物をやや多く含む
下層にロームブロック (Hue10YR6/3 にぶい黄褐色) 混じる
- Hue10YR3/2 黒褐色 1よりやや明るい締まりやや強い 粘性やや強い 2mm次の橙色粒子を若干含み、2～4mm次の礫を若干含み、炭化物を若干含む
下層にロームブロック (Hue10YR6/3 にぶい黄褐色) 混じる
- Hue10YR3/2 黒褐色 締まりやや強い 粘性やや強い ロームブロック (Hue10YR6/3 にぶい黄褐色) 多く混ざる

第143図 滴水水古開原遺跡 SD01-Pit1～22 土層断面図



SD01埋土

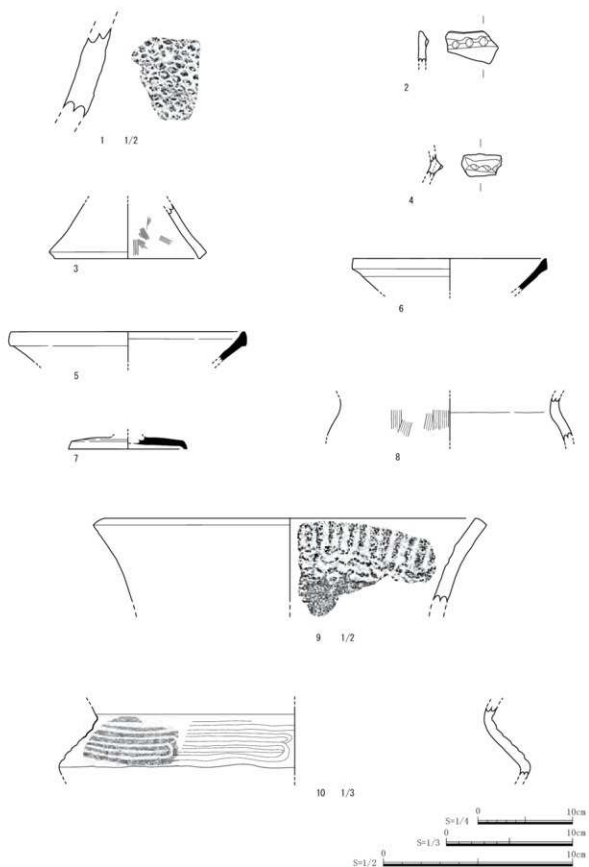
- 1-a Hue10YR3/1 黒褐色 締まり強い 粘性やや強い 2~4mm大の礫をやや多く含む
2mm大の橙色粒子をやや含む 埋土は基本土層Ⅲ層に多い
- 1-b Hue10YR3/1 黒褐色(1よりやや明) 締まり強い 粘性やや強い
2~4mm大の礫をやや多く含む、2mm大の橙色粒子をやや含む 炭化物ごくわずかに含む
- 2 Hue10YR3/4 暗褐色 締まり1-a, bに比べやや強い 粘性強い
2~4mm大の礫をやや多く含む、2mm大の橙色粒子を多く含む
上層から下層にいくに従って土の目が細くなる
- 3-a Hue10YR3/3 暗褐色 締まり強い(2と同様) 粘性強い
2~4mm大の礫をやや多く含む、2mm大の橙色粒子をやや含む 炭化物を若干含む
- 3-b Hue10YR2 黒褐色 締まり強い 粘性やや強い
2mm大の礫をやや多く含む、2mm大の橙色粒子や炭化物を若干含む
20~40mm大の黒褐色ブロック(1-bに近い)をやや多く含む
- 4 Hue10YR4/3 にぶい黄褐色 締まり強い 粘性やや強い
2mm大の礫を多く含む、中央付近に4~10mm大の礫を若干含む 炭化物を若干含む
20~40mm大のローム(V層)ブロックをやや多く含む、20~40mm大の黒褐色ブロック(3-b)を若干含む
- 5 Hue10YR4/6 褐色 2mm大の礫をわずかに含む、他の埋土に比べきめ細やかでサラサラしている

第144図滴水古閑原遺跡 SD01 土層断面図

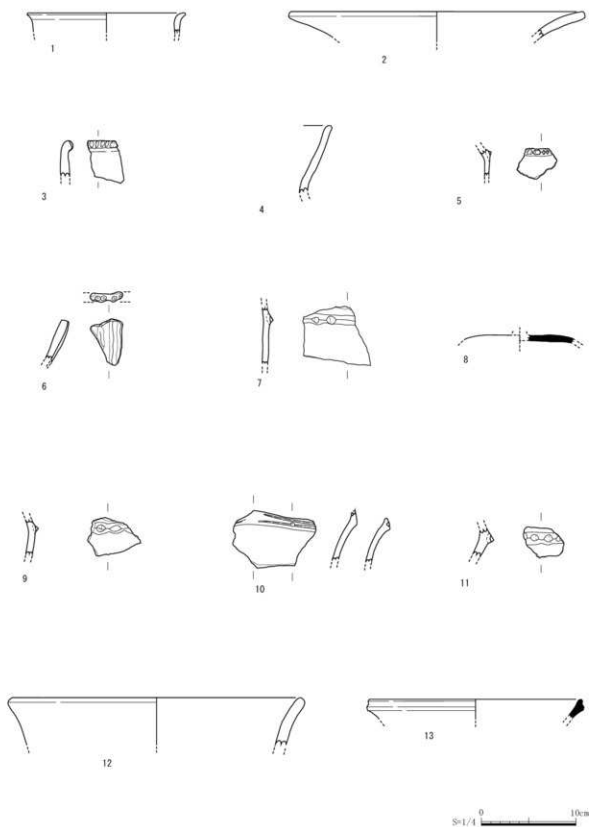
SK01 B-3・4 Grid上に位置する遺構である。調査区北側のIV層で検出された土坑である。長軸が約130cm、短軸が約85cm、深さが約41cmを測る。長軸の方向軸はN-5°-Eである。形態は楕円形を呈する。埋土は4層からなり、0.5~2.0cm大の礫が1・2層を中心に多く混ざっており3・4層ではほとんど混ざらなくなる。2.0~3.0cm大のロームブロックも同様に1・2層に多く3・4層では少ない。炭化物は1~4層に含まれているが4層が一番多く含まれる。焼土粒子の混ざりは見られなかったことからものを捨てたごみ穴の可能性もある。

SK04 E-9 G Grid上に位置する遺構である。調査区南側IV層から検出された土坑である。長軸は約156cm、短軸は約102cm、深さが約20.5cmを測る。長軸の方向軸はN-67°-Eである。形態は隅丸長方形を呈する。埋土は2層からなり、黒褐色ブロック2.0~3.0cm大を1層はやや多く含むが2層では含まない。

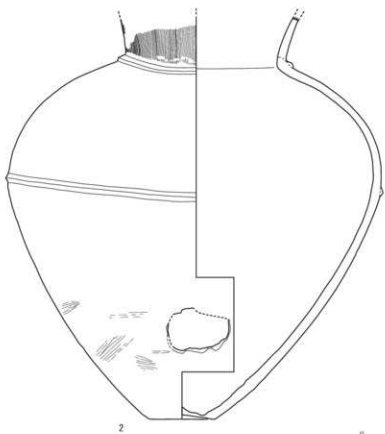
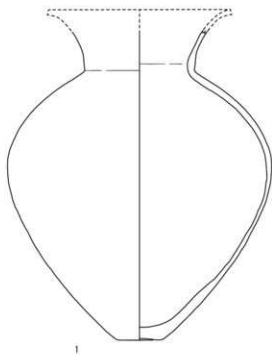
SD01 調査区北側に走るこの溝は、盛土除去時から黒褐色土で検出できる程ははっきりした遺構であった。長さ約17m・幅約3.38m・深さ0.92mでほぼ東西軸に沿って流れている溝である。Ⅲ層掘削時に縄文・古代・中世の出土遺物が混在し、Ⅲ層の下面では場所によってIV層だったりV層だったり異なる点が多かった。そんな中であってこの遺構はⅢ層(黒褐色土層)がきれいに残っていて、溝としての平面プランもはっきりしていた。雨水が流れたような跡が見られるが、絶えず水が流れていたわけではなくおそらく空溜の状態だと推測される。集落の周り(台地のへり)に防御用に掘った溝と思われるが、底が逆三角ではなく平らになっている。溝の底からビット(おそらく杭跡)が確認でき、逆茂木ないし柵を備えていたのではないかと考える。溝の底から確認できるビットは底がわりと突っているものが多く杭の可能性が高い。ビットは杭を抜き取りの際にくずれた跡であると考える。底部の一部分に東から西に少し急が下っている段差を確認する。雨水が勢よく流れて削ったものであろう。



第 1 4 5 圖滴水古岡原遺跡出土遺物実測図 (1)

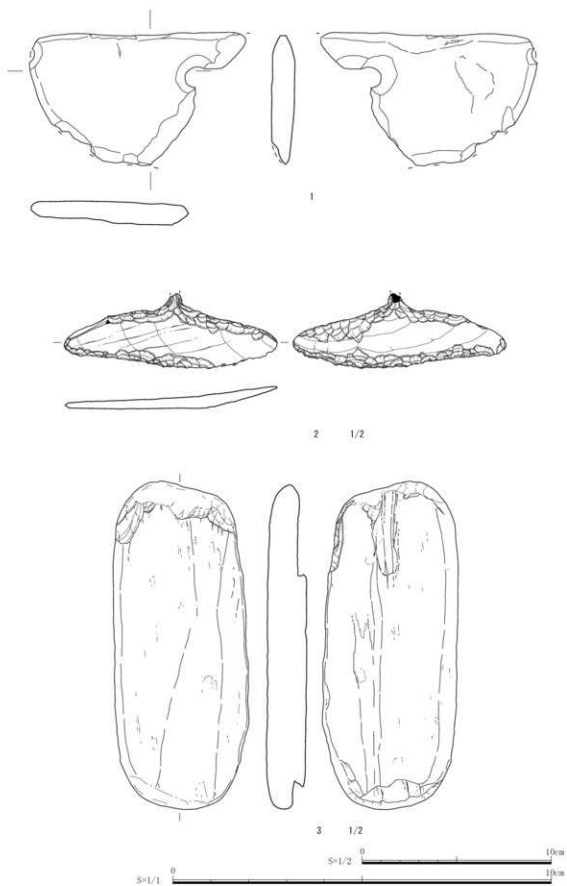


第 1 4 6 圖滴水古岡原遺跡出土遺物実測図 (2)

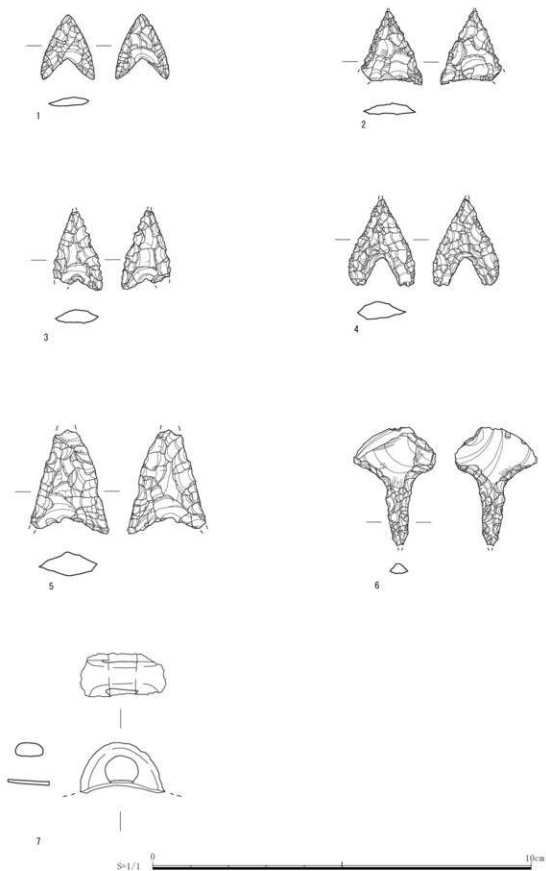


S=1/4 0 10cm

第 1 4 7 圖滴水古岡原遺跡出土遺物実測図 (3)



第148圖滴水古閑原遺跡出土遺物実測図(4)



第 1 4 9 圖滴水古岡原遺跡出土遺物実測図 (5)

第四章 理化学分析

南畑遺跡における基本層序および年代に関する自然科学分析調査

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

熊本県熊本市北区植木町南畑遺跡は、熊本平野北部に分布する台地上に位置する。植木町周辺は、阿蘇火山東麓のさらに東側に広がる平野であり、一帯に分布する台地は阿蘇火山から噴出した火砕流により構成されている（九州地方土木地質図編纂委員会，1985；町田ほか編，2001）。この台地はまた、河川による開析が進んでおり、多数の谷が分布していることも特徴である。

付近の台地の表層にはいわゆる火山灰土が形成されており、褐色を呈するローム層とその上位の暗褐色～黒褐色を呈する黒ボク土層とに分けられる。南畑遺跡の発掘調査では、現表土の下位に厚さ1mほどの黒ボク土層とその下位にローム層の最上部が確認されている。これらの土層からは縄文時代の遺物や旧石器時代の遺物が検出されていることから、その層位の対比と年代観の検証が課題の一つとされた。

今回の分析調査では、発掘調査所見により分層された黒ボク土層の各層位より採取された土壌試料を対象として、放射性炭素年代測定および重鉛・火山ガラス比分析による指標テフラの検出を行うことにより、各層位に関する年代資料を作成し、層序対比の指標とする。

1. 試料

試料は、南畑遺跡平成19年度調査区2区で作成された黒ボク土層断面より採取された。黒ボク土層は、発掘調査所見により、上位よりⅢ、Ⅲ'、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅵ'、Ⅶ、Ⅷの各層に分層されている。これらのうちⅢ、Ⅲ'、Ⅶの各層は黒褐色を呈し、他の層位は概ね暗褐色を呈する。なおⅧ層（漸移層）の下位にはIX層としてローム層がみられる。

試料は黒ボク土層のうちⅤ、Ⅵ、Ⅵ'、Ⅶの各層中位付近より1点ずつ計4点が採取された。ここでは放射性炭素年代測定、重鉛・火山ガラス比分析および火山ガラスの屈折率測定の各分析試料として4点全点を対象とする。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

根などの異なる年代を持つものが含まれている場合これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱しグラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma:68%）に相当する年代である。なお、暦年較正はRADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

(2) 重鉱物・火山ガラス比分析および屈折率測定

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置を用いて粒子を分散し、250メッシュの分析篩上にて水洗して粒径が1/16mmより小さい粒子を除去する。乾燥させた後、篩別して得られた粒径1/4mm1/8mmの砂分を、ポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96に調整)により重液分離し、得られた重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。同定の際、不透明な粒については斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒は「その他」とする。

火山ガラス比分析は重液分離により得られた軽鉱物中の火山ガラスとそれ以外の粒子を、偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで計数し、火山ガラスの量比を求める。火山ガラスはその形態によりバブル型、中間型、軽石型の3つの型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY字状の高まりを持つもの。中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの。軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を第4、5表に示す。同位体効果による補正を行った測定結果(補正年代)は、V層は6,520±40BP、VI層は9,670±40BP、VI'層は13,160±50BP、VII層は17,490±60BPを示す。この補正年代に基づく暦年較正結果(σ)は、V層は7,473-7,420calBP、VI層は11,188-10,891calBP、VI'層は15,735-15,397calBP、VII層は20,758-20,475calBPである。

(2) 重鉱物・火山ガラス比分析および屈折率測定

重鉱物・火山ガラス比分析結果を第6表と第150図に示す。重鉱物組成および火山ガラス比ともに4点の試料間で大きな差異はない。いずれも重鉱物組成では斜方輝石が最も多く40%前後を占め、次いで不透明鉱物が多く20~30%、さらに少量の角閃石と単斜輝石が含まれる。火山ガラス比ではバブル型火山ガラスが多く30~40%を占め、少量の軽石型火山ガラスと微量の中間型火山ガラスが含まれる。ただしより詳細にみれば、重鉱物組成ではV層の組成は他の試料に比べて斜方輝石と単斜輝石が若干多く、角閃石と不透明鉱物が若干少ないことが指摘され、火山ガラス比ではVI'層でバブル型火山ガラスの量比が若干下がるということが指摘される。なお、VI層およびV層のバブル型火山ガラスの中には、褐色を帯びたものも微量認められた。

各試料の火山ガラスの屈折率測定結果を第151図に示す。下位の試料であるVII層とVI'層中の火山ガラスは、ともにn1.497-1.499に高い集中を示す。VI層とV層では、下位の試料と同様の屈折率を示す火山ガラスが主体を占めるが、n1.508-1.511という高い屈折率を示す火山ガラスも少量認められた。

第4表 2区土層断面各層の放射性炭素年代測定結果

層名	種類	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
V	黒ボク土	6,520 ± 40	-16.39 ± 0.47	6,380 ± 40	IAAA-73090
VI	黒ボク土	9,670 ± 40	-20.04 ± 0.84	9,590 ± 40	IAAA-73091
VI'	黒ボク土	13,160 ± 50	-19.50 ± 0.45	13,070 ± 50	IAAA-73092
VII	黒ボク土	17,490 ± 60	-16.13 ± 0.58	17,340 ± 60	IAAA-73093

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。

3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第5表 2区土層断面各層の暦年較正結果

層名	測定年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)		相対比	Code No.
V	6519 ± 36	σ cal BC 5,523 - cal BC 5,470 cal BP 7,473 - 7,420 1.000	σ cal BC 5,555 - cal BC 5,464 cal BP 7,505 - 7,414 0.836	AAA-73090	
		σ cal BC 5,447 - cal BC 5,417 cal BP 7,397 - 7,367 0.069	σ cal BC 5,413 - cal BC 5,376 cal BP 7,383 - 7,329 0.069		
VI	9,673 ± 42	σ cal BC 9,238 - cal BC 9,138 cal BP 11,188 - 11,088 0.838	σ cal BC 9,272 - cal BC 8,941 cal BP 10,922 - 10,891 0.162	AAA-73091	
		σ cal BC 9,256 - cal BC 9,118 cal BP 11,206 - 11,068 0.678	σ cal BC 9,073 - cal BC 9,057 cal BP 11,028 - 11,007 0.011		
VII	13,163 ± 48	σ cal BC 8,802 - cal BC 8,846 cal BP 10,852 - 10,798 0.057	σ cal BC 8,785 - cal BC 13,447 cal BP 15,735 - 15,397 1.000	AAA-73092	
		σ cal BC 8,979 - cal BC 13,307 cal BP 15,929 - 15,297 1.000	σ cal BC 13,808 - cal BC 18,256 cal BP 20,738 - 20,478 1.000		
VIII	17,488 ± 58	σ cal BC 19,030 - cal BC 18,454 cal BP 20,980 - 20,404 1.000		AAA-73093	

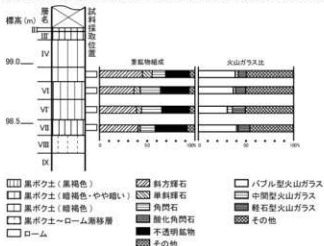
1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用

2)計算には表に示した丸められた値を使用している。

3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較がしやすいように1桁目を丸めていない。

4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である

5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、標準的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。



第150図 2区土層断面の重鉱物組成および火山ガラス比

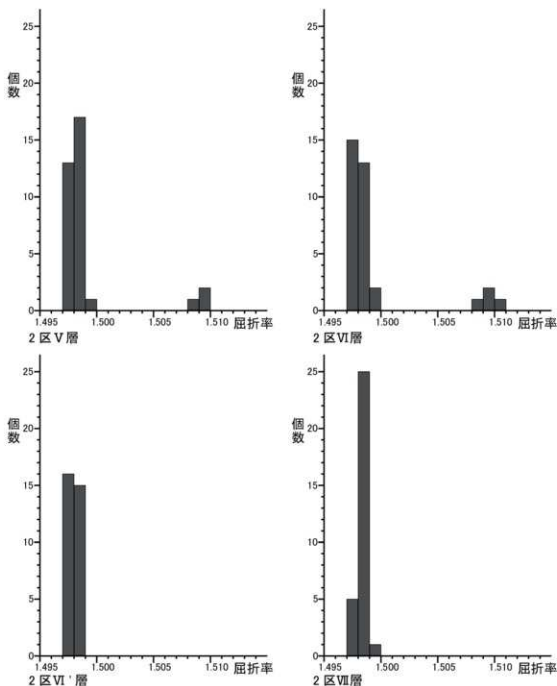
第6表 2区土層断面の重鉱物・火山ガラス比分析結果

層名	黒ボク土 (黒褐色)	黒ボク土 (暗褐色・やや細かい)	黒ボク土 (暗褐色)	黒ボク土～ローム遷移層	ローム	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	不透明鉱物	その他	合計	ハブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計	
V	113	25	35	0	2	63	12	250	97	8	21	124	250					250
VI	90	17	53	3	0	71	16	250	92	6	26	126	250					250
VII	97	13	53	0	0	73	14	250	76	13	34	126	249					249
VIII	101	6	39	2	2	84	16	250	101	4	30	114	249					249

4. 考察

土壌試料が示す放射性炭素年代についてまず現表土を構成する土壌で考えた場合、毎年供給される落葉や枝が分解して蓄積した有機物の年代、すなわち新旧混在する有機物の平均年齢が放射性炭素年代として測定される。さらに累積性の土壌であれば、下位の土壌の有機物が示す年代は上述した平均年齢に埋積した経過年数が加わった年代と考えればよい。今回の測定結果では連続する層位間では年代値の逆転等の混乱がなく、かつ下位ほど古い年代値が得られるなど対象とした黒ボク土が累積性の土壌であることを明瞭に示しており、土壌そのものを試料として測定を試みた貴重な資料が得られたといえよう。

発掘調査所見によれば各層で得られた測定年代は、その層位の形成年代とは必ずしも一致しない可能性がある。仮に黒ボク土層の厚さが等速度的に増加するとして、各層間の年代差が放射性炭素年代値でいずれも3000～4000年であることを考慮すれば、各層の形成年代はおそらく放射性炭素年代で示された年代±1000年程度の範囲内にある可能性がある。この場合、各層の形成年代を放射性炭素年代で想定するとすればVIII層は18,000～16,000年前。



第151図火山ガラスの屈折率

VI'層は14,000～12,000年前。VI層は11,000～8,000年前。V層は7,000～5,000年前という年代観が想定される。また、暦年代で考えるならばそれぞれ1,000年ほど古く見積もる必要があり、一般に想定されている完新世以降の黒色土の年代観よりやや古い感は否めない。

ただしこれらの年代測定値の評価については、周辺での測定例がほとんどなく今後の課題とせざるを得ないのが現状である。今後周辺で同様の堆積断面が作成された折には、現地調査を実施し各層の堆積構造や微地形条件を明らかにするとともに、同層中で採取位置の異なる土壌試料や層中あるいは遺構内の炭化物等を採取し、層中で得られる年代値の幅などを把握できれば、今回の測定結果を含め本地域における完新世以降の黒色土の形成について解明するための貴重な資料となるものと期待される。

一方VII層からV層までの各層に多く含まれる火山ガラスは、本遺跡の立地する台地が阿蘇火山の火砕流堆積物（最も上位の火砕流は8.5～9万年前に噴出した阿蘇4(Aso-4)火砕流（野田・新井, 2003））からなることにより、

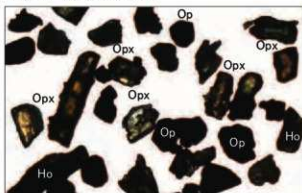
Aso-4の噴出以降に降下堆積したテフラに由来する。このような噴出年代の条件と火山ガラスの形態および屈折率から火山ガラスの由来するテフラは、鹿児島湾北部の始良カルデラから2.6～2.9万年前に噴出した始良Tn火山灰(AT:町田・新井,1976;2003)であると考えられる。なお当社および諸研究者により、これまで各地で測定されたATの屈折率は、n1.499-1.500に集中する場合が多く、今回測定された値はそれよりも若干低い方にずれている。この程度の差異については、火山ガラスの水合作用(水分がガラス中に取り込まれる風化変質作用)の影響であると考えられる。また南畑遺跡2区断面におけるATの降灰層準は、Ⅶ層からⅤ層まではほぼ同量程度に火山ガラスが拡散していることから、Ⅶ層よりも下位の層位にあると考えられる。このことは上述した放射性炭素年代によるⅦ層の年代観とも矛盾しない。

Ⅵ層およびⅤ層で検出された高屈折率の火山ガラスについては、ATとは異なるテフラに由来すると考えられる。その形態はATと同様のバブル型であることと屈折率の値および出現した層位がATよりも上位であることなどから、高屈折率の火山ガラスは九州南方の鬼界カルデラより約7300年前に噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah:町田・新井,1978;2003)に由来する可能性が高い。今回調査対象とした断面におけるK-Ahの降灰層準は、試料採取間隔等の問題もあり火山ガラス比分析結果から識別することは難しいが、屈折率測定結果からⅥ層またはⅤ層であると考えられる。一般的に風成土壌中における降下テフラ層に由来する火山ガラスの拡散は、クラックや植物根による下位への落ち込みよりも上位への再堆積の方が多いと考えられている。このことを考慮するとK-Ahの降灰層準はⅥ層である可能性もあるが、今回の場合重鉱物組成においてⅤ層で両輝石の量比がやや高くなっていることも確認されており、これがK-Ahに由来する両輝石の影響である可能性も考えられるので判断はできない。また上述した放射性炭素年代より得られた各層の年代観では、Ⅴ層の年代観がK-Ahの噴出年代(上述の7300年前は暦年代、放射性炭素年代では6300年前)を含んでいる。さらに発掘調査所見ではⅤ層下部より縄文時代早期押型土器が出土し、また断面観察結果でK-Ah粒子が主にⅤ層中に顕著であったとのことであることから、その降灰層準については、Ⅵ層・Ⅴ層の両層層界付近の可能性もあるかもしれない。いずれにしても今後周辺遺跡と同様の堆積層序を調査する機会があれば、厚さ5cmで土壌試料を連続的に採取し、今回同様の分析調査実施することにより詳細な降灰層準を把握できるものと期待される。またその結果K-Ahの降灰層準が確定できれば、上述した放射性炭素年代とともにさらに正確な年代指標を各層毎に与えることが可能となると考える。

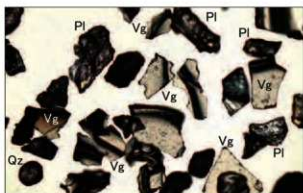
引用文献

- 古澤 明,1995,火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別,地質学雑誌,101,123-133.
- 九州地方土木地質図編纂委員会,1985,20万分の1九州地方土木地質図,国土開発技術研究センター.
- 町田 洋・新井房夫,1976,広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義-,科学,46,339-347.
- 町田 洋・新井房夫,1978,南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ-アカホヤ火山灰,第四紀研究,17,143-163.
- 町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス,東京大学出版会,336p.
- 町田 洋・太田陽子・河名俊男・森脇 広・長岡信治(編),2001,日本の地形7 九州・南西諸島,東京大学出版会,355p.

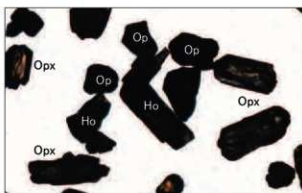
図版16 重鉱物・火山ガラス



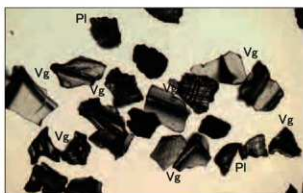
1. 重鉱物(2区土層断面:V層)



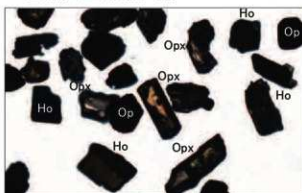
2. 火山ガラス(2区土層断面:V層)



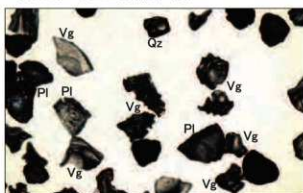
3. 重鉱物(2区土層断面:VI層)



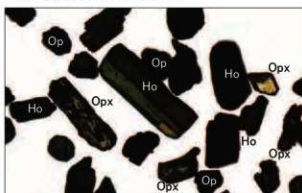
4. 火山ガラス(2区土層断面:VI層)



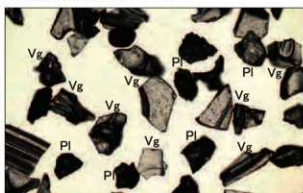
5. 重鉱物(2区土層断面:VII層)



6. 火山ガラス(2区土層断面:VII層)



7. 重鉱物(2区土層断面:VIII層)



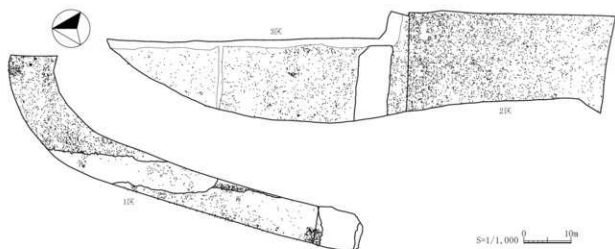
8. 火山ガラス(2区土層断面:VIII層)

Opx:斜方輝石, Ho:角閃石, Op:不透明鉱物,
Vg:火山ガラス, Qz:石英, Pl:斜長石.

0.5mm

第V章 まとめ

1. 南畑遺跡出土遺物について



第152図南畑遺跡遺物点上げ図

今回の1区・2区・3区から約8000点の土器が出土している。縄文時代の住居跡は検出できなかったが、この遺跡からの出土遺物の中で最も多かったのが縄文土器である。轟A式や北久根山式といった系統がわかるものもあったが、大半は破片であり後期の磨消縄文系の土器や晩期の黒色磨研系土器であった。また、山形押型文・格子押型文・楕円押型文といった文様や条痕文や沈線文・ヘラ描き文などの施文もみられ多岐にわたっている。このことから、この辺りは縄文時代から交通・物流の多かった場所だったことがいえる。狩猟・採集を中心とした生活スタイルの縄文時代に、貴重な土器や石器の交流が行われていたに違いない。

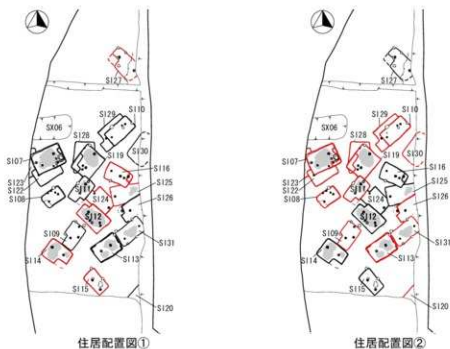
植木町の村の基盤が弥生時代に発展し、古代にかけて確立していったと考えるならば、弥生時代の遺構の広がりが必要になってくる。鹿南中学校付近から菱形小学校にかけて弥生時代の遺構が広がっていることは植木町の調査でもわかっている。南畑遺跡が鹿南中学校のすぐ近くに位置していることから、弥生時代遺構の東側の端になるのかもしれない。ただし、遺構の広がりには出土遺物が極めて少ないことで、時期の確定までには至っていないことは残念なことである。古墳時代の遺構はほとんど検出されていない。菊池川流域の遺跡は有名であるが、必ずしも弥生時代と重なるとは言えない。むしろ場所が特定される傾向にある。

古代の遺構としてカマド付住居が検出されているが、3区のS104から出土した土師器(図112-9)は、底部が丸底で口縁部が外反する回転ナデ・ミガキで作られているが、7世紀初めごろの模倣坏である可能性がある。また、奈良時代から貴族から一般にも広がったといわれる火葬の風習が残る藤骨器と萬年通宝が出土したことは興味深い出来事である。特に萬年通宝は皇朝十二銭の一つで、和同開珎の次にわずか5年間しか铸造されなかった古銭である。その古銭がこの地に流通していたことに驚かされる。

2. 弥生住居の成立と展開

南畑（第1期）住居跡

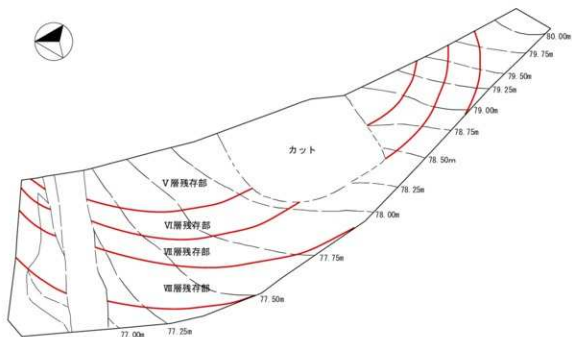
南畑（第2期）住居跡



第153図南畑遺跡弥生住居跡変遷図

南畑遺跡の弥生住居は1区・2区からは検出されておらず、3区から検出した軒数から集落と呼べるものかどうかは難しい。住居に伴う弥生時代の遺物が比較的完全な形で検出されることがなく、破片が多かったことから遺物で時期を確定し、住居の形成時期を確認することは困難である。したがって、ここでは住居跡の方向軸や形状などから大きく2時期に形成時期を確定することとした。第153図の住居配置図①で北西を基軸とした第1期と住居配置図②で北東を基軸とした第2期とに分けられる。第1期の住居の中でS125のように方向軸からずれるものもあるが、S116に切られていることから同じ時期に形成されたものと考えている。第2期の中で形状が異なるものがある。また、規格が小さいS108・S109に比べS107・S119などは大きい。多少の時期差はあると思うが、東側から西側に住居の広がりが見られる。また、調査区北側には住居がなく東側からの住居の移り変わりから考えて、東側にはまだ住居跡があったと考えていいだろう。3区の南東部は地形的に緩やかな丘陵地になっており北側に下るように形成されていた。北側には、合志川の支流の豊田川へと続く谷部が続いている。生活の基盤である水系も近くにあることから、丘陵地ごとに住居の群れが存在したのではないかと考える。

3. 滴水古閑原遺跡出土遺物について



第154図 滴水古閑原遺跡コンタ図

試掘の段階では植木町の基本土層を基準に、遺物包含層（Ⅲ層～Ⅴ層）の残存状況から遺構の有無を判断してきた。滴水古閑原遺跡は周知の遺跡範囲の周辺部にあたることから、遺物の流れ込みが大半で遺構の残存は少ないだろうと考えていた。第154図は盛土除去時の基本土層の残りを表している。調査区中央部はなだらかな傾斜地を開田事業の際、階段状の田畑にするために削平したことにより、基本土層が喪失している状況であった。Ⅴ層が調査区の東側に放物線を描くように残っている。これは、丘陵地が北西側に尾根状に伸びてきていることを示している。掘立柱建物の検出の際、柱穴が浅かったのは西側の削平によるところが大きい。Ⅶ～Ⅷ層まで削平されていることから、礫（2～3mm大）の混じりが多くなっている。したがって、出土遺物も少なくなっている。縄文遺構が検出された調査区南側では、全体的に摩耗が著しいものの縄文土器を中心に検出されており、中には押型文や山形押型文のものが出土している。また、弥生時代の石包丁などからも、神ノ木川を生活の基盤とした生活圏が存在していたことを伺わせる。また、掘立柱建物や溝の存在から滴水館跡など中世の生活が、本遺跡の台地上にも存在していたことがわかった。この溝が使われていた形跡ははっきり分らないが、この台地状を囲むように存在していた可能性が高いと言える。今回中世の遺物はほとんどが破片だったので本報告書では取り上げていないが、明らかに生活の跡が残っていたことがわかった。本調査区が遺跡の周辺部であることから全容の一端でしかないが、縄文時代・弥生時代から中世にかけての生活の跡が見られたことは調査の成果があったと言える。

8	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	4.8	掲載21964/1	仁心い簿21964.4	長尾 尚徳監修	へつ子本	子字	-	-	記録本	-	146
10	100	印刷	紙文士簿	録	-	-	4.6	録946	記録簿2096.2	長尾 尚徳監修	子字へつ子本	巻物	-	-	山口屋の可成様 記録本	-	144
11	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	4.5	掲載20964/1	記録簿2094.2	長尾 尚徳監修	子字	子字	-	-	外郎に録取玉 巻物紙文へつ子本	8	153
12	100	印刷	紙文士簿	録	3.6	-	3.0	仁心い簿2097/3	仁心い簿2097.3	長尾 尚徳	へつ子	へつ子	へつ子	へつ子	外郎 文士簿	15	148
1	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	10.4	仁心い簿2095/3	掲載2197/3	長尾 尚徳監修	子字	子字	子字	子字	又林の中心に貞節傳紙文巻物 文林の中心に紙文	318	
2	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	4.5	記録簿2094.2	掲載2193/1	長尾 尚徳監修	子字	子字	子字	子字	外郎に録取玉 巻物紙文へつ子本	107	
3	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	4.7	仁心い簿2097/3	掲載2092/1	長尾 尚徳監修	子字	子字	子字	子字	外郎に録取玉 巻物紙文へつ子本	102	
1	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	3.5	掲載2197/3	仁心い簿2097/4	長尾 尚徳監修 巻物	子字	子字	子字	子字	外郎に録取玉 巻物紙文へつ子本	104	
2	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	6.2	仁心い簿2097/3	仁心い簿2096.3	長尾 尚徳監修	へつ子	へつ子	へつ子	へつ子	巻物紙文	103	
3	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	6.1	仁心い簿2097/4	仁心い簿21994.4 記録簿2095.2	長尾 尚徳監修	子字へつ子本	子字へつ子本	子字	子字	外郎に巻物紙文へつ子本	102	
1	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	3.6	掲載2098.3	掲載2098.2	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	延付巻物紙本	205	
2	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	3.4	記録簿2098.2	記録簿2098.2	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	延付巻物紙本	207	
3	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	4.0	仁心い簿2097/2	記録簿2098.2	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	延付巻物紙本	203	
4	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	4.0	掲載21964.1	仁心い簿21966.3	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	延付巻物紙本	202	
5	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	4.4	仁心い簿2097/4	仁心い簿2097/3	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	外郎に巻物紙文へつ子本	227	
6	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	2.9	仁心い簿2096.3	仁心い簿2096.3	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	外郎に巻物紙文へつ子本	250	
7	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	4.2	仁心い簿2097/2	仁心い簿2097/3	長尾 尚徳	へつ子	へつ子	へつ子	へつ子	巻物紙文	246	
8	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	4.5	掲載2197.2	掲載2197/3	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	外郎に巻物紙文へつ子本	247	
1	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	3.5	仁心い簿2097/3	仁心い簿2097/3	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	延付巻物紙本	310	
2	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	4.5	仁心い簿21994.4	仁心い簿21996.3	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	延付巻物紙本	301	
3	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	3.0	仁心い簿2097/3	仁心い簿2097/3	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	延付巻物紙本	308	
4	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	2.6	仁心い簿2097/4	掲載2098.2	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	延付巻物紙本	222	
5	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	5.1	仁心い簿2197/4	掲載2198.4	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	延付巻物紙本	225	
6	100	印刷	紙文士簿	記録	-	-	6.8	仁心い簿2198.3	仁心い簿2198.4	長尾 尚徳	子字	子字	子字	子字	延付巻物紙本	241	

7	52		京博	紙工士部	記録係	-	8.7	-	3.2	二六八ノ書置(0)927.4	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	15
8	52		京博	紙工士部	記録係	-	7.8	-	4.4	二六八ノ書置(1)936.4	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	15
9	52		京博	紙工士部	記録係	-	10.0	-	2.6	京博編(0)955.2	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	212
10	52		京博	紙工士部	記録係	-	-	2.6	京博編(0)944.2	二六八ノ書置(1)936.4	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	206
11	52		京博	紙工士部	記録係	-	-	3.6	編(1)954.1	通算(2)977.3	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	151
12	52		京博	紙工士部	記録係	-	-	4.3	通算(2)977.3	通算(2)977.3	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	153
13	52		京博	紙工士部	記録係	-	-	8.5	二六八ノ書置(1)936.2	京博編(0)946.2	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	237
14	52		京博	紙工士部	記録係	-	-	7.2	京博編(0)955.2	二六八ノ書置(0)946.2	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	254
15	52		京博	紙工士部	記録係	-	-	3.9	編(0)920.1	二六八ノ書置(1)937.4	高閃石	男子	男子	男子	男子	219
16	52		京博	紙工士部	記録係	-	-	3.0	二六八ノ書置(0)927.4	二六八ノ書置(0)970.2	高閃石	男子	男子	男子	男子	158
17	52		V博	紙工士部	書	-	-	3.7	二六八ノ書置(1)936.2	二六八ノ書置(1)936.4	石原 長石	男子	男子	男子	男子	183
18	52		V博	紙工士部	書	-	-	3.9	二六八ノ書置(1)936.4	二六八ノ書置(1)936.4	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	277
19	52		V博	紙工士部	書	-	-	2.8	二六八ノ書置(0)927.4	二六八ノ書置(0)970.4	高閃石	男子	男子	男子	男子	252
20	52		V博	紙工士部	書	-	-	4.0	京博編(0)955.2	編(1)920.1	高閃石	男子	男子	男子	男子	216
21	52		V博	紙工士部	記録係	-	-	3.7	京博編(0)944.2	編(2)2354.2	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	186
22	52		V博	紙工士部	書	-	-	2.1	二六八ノ書置(0)927.3	二六八ノ書置(0)970.2	石原 長石	男子	男子	男子	男子	219
23	52		V博	紙工士部	記録係	-	-	3.3	二六八ノ書置(0)962.3	二六八ノ書置(0)966.2	高閃石	男子	男子	男子	男子	215
24	52		V博	紙工士部	記録係	-	-	8.6	二六八ノ書置(0)927.3	二六八ノ書置(0)927.3	高閃石	男子	男子	男子	男子	265
25	52		V博	紙工士部	記録係	-	-	4.7	二六八ノ書置(0)955.2	編(2)2354.2	石原 長石	男子	男子	男子	男子	181
26	52		V博	紙工士部	記録係	-	-	3.4	京博編(0)944.2	京博編(0)946.2	高閃石	男子	男子	男子	男子	214
27	52		V博	紙工士部	記録係	-	-	3.1	二六八ノ書置(0)927.3	編(2)2354.1	石原 長石	男子	男子	男子	男子	264
28	52		V博	紙工士部	記録係	-	-	3.3	編(1)970.1	通算(2)970.2	高閃石	男子	男子	男子	男子	219
29	52		V博	紙工士部	記録係	-	-	4.4	二六八ノ書置(1)936.2	京博編(0)946.2	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	212
30	52		V博	紙工士部	記録係	-	-	8.5	二六八ノ書置(0)927.3	二六八ノ書置(0)966.4	石原 長石 高閃石	男子	男子	男子	男子	115

11	30C	3205		織文工器	織鉢	-	(10)	-	3.5	にんいし黄磁00706.4	にんいし黄磁00706.4	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	様式多岐(含む)	-	401
12	30C	3205		滑石	学生工器	織	(12)	-	3.8	にんいし黄磁00706.4	にんいし黄磁00706.4	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	外側にスス付(含む) 駝付(黄磁器のみ)	10	419	
13	30C	3205		滑石	織文工器	織鉢	-	(12)	-	4.1	にんいし黄磁00706.3	黄磁02705.1	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	ナナ	-	420
14	30C	3205		滑石	学生工器	織	-	-	4.3	にんいし黄磁00706.3	透網02717.3	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	駝付(黄磁器のみ)	-	423	
1	30C	3205		滑石	織文工器	織鉢	-	-	4.7	にんいし黄磁00706.3	にんいし黄磁00706.3	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	駝付(黄磁器のみ)	-	404	
2	30C	3205		滑石	織文工器	織	-	-	3.7	にんいし黄磁00706.4	にんいし黄磁00706.4	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	駝付(黄磁器のみ)	-	401	
3	30C	3204		滑石	織文工器	織鉢	-	-	3.1	黒磁01902.1	黒磁01902.1	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	へうろ付	-	400	
4	30C	3206		滑石	学生工器	織	-	-	3.3	にんいし黄磁00707.4	にんいし黄磁02506.4	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	駝付(黄磁器のみ)	-	407	
5	30C	3205		滑石	学生工器	織	-	-	3.0	にんいし黄磁00707.4	黒磁01905.2	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	外側にスス付(含む) 駝付(黄磁器のみ)	-	405	
6	30C	3204		滑石	織文工器	織鉢	-	(12)	-	5.2	黒磁01905.3	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	工員ナナ	-	409	
7	30C	3205		滑石	学生工器	織	-	-	4.2	にんいし黄磁00707.4	にんいし黄磁00707.4	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	外側にスス付(含む) 駝付(黄磁器のみ)	-	402	
8	30C	3204		滑石	学生工器	織	-	-	6.1	にんいし黄磁00706.4	にんいし黄磁00706.4	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	外側にスス付(含む) 駝付(黄磁器のみ)	10	470	
第113	9	30C	3203	滑石 平置 用器	工器鉢	外	-	(13)	-	5.0	黒磁01906.6	黒磁01906.6	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	様式多岐 (内:外側に二重線あり)	-	399
10	30C	3204	P1	学生工器	織	-	-	2.8	黒黄磁00704.2	にんいし黄磁00706.3	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	外側にスス付(含む) 駝付(黄磁器のみ)	-	398		
11	30C	3205		滑石	工器鉢	織	-	-	6.5	にんいし黄磁00707.3	にんいし黄磁00707.2	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	外側にスス付(含む) 駝付(黄磁器のみ)	-	403	
12	30C	3206		工器鉢	外	(10)	(10)	-	3.6	黒磁01907.6	黒磁01907.6	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	工員ナナ	-	404	
13	30C	3204		工器鉢	織	-	(12)	-	22.6	にんいし黄磁00707.4	にんいし黄磁00707.4	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	外側にスス付(含む) 駝付(黄磁器のみ)	10	481	
14	30C	3205		工器鉢	織	(12)	-	-	4.7	にんいし黄磁00707.3	にんいし黄磁00706.3	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	外側にスス付(含む) 駝付(黄磁器のみ)	-	471	
15	30C	3205		工器鉢	織	(10)	-	-	3.8	黒黄磁00705.6	にんいし黄磁00707.4	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	内:外側に黒色顔料塗布	-	406	
16	30C	3207		工器鉢	織	(13)	(13)	-	4.4	にんいし黄磁00706.4	にんいし黄磁00706.4	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	内:外側に黒色顔料塗布	-	413	
17	30C	3206		工器鉢	織	(13)	(14)	-	3.4	にんいし黄磁00706.4	黒磁01906.8	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	内:外側に黒色顔料塗布	10	472	
1	30C	3201		滑石	織文工器	織鉢	-	-	3.3	にんいし黄磁00705.3	にんいし黄磁00706.4	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	駝付(黄磁器のみ)	-	422	
2	30C	3216	P1	滑石	織文工器	織鉢	-	(12)	-	3.7	黒磁01904.7	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	外側にスス付(含む) 駝付(黄磁器のみ)	-	412	
3	30C	3201		滑石	学生工器	織	-	-	6.7	にんいし黄磁00707.4	にんいし黄磁00707.4	石長系石黄磁	ナナ	ナナ	ナナ	外側にスス付(含む) 駝付(黄磁器のみ)	10	419	

4	305	5021	植生	植生工事	課長	-	-	5.7	にふい賃借(0)007.4	にふい賃借(0)007.4	石原 真石 熱帯石	子字子字	子字子字	-	-	-	422
5	305	5018	植生	土製品	造園	-	-	-	にふい賃借(0)006.4	にふい賃借(0)006.4	石原 真石 熱帯石	工具子字	-	-	-	緑の森内務科 緑帯係 0.300 緑帯係 2.000 課長 1.000	413
6	305	5021	植生	土製品	課	-	-	3.1	にふい賃借(0)006.3	にふい賃借(0)006.3	石原 真石	子字子字	-	-	-	-	400
7	305	5021	植生	植生工事	課	-	-	5.0	にふい賃借(0)006.3	にふい賃借(0)007.4	石原 真石 熱帯石	工具子字 子字ハワキ 子字子字	植生係 30.3 子字ハワキ 植生子字	-	-	-	421
8	305	5021	植生	植生工事	課	-	-	3.2	にふい賃借(0)006.4	にふい賃借(0)006.4	石原 真石 熱帯石	子字別小目	子字	-	-	-	424
第113	9	305	5021	土製品	課	04.20	-	9.6	植73006.8	原簿帳 50704.2	石原 真石	子字子字	子字	-	-	-	418
	10	305	5018	土製品	付付帳	03.40 (00)	-	6.9	植73006.8	植73006.8	石原 真石 熱帯石 熱帯ハワキ	園地子字 園地ハワキ	園地子字	-	-	-	11, 475
11	305	5021	植生	土製品	課	07.6	-	4.6	にふい賃借(0)006.4	にふい賃借(0)006.3	石原 真石	子字子字 子字ハワキ	子字	-	-	-	477
12	305	5021	植生	土製品	課	04.5	-	6.1	にふい賃借(0)007.4	にふい賃借(0)007.4	石原 真石 熱帯石	子字子字 子字ハワキ	子字	-	-	-	460
13	305	5021	植生	土製品	課	27.2	-	14.3	にふい賃借(0)006.4	にふい賃借(0)006.4	石原 真石 熱帯石 植生子字	子字子字 子字ハワキ 子字子字	子字	-	-	00	476
14	305	5017	植生	土製品	課	24.6	-	6.3	にふい賃借(0)007.4	にふい賃借(0)007.4	石原 真石 熱帯石 赤巻石	子字子字 子字ハワキ	子字	-	-	-	387
1	305		植生	赤生土器	課	-	-	2.1	減費帳73006.4	減費帳	石原 真石 熱帯石	子字別小目	子字	-	-	-	381
2	305		植生	赤生土器	課	-	-	3.1	にふい賃借(0)007.4	にふい賃借73007.4	内務科熱帯石	子字別小目	子字	-	-	-	354
3	305		植生	赤生土器	課	-	-	2.8	減費73006.2	減費73006.2	長石 内務科熱帯石	子字別小目	子字	-	-	-	356
4	305		植生	赤生土器	課	-	-	4.3	にふい賃借(0)006.3	にふい賃借(0)006.3	長石 熱帯石	子字別小目	子字	-	-	-	386
5	305		植生	赤生土器	課	-	-	5.5	にふい賃借(0)006.3	減費帳 00706.4	長石	子字別小目	子字	-	-	-	387
第117	6	305	植生	赤生土器	課	-	-	2.8	にふい賃借(0)007.3	にふい賃借(0)006.3	石原 真石 熱帯石	子字別小目	子字	-	-	-	381
	7	305	植生	赤生土器	課	-	-	4.8	にふい賃借(0)007.3	にふい賃借(0)007.3	石原 真石 熱帯石 園地	子字子字	工具子字	-	-	-	359
8	305		植生	赤生土器	課	-	-	4.2	減費帳(0)006.3	にふい賃借(0)007.3	石原 真石 熱帯石	子字別小目	工具子字	-	-	-	385
9	305		植生	赤生土器	課	-	-	6.8	にふい賃借(0)007.4	にふい賃借73007.4	石原 真石	子字別小目	子字	-	-	-	382
10	305		植生	赤生土器	課	-	-	6.4	にふい賃借(0)007.3	にふい賃借73007.4	石原 真石 熱帯石 園地	子字別小目	子字	-	-	-	380
第117	1	305	5018	土製品	課	20.6	-	10.0	植73006.8	原簿帳 00706.8	石原 真石 熱帯石	園地子字 子字ハワキ	園地子字	-	-	-	423
	2	305	5020	土製品	課	20.6	-	15.3	にふい賃借(0)006.4	にふい賃借(0)006.3	石原 真石	園地子字 子字ハワキ	園地子字 子字ハワキ	-	-	-	10, 422
第119	1	305	5002	赤生土器	課	-	-	3.4	減費73006.3	にふい賃借(0)006.4	石原 真石 赤巻石	子字子字	子字子字	-	-	-	608

20	305		児童 図書	学生図書 蔵	(172)	-	-	2.7	表1095/8	表1095/8	赤石 薫母	女子	女子	-	-	内(外)部(二)書架あり	-	466
21	305		児童 図書	学生図書 蔵	-	-	8.6	表2377/3	にぶい書架02376/3	石塚 長石 尚四石	三ツ子 ハヴム	三ツ子	三ツ子	-	-	外部交換 内蔵(二)書架あり	15	339
22	305		児童 図書	学生図書 蔵	(152) (160)	-	8.0	にぶい書架02373	にぶい書架02373	石塚 長石 尚四石 尚母	三ツ子 三ツ子	女子	女子	指図区蔵 ハヴム	-	外部(二)書架あり	15	464
23	305		児童 図書	学生図書 蔵	(280)	-	3.3	にぶい書架3378/4	にぶい書架3378/4	石塚 長石 尚四石 薫母	女子 小目	女子	女子	-	-	外部(二)書架あり 取付書架部小目	9	340
24	305		児童 図書	学生図書 蔵	-	(0.6)	4.4	にぶい書架3378/4	にぶい書架3378/4	長石 尚四石 薫母	女子	女子	女子	-	-	蔵の部数	15	330
25	305		児童 図書	学生図書 蔵	-	(0.4)	2.8	蔵378/6	にぶい書架02374	長石 尚四石 薫母 長石 尚四石 薫母	女子	女子	女子	女子	-	-	15	467
26	305		児童 図書	学生図書 蔵	-	(0.2)	2.7	にぶい書架3378/4	にぶい書架3378/4	石塚 長石 尚四石 薫母	女子	女子	女子	女子	-	-	15	340
27	305		児童 図書	学生図書 蔵	-	(0.4)	6.2	表2378/8	にぶい書架3378/4	長石 薫母	女子	女子	女子	女子	-	一部(二)書架 あり	15	342

表130

第8表 南畑遺跡出土遺物(石器)観察表

図録 No.	品名	図録番号	種	用途	加工	フリ ン ク ン	長さ			刃付	備考	図録 No.	
							全長 (mm)	刃長 (mm)	厚さ (mm)				
1	1区	V層一拵	打製石器	打製石錘	115	130	-	0.25	黒曜石(西土六所産)	小型の平型薄盤。全面に押し印痕の施される。	12	11	
2	1区	V層一拵	打製石器	製作	15	175	-	0.35	黒曜石(西土六所産)	小型板状片内で傾斜の一面に押し印痕あり。傾斜二次加工は施され、ない。	-	8	
3	1区	V層一拵	打製石器	破砕片	19	200	-	1.1	黒曜石(黒土山産)	黒曜石の片中で割削られたもので多少の色差は顕著なもので破砕片。黒土山産で割削。	-	12	
第13	4区	V層一拵	打製石器	スクレイパー	240	29	-	0.9	黒曜石(西土六所産)	割削片内傾斜及び断面に刃状印痕。	-	13	
5	4区	V層	磨製石器	磨製石斧	88	408	-	3.35	104.1	磨製石斧	黒曜石の片で磨製。多岐に強い傾斜。刃打痕が残る。傾削に割削痕若干。	12	7
6	1区	S01	埋土1層一拵	不明	33	0	-	0.45	1.0	黒岩	厚み約1mmの薄板。傾斜の一面に押し印痕あり。黒曜石の片で磨製。	-	14
7	1区		磨製石器	磨石	83	88	-	4.0	397.9	安山岩	磨石片の表面に使用。傾削の平面に傾斜の一面を形成。平面に磨痕が認められる。	13	
8	1区	V層			95	805	-	4.80	485.1	輝石安山岩	記石しは磨石で使用された可能性あり。	9	
1	1区	III層	打製石器	打製石斧	700	5.6	-	2.2	112.6	輝石安山岩	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	4	
2	1区	III層	打製石器	打製石斧	85	820	-	1.3	83.4	輝石安山岩	片厚約1mmの薄板。傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	3	
3	1区	III層	打製石器	打製石斧	127	82	-	1.90	137.9	輝石安山岩	傾斜面の傾斜に加工は施す。裏面の一部は加工が行われていない。	3	
4	1区	III層	打製石器	打製石斧	97	819	-	2.5	188.8	輝石安山岩	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	3	
5	1区	III層	打製石器	打製石斧	155	800	-	2.7	393.5	輝石安山岩	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	2	
6	1区	V層	打製石器	打製石斧	98	390	-	1.7	142.0	黒曜石片	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	3	
1	2区	V層	打製石器	打製石斧	600	60	-	1.6	105.2	輝石安山岩	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	10	
2	2区	V層	打製石器	打製石斧	800	570	-	1.6	110.4	輝石安山岩	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	26	
3	2区	V層	打製石器	打製石斧	97	61	-	1.8	143.9	緑色片岩	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	25	
4	2区	V層	打製石器	打製石斧	840	84	-	2.5	200.7	輝石安山岩	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	28	
5	2区	V層	打製石器	打製石斧	98	740	-	1.5	119.7	輝石安山岩	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	18	
6	2区	III層一拵	打製石器	打製石斧	87	79	-	2.1	171.9	輝石安山岩	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	18	
1	2区	III層一拵	打製石器	打製石錘	18	1.2	-	0.25	0.4	安山岩(西土六所産)	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	17	
2	2区		打製石器	打製石錘	21	1.40	-	0.30	1.2	黒曜石	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	31	
3	2区		打製石器	スクレイパー	340	1.90	-	0.70	5.0	黒曜石(西土六所産)	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	-	32
4	2区		磨製石器	磨製石斧	800	7.6	-	2.8	215.8	磨製石斧	傾斜面平型薄盤が全面に及ぶ。背面は傾斜が浅く傾斜一面に打痕。大半が欠損。	12	29

	5	2区		浮腫	顔装仕巻	顔装仕巻	顔装仕巻	10.75	8.9	-	4.0	468.8	砂岩	扁平の円錐形浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚—1/2程度。	30
第41	6	2区		浮腫一括	打装仕巻	打装仕巻	打装仕巻	3.05	2.3	-	0.55	2.7	安山岩	やや大振りな凹面層装仕巻。充填は赤か茶色の膨らみ調整。断面は顔装仕巻が覆い大半が凹面に実行する。	24
	7	2区		浮腫	顔装仕巻	顔装仕巻	顔装仕巻	11.6	5.1	-	2.85	274.9	砂岩	平直面は顔装仕巻なし。充填は赤か茶色の膨らみ調整。断面は顔装仕巻が覆い大半が凹面に実行する。	18
	1	2区		浮腫	顔装仕巻	顔装仕巻	顔装仕巻	6.8	5.15	-	2.35	180.8	輝石安山岩	顔装仕巻を凹面、顔装仕巻の断面の一部に顔装仕巻あり。全体の1/3—1/2を欠損。	22
	2	2区		浮腫	顔装仕巻	顔装仕巻	顔装仕巻	9.7	5.7	-	4.6	393.3	輝石安山岩	扁平の円錐形浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	23
	3	2区		V層	顔装仕巻	顔装仕巻	顔装仕巻	13.0	9.7	-	6.3	1150.0	輝石安山岩	扁平の円錐形浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	30
	4	2区		V層	顔装仕巻	顔装仕巻	顔装仕巻	11.45	7.4	-	7.4	1000.0	輝石安山岩	扁平の円錐形浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	27
	1	3区	524	埋土1層	打装仕巻	打装仕巻 (床装品)	打装仕巻	2.05	1.85	-	0.45	1.3	黒曜石(東北九州産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	12
2	3区	506	埋土1層一括	打装仕巻	打装仕巻	打装仕巻	1.6	1.4	-	0.4	0.6	安山岩(東北九州産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	48	
3	3区		浮腫一括	打装仕巻	打装仕巻	打装仕巻	1.35	1.3	-	0.25	0.6	黒曜石(北東産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	50	
4	3区		浮腫一括	打装仕巻	スクリューバー	スクリューバー	4.2	2.15	-	0.75	6.3	黒曜石(東北九州産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	38	
第42	5	3区		浮腫一括	打装仕巻	打装仕巻	2.05	1.35	-	0.35	0.8	安山岩(東北九州産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	41	
	6	3区		浮腫一括	打装仕巻	打装仕巻	1.9	1.65	-	0.25	0.8	安山岩(東北九州産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	35	
	7	3区		浮腫一括	打装仕巻	打装仕巻	2.3	1.35	-	0.45	1.7	安山岩(東北九州産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	36	
	8	3区		浮腫一括	打装仕巻	使用後削片	使用後削片	2.3	1.7	-	0.85	1.7	黒曜石(東北九州産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	40
	9	3区		浮腫一括	打装仕巻	打装仕巻	2.8	1.2	-	0.55	1.7	黒曜石(東北九州産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	39	
	10	3区		浮腫一括	打装仕巻	二次加工削片	二次加工削片	3.05	2.2	-	0.6	3.8	黒曜石(東北九州産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	12
	11	3区	534	埋土1層一括	打装仕巻	石版	石版	5.4	2.95	-	1.05	15.4	安山岩(東北九州産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	45
	12	3区		V層	打装仕巻	使用後削片	使用後削片	3.5	1.55	-	0.85	2.5	黒曜石(東北九州産)	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	42
	1	3区		浮腫	打装仕巻	打装仕巻	打装仕巻	10.7	3.25	-	1.85	138.0	輝石安山岩	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	37
	2	3区		V層	顔装仕巻	顔装仕巻	顔装仕巻	14.15	3.65	-	3.7	284.3	輝石安山岩	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	43
第43	3	3区	506	埋土1層	顔装仕巻	顔装仕巻	15.4	11.0	-	6.1	1430.0	安山岩	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	49	
	4	3区	535	埋土1層	顔装仕巻	顔装仕巻	9.7	10.0	-	8.2	393.2	輝石安山岩	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	48	
	1	3区	534		打装仕巻	砂岩	砂岩	23.0	15.9	-	4.8	2900.0	輝石安山岩	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	44
	2	3区	521	埋土1層	顔装仕巻	顔装仕巻	顔装仕巻	16.7	13.8	-	6.0	1950.0	砂岩	顔装仕巻の浮腫部は顔装仕巻打込、平直面部に覆面が貼られる。全体の半分厚程度。	11
3区			浮腫	顔装仕巻	顔装仕巻	顔装仕巻	4.0	4.1	-	0.5	7.3	鉄	断面は顔装仕巻である。	10	

第10表 菟水古石原遺跡出土遺物(石器)観察表

遺物 No.	遺物 番号	遺物 番号	種別	形状	グ リッ ト	法量				石材	備考	区 画 No.	実 測 番 号	
						全長 (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)					重量 (g)
第 148	1		打製石器	石包丁	D-8	4.5	5.7	-	0.6	14.7	結晶片岩	石包丁の磨片で全体の2/5~1/3が残存する。残骸は全体 的にみよを穿ひる。研磨による磨痕は石質のため明確 なものも確認できない。	404	
	2		打製石器	石器	F-11	4.0	11.25	-	1.15	28.9	安山岩(西北九州産)	構景削片を素材とした構景石器である。打面を上面に用い、 磨痕部から磨製痕はあまり深くまで及ばない。 一部未磨製の部分がある。つまみ部を欠損する。	383	
	3	SK-04	埋土2	打製石器	敲石		17.4	7.2	-	2.1	410.6	砂岩	扁平な楕円形の両面に敲打痕とおぼしき使用面が確認さ れる程で、磨製した石質のため厚化粧しているため、磨風の 可能性も考えられる。	245
第 149	1		北部盛土層	打製石器	打製石器		1.7	1.4	-	0.25	0.5	チャート(灰色半透明)	小型の凹基無蓋錐で、全体に丁寧な調整が行われる。	65
	2	SD-01	埋土1-b	打製石器	打製石器		1.9	1.6	-	0.3	0.6	黒曜石(西北九州産)	薄手の削片を素材とした平基無蓋錐で蓋部が若干内湾する。	187
	3	SD-01	埋土1-b	打製石器	打製石器		2.1	1.3	-	0.4	0.9	黒曜石(像ヶ峯産)	凹基無蓋錐で側縁は鋭角状を呈する。先端と片側蓋部を若 干欠損する。	186
	4		VI~VII層	打製石器	打製石器	C-5	2.25	1.7	-	0.4	1.1	黒曜石(西北九州産)	凹基無蓋錐である。中央部はやや厚みを持つが、全体的に 丁寧な平坦削磨により滑らかに仕上げられる。	365
	5	SD-01	埋土1-a	打製石器	打製石器		2.75	2.1	-	0.6	2.5	チャート(灰色半透明)	凹基無蓋錐で、やや厚みがある。断面ともに中央部付近に 素材面を残す。先端と片側蓋部を欠損する。	178
	6		VI~VII層	打製石器	石器	C-5	3.1	1.15	-	0.35	1.3	黒曜石(西北九州産)	構景削片を素材として、磨製した平坦削磨により先端部を作 り出す断面は先端近くまで素材面が残る。	366
	7		II層	銅製品	銅製品	G-11	1.3	2.25	-	-	7.4	銅	青銅品の一部と考えられるが、つまみなのか組立なのか 不明であるが、おそく把手ではなからうか。	380

写真図版



図版 1



1区V層遺物出土状況



1区S101カマド検出状況



1区集石01



1区S102カマド検出状況



1区S101遺物出土状況



1区S103カマド燃焼部検出状況



1区S101床面検出状況



1区SK03完掘状況

図版 2



1区 S001 完掘状況



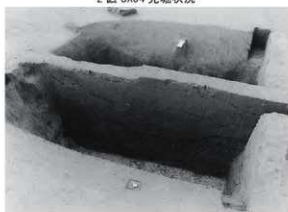
3区 S104 完掘状況



2区 SX04 完掘状況



3区 S104 カマド完掘状況



2区 SX04 土層断面



3区 S105・06 検出状況



2区土器集中04 検出状況



3区 S105 カマド 燃焼部検出状況

図版 3



3区 S105・06 カマド完掘状況



3区北側壁基本土層



3区 SX06 完掘状況



3区 SB03 完掘状況



3区 SX06 土層断面



3区 SK30 土層断面



3区 S121 完掘状況



3区 SK30 蔵骨器出土状況

図版 4



3区 S124・25・26 完掘状況



3区 S125 遺物出土状況



3区 S107 完掘状況



3区 S117 ビット1 出土状況



3区 S112 完掘状況



3区 SP30 遺物出土状況



3区 S119 完掘状況



3区 SK16 炭化物出土状況

図版 5



滴水 SD01 完掘状況



滴水調査区基本土層



滴水 SD01 土層断面

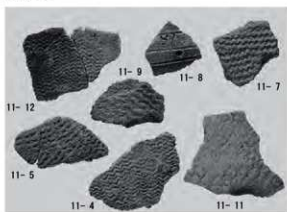


滴水 SB01・02・04・05 完掘状況



滴水 SK09 遺物出土状況

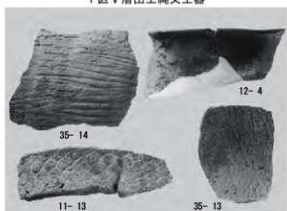
図版 6



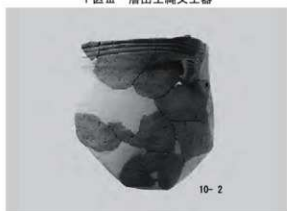
1区V層出土縄文土器



1区Ⅲ'層出土縄文土器



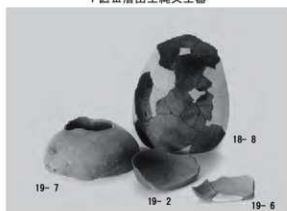
1区IV層出土縄文土器 1



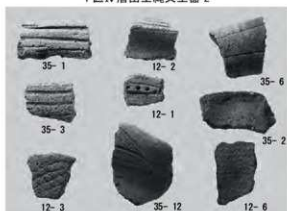
1区Ⅲ層出土縄文土器



1区IV層出土縄文土器 2



1区S101出土遺物 1

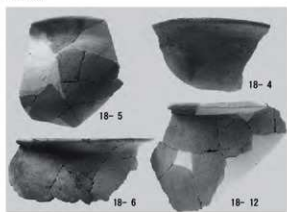


1区Ⅲ・Ⅳ層出土縄文土器

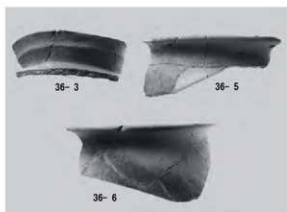


1区S101出土遺物 2

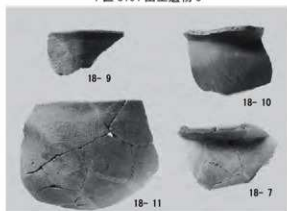
图版 7



1区 S101 出土遗物 3



1区 IV·V·VI 层出土遗物



1区 S101 出土遗物 4



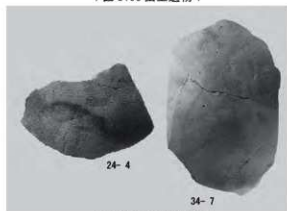
1区 IV·VI 层出土遗物



1区 S103 出土遗物 1



1区 III·IV 层出土遗物 1

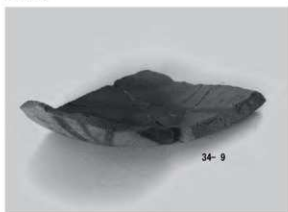


1区 S103 出土遗物 2

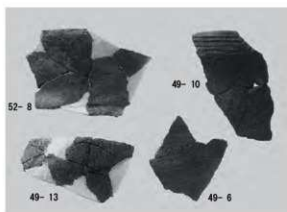


1区 III·IV 层出土遗物 2

图版 8



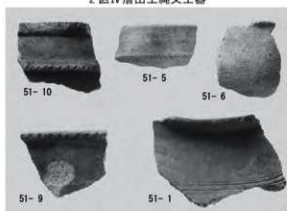
1区出土物 1



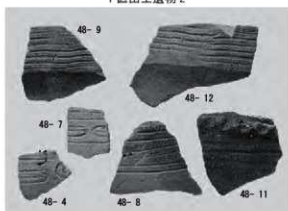
2区IV层出土縄文土器



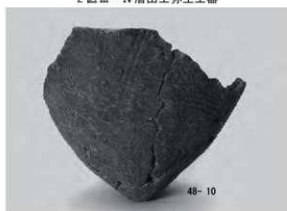
1区出土物 2



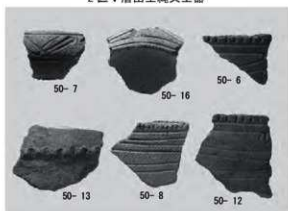
2区Ⅲ・Ⅳ层出土弥生土器



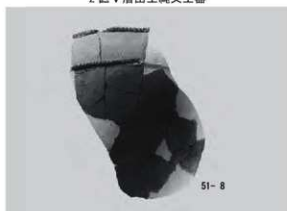
2区V层出土縄文土器



2区V层出土縄文土器



2区Ⅲ・Ⅳ层出土縄文土器



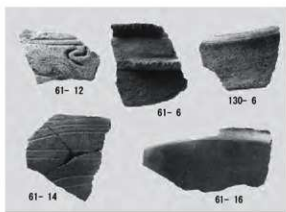
2区IV层出土弥生土器

图版 9



52-11

2区Ⅲ层出土遗物



61-12

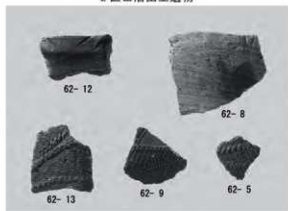
61-6

130-6

61-14

61-16

3区Ⅲ'层出土绳文土器



62-12

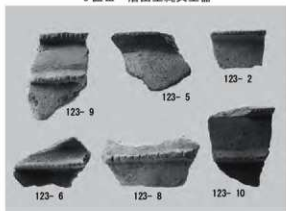
62-8

62-13

62-9

62-5

3区Ⅴ层出土绳文土器



123-9

123-5

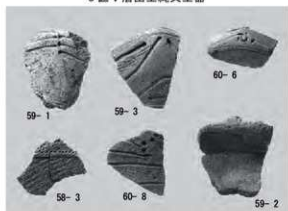
123-2

123-6

123-8

123-10

3区Ⅳ层出土弥生土器



59-1

59-3

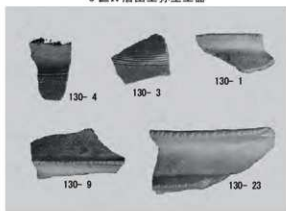
60-6

58-3

60-8

59-2

3区Ⅳ·Ⅴ层出土绳文土器



130-4

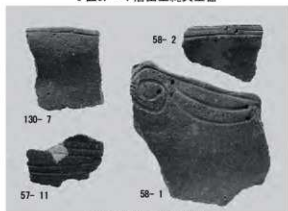
130-3

130-1

130-9

130-23

3区Ⅲ'层出土弥生土器



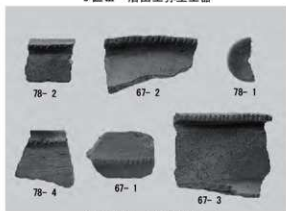
130-7

58-2

57-11

58-1

3区Ⅳ层出土绳文土器



78-2

67-2

78-1

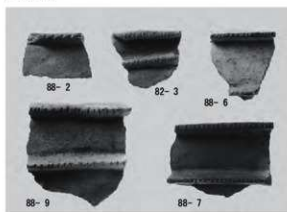
78-4

67-1

67-3

3区S107·19出土遗物

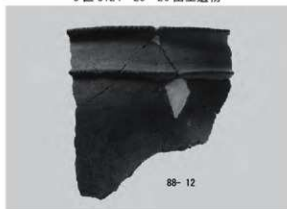
图版 10



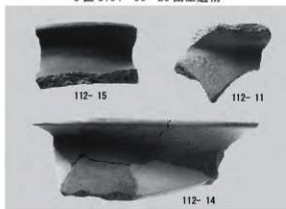
3区 S124・25・26 出土遗物



3区 S104・06・25 出土遗物



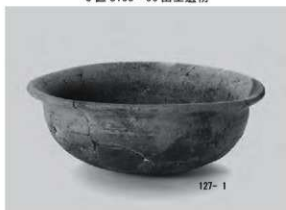
3区 S125 出土遗物



3区 S105・06 出土遗物



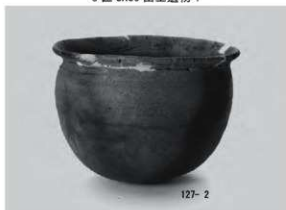
3区 S121 出土遗物



3区 SK30 出土遗物 1



3区出土遗物



3区 SK30 出土遗物 2

图版 11



112-9

3区 S104・25 出土遺物



130-19

3区 III層出土遺物



92-2

3区 S121 出土遺物



129-6

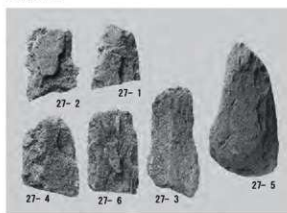
3区 SP30 出土遺物



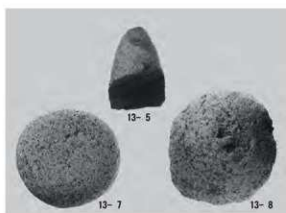
113-10

3区 S118 出土遺物

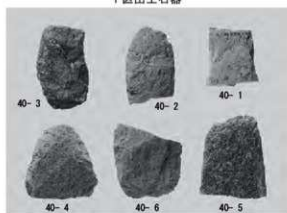
图版 12



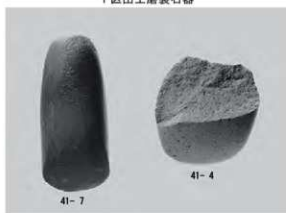
1区出土石器



1区出土磨裂石器



2区出土石器 1



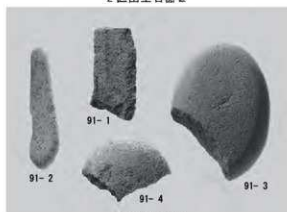
2区出土磨裂石器



2区出土石器 2



1区·2区·3区出土遗物 1

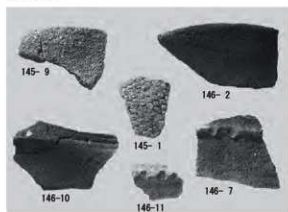


3区出土石器



1区·2区·3区出土遗物 2

図版 13



滴水古閑原遺跡出土縄文土器



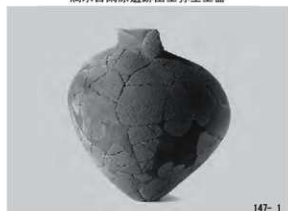
滴水古閑原遺跡出土遺物 3



滴水古閑原遺跡出土弥生土器



滴水古閑原遺跡出土遺物 4



滴水古閑原遺跡出土遺物 1



滴水古閑原遺跡出土遺物 5

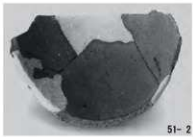


滴水古閑原遺跡出土遺物 2



滴水古閑原遺跡出土遺物 6

图版 14



图版 15



あとがき

植木バイパスの改築に伴う南畑・滴水古閑原遺跡の発掘調査は、平成19年6月から平成21年3月までの約4,860㎡（延べ面積）を実施しました。縄文時代の集石跡や弥生時代の竪穴住居跡、古代の住居跡や掘立柱建物、中世遺構など幅広い時代の遺構を検出することができました。石器や土器1つ1つに当時の人々のくらしのあとが感じられます。先人達が残したこれらの「もの」に関わって日々調査してきたことを思い出します。

調査終了から数年を経て、この調査の成果の一部をようやく報告書にすることができました。この一冊ができるまではたくさんの方々の協力があって作成されています。本当にありがとうございました。本報告及び遺物等が地域で活用されることを希望します。

最後に、現地調査で遺物包含層や遺構の掘削して頂いた作業員の皆様。遺物の洗浄・注記・接合・復元をして頂いた作業員の皆様。この報告書作成に携わって頂いた方々に感謝の意を表したいと思います。（敬称略・五十音順）

発掘調査

伊形久佐子	石川 貴保	上村 久子	有働 静香	大久保正春	大久保靖子	大隅 清成	川上 政己
川上壽賀子	清田 栄子	古閑 誠也	小島 春子	小森田京子	境 百合子	下田 高男	田上 廣實
塚本 静	中村 良一	西村慎太郎	野嶋 チエ	東 とし子	平尾 直孝	平尾トシ子	広瀬多津美
廣瀬 正義	廣瀬 悦子	藤木 久子	本田 睦男	本田チズ子	松本 崇	松本 光雄	宮崎由紀子
山内 洋子	山隈リツ子	山崎知津子	山野 祐友	山本 正剛	吉永多美子	渡辺 桂	

整理報告書作成

大川 好美 小原 有子 笹原 英子 高松 孝子 橋本由美子 松本 智子 宮本 令子 山下 章

報告書抄録									
ふりがな	みなみはた・たるみずこがばるいせき								
書名	南畑・滴水古閑原遺跡								
副書名	一般国道3号植木バイパス改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査								
シリーズ名	熊本県文化財調査報告書								
シリーズ番号	第288集								
編著者名	上村 龍馬・田尻 滝・野中 愛								
編集機関	熊本県教育委員会								
所在地	〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号 TEL096-383-1111 (代)								
発行年月日	2013年3月31日								
所集遺跡名	ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積	調査原因
所在地	市町村	遺跡番号							
みなみはたいせき 南畑遺跡	くまもとけんくまもとし 熊本県熊本市 きたくろくまきまち 北区植木町 くらかけみなみはた 鞍掛南畑	43385	370		32° 53′ 50″	130° 40′ 49″	20070605 ～ 20080317 20080421 ～ 20080930	1区 1,100㎡ 2区 1,400㎡ 3区 1,400㎡	国土交通 省熊本河 川国道改 築事業
たるみずこがばるいせき 滴水古閑原遺跡	くまもとけんくまもとし 熊本県熊本市 きたくろくまきまち 北区植木町 たるみずさるかわ 滴水猿川		335		32° 53′ 37″	130° 40′ 45″	20081021 ～ 20090330	約960㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
南畑・滴水古閑 原遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 奈良時代 平安時代		竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 溝		縄文土器、石器 弥生土器、古代土師器 古代須恵器			
要約	<p>南畑・滴水古閑原遺跡は植木町市街地から、約1.2Km西方の208号線沿いに位置する。今回の調査は植木バイパスの改築に伴い、平成19年・20年度に熊本県教育委員会が発掘調査を実施した。</p> <p>主に弥生時代の竪穴住居跡2軒・古代の竪穴住居跡8軒・掘立柱建物6軒などを検出した。古代は出土遺物から8世紀後半から9世紀にかけての建物がほとんどである。また、周辺遺跡との関係から縄文時代から弥生時代にかけて文化の交流が行われ、古代にかけて一つの集落の形が確定していったのではないかと考えられる。</p>								

平成 25 年 3 月 31 日 印刷

平成 25 年 3 月 31 日 発行

南畑・滴水古閑原遺跡

熊本県文化財調査報告第 288 集

一般国道 3 号植木バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

編集・発行 熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

印刷・製本 株式会社サンカラー

〒861-8035 熊本市東区御領 2-19-13

TEL:096-380-8131 FAX:096-389-0748

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 288 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：南畑・滴水古閑原遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL：<http://www.kumamoto-bunho.jp/>